平成26年度　文部科学省補助事業

学校・家庭・地域連携協力推進事業

実践事例集

社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり

- ◆　学校支援地域本部（従来型・いじめ対応型）
- ◆　放課後子ども教室
- ◆　家庭教育支援活動
- ◆　土曜日の教育支援活動

学校支援地域本部

放課後子ども教室

家庭教育支援

土曜日の教育支援

滋賀県教育委員会

〔目　次〕

◆ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

◆ 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅰ 推進協議会・研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（Ⅰ）推進協議会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（Ⅱ）各研修会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４

◇第１回合同研修会（４事業）　・・・・ １４
◇第２回合同研修会(学校支援、土曜日）　・・・・ １５
◇第３回合同研修会（４事業）　・・・・ １６
◇第４回合同研修会(学校支援、土曜日）　・・・・ １７
◇第５回合同研修会（４事業）　・・・・ １８

Ⅱ 学校支援地域本部の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９

（Ⅰ）学校支援地域本部「いじめ対応型」・・・・・・・・・・・・ １９

◆平成２６年度「いじめ対応型」本部一覧　・・・・ １９
◇大津市　・・・・ ２０
◇彦根市　・・・・ ２９
◇近江八幡市　・・・・ ３７
◇湖南市　・・・・ ４１

（Ⅱ）学校支援地域本部「従来型」・・・・・・・・・・・・・・・ ４８

◆平成２６年度「従来型」本部一覧　・・・・ ４８
◇彦根市　・・・・ ４９
◇近江八幡市　・・・・ ６７
◇栗東市　・・・・ ８７
◇湖南市　・・・・ ８９
◇東近江市　・・・・ ９６
◇米原市　・・・・１０９
◇竜王町　・・・・１１１
◇多賀町　・・・・１１３

Ⅲ　放課後子ども教室の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

◆平成２６年度放課後子ども教室一覧　・・・・１１５
◇栗東市　・・・・１１６
◇米原市　・・・・１２４
◆放課後児童クラブの現状調査　・・・・１２９

Ⅳ　家庭教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３１

◆平成２６年度家庭教育支援活動一覧　・・・・１３１
◇近江八幡市　・・・・１３２
◇草津市　・・・・１３４
◇甲賀市　・・・・１３６
◇湖南市　・・・・１３８
◇高島市　・・・・１４０
◇東近江市　・・・・１４３
◇日野町　・・・・１４５
◇竜王町　・・・・１４７
◇多賀町　・・・・１４９

Ⅴ　土曜日の教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５１

◆平成２６年度土曜日の教育支援活動一覧　・・・・１５１
◇長浜市　・・・・１５２
◇草津市　・・・・１７１
◇甲賀市　・・・・１８１
◇野洲市　・・・・１９２
◇湖南市　・・・・２００
◇東近江市　・・・・２１０
◇竜王町　・・・・２２１
◇多賀町　・・・・２２８

ー　はじめに　ー

近年、少子化や核家族化、都市化、情報化等の社会経済の変化や、人間関係の希薄化、とりわけ地域における地縁的なつながりの希薄化などにより、地域社会や家庭における教育力が低下していることが、各所より指摘されています。

また、子どもが様々な人々と関わり、他者と共同し、未来を切り拓いていける力を一層育てていくため、社会全体で子どもを育てる気運を高めるとともに、教育や子どもの育ちに対する経験や知識を次の世代へ伝えていくことの大切さも求められています。

そうした中、滋賀県では、平成 26 年３月に「第２期滋賀県教育振興基本計画」を策定し、今後５年間に実施する重点取組として、社会全体で学校や子どもの活動を支援する取組や地域とともにある学校づくりを推進することとしています。

これまでからも、学校・家庭・地域が連携協力し、地域全体で子どもの育ちを支えるという視点のもと、地域住民等の参画による、「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援」といった各事業につきまして、三つの事業を一つの枠組みとして有機的に組み合わせながら、それぞれの事業の拡大および活性化に取り組んでまいりました。

また、今年度からは、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するという観点から「土曜日の教育支援活動」にも新たに取り組んでおります。

本事例報告集は、こうした各事業における、各市町での工夫や努力による様々な取組について取りまとめ、報告させていただくものです。是非、御高覧いただきまして、既にこれらの事業を推進していただいている市町においては、新たな視点も持ちながら事業の更なる充実に向けて、引き続き取り組んでいただければと思います。また、これから更に学校・家庭・地域の連携体制を構築していこうとする市町におかれましては、本事例報告集も参考の上、お進めいただければ幸いです。

最後になりましたが、本事業を含め、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」に、平素より実際に子どもたちと関わっていただき、地域において献身的なお取組をいただきました関係の皆様に心より感謝申し上げますとともに、引き続いての御支援をお願いいたします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報の提供や原稿をお寄せいただきました関係の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 27 年（2015 年）３月

滋賀県教育委員会事務局
生涯学習課長　　山　﨑　　薫

－　事業の概要　－

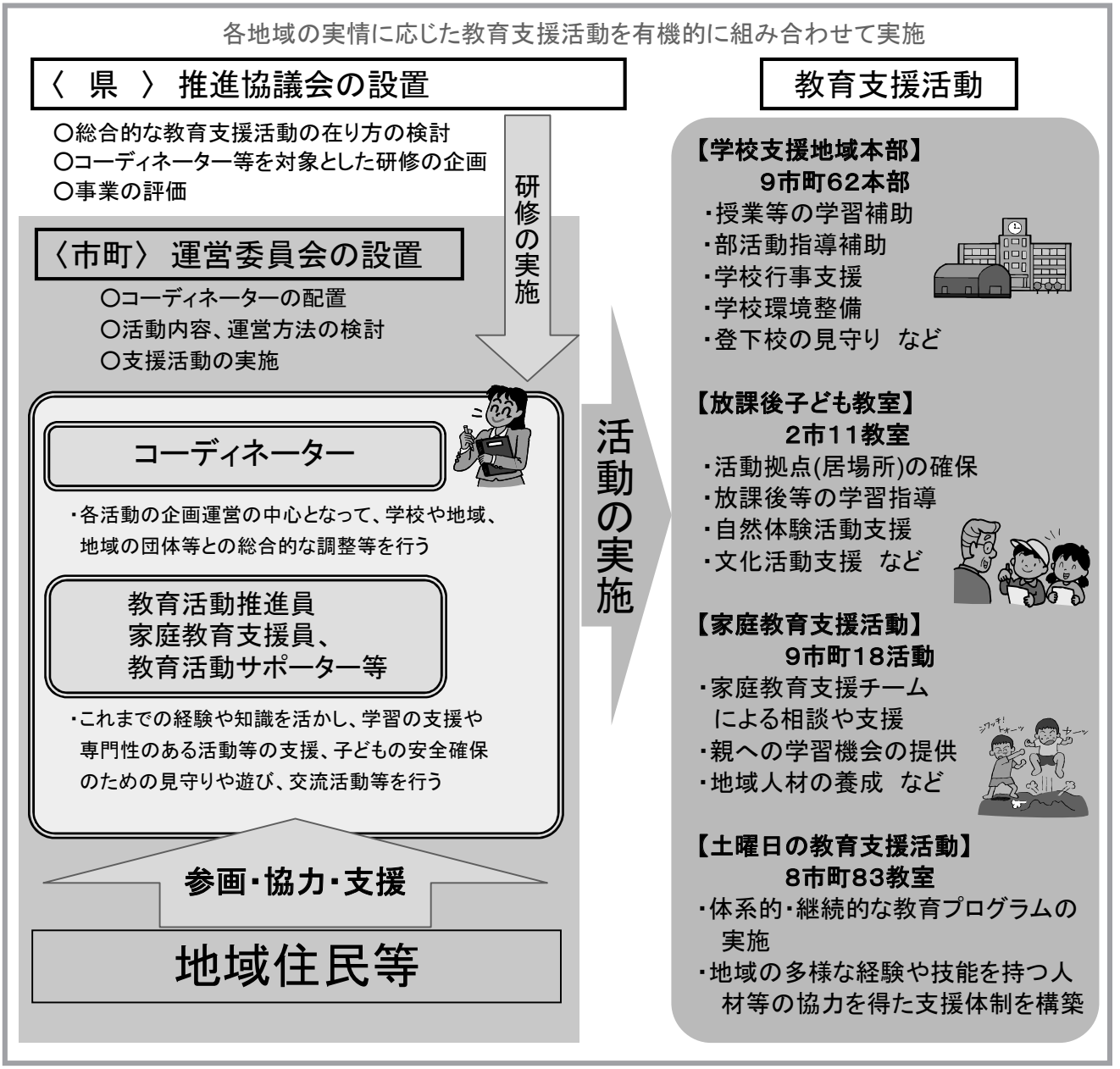
滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」

滋賀県においては、県・市町の連携により以下のように事業を推進している。

県においては、当事業推進協議会を設置して、県内の教育支援活動および総合的な放課後対策の検討を行うとともに、コーディネーターや教育活動推進員、家庭教育支援員等の事業関係者の資質向上や情報交換を図るための研修を行い、教育支援活動等の総合的な推進を図っている。

市町においては、域内の教育支援活動等の運営方法等を検討する「運営委員会」の設置や、教育支援活動等の企画や学校・家庭・地域の調整を行うコーディネーター等の配置をいただき、地域の実情を踏まえた多様な取組を工夫いただいている。

事業全体を構想図にまとめると以下のようになる。



地域社会全体で様々な教育支援活動を実施し、地域の教育力の向上を図る

次項より、「学校支援地域本部（従来型）」、「学校支援地域本部（いじめ対応型）」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援活動」の事業構想を図示する。

学　校　支　援　地　域　本　部　（従来型）

― 地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備 ―

近年、青少年をめぐる様々な問題が発生しているなどの現状から、教員と子どもが向き合う時間を拡充するため、多忙な教員を支援し、勤務負担の軽減を図ることが重要な課題となっています。

このため、文部科学省では、平成20年度から平成22年度までの3年間、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する「学校支援地域本部事業」を国委託事業として実施され、地域全体で学校を支えていこうという気運が高まってきました。平成23年度からは、国庫補助事業として実施されています。

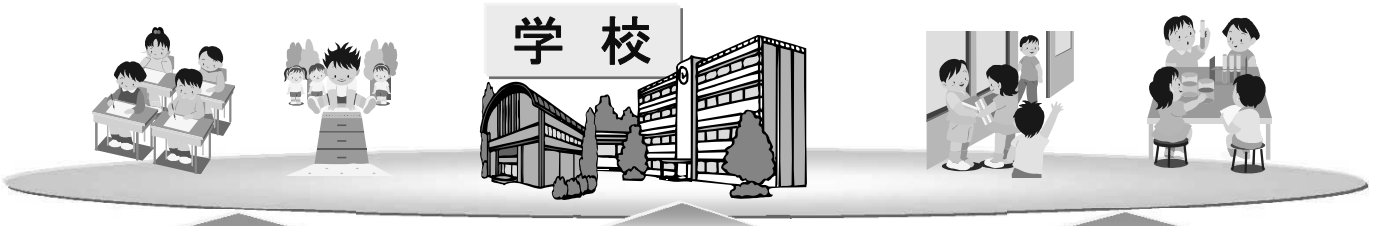
ねらい

- 子どもと向き合う時間の拡充
- 社会教育で学んだ成果を生かす場に
- 地域教育力の活性化

学校支援地域本部の設置

【構成】地域コーディネーター、教職員、学校支援ボランティア、PTA・公民館・自治会・民生委員児童委員・子ども会・NPO、企業等の関係者

【内容】○支援事業の企画立案、事業評価　　○地域コーディネーター養成講座
○他の学校への広報、啓発　等



学校支援

調整

地域コーディネーター

【退職教職員、PTA経験者など学校と地域の現状をよく理解している人】

学校支援

調整

学校支援ボランティア

【学習支援活動】
授業において担当教員の補助として支援

【部活動指導】
クラブ活動の指導者を支援

【環境整備】
校内環境整備の支援

【登下校安全確保】
登下校中における通学路の安全指導

【学校行事の開催等】
学校及び地域等が連携して行う学校行事や合同行事の実施

学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が協力

地域住民

【退職者】

【有資格者】（免許取得者）

（例）教員、社会教育主事、司書、学芸員、情報処理、技術者、保育士、看護師、栄養士、体育指導委員　等

【様々な仕事・特技を持つ人】

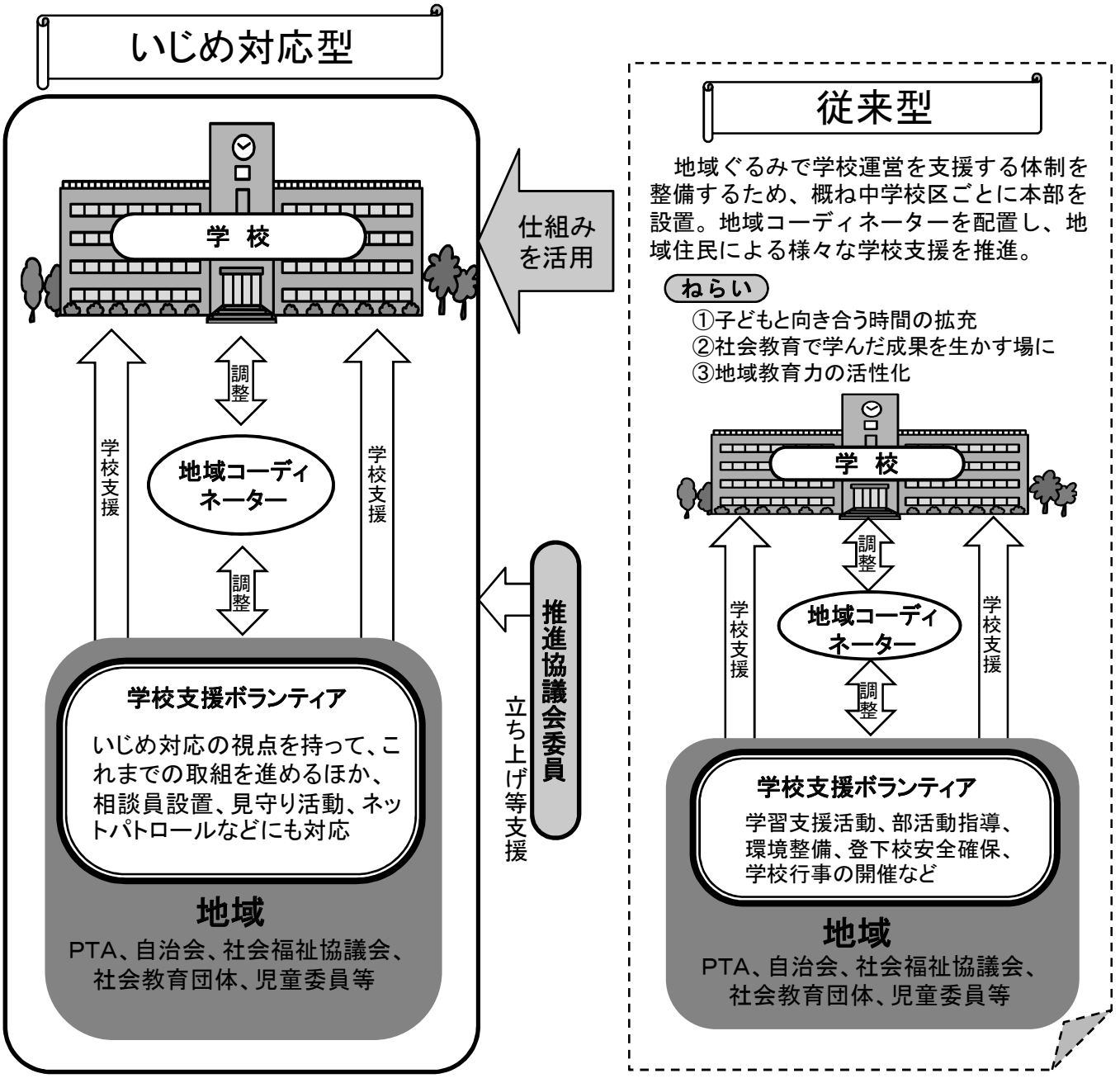
（例）プロアマスポーツ経験者、文化芸術経験者、海外勤務経験者、伝統文化・音楽経験者、企業技術者、造園業、大工、自然体験活動指導者、レクリエーション指導者、調理師、和裁・洋裁、茶道・華道　等

学校支援地域本部 （いじめ対応型）

いじめ対応型学校支援地域本部とは

いじめなど学校における様々な問題を解決するためには、学校だけで問題を抱えるのではなく、地域全体でこれらの問題を含め、学校を支えるという視点を持つことが必要である。

このため、学校支援地域本部事業の仕組みを活用し、いじめ対応の視点を持って、地域住民と学校との連携を行う市町に対して支援を行うことにより、**いじめの早期発見・早期対応・抑止力の醸成を図る**ための環境を整備する。



放課後子ども教室事業

「放課後子ども教室事業」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともにスポーツ・文化活動や学習、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものです。

県の取組

指導者等研修会
コーディネーター、運営委員会委員、教育活動推進員、教育活動サポーター、ボランティア、専任指導員、関係職員等が一同に集まり、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども教室運営委員会
・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策・ボランティア等の人材確保
・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

調整・企画

コーディネーター

・両省の事業間の連携調整
・参加呼びかけ
・関係機関との連絡調整
・協力者の確保
・活動プログラムの企画等

(放課後子ども教室事業)
放課後子ども教室

連携

(放課後児童健全育成事業)
放課後児童クラブ(学童保育)

○すべての子ども	対象	○下校時に保護者が家庭にいない児童で、おおむね10才未満の児童
○学び・体験・遊び・交流の場 地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○生活の場 専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○遊び、学習(宿題)、スポーツ、文化活動など	主な活動	○遊び、学習(宿題)
教育活動推進員 学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心的に実施する。 **教育活動サポーター** 様々なプログラムの実施のサポートや子どもの安全を管理する。 	スタッフ	**専任指導員** 遊びや生活をとおして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末(教室により異なる)	開催日	○平日の放課後、土曜(クラブにより異なる)
○無料 (教室により保険、材料費などの徴収あり)	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度 (施設により異なる)
○2市町11教室　(平成26年度)	県内数	○１９市町　276クラブ　１２，１２２人 (平成26年５月１日現在)

家庭教育支援活動

背景

〇家庭の教育力の低下

都市化，核家族化及び地域における地縁的なつながりの希薄化等により，家庭の教育力の低下が指摘されるなど，社会全体での家庭教育支援の必要性が高まっている。また、育児に自信を持てない保護者が増えている。

〇教育基本法の改正（「家庭教育」新設）

第１０条　父母その他の保護者は，子の教育について第一義的責任を有するものであって，生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに，自立心を育成し，心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

２　国及び地方公共団体は，家庭教育の自主性を尊重しつつ，保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

■県の事業

・総合的な在り方の検討

・事業関係者の資質向上や情報交換等の研修会の実施

県推進協議会の開催（年間2回）

家庭教育に関する研修会の実施（年間3回）

■市町の事業（市町運営委員会等）

各地域における子育て経験者など多様な人材の参画

持続可能な支援のための地域人材の養成

・子育てサポーターリーダー等の養成

【養成講座例】家庭教育の重要性と支援者の果たす役割、関係機関・地域との連携のコツ　等

近江八幡市・甲賀市・湖南市・高島市・日野町の5市町で実施

家庭教育支援チームの組織化

・家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援

【チーム構成員例】・子育てサポーターリーダー、民生委員、児童委員、元教員、保健師、NPO関係者　等

近江八幡市・甲賀市・湖南市・高島市の4市で実施

学習機会の効果的な提供

・保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供

【講座例】・小学校入学時講座、思春期理解講座、父親講座、企業出前講座　等

近江八幡市・草津市・甲賀市・湖南市・高島市・東近江市・日野町・竜王町・多賀町の9市町で実施

家庭教育や子育てに無関心、孤立化している親

子育て中のすべての親への支援

仕事などで学習会に参加できない親

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域全体で家庭教育を支援する。

地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業

全ての子どもたちの土曜日の教育活動を充実させるため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町等の取組を支援することにより、教育支援に取り組む体制を構築し、地域の活性化を図る。

地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの生きたプログラムを実現

土曜日の教育支援体制のしくみ

市町

・運営委員会を設置（学校・経済団体・商工会・PTA・社会教育団体等で構成）
・土曜日の教育活動全体の方針を検討

土曜教育コーディネーター

要望 ⇧ 連携 ⇩ 依頼

教職員 ⇦ 土曜教育推進員

企画・参画

・大学研究者
・企業人
・在外経験者
・外国人　等

・体系的・継続的な教育プログラムの企画
・内容に応じた多様な支援人材の発掘・依頼
・具体的なプログラムの検討　　等

土曜日ならではのプログラムの実施

【土曜学習例】
○体験活動・・・・自然体験、書道、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、吹奏楽等
○学力補充・・・・作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室等

全ての子どもたちの土曜日の教育活動の充実

平成26年度　学校・家庭・地域連携協力推進事業　市町別事業実施状況一覧表

	学校支援地域本部		家庭教育支援	放課後子ども教室	土曜日の教育支援
	従来型 実施数	いじめ対応型 実施数	実施数	実施数	実施数
大津市		6本部			
彦根市	5本部	2本部			
長浜市					18教室
近江八幡市	19本部	3本部	支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動		
草津市			講座実施の1活動		22教室
守山市					
栗東市	1本部			7教室	
甲賀市			支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動		10教室
野洲市					6教室
湖南市	6本部	6本部	支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動		9教室
高島市			支援チーム・講座実施・ 人材育成の3活動		
東近江市	11本部		講座実施の1活動		10教室
米原市	1本部			4教室	
日野町			講座実施・人材育成の2活動		
竜王町	1本部		講座実施の1活動		6教室
愛荘町					
豊郷町					
甲良町					
多賀町	1本部		講座実施の1活動		2教室
合　計	9市町62本部 （昨年は10市町60本部）		9市町18活動 （昨年は7市町14活動）	2市11教室 （昨年は7市町44教室）	8市町83教室

Ⅰ　推進協議会・研修会

Ⅰ　推進協議会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

（Ⅰ）推進協議会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

◆　推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

（Ⅱ）各研修会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

◇第１回合同研修会（４事業）　・・・・　１４
◇第２回合同研修会(学校支援、土曜日）　・・・・　１５
◇第３回合同研修会（４事業）　・・・・　１６
◇第４回合同研修会(学校支援、土曜日）　・・・・　１７
◇第５回合同研修会（４事業）　・・・・　１８

（Ⅰ） 推進協議会の概要

◆第１回推進協議会

１ 協議会概要

期　日：平成 26 年６月 26 日（木）
会　場：県庁北新館５－Ｂ会議室
出席者：神部委員（座長）、千原委員（副座長）、柴原委員、鈴木委員、髙木委員、武井委員、谷口委員、東條委員、村井委員　（９名）
事務局：県生涯学習課（６名）子ども・青少年局（１名）

１　開　会
・県生涯学習課長　挨拶
・委員自己紹介

２　座長、副座長選出
・座長　　神部委員
・副座長　　千原委員

３　協　議
（１）「学校・家庭・地域連携協力促進事業」について
①事業全体図および各事業について
②各市町における各事業について
③平成 25 年度事業の成果と課題および今後の方向性について
④平成 26 年度研修会の持ち方について
（２）実践事例集のあり方について
（３）その他

２ 協議要旨

〇平成 26 年度の事業の実施に関わって

本年度は学校支援地域本部事業９市町 62 本部、放課後子ども教室を２市 11 教室、家庭教育支援９市町 18 活動、土曜日の教育支援を８市町 83 教室で実施することとなっている。補助事業の実施においては、活動資金（予算）の確保が大きな課題となっている。学校支援地域本部事業や家庭教育支援では、市町独自で補助を受けずに事業を実施している事例がある。自主財源による事業のメリットは、補助事業の制限を受けずに、独自の裁量で地域課題に対応した事業実施が可能であることや、国や県の予算配分に影響されない面があげられる。いつまでも事業提供型のままではなく、様々な団体との連携を進め、活動の質を高め、地域に根ざした運営体制の確立が求められる。

また、補助を受けずに事業を実施している市町にも研修会へ積極的に参加していただき、共に学び合う環境づくりを進めることが重要である。

〇事業や人のネットワーク化について

事業の実施にあたっては、行政の縦割りの弊害が課題となっている。先進的な事例として、ある市では、子どもの教育や福祉、健康に関わる４つの課が集まり、情報の共有を進めている。様々な研修で養成された人たちに、子どもや子育てに関わる情報を発信し、共有することで、他の課でも必要な人材が活用され、庁内のネットワーク化が図られている。人と人、人と地域、組織が点である。点でできることは限られているが、結んで面にすることで様々な可能性が広がっていくことに期待をしたい。

〇実践事例集の作成について

年度末に作成している報告書としての実践事例集については、今までからも、「市町教育委員会のビジョンが見えない」という意見が出されてきたことから、全ての事業において、市町担当課による事業ごとの成果と課題の記入を求めてはどうか。記入内容として、各事業をとおして地域や子どもたちにどのような姿をめざしているのか、について取りまとめる。また、本年度の成果については、「めざす姿」に向けて、事業を実施した結果、子どもの成長や保護者や学校との連携状況、地域の教育力の向上などの観点で、どのような成果が見られたのか、今後の課題としてどのようなことがあげられるかを作成してはどうか。

◆第２回推進協議会

１　協議会概要

期　日：平成 27 年１月 22 日（木）
会　場：県庁本館４－Ａ会議室
出席者：神部委員（座長）、千原委員（副座長）、柴原委員、鈴木委員、髙木委員、武井委員、谷口委員、東條委員、村井委員　（９名）
事務局：県生涯学習課（６名）子ども・青少年局（１名）

１　開　会
・神部座長　挨拶

２　協　議
（１）平成 26 年度「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の成果と課題、方向性について
①県実施事業について
②市町実施事業について
・学校支援地域本部（従来型・いじめ対応型）、放課後子ども教室、家庭教育支援
（２）土曜日の教育支援について
・「土曜日の教育支援事業」（従来型）の成果と課題、方向性について
・「学ぶ力を育てる土曜学習支援事業」（新規事業）

３　連絡事項

２　協議要旨

◇今年度の取組について事務局説明概要

①県実施事業について

研修会の実施･･･全５回開催

	第1回研修会	第2回研修会	第3回研修会	第4回研修会	第5回研修会
内容	・パネルディスカッション ・情報交換	・講演 ・情報交換	・講演 ・演習	・講演 ・情報交換	・事例報告 ・講評 ・講演
学校支援	○	○	○	○	○
放課後	○		○		○
家庭教育	○		○		○
土曜日	○	○	○	○	○

【成果・課題】
○参加者のニーズに基づいた研修会の実施。
○学校教員の参加。
▲日程調整や研修内容の焦点化。

企業内家庭教育学習講座の実施

企業・事業所内において、勤務時間内外に子育てや家庭教育を学ぶ機会の提供（講師の派遣）
○９事業所で実施。

【成果・課題】
○専門的な講師による講座の実施。
▲多様な講師人材の確保。

②市町実施事業について

学校支援地域本部（従来型）

今後の方向性　☆充実のポイント
・本事業に係る、目的、方法、目指す子ども像を事業関係者が共有化するための熟議
・地域における取組体制の多様な在り方の模索
・支援活動の量の拡大および、質の向上
・各段階の課題解決に向けた内容や上記のポイントを含んだ研修会の設定

学校支援地域本部（いじめ対応型）今後について

・「いじめ対応型」としては、本年度で事業終了となり、次年度の本部事業は、従来型のみとなるが、次年度も継続する本部に向けては、２年間の成果を受け、「３年目」として、更なる取組の継続を来年度も呼びかけていく。

放課後子ども教室

今後の方向性　☆充実のポイント
・放課後における子どもの居場所づくりをどのような形で進めていくか、地域の実情に応じた支援体制づくりを検討
・新しい人材発掘を視野に入れた、地域の様々な立場からの参画を促し、継続した教室運営の工夫
・放課後子ども総合プランも含めた今後の事業のあり方についての検討

家庭教育支援活動

今後の方向性　☆充実のポイント
・保護者のニーズや状況に応じたきめ細かな学習機会の提供
・各市町の実情に応じた地域人材を活用した支援体制の構築
・地域や学校と連携して、家庭教育が困難になっている孤立しがちな家庭や親への支援
・家庭教育支援チームの取組の発信

土曜日の教育支援活動

今後の方向性　☆事業充実のポイント

・すべての子どもを参加対象として、参加しづらい子どもに対する支援のあり方を関係機関等と連携し、検討していくことが必要
・地域における多様な体験活動等の機会の充実に向けた、地域人材の確保
・土曜日における他の行事や活動との調整なども含めた、地域の実情に応じた土曜日の総合的な有効活用の検討
・「学ぶ力」型につながる基盤づくりに資するものとして、地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等の構築を推進

○事業の推進に関わって

本事業開始時から実施している学校では、学校長も三代目、四代目になっており、活動自体が形骸化し、本来の目的である「子どもの土台を耕す」という視点が弱くなってきている。コーディネーターや担当者だけが頑張るのではなく、学校の管理職が戦略を持って地域とどうつながるのかを考える必要性がある。子どもの貧困や虐待の問題など様々な問題があるなか、「子どもを何とかしたい」という気持ちはあっても、学校としての戦略がなく、対策にまで至っていない現状が見られる。

現在、何が課題となっているのか、何を変えなければならないのかを考え、一つのセクションだけでなく、学校教育と社会教育、また福祉部門ともネットワーク化を図り、地域全体で取り組む体制づくりが必要であり、今一度、事業の趣旨を踏まえた管理職のリーダーシップと多様な機関や主体とのネットワークづくりが求められている。

○研修会の実施について

研修会をより充実させていくには、研修会にどのような方が参加しているのか、その層に合わせた適切な研修内容を考えていく必要がある。初めてコーディネーターになる人を対象とするのか、経験を積んでいるコーディネーターが対象なのかによって、当然、研修プログラムも変わってくる。また、講演だけでなく、演習なり、情報に関わる企画等がもう少しあってもよいと思われる。同時に、まちづくり協議会や自治会の人にも講座や研修会に参加していただき、学校と地域が協働していく視点を確かなものにしていきたい。

また、事業開始当初は、学校の管理職が多く参加していたが、近年は少なくなっている現状がある。今一度、事業の趣旨やねらいを明確にし、横のネットワークをつくるという観点からも、参加を促す研修会を企画する必要性があるのではないか。併せて、他県では教職員の５年目、10 年目研修において、「地域に開かれた学校づくり」の研修などが、位置づけられており、他府県の研修状況も参考にすることが求められている。

○事業の継続性について

国や県の補助が終了しても、事業を継続できる仕組みづくりが求められている。県内でも企業や地域の方から賛助金等を集めて、ファンド方式で、コーディネーターの経費を捻出したり、組織の運営を行っている事例がある。補助が終わると事業がなくなるという考えは、本気で地域の子どもに関わっている方々に対して失礼であり、地域の人々の努力や期待を裏切らないよう、運営基盤の整備に向けての情報の共有が求められている。

◆ 平成 26 年度「学校・家庭・地域連携協力推進事業」推進協議会　委員名簿

【任期：平成 26 年４月１日～平成 27 年３月 31 日】

氏　　名	所　　属
神部　純一	滋賀大学社会連携研究センター教授
柴原　紀子	栗東市立栗東中学校学校支援地域本部 地域コーディネーター
鈴木　靖彦	滋賀県教育委員会事務局学校教育課主幹
髙木　和久	湖南市立岩根小学校支援地域本部事務局 文部科学省コミュニティスクール推進員
武井　哲郎	びわこ成蹊スポーツ大学助教
谷口　久美子	ＮＰＯ法人ＣＡＳＮ理事長
千原　美重子	滋賀県臨床心理士会会長
東條　和徳	東近江市教育委員会事務局生涯学習課指導主事
村井　孝一郎	近江八幡市教育委員会生涯学習課課長補佐

計９名　　＜敬称略 50 音順＞

（Ⅱ）各研修会の概要

◆第１回合同研修会（４事業）

１　目　的　「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に基づき、県内で実施される「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援活動」（以下「教育支援活動」という。）に関わるコーディネーター等の事業関係者が一堂に会し、資質向上や情報交換等を図るための研修等を行い、県内における「教育支援活動」の総合的な推進を図ることを目的に実施する。

２　主　催　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　（１）各市町担当職員（２）学校支援地域本部関係者（３）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者（４）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者（５）土曜日の教育支援活動関係者（６）各小・中学校教職員

４　日　時　平成 26 年　7 月 14 日（月）　13：15～16：45

５　日　程

・開会行事・４事業に関する事業説明
・（第１部）パネルディスカッション　パート１
　パネラー：高木　和久　氏
　（湖南市立岩根小学校地域本部事務局）
　武井　哲郎　氏
　（びわこ成蹊スポーツ大学助教）
　谷口　久美子　氏
　（ＮＰＯ法人ＣＡＳＮ理事長）（五十音順）
　コーディネーター：北川　徳弥（滋賀県教育委員会事務局生涯学習課参事）
（第２部）グループに分かれての意見交換・情報交換
（第３部）パネルディスカッション　パート２（会場とパネラーによる質疑応答）

６　場　所　県庁東館７階大会議室

７　参加者数　67 名

８　概　要

（１）テーマ　『みんなで考えよう！　地域の子育てのこれから』
～地域の宝（子ども）の成長をみんなで支える～

（２）内容

次の２点において、各パネラーから御意見をいただいたり、参加者との意見交換を行ったりした。

①事業を実施するにあたって、大切にすべきこと
○【協議の場】何のために事業を実施しているのかという「ねらい」の共有
○【情報発信・地域の協力】子どもの育ちをみんなで支えようとする気運の醸成
○【三方よしの活動】「子ども（学校）によし、ボランティアによし、地域によし」
○【教員の意識改革】「開かれた学校づくり」の推進
○子ども達に、自治の力・問題解決能力をつける。

②現在各市町で行われている取組における課題
●「子どもに付けたい力」を共有しないままの漠然とした事業実施
●お膳立てしすぎ、指導しすぎで子どもが「お客さん」に
●学校の理解不足、教員の意識改革（地域人材を活用する意識が低い）
●地域への事業の啓発不足（ボランティアの確保が難しい）
●ボランティアが、「お手伝い」という発想から抜け出せていない（まなぶ・いかす・つながる…生涯学習の場）

●ボランティアが満足感・達成感を感じられる活動になっているか（打ち合わせ、振り返りの時間の確保）
●家庭教育に関する講習会等に参加できない人にこそ支援が必要。この人達に、どのようにして支援を届けるか。

（３）参加者のアンケートより

・目的の共有については、とても重要なことと考えている。学校長や教員も含めての本日のような研修が必要だと感じています。
・グループでの話し合いではお互いの悩み、困り事を話し合うことができ、その対処についても考えていくことができ良かった。

◆第２回合同研修会（学校支援地域本部、土曜日の教育支援）

１　目　的　学校と地域ボランティアを結びつけるために、中心的役割を果たす学校支援地域コーディネーターおよび土曜教育コーディネーターの役割は大きいため、その資質向上とネットワーク構築を図るため、研修会を開催する。

２　主　催　滋賀県教育委員会

３　参加対象　（１）学校支援地域コーディネーター（２）土曜教育コーディネーター
（３）市町独自の活動による地域コーディネーター

４　日　時　平成 26 年８月 12 日（火）　13:30～16:40

５　日　程

・開会行事
・講演
講師：ＮＰＯ法人アクティブ王寺
代表理事（元 王寺北小学校長）　加藤　守弘 氏
奈良県王寺町立王寺北小学校支援地域本部
地域コーディネーター　岡田　里美 氏
・情報交換
・閉会行事

６　場　所　県庁新館７階大会議室

７　参加者数　43 名

８　概　要

（１）演題　「地域を学校の宝に、そして学校を地域の宝に」

（２）内容

昨年度アンケートよりニーズの高かったテーマである①地域人材の確保および連携の具体的方策と②活動プログラムの企画・実施の方策について、自らの実践をもとに、御講演いただいた。地域コーディネーターである岡田氏の取組は多岐に渡りつつも、きめ細やかであり、さまざまな工夫や配慮が参加者の参考になることが多かった。また、取組における苦労話も共感できるものであった。

元校長である加藤氏からは、学校からの視点、特に管理職のリーダーシップの必要性について御講演いただき、２学期からの実践に向けて、多くのヒントを得ることができた。

（３）参加者のアンケートより

・岡田さんのお話は、コーディネーターとしての苦労や失敗話もあり、とても聞きやすく楽しかったです。たくさんの活動やコーディネートがあり、驚きました。
・細かな面まで心遣いをされ、これがすべての成功のカギだと思いました。コーディネーターはボランティアに常に心配りをしていかねばならないことを学んだ。
・「“公立の強み＝地域をもっている”これを生かさない手はない」がとても心に残った。

◆第３回合同研修会（４事業）

１　目　的　　県内で実施される学校・家庭・地域の連携協力推進事業に関わるコーディネーターや教育活動推進員、家庭教育支援員、教育活動サポーター、行政担当者等の事業関係者が一堂に会し、資質向上に向けた研修会を実施し、県内における各事業の効果的な推進を図る。

２　主　催　　滋賀県、滋賀県教育委員会

３　参加対象　　（１）各市町担当職員（２）学校支援地域本部関係者（３）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者（４）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者（５）土曜日の教育支援活動関係者

４　日　時　　平成 26 年８月 21 日（木）９：30～12：00

５　日　程

・開会行事
・講演・演習
　講師：鈴木　秀一　氏
　　（滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー）
・閉会行事

６　場　所　　コラボしが 21　大会議室

７　参加者数　　34 名

８　概　要

（１）演題　「子どもの言動の背景を考える～人間関係力を高める指導のあり方～」

（２）内容

講師のスクールソーシャルワーカーとして多くの子どもや保護者と関わってこられた経験をもとに、映像を活用して、子どもや保護者理解についての研修を深めた。特に、子どもや保護者との関わりで知っておきたいことや児童観察のポイント、子どもの言動の背景にあるものなどについて、心理学的なアプローチなどを活用、紹介していただきながら、子どもや保護者に対する具体的な関わり方について学んだ。

（３）参加者のアンケートより

・心に深くしみいる言葉、フレーズがたくさんあった。時間をかけてじっくりと振り返ってみたいと思う。
・自分のかける言葉によって、子どもを救えることを忘れずにいたい。
・子どもから発せられることを一度受け止めて、寄り添って同じ立場に立って､一緒に考えられる存在でいられるよう、心にとめていきたい。
・子どもを相手にする仕事には、本当に毎日違った出来事が起こるのが通常であるが、研修で学んだことを様々な状況で生かしていけるよう、たくさんの「引き出し」のある指導者になりたい。

◆第４回合同研修会（学校支援地域本部、土曜日の教育支援）

１　目　的　学校と地域ボランティアを結びつけるために、中心的役割を果たす学校支援地域コーディネーターおよび土曜教育コーディネーターの役割は大きいため、その資質向上とネットワーク構築を図るため、研修会を開催する。

２　主　催　滋賀県教育委員会

３　参加対象　（１）学校支援地域コーディネーター（２）土曜教育コーディネーター
（３）市町独自の活動による地域コーディネーター

４　日　時　平成 26 年 10 月 30 日（木）　13:30～16:40

５　日　程

・開会行事
・事例発表①
発表者：東近江市蒲生地区
地域コーディネーター　大塚　ふさ　氏
東近江市教育委員会事務局生涯学習課
指導主事　東條　和徳　氏
・事例発表②
発表者：湖南市石部南小学校
地域コーディネーター　山元　尚美　氏
校　長　伊藤　雅夫　氏
教　諭　山中　寛二　氏
・情報交換
・閉会行事

６　場　所　県庁東館７階大会議室

７　参加者数　54 名

８　概　要

（１）事例題①　「蒲生の子は蒲生で守り育てよう。～地域の教育力を結束した学校支援活動～」
事例題②　「子どもも地域ボランティアも成長する『みなみっこ応援団』」

（２）内容

それぞれの地域の特性を生かしつつ、さまざまな工夫や配慮をしながら進めて来られた実践について、御発表いただいた。

東近江市からは、地域全体を視野に入れ、今後の地域と学校の関係を見据えて活動していくという、地域コーディネーターの役割の大切さについて学んだ。

湖南市からは、学校支援地域本部からコミュニティ・スクールへ移行する流れについて学んだ。

（３）参加者のアンケートより

・蒲生地域コーディネーターの方の行動の広さ・深さに感銘を受け、学ぶことが多くあった。
・石部南小学校のコミュニティ・スクール推進委員会に関しての事例発表およびその具体的な取組を聞かせていただき、大変参考になった。２つの事例発表は、共に地域に根ざした地域学校を加味した取組であり、今後少しでも生かさせてもらいたいと思う。
・今後に向けた課題やビジョンが持てた。ネットワーク、フットワーク、チームワークを大切にしたい。
・各地域の取組を聞いてどちらにも新しい発見があった。他校と自校との違いをよい方向に導きたい。

◆第５回合同研修会（４事業）

１　目　的　本事業に関わるコーディネーターや教育活動指導員等の事業関係者、学校教職員、行政職員等に対して、実施市町における各取組を発信するとともに、地域社会全体で子どもの育ちを支える体制づくりを推進し、地域の教育力の向上を図るこれからのあり方について研修を深めることを目的に実施する。

２　主　催　滋賀県・滋賀県教育委員会

３　参加対象　（１）各市町担当職員（２）学校支援地域本部関係者（３）放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者（４）家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者（５）土曜日の教育支援活動関係者（６）各小・中学校教職員

４　日　時　平成 27 年　1 月 30 日（金）　13:00～16:00

５　日　程

・成果報告

「学校支援地域本部」の報告 近江八幡市立八幡中学校の取組

「放課後子ども教室」の報告 栗東市大宝西ふれあい子ども広場の取組

「家 庭 教 育 支 援」の報告 高島市家庭教育支援チームの取組

「土曜日の教育支援」の報告 湖南市立日枝中学校および下田小学校の取組

・講演

講師：香川大学生涯学習教育研究センター・センター長 清國 祐二 氏

６　場　所　大津市市民会館 小ホール

７　参加者数　81 名

８　概　要

（１）演題　「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動のこれからについて」

（２）成果報告に関する講評および講演

・（学校支援地域本部）地域の方が入り声をかけていただくことにより、子どもの安心につながっている。いじめにダイレクトに対処するのではなく、間接的に効果をあげていく実践である。管理職のリーダーシップのもと、学校が自信をもって地域の人に関わってもらっている姿に感心した。

・（放課後子ども教室）地域の方々のあたたかいまなざしと共に、地域の子は地域で育てるという意識が伝わる取組であった。保護者のニーズに応えるのも大切であるが、家庭教育の役割を保護者自身にも理解していただけるように、そのバランスがとれれば更によい。

・（家庭教育支援）悩んでいる保護者に居場所を、という目的だが、深刻な悩みをお持ちの方はなかなか来ない。いかにハードルを下げて関わっていけるかが、どこも悩みの種である。本取組では、気軽に立ち寄ってほしいというメッセージや、より裾野を広げたいという思いから、専門家ではなくボランティアが関わることとする工夫があった。

・（土曜日の教育支援）中学生に役割を獲得してもらい、自己有用感を育てるという、子どもの意欲を高める取組であった。長い目で見たときに、この体験が種となり、いずれ花となるであろう。土曜日をいかに活用していくかということに対して、すばらしいヒントがあった。

・学校支援の先に何があるのか、ということを意識することが大切であり、地域づくりに生かす方策として、各支援活動を総合的に進めてもらいたい。

・役割や責任を避けようとする社会になっているが、誰かの役に立つことの喜びを知るきっかけづくりが本事業の役割でもある。多くの方に、役割を果たす喜びを感じてもらいたい。

（３）参加者のアンケートより

・成果報告は各取組ともすばらしかった。子どもの健全な育ちには、地域の力は大きいことを再確認した。

・講師の話は大変わかりやすく、学校の現状や地域の必要性などを学ばせていただいた。地域の大切さをますます実感した。今後は、学校に、子どもに更に寄り添いたいと感じた。

Ⅱ　学校支援地域本部の実践事例

Ⅱ　学校支援地域本部の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

（Ⅰ）学校支援地域本部「いじめ対応型」・・・・・・・・・・・　１９

◆平成２６年度「いじめ対応型」本部一覧　・・・・　１９
◇大津市　・・・・　２０
◇彦根市　・・・・　２９
◇近江八幡市　・・・・　３７
◇湖南市　・・・・　４１

（Ⅱ）学校支援地域本部「従来型」・・・・・・・・・・・・・・・　４８

◆平成２６年度「従来型」本部一覧　・・・・　４８
◇彦根市　・・・・　４９
◇近江八幡市　・・・・　６７
◇栗東市　・・・・　８７
◇湖南市　・・・・　８９
◇東近江市　・・・・　９６
◇米原市　・・・・１０９
◇竜王町　・・・・１１１
◇多賀町　・・・・１１３

平成２６年度　滋賀県学校支援地域本部一覧（いじめ対応型）　４市１７本部

No	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	大津市	葛川小学校・地域コーディネート本部	葛川小学校	0	7	3
			葛川中学校			
		真野北小学校・地域コーディネート本部	真野北小学校			
		仰木の里小学校・地域コーディネート本部	仰木の里小学校			
		石山小学校・地域コーディネート本部	石山小学校			
		仰木中学校・地域コーディネート本部	仰木中学校			
			仰木の里東小学校			
		田上中学校・地域コーディネート本部	田上中学校			
			田上小学校			
			上田上小学校			
2	彦根市	中央中学校区支援地域本部	中央中学校	6	5	2
			平田小学校			
			金城小学校			
			平田幼稚園			
			金城幼稚園			
		稲枝中学校区支援地域本部	稲枝中学校			
			稲枝東小学校			
			稲枝西小学校			
			稲枝北小学校			
			稲枝東幼稚園			
			みずほ保育園			
			稲枝ふたば保育園			
			ことぶき保育園			
3	近江八幡市	桐原小学校支援地域本部	桐原小学校	0	2	1
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
4	湖 南 市	岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	0	6	0
		あすなろ応援団	菩提寺北小学校			
		菩っこを育てる会	菩提寺小学校			
		みとっこ応援団	水戸小学校			
		みなみっこ応援団	石部南小学校			
		石部小学校 学校応援団	石部小学校			
合　　計				6	20	6
				32		

■ 大津市における学校・地域コーディネート本部事業の取組

■ めざす姿

・学校と家庭、地域のつながりを強め、地域ぐるみで子どもを見守り育てようとする機運を高める。
・学校支援に多くの方に参画していただき、いじめの未然防止、早期発見を図る。

■ 本年度の活動

今年度は６本部 10 校で、昨年度よりも４校増やして事業を実施した。

昨年度から開始された事業であるが、今年度はコーディネーター同士の連携を図るため、５月末に「地域コーディネーター連絡会」を実施した。６本部のコーディネーターが日々の実践や成果、課題を出し合い、解決に向けて話し合ったり意見交換をしたりした。また、事業に対する自己評価も行い、年度末に振り返りができるようにした。

【老人ホームを訪問】

各本部では、ボランティアリストの作成をさらに充実させ、定期的に支援活動、学習支援等の取り組みを行う学校もあった。また、ボランティアに学校支援をしていただくだけでなく、子どもたちが地域に出かけて行って、そこで活動する取り組みを行う学校もあった。

■ 本年度の成果

２年目の事業ということでコーディネーターと学校が、お互いに連携して事業を推進していくことができるようになった。

地域ぐるみで子どもを見守り育てる視点からは、地域コーディネーターをはじめボランティアの方々から褒めていただくことで、子どもたちは自信を持って学校生活を送ることができたようである。地域の方が気さくに声をかけてくださることで、自分の居場所が見つかり所属感が生まれ、子ども同士のつながりが強くなる場面が見られた。また、地域の行事へ子どもたちが参加することで、行事に活気が生まれ、地域に歓迎される場面もあった。

いじめ対応という視点では、教師の手が足りていない部分を支援していただくことで、教師の負担軽減につながり子どもと向き合う時間が今以上に確保されると思われる。また、定期的に来校されるボランティアが増え、多くの目で子どもを見守る体制が強化されてきた。ボランティアとの関わりを通して自己肯定感が高まり、いじめの減少につながったと考えられる。

大津市は「いじめ対応型」で事業を実施している。地域コーディネーターと学校とのお互いの協力によって、心を育てること、所属感を持たせること、相手を思いやること、地域の方に感謝することなど、多くの成果を確認することができた。地域ぐるみで子どもを育てることでいじめを減少させることにつながったとも考えられる。

【地域の文化祭で手作りコーナーを担当】

■ 今後の課題

今年度で「いじめ対応型」の事業が終わる。しかし大津市としては来年度以降「従来型」であっても、子どもたちの心を育て、自信を持たせ、地域を愛し誇りに思う子どもを育てていくことに変わりはない。そのためにも、学校・家庭・地域のいずれの場においても、どんな立場であっても子どもたちを地域の力で大切に育てなければならないという共通の理念を持ち続けていくことが課題であると考えている。

■　「葛川の宝」を学校とつなぎ豊かな心と学びの充実を目指すⅡ（葛川小学校）

■　大津市	
■　活動名 葛川小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■　関係する学校 葛川小学校・葛川中学校	

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	３０人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

学校・地域コーディネート本部事業がはじまり２年目となる。本校は、山間部に立地する２級へき地校で、全校児童 15 名で人間関係が固定化されがちである。そこで、豊かな心を育み、学習の充実を図るために、校区の自然や地域の方々とのふれあいを大切にするような学習や活動を多く取り入れている。この事業が始まったことにより、今まで以上に学校と地域との結びつきは強くなり、学校教育活動だけではなく、子どもたちが地域の中で活動する時にも、あたたかい眼差しや声をかけてもらい、地域の中においても子どもたちは育てられている。学校が地域の灯となり、地域の方々が気軽に学校に足を向けていただけることにより地域の活性化を促す。また極少人数の学校に地域が関わることにより、子どもたちが幅広い人間関係や社会性を育むこともめざしている。

これらの取り組みを通して、自分の大切さとともに他人の大切さに気づき、いじめをしない・許さない雰囲気の醸成につなげたいと考えている。

■　特徴的な活動内容

学校での学習活動、行事、体験的活動を充実させるため、地域在住の専門家を学校とつなぐコーディネート

＜地域と関わった学習や活動＞

〇学校林活動　全校　（5/29　7/24　11/20）

年に３回全校で学校林に行き、地域の森林組合の方々の指導のもとに活動

〇地域のゲストティーチャーに学ぶ

３年～６年（社会科　　総合的な学習の時間）年間 18 回

＊話を聞く（自然、歴史、仕事、生き方　など）　　＊技を学ぶ

＊寺社、店、施設などの案内

〇老人クラブとのふれあい

＊グランドゴルフ大会　（全校）（5/2）

＊さつまいもの苗植え、収穫、やきいもパーティー（１，２年）（5/15　10/29　11/4）

＊わらぞうり作り　（３年～６年）（11/7）

＊もちつき　（１、２年）（12/2）

〇地域清掃　（全校）

７月：診療所周辺と葛川少年自然の家の芝生の広場（7/2）　　12 月：明王院（12/2）

〇学校と地域が協力して行う行事

運動会・紅葉祭（文化祭）

【学校林活動：秋】

【６年　夢プロジェクト】

■　実施に当たっての工夫

＜学校から地域への発信＞

〇お礼の手紙

話をしてもらったり教えていただいた地域の方に、学んだことや感想を書き綴った子どもたちからの手紙をまとめて届ける。それを読んでいただき、子どもたちの素直な感想を受け止めていただくとともに、学習にどのように関わることができたかを感じ取っていただくことができた。また、これが次回お願いする時のつなぎになっていると考える。

〇コーディネーターだより「かけはし」の発行

子どもたちが地域の方々と関わった学習や活動などを、通信にして葛川・久多の全戸に配布した。学習や活動内容とともに子どもたちや地域の方々の様子や言葉などを書き綴ることにより、ふだん学校になかなか来ることのできない方やその時に参加できなかった地域の方々にもその時の様子を知っていただくことができ、学校と地域とが深く関わっていることを感じていただくことができた。

■　事業の成果

〇「地域のゲストティーチャーに学ぶ」学習では、昨年度に引き続き地域の方の知識・経験から体験的に学習活動を行うことができた。また、この取り組みを通して地域の方の学校理解が深まったと考える。

〇「学校林活動、老人クラブとのふれあい、地域清掃」等では、活動を重ねていくごとに子どもと関わっていただいた大人の方とのふれあいに温かさが感じられるようになり、子どもの豊かな心の育成の一助となった。

〇地域コーディネーターが、教職員にかわって日程調整・内容の検討・準備物などの確認を行ったため、教員が企画をコーディネートするために費やしていた時間を児童とふれあう時間にあてることができた。

■　事業実施上の課題

〇少人数学区のため、人材は限られている。しかし、これまでにゲストティーチャーを依頼した方は今後も引き受けてくださることが多い。築き上げた関係を大切にしていきたい。また、情報網をはり、新たな人材発掘や、近隣学区からの人材発掘も行っていく。活動の記録のデータを活用し、コーディネートを円滑に行い、さらに時間を有効に使うことができるようにする。

■ 地域の力で子どもの育ちを支援する（葛川中学校）

■ 大津市	
■ 活動名 葛川小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 葛川中学校・葛川小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	２０ 人
開 始 年 度	平成２６年度

■ 活動の概要

本校は、山間部に立地するへき地校で、全校生徒８名である。生徒たちは、人間関係が固定化されがちで互いに切磋琢磨し合うことが少ない。そこで、豊かな心を育み、多様な考え方に目を向けることができるように、まわりの自然を生かし、地域の方々や他校の生徒と関わるような学習や活動を多く取り入れている。この事業がはじまったことにより、今まで以上に学校と地域との結びつきは強くなり、学校における取り組みの中だけではなく、生徒が地域の中で活動する時にも、あたたかく見守り、声をかけてもらい、一人ひとりの生徒の成長といじめのない仲間づくりのため地域ぐるみで関わっていただいている。本事業では学校が地域の灯となり、地域の方々が気軽に学校に足を向け、生徒に多く関わっていただくことにより地域の活性化を促し、また極少人数の学校に地域が関わることにより、思いやりの心や多様な考え方、生き方を知る機会を生徒たちに与えることもめざしている。

■ 特徴的な活動内容

①地域のゲストティーチャーに学ぶ

＊地域の歴史を知る

古地図をもとに 400 年前に起きた地震の話や当時の葛川の様子の話を聞いた。古地図を差し示しながら当時の様子を話していただいたので、話の内容をより深く理解できた。古地図が大切に保管されており、歴史の深さを感じることができた。

＊グランドゴルフ大会

中学１年生とお年寄りのふれあい活動。フェアプレイで真剣に勝負するお年寄りの方々の姿勢に学んだ。同じチーム内で、声をかけてもらったり、ほめてもらったり、また、生徒からお年寄りの方々に質問する場面もあり、互いに交流を深めあうことができた。

【古地図を使った地震学習】

②地域清掃（７月：診療所周辺と葛川少年自然の家の芝生広場・12 月：明王院）

ふだん、お世話になっている地域のために、少しでも地域を美しくできるような取り組みを行っている。小中学生が２グループに分かれ、中学生をリーダーとして清掃活動を行う。この清掃に関わり、地域の関係者の方にも来ていただき、お話をしていただいたり、一緒に活動をしていただいたりすることにより、自分たちも地域の一員であり、地域のために尽くすことのすばらしさを感じることができた。

【　地域清掃　】

③学校と地域が協力して行う行事

＊ＫＴふれあいの輪

小学校低学年と地域の方々との料理教室、小学校高学年と中学生による学習発表や懇話会をもつ。特に懇話会では、生徒会が中心となり地域の方々をまじえたグループ討議の内容や方法などを考えている。今年度は２年目の取り組みだが、地域の方々も興味を持ってたくさん参加していただき、生徒たちと本音で語り合ったり、情報を提供したりしていただいた。本年度は地域から募集し決定した「ゆるキャラ」を発表することもできた。

■ 実施に当たっての工夫

・生徒会を中心に、地域の役職を持たれている方々に、電話をして参加の呼びかけを行っている。
・学校と地域の関わった学習や活動についてデータとして記録に残し、次年度の参考資料とした。

■ 事業の成果

・様々な活動を通して地域の方に関わってもらっているという意識が強くなり、活動に集中する生徒が増えた。
・地域の方が気さくに声をかけてくださるので、生徒も素直に応対し心の安定を得ていじめのない学校生活を送っている。
・集団の中にいるという所属感が強くなり、話題が増え、生徒同士の会話も活発になってきた。
・地域の方から学ぶことも多く、教師にとっても良い刺激になっている。

■ 事業実施上の課題

今年度からはじまった事業であり、拠点校の小学校との合同行事や学習については昨年度のコーディネート活動を生かすことができたが、中学校独自の学習や活動については、見通しをもった計画を立てることができにくかった。教科担任制ということもあり、教科や学年ごとの学習内容を把握した上で、年度当初にコーディネート計画を立てなければならない。

中学生を対象としたゲストティーチャーは、高度な話の内容や専門的な技術を求められるので、人口が少なく人材の限られたこの地域だけで探すことは難しいので、近隣学区からの人材発掘をする必要がある。また、各教科の学習内容と地域との接点をもっと探り、地域に求めることのできる教材や学習を深めるための地域の支援を具体的に挙げていかなければならない。

■ 地域に支えられて育つ真野北小学校

■ 大津市
■ 活動名 真野北小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校 真野北小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３１ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

〇地域ぐるみで学校運営を支援する体制の整備
- ・専門的な知識や技能を生かした学習支援（「読み聞かせ」「弟子入り体験」「米づくり」「音楽の授業補助」「家庭科の補助」）
- ・経験や体験を生かした学習支援（「戦争体験を聞く」「真野北学区の歴史を学ぶ」）
- ・人的な支援（登下校時の見守り　交通安全教室の補助　ミニ防犯教室）

〇いじめを許さない学校づくり
- ・地域人材に教育活動に関わっていただき、第三者の目で子どもたちの様子をとらえていただき、良好な関係を築けていない子どもの発見、指導に生かす。

〇地域の教育力の活性化
- ・新たな人材の発掘（支所、青少年健全育成学区民会議との連携）
- ・子どもの居場所づくりとして実施されている土日対策事業に参加。

【３年弟子入り体験】

■ 特徴的な活動内容

〇３年総合的な学習の時間「弟子入り体験（地域の名人から学ぶ）」

子どもたちは、名人の技や手際のよさに心を奪われ、意欲的に活動できた。名人から学ぶことを通して、しっかり聞くこと、わからないことは質問することができるようになり、学び方を習得する良い機会となった。また、コミュニケーション能力、礼儀作法を養うことができた。さらに、子どもたちが多様な生き方を見て、好奇心をふくらませたり、あこがれたりすることがキャリア教育にもつながっていくと感じている。

【ミニ防犯教室】

〇ミニ防犯教室

スクールガードや青パトあんしん隊などの皆さんの紹介を兼ね、１学期の終業式後にミニ防犯教室を実施している。登下校時の様子から気になっていることを話していただいたり、交通安全や不審者に対する注意をしていただいたりしている。ミニ防犯教室により、見守ってくださっている地域の方とのつながりができた。

〇読み聞かせ

火曜日の朝読書の時間に、読み聞かせボランティア「たんぽぽ」の方に読み聞かせをしていただいている。また、高学年対象の「ブックトーク」や低学年対象の「お話会」も学期に１回実施していただき、本に興味をもたせてもらっている。

■ 実施に当たっての工夫

〇 昨年度の実践をもとに、地域コーディネーターから担任に声をかけていただくようにし、地域コーディネーターの存在を意識してもらうようにした。担任には、地域コーディネーターとの打ち合わせを重視してもらい、地域コーディネーターが地域の方と連絡を取り、大まかな内容を決定していただいている。

■ 事業の成果

〇子どもたちの変容
- ・地域の方が、子どもたちをうまくほめてくださるため、自信をもって活動する子が増え、達成感を味わう子が多くなり、いじめが生まれない素地を作ることができた。
- ・地域の方に接することで、あいさつ、礼儀作法が良くなった。また、学校外でも声をかけてもらうことも多くなり、顔見知りの関係が広がり、子どもたちの表情が豊かになった。

〇学校の変容
- ・地域との関わりの中で、教師の人間性も豊かになった（教師も地域の方から学ぶことができた）。
- ・地域コーディネーターの存在感が増し、教師が子どもと向き合う時間が確保できた。
- ・昨年度の名人の方に、家庭科の補助として参加いただくことができるなど、地域と学校のつながりが深まった。

〇地域の変容
- ・地域の方から、登下校時の様子、休日の様子などの情報が入ってくることが増え、学校と地域の関係が深まった。

■ 事業実施上の課題

〇交通手段の確保
- ・家庭科やクラブ活動で地域の方のお力を借りたいが、高齢の方も多く、交通手段がなくバスで来ていただくことになる。多くの方に参加いただけるように、地域の方の交通手段の確保が課題である。

〇ネットワークの構築
- ・地域の諸団体とのネットワークをつくり、様々な学習に参加していただきやすい体制につなげることが課題である。

■ 地域とともにある開かれた学校づくりをめざして

■ 大津市
■ 活動名 仰木の里小学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）
■ 関係する学校 仰木の里小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数 （ボランティア登録団体）	８９ 人 （３団体）
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

いじめ対応型として事業に取り組む上で、多くのボランティアの方々に子どもたちの学習や環境整備に関わる支援をいただく際に、学校内外で子どもたちの様子を見守っていただいている。

■ 特徴的な活動内容

〇本校における学校支援の３つの柱は以下のとおりである。

①教科等の学習支援

朝読書における読み聞かせ、３年生の世代間交流・福祉教育、４年生の森林学習、高学年の外国語・ミシン指導、６年生のキャリア教育・戦争体験講話など

②環境整備や図書室運営への支援

花壇の苗の植え替えや「みのりの森」（学校学習林）の剪定・グランドの草刈り、学校図書館の貸し出し支援

③安全面、緊急時にかかわる支援

登下校における安全パトロール、あいさつ運動、児童引渡し訓練における支援

【老人会の方々と世代間交流】

■ 実施に当たっての工夫

〇ＰＴＡ・地域・企業の協力を得ながら「にじのはしまつり」を開催（11/26）

昨年度より開催しているＰＴＡ主催行事「にじのはしまつり」では、第一部に「京フィル楽団」による音楽鑑賞を行い、第二部では、地域のボランティアや大学生、企業など、さまざまな方々に協力いただき、子どもたちが１日楽しい体験をできるように工夫した。

①成安造形大学の学生による造形遊びお面作りなどの３つのワークショップ

②読み聞かせボランティアの「お話ぽけっと」による読み聞かせと大型ポスターづくり

③大阪ガスによる環境学習メニュー、風力発電の実験や燃料電池づくりなど

【にじのはしまつり】

■ 事業の成果

学習支援をしてくださった方には、後日お礼の手紙を出したり、発表会を参観していただいたりして、交流を図っている。来校される地域の方々が学校へ入りやすくなり、地域でも児童を見守ろうとする機運も高まった。

図書館ボランティアも徐々に増え始め、地域の方が優しく児童に読書の声かけをしてくださっているので、居心地のよい親しみの持てる空間になっている。見守られている安心感が子どもの心を落ち着かせ、いじめをしない集団づくりにつながっている。

仰木中学校も本事業に取り組んでおり地域ぐるみで両校をサポートしていただき、地域と学校の結びつきがより強くなった。また、小・中学校の連携もより深めることができた。

■ 事業実施上の課題

①環境整備の支援ボランティアの拡大と増員を図る組織づくり

環境整備のボランティアの必要性や意義をより深く理解していただくために、年度当初に話し合いを持ち、環境整備ボランティアの組織づくりを計画的に進めることができた。支援ボランティアとして継続的な組織が構築できるかが重要となる。

②教科や体験学習のゲストティーチャーや支援員の活用の充実

本事業の意義を教職員自身がもっと理解し、次年度は、どの教科で地域人材を活用するか、計画的に教育課程の中でしっかり位置づけることが大切である。

③地域コーディネーターの役割

地域の人材をよく知っていただいている地域コーディネーターの存在は非常に大きかった。地域との連携役として、連絡・調整・支援に日々、尽力していただいた。今後も引き続き連携協力をお願いしたい。

■　地域の教育力を学校に集結！みんなでつくる石山小学校！！

■　大津市	
■　活動名 石山小学校学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■　関係する学校 石山小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１２５　人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

いじめ対応型として本事業の取組にあたり、児童のコミュニケーション能力を向上することにより、人間関係の改善を図るとともに、多くの大人の目で児童の変化を捉え、いじめの早期発見、早期対応につなげたいと考えた。

そのために、様々な体験活動や異なる世代の方との交流を意図的に仕組み、思いやりをもち、明るく進んで活動し、地域を愛し、誇りに思う子どもを育てることを活動の重点とした。今年度は、昨年度の反省を生かして、子どもたちに付けたい力を明確にしながら事業を進めた。

■　特徴的な活動内容

・昨年度までは、民生委員児童委員の方との交流である「鯉のぼり交流」、学区民会議の方の企画である「ふれあい交流」など既存の組織やイベント、「昔あそび」等の総合的な学習での交流が中心であった。今年度はさらに、家庭科、書写、ICT 活用など普段の授業での学習支援での連携が深まり、より自然な形での連携が行われた。良い意味での子どもの緊張感・集中力が高まり効果的であった。困ったら教えてもらえるという安心感や大人への信頼感が生まれ学習意欲の向上にもつながった。
・また、５年生が地域の方の紹介で、市グランドゴルフ協会の方々の協力を得て、グランドゴルフ大会を行うなど支援団体の広がりも見られ、子どもたちにとっても、グランドゴルフという新しいスポーツに出会い、充実した時間をもつことができた。「丁寧に教えてもらった」「ほかのスポーツは苦手だが、グランドゴルフなら出来そうな気がした。もっとやりたい」「いろんな人と関わり合えるのがうれしい。」といった感想が多く見られた。

【グランドゴルフ（５年生)】

【日常的な支援（家庭科６年)】

■　実施に当たっての工夫

・昨年度は、本事業が息の長い取組として着実に進めていくことを大切にし、できる支援をできるところから行っていった。既存の行事に子どもたちの付けたい力を明確にすることで、活動のねらいやボランティアの方の関わり方を工夫した。
・今年度は、一歩進めて、育てたい子どもの姿、付けたい力を明確にし、交流を精選し、必要な場合は新たに交流場面を追加するなど工夫した。

■　事業の成果

・付けたい力を明確にし、活動することによりコミュニケーション能力や社会性が培われた。子どもたちも関わってくださった方から褒めてもらう機会が増え、自信を持ち、心の安定を得ることで、いじめをなくす方向につながった。
・地域の自然や歴史にかかわることで地域を愛し、誇りに思う心が育ってきた。
・教育活動の充実や教育環境整備が進んだ。
・幅広いボランティアの方が来校してくださり、地域とのつながりがますます強くなった。

■　事業実施上の課題

・地域の学校として、ともに教育活動をつくりあげていく体制の整備、継続して事業を実施していける仕組み作りをどう行っていくか。
・「つなぐ」ことによって生み出される新たな教育効果（成果）を見通しながら、その「つなぎ方」をいかに開発していくかが課題となる。
・ボランティア登録されたすべての方がやりがいを感じ、活動を継続していける仕組み作り。
・ボランティアの方が教育活動に参加していただく機会が増えたが、まだまだ学校は、地域にむけての情報発信が十分とはいえない状況である。保護者向けの授業参観での公開だけでなく、地域の団体等に働きかけ、参観日を設定するなど、ホームページや地域向けのおたよりなど積極的に学校情報を発信していく必要がある。

■　その他

・お世話になった方へ子どもたちから感謝の手紙を贈るなどの取り組みを続けており、ボランティアの方から「子どもさんから元気をもらっています」という声を聞いている。今後もやりがいを感じてもらえるように工夫したい。

■ 地域とともにある学校の在り方を考える（仰木中学校）

■ 大津市	
■ 活動名 仰木中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 仰木中学校・仰木の里東小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２７　人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

校区の大半が造成 20 年程の新興住宅地のため、地域の住民間のつながりが比較的弱い。そのため子ども達も、家族以外の大人との関係が希薄になりがちである。そこで、いじめ対応型の本事業を活用し多様な経験を持つ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、様々な価値観や生き方に直接ふれ、自分以外の考え方や価値観への理解や共感ができるきっかけを得ることを目的とし、学習支援、図書室運営支援、園芸、文化祭、道徳ゲストティーチャーなどの活動を行っている。

■　特徴的な活動内容

〇学習支援

１学期は、テスト前の補充教室、総合体育大会時のプリント学習補助を中心に活動をした。期末テスト以降に１・２年生で数学の授業補助を数回実施した。夏休みには、１・２年生数学で補充教室、３年生で１名個別数学補充教室を数日にわたり実施した。２学期は引き続き、１・２年生数学での授業補助、３年生数学での放課後個別教室、２年生理科の授業補助を実施した。

【学習支援の様子】

〇図書室運営支援

月～金の昼休みの図書室開室支援に８名のボランティアが交代で昼休みの図書室開室の見守りをしている。また、生徒会の図書常置委員会（ミーティング）にもボランティアに参加してもらい、図書委員の生徒との意見交換の場を設けた。

〇園芸

夏休みに、環境委員、ボランティア参加の生徒と教職員、園芸ボランティア５名で花壇作りを行った。その後の管理については、ボランティアに指導を受けながら生徒で維持管理をしている。

【花壇づくり】

〇文化祭、道徳ゲストティーチャー、その他

地域の活動団体に文化祭・文化体験コーナーの講師をお願いし、生徒の文化体験と交流を行った。

〇仰木太鼓体験コーナー・・・生徒も多く参加し盛り上がった。

〇切り絵コーナー・・・講師が何種類かの切り絵の栞見本を持参、指導した。昨年の実績もあり好評で参加者も多かった。

〇囲碁・将棋コーナー・・・毎年参加してもらっているため、生徒とのコミュニケーションもとることができた。

〇写真の撮り方教室・・パネル展示。「上手な写真の撮り方教室」では、参加者が丁寧に指導を受けた。活動後は、校長室で談話の時間をとった。ボランティア同士の会話も弾み、交流ができた。また、教師とも話ができ、相互理解に繋がったように思われる。

〇道徳ゲストティーチャー・・・ボランティアに現在までの自身の人生や、なぜボランティア活動をしているか等を話していただいた。保護者の参加もあり好評であった。

■　実施に当たっての工夫

ボランティアからの意見はできるだけ早く学校に伝えるようにした。又、具体的対応についても、どの程度できるか、難しいのか等を伝えるように心がけた。

■　事業の成果

それぞれの活動で意識して、ボランティアと生徒、ボランティアと教職員とのコミュニケーションをとることに重点をおいた。そうすることでいろいろな問題点も浮かびあがってきた。その問題点を少しずつ改善していくことで活動内容も改善していくことが出来た。＜例＞学習支援の形態の変化：テスト前補充授業　⇒　授業補助　⇒　個別補習　　道徳ゲストティーチャー

図書開室支援ボランティアをはじめ、定期的に来校してくださる方が増え、多くの目で生徒を見守ることができた。

■　事業実施上の課題

活動が２年目に入り、ボランティアから種々の意見が出るようになってきた。それに対応していくための校内のシステム作りがなかなか進まない。また地域コーディネーターの勤務に余裕が無く、新規ボランティア募集の広報があまりできなかった。

■ 地域とともにある開かれた学校づくりをめざして（仰木の里東小学校）

■ 大津市	
■ 活動名 仰木中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 仰木の里東小学校・仰木中学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３３ 人
開 始 年 度	平成２６年度

■ 活動の概要

校区は、造成から 20 年程度の新興住宅地であり、地域的なつながりという点においては弱い地域である。そこで、本事業を活用し多様な経験をもつ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、共に活動する時間をもつことで、自分や家族以外の様々な人の価値観や生き方に直接ふれあう経験ができ、多様な価値観への理解や共感できる力を育てることでいじめをなくすことにつなげる。

■ 特徴的な活動内容

〇広報活動

本事業の主旨の説明とボランティア募集を呼びかけることを目的に「ボランティア便り」を発行し、ＰＴＡ配布・地域内回覧をする。

また、６年生児童に学校ボランティア募集ポスターを書いてもらい、優秀作品に賞状と賞品を授与して事業の浸透と広報活動の活性化を図った。

〇いっしょにおそうじボランティア

９月より、毎月第３水曜日に昼休み後の清掃時間に子どもたちと一緒に「そうじ」をしてもらう。毎回、同じ学級に入ってもらうため、子どもも慣れて親しく会話ができるため好評である。

〇授業援助

１年生・・・サツマイモの調理実習補助
２年生・・・九九の聞き取りとピアニカ学習の補助
５年生・・・家庭科ナップサック作りのミシン補助

〇ゲストティーチャー

３年生・・・「名人になろう」
工作・手品・将棋・茶道・読み聞かせ・コマ回し・英会話
手話・手芸・百人一首
４年生・・・「戦争体験の講話」

【手芸が終わり、手遊びを教えてもらう】

【お茶を入れる作法を教えてもらう】

■ 実施に当たっての工夫

広報活動により、ＰＴＡや保護者、地域の各種団体の方々に本事業の実施が認識されはじめ、団体以外の個人の登録もいただけるようになった。

■ 事業の成果

授業援助や掃除の時間に地域の人が入ることで、地域の方からは学校へ協力することへの敷居が低くなり、気楽な気持ちで学校を訪れていただけるようになった。また、学校の方も教師の手が足りていないところを援助していただけるので助かっている。この事業を継続していけば地域の方に任せる部分が増え、教師が子どもと向き合う時間を今まで以上に増やすことにつながると思われる。

■ 事業実施上の課題

〇授業援助にもっと多くのボランティアさんが入って来られるように、学校がどの学年のどの場面で必要であるか明確にしておく必要がある。

〇年間計画の中で、ボランティアの必要な行事がいつ頃、どのような活動があるかなど、登録されているボランティアの方々に年度当初にお知らせできるようにしたい。

〇広報活動を継続し、登録ボランティアの数を増やしたい。

〇本校では、コーディネーターが来校される日が週１日と限定されていたために、学校の窓口や担任と連絡を取り合うことが難しかった。

■ その他

〇継続することが実績を上げることにつながるので、できるだけ長年にわたって事業が継続されることを願いたい。

■ 自己存在感・肯定感を高めるボランティア活動　～地域行事への生徒参加の促進～

■ 大津市	
■ 活動名 田上中学校・地域コーディネート本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 田上中学校・田上小学校・上田上小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１８　人 １４団体
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要（右ビジュアル図参照）

「いじめ対応型」事業の主たる目的は、地域ボランティア等多くの眼で子どもを見守り、いじめの未然防止や早期発見に資することである。本校はその主旨に沿い、地域の教育力を学校教育に活かしながら学校教育目標の具現化を図ること、地域の方々とのふれあいや学習を通して豊かな心を育むことをねらいとして、次の３つの取組を展開している。

①「ボランティアリストの作成・整備」と実際の支援活動の拡大

②中学生の「地域行事へのボランティア参加」の促進（主眼を置いている）

③（この事業を切り口に）実効性ある小中連携の推進（平成 26 年度から）

■　特徴的な活動内容

①各校の必要性に応じた支援ボランティアの募集（右下図参照）

→中学校は平成 25 年度からの取組であるが、田上・上田上小学校は今までに築いた地域との関係に加え、当事業でさらに支援の幅を拡大しようと取組んでいる。

②中学生の地域行事へのボランティア参加（参画）の促進

→７月から 12 月の間に、19 の地域行事等にのべ 230 名中学生が参加。

③小中連携の観点から、地域行事等の中で、中学生と小学生がふれあう場面を設定する。

→英語招待授業の開催や中学校合唱コンクールへの６年生招待

→２小学校運動会への中学生の参加（対抗リレーに出場）

→学区文化祭における中学生ボランティアの幼児・児童へのクラフト制作等の指導

→田上小学校ふれあい創作まつりにおける「中学校ブース」の開催

④田上中学校だよりボランティア特集号の発行（平成 27 年１月発行を予定）

■　実施に当たっての工夫

①コーディネーターによる地域諸団体（２学区）への当事業の説明会を開催

②中学校における「地域コーディネート推進委員会」の開催。

→中学校の方針や事業の進捗状況及び個々の取組の成果と課題を検証するため、年間５回程度開催を予定。昨年度から組織し、本年度は 11 月末に第３回目を開催。

→校長・教頭・コーディネーター・研究主任・連携グループ教職員８名の 12 名で組織。

③小学校を交えた「拡大地域コーディネート推進委員会」の開催。

→各校の取組を情報交換するとともに、校区で意思疎通を図るために本年度から組織し、年間３回程度開催。

■　事業の成果

①定期的に来校される支援ボランティアが増え、多くの眼で子どもを見守る体制が強化された。田上小では、新たに登録された「中国語の日常会話支援ボランティア」の方が、支援を必要とする子どもの生活に大きな支えとなっていただいている。

②ボランティア参加の促進で、認められたという**自己肯定感の高まり**が自然と子どもを笑顔にし、その**笑顔が生徒の自信**につながってきている。さらに、認め合いから生まれる**自信が豊かな心**を育み、いじめ撲滅の基盤となる「他者を思いやる気持ち」を校内に醸成していく第１歩となっている。

③子どもが活動への参加を通して、自分たちを育んでくれる**「地域・人」に目を向ける**契機になり、地域諸団体・担当者から「中学校との距離が縮まった」「中学生が参加すると行事に活気が生まれる」などの声を聞くなど、この取組が定着しつつあることは、「開かれた学校づくり」の観点からも大きな成果が見えてきたといえる。

【上田上小 読み聞かせボランティア】

■　事業実施上の課題

①校内コーディネート推進委員会を中心に教職員の理解を拡大し、さらに**全校体制**で取組む必要がある。そして、いじめ対応については、本年度以上に**学校協力者会議と連動した運営**が求められる。

②主体性を育むため、子どもが**参加から参画**する機会を設定することが重要である。

③毎月１回の小中連携推進会議は定着してきたが、さらに**校区内小学校と連携**して支援ボランティアの拡充や中学生と小学生の交流場面の設定に努め、滑らかな接続や校区内の活性化を図ることが大切である。

【田上小運動会に参加した中学生】

■ 彦根市における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

持続発展教育（ＥＳＤ）持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみんなで守り育てます。

■　めざす姿

〇教員が子どもと向き合う時間の確保など多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに地域住民が自らの経験や知識を活かす場として、自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。また、いじめ対応の視点による活動支援により、いじめの早期発見・早期対応・抑制力を高める環境整備をする。市内７中学校区地域教育協議会(いじめ対応型/中央.稲枝 従来型/東.西.南.彦根.鳥居本)で実施する。

■　本年度の活動

〇平成 26 年度の取組重点（継続）　地域協議会の活性化　学習支援活動を全ての小中学校で実施

〇実行委員会の開催（年３回）

構成委員：15 名（各中学校長、地域コーディネーター、彦根 PTA 連絡協議会会長）
事務局（生涯学習課長.主幹.学校教育課長.主査）

第１回：８月　４日(月)事業説明・実践交流

第２回：11 月 26 日(水)研修会・実践交流

第３回：３月 実践報告・振り返り

〇学校訪問　　11 月　７中学校訪問　学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

〇平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰

12 月８日(月)　文部科学省東館 3 階講堂(東京都千代田区霞が関３－２－２)

被表彰団体:彦根市学校支援地域本部

〇特徴的な活動内容【いじめ対応型】

・地域支援協議会の開催・ボランティア募集や広報活動、広報発行
・支援ボランティアの交流会
・保幼小中学校で、読み聞かせボランティアの活動推進（読み聞かせ研修会）
・登下校時の安全指導
・畑や花壇の栽培支援、中庭の剪定等の支援
・中学校の部活動指導支援
・各小学校の地域学習、体験学習の活動支援
・いじめ対応／登下校の見守り、部活動、地域学習、学習活動時に、いじめ防止の視点で児童生徒を観察し、いじめの芽を摘む声かけや学校との連絡・連携をとる。

【サマーフェスタ in 稲枝】

■　本年度の成果

〇学校内外で、子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができることで気になる子への対応ができた。

〇工夫された活動、体験的な活動の中での、子どもへの声かけ等により、子どもたちの自信・自己肯定感が高まった。

〇各小中学校で地域ぐるみのパトロールが組織的に行われ、子どもたちの見守りができ、いじめ事案等の抑止力になっている。学校との児童生徒にかかる情報の共有ができた。

■　今後の課題

〇放課後学習や土曜学習など、学力を高める学力補充の取組の開発・充実

〇学習支援ができる支援ボランティアの確保（地域の人・教員ＯＢ・学生等）

■　その他

〇彦根市では、ＥＳＤ（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・活かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成 25 年度末の本市社会教育委員の会議の提言の中でも、この学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについても検討していきたい。

■ 学校と地域を結ぶＳＣＨＯＯＬ　ＳＵＰＰＯＲＴ（中央中学校）

■ 彦根市
■ 活動名 中央中学校区支援地域本部・中央中学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校　　中央中学校 金城小学校・平田小学校・金城幼稚園・平田幼稚園

コーディネーター数	３　人
ボランティア登録数	４０人
開　始　年　度	平成２３年度

■ 活動の概要

インターネットの普及で情報化が子どもたちの間で急速に進むなか、人間関係構築力の脆弱化や生活体験の不足などが問題になっている。本校においても低学力やいじめ、虐待などの問題もある。子どもたちを健やかに育むためには、学校と地域が連携を図り地域ぐるみで子育ての体制を整えることが大切である。

本事業は、今年度４年目を迎えるが、地域の多彩な人材を学校教育に活用することでいじめなどの問題に対応し、学力向上や体験的な学習、環境整備作業等を行うことで学校教育の充実を目指して活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

・人権教育地域ネット事業の指定のもと、校区内で幼小中連携に取り組んでおり、本事業も金城小学校と平田小学校、金城幼稚園、平田幼稚園とともに協議し、協力して事業を進めている。
・事業の充実を図るため、昨年６月には校区全戸にチラシを配布し地域住民への周知徹底が図れ、本事業が認知されてきた。地域コーディネーターやボランティアの方からの積極的な発言やアイデアを取り入れ、学校を支援する輪が広げられつつある。本年度も、昨年まで実施してきた「学校支援地域本部事業」に「いじめ対応型」を加えて一つの枠組みに捉えなおす中で、より充実した教育支援活動を目指し話し合いを重ねている。
・本年度は、コーディネーターと各校の担当者会を隔月に設定し各校地域の実態把握、事業の計画、予算配分などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合って進めている。前年から行っているが、いじめに関する実態および生徒の様子について、コーディネーターと情報を共有する中で、今年度も重点取組を「いじめの未然防止と早期発見のための取組と指導体制の充実」としている。
・【学校】では、体験的な学習を支援するためボランティアが授業や生徒会活動、部活動を支援する等の活動が始まっている。（総合的な学習の時間の職業講話の講師、美術科の作陶体験、和菓子デザイン学習・茶道体験学習・美術部の額縁制作補助など）その活動を通して地域のボランティアの方々とふれあい、見守りをしていただいている。
・学校の現状として、いじめに関する重大事案の報告はあがってきていない。しかし、ネットトラブルやからかい等心配されるケースは見受けられるので日頃から生徒の観察、定期教育相談やアンケートを実施し早期発見・早期対応に努める。落ち着いた校内環境つくりのため、普段から教師が、授業･休み時間を中心に校内を巡視し、生徒の気になる言動などを見逃さない。また、教師間において緊密な連携をとっている。
・地域ボランティアの方に見守りを行ってもらいやすいように、また、開かれた学校づくりを進めるため、本年度は授業参観日を増やし、参観時間を２時間連続にする日を設定している。また、フリー参観日を毎月１週間設けるなど地域の方に中学校に来てもらいやすい環境をつくっている。ＰＴＡでは清掃活動を行いながら校内巡回をする活動を行っている。
・【地域】では、小学生下校時の交通指導の際、中学生に対しても積極的に声かけや挨拶をすることで子どもたちの安心（いじめ・悩み）・安全の確保をはかっている。
・「学び育ち教室（Learning Links（学びの絆）教室）」平成 25 年３月からスタート。対象は学びたい気持ちはあるが機会に恵まれない生徒で、現在中央中生７名が学んでいる。運営は滋賀大学生、聖泉大学生、県立大学生などである。場所は中地区公民館で月曜日 19:00～21:00 に開催している。

■ 実施に当たっての工夫

幼・小・中の連携の試行・本事業の認知度を高めることとニーズの掘り起こし・ねらいに適したボランティアさんの人選と確保

■ 事業の成果

〇コーディネーターと校区内の幼・小・中の担当者の定期的な調整会の設定。事業の充実につながっている。
〇体験的な学習の支援の充実（総合的な学習の時間の支援、稲作体験学習の支援、ふれあい遠足の交通指導、職業講話の講師、ウォークラリーの支援、美術部の額縁制作補助など　）
〇安心･安全パトロール…登下校時に子どもへの声かけおよび見守り。
挨拶を交わせる中学生が増えてきた。

〇環境整備等の課題解決（残土処理、除草作業、体験農園の手入れ、銅像（拓心像）の修理、自転車庫のペンキ塗り、ウサギ小屋の修理、樹木の手入れ・剪定など）
〇子どもたちに身につけさせたい力（挨拶等）を育成できるよう、様々な場面においての声かけ

■ 事業実施上の課題

今後、さらに本事業に対する教職員の授業や行事への計画的な導入と地域の方々の理解と協力を高め、支援プログラムを多様に仕組みながら、定着と活性化を図っていきたい。特に、図書室の常時開館に向けての図書館（司書）ボランティアの常駐や、放課後学習会のための学習支援ボランティアの人材確保が課題である。

■　心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり（平田小学校）

■　彦根市
■　活動名 中央中学校区支援地域本部・平田小学校（いじめ対応型）
■　関係する学校 平田小学校・金城小学校・中央中学校

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	３７　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

①毎月第２水曜日。子ども達の活動場所の整備。（中庭を中心とした剪定作業。遊具のペンキ塗り。学級園の整備）
②朝読書の時間の読み聞かせ
③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー
④全校ふれあい遠足の引率、立哨

■　特徴的な活動内容

①活動場所の整備

昨年度より、定期的に来校していただき、子ども達の活動場所の整備をしていただいている。毎月１回を原則にしているが、10 月、11 月は２回集まっていただいた。本校の中庭は、様々な木が植えられ、理科の学習の観察材料として、またかくれんぼをしたり、鬼ごっこをしたりして遊ぶ場所として最適な空間となっている。しかし、開校当時から植えられている木が多く、手入れがされていない状態であったので、枝がはり、子ども達にとって危険な箇所も見られた。そこで、今年度は、特に大きな木で子ども達の死角となるような木、子どもの身長より下にある枝等を中心に伐採したり、剪定したりしていただいた。

②朝読書の時間の読み聞かせ

読書ボランティアに登録いただいている５名の方が、毎週水曜日の朝、読み聞かせに来てくださっている。

③生活科、総合的な学習の時間、社会科のゲストティーチャー

ボランティアの方の中には、和菓子職人さんやスクールガードリーダー、彦根市ボランティアガイドさんなど、多才な方が多い。各学年の学習に応じてゲストティーチャーとして招き、学習に協力していただいている。

④全校ふれあい遠足の引率、立哨

学校支援本部事業が開始されてから始まった行事である。地域を知るために、たてわり班で地域を歩いている。毎年、数多くのボランティアさんに引率・立哨を協力していただいている。各班、担当教師とボランテイアさんが引率し、子ども達の安全を守るとともに、歩きながら交流を深めている。子ども達とのふれあいとともに、教師も地域の方を知る大事な行事となっている。

■　実施に当たっての工夫

年度初めに、学校支援地域本部事業の総会を開き、できるだけくわしく今年度の支援内容や支援時期を連絡するようにしている。どの活動も、コーディネーターの方が窓口となってくださっている。登録されている方のことをよくわかっていてくださり、どういう支援をしてほしいかを連絡すると、支援者の調整をしてくださるのが大変ありがたい。そこから支援していただく方との打合せに入るが、いつでも、快く活動支援を引き受けてくださっている。内容を細かく打合せをしておくことで、学習や活動のねらいや当日の動きを知っていただき、子ども達に寄り添った支援をしていただけるように心がけている。

また、活動される日は必ず全職員に知らせ、担任から子ども達に何をしていただいているのか伝わるようにしている。お世話になっているのだという気持ちを持ち、「ありがとう」という言葉が自然に子ども達の口から出てくるように、声をかけている。また、活動の様子を新聞にして掲示し、子ども達の目にふれるようにもしている。

■　事業の成果

学習や活動の支援をしていただき、活動しながら子ども達とふれあっていただくことで、子ども達の日常の姿を知っていただけることが一番の成果と言える。ボランティアの方は、地域のいろいろな団体にも所属されている方が多く、地域での子どもの姿、学校での子どもの姿の両方を見ていただいている状態である。活動の後の反省会では、子ども達の様々な表情を話題にしてくださっている。気にかかる子の様子も教師とは違った視点で見てくださることが、より深い児童理解につながっている。

■　事業実施上の課題

登録していただいているボランティアさんは 37 名。高齢の方も多く、80 歳を超える方も登録していただいている。実際に活動してくださっているのだが、体調をくずして参加できないと連絡いただく方もある。活動が広がってきているだけに、この高齢化の問題と、これからどのようにボランティアさんを増やしていくのかが今後の課題である。

■ 学校と地域の「豊かなつながり」（金城小学校）

■ 彦根市
■ 活動名 中央中学校区支援地域本部・金城小学校（いじめ対応型）
■ 関係する学校 金城小学校・平田小学校・中央中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	１１３　人
開　始　年　度	平成２３年度

■ 活動の概要

子どもと地域、そして、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と、人権が守られ、安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

本事業が開始される以前より、地域で「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見廻りなどで、学校に支援をいただいていた。その活動を本事業にもつなげて、継続発展して取り組んできている。

■ 特徴的な活動内容

①登下校の安全パトロールとあいさつ

金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守り、「おはよう」「おかえり」と声をかけてくださっている。ボランティアの方々とあいさつを交わすことで、人との関わりの基本であるあいさつができる子どもの育成にもつなげている。また、登下校中の子どもの様子を逐一知らせていただき迅速な子どもの実態把握に役立てている。

②学習支援

例年、特別支援学級の大藪かぶらの栽培、３年生の昔のあそびと昔のくらし、５年生の米づくりでは、ゲストティーチャーとして学習の支援をしていただいている。また、本年度は４年生の野外活動（オリエンテーリング）時の安全確保のために力を借りた。その際には、必ずあいさつをすることはもちろん、お礼の手紙を書いたり、事後の活動に招待したりするなど、つながりづくりを大切にしている。

③読み聞かせ、影絵

年間を通して、読み聞かせボランティアの方に、水～金曜日に絵本の読み聞かせを、10 月の全校集会では影絵を行っていただいている。豊かな情操の育成につなげるとともに、12 月には、人権週間にちなんだ絵本（「へいわってどんなこと」浜田佳子著）を選んでいただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止に役立てている。

④感謝の気持ちを伝える

６年生の児童は、金城見廻り隊の方々へ、暑中見舞いのはがきを出し、日頃お世話になっていることへの感謝の気持ちを伝えている。秋にはＰＴＡ行事とタイアップして５、６年生の児童が日頃の感謝の気持ちをメッセージカードに書いて伝える取組を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎月、第３水曜日を学校支援本部事業の定例会に設定し、活動内容の計画と確認を行うようにした。

また、職員室前廊下にボランティアの活動を紹介する写真を掲示することで、子どもたちや保護者に活動内容を目に見える形で知らせるようにした。

■ 事業の成果

子どもの様子で気になることがあれば、ボランティアの方から学校へ、すぐに連絡をいただいた。互いに連携をとることで、校内では気づかない子どもの情報を得て、児童理解と指導に役立てることができた。

また、子どもたちは、地域のさまざまな人たちによって守り育てられていることを感じ取っている。このことは、ボランティアの方と笑顔であいさつを交わしたり、親しく話したりする子どもたちの姿からもうかがえる。このように、人の温かさや親切に対して感謝する心を育てる、一つのよい機会とすることができている。

■ 事業実施上の課題

本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に周知できていないことが課題である。今後は、支援の取組の広報活動を行う必要がある。そのことを通して、ボランティアの方のやりがいを高めるとともに、子どもたちが、さまざまな人に支えられ大切にされていることに気づき、人を大切にしようとする心情をより一層高め、子どもから進んであいさつをする行動化へとつなげていきたい。

また、子どもたちとボランティアの方のつながりをより一層深めていく取組を行うことも課題である。子どもたちが、ボランティアの方に気軽に話すことができ、悩みごとを聞いてもらえる関係を築くことができれば、いじめ防止対策のひとつの手だてとなると考える。

■　地域挙げての協力による学校支援（稲枝中学校）

■　彦根市	
■　活動名 稲枝中学校支援地域本部・稲枝中学校（いじめ対応型）	
■　関係する学校　　稲枝中学校 稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東幼稚園 みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	９７　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

「稲枝はひとつ」の考えのもと地域を挙げて支援を行い、稲枝地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが立派に育つようにと願い、連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となり学校・園支援活動を展開している。現在 97 名の登録ボランティアの皆さんが「読み聞かせ」をはじめ、登下校見守り、校地内の環境整備、地域学習の講師、野菜花づくりの指導、学習の補助支援などに、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動を展開しています。本事業は７年目になりますが、昨年度から「いじめ対応型」の支援として、校・園内はもちろん登下校中や地域での児童生徒に対してきめ細やかな寄り添い支援を行っている。

■　特徴的な活動内容

《読み聞かせ研修》

事業の当初から各校園では、読み聞かせ活動が実施されている。いじめの防止には、何よりも「人を思いやる、自分をふりかえる」心の陶冶が大切である。読み聞かせは、子どもの心の陶冶と創造性や想像性を養い、一日の学習がさわやかにスタートできるということからどの校園でも重要視されている。そこで、学校支援協議会では、読み手のスキルアップを目ざして、毎年、読み聞かせボランティアさんや先生を対象に「読み聞かせ研修会」を実施している。今年度は、市教委生涯学習課より講師を紹介していただいた。参加者からは次の様な感想があり、今後も継続しなければと考えている。

・とても具体的なお話で、大変わかりやすく、心がほっと温まる研修会であり、たくさんの本を整理した形で紹介され、これからの読み聞かせに大変役に立つすばらしい研修会でした。
・子どもたちと本との出会いは、とても大切であり、本は子どもたちの心を豊かにすると改めて思うことができました。一日がさわやかにスタートできる内容であったり、季節やその時期にあった話題の内容であったり、子どもたちにぴったりな本を選び読み聞かせをしていきたいです。ぜひ、ブックトークを体験してみたいと思いました。いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。

《中学生の地域貢献活動》

「地域の子どもは地域で守り育てる」のスローガンのもと学校支援活動を行っているが、子どもが学校や家庭だけでなく地域の中で生きていることを知り、その存在感を感じ取ることは重要なことである。このことが子ども自ら地域活動に参加しようという意欲になり、将来地域の担い手に育つものと考える。

稲枝地区では、「サマーフェスタ in 稲枝」と銘打って夏祭りが数年前から復活した。夏祭りの会場をイルミネーション（12 万球の LED 電球）で飾っているが、それを稲枝中学校の生徒会や美術部等多くの生徒が原画作りから電球の飾り付けに参加した。生徒達に、夏祭りを自治会や青少年育成協議会等の大人の中に混じって作り上げているという自尊心が生まれている事は確かである。また、稲枝駅前環境整備活動で、生徒会や有志の生徒がプランター作りから花の苗植えや花の世話をしてきた。

このような活動を通して、生徒は作文に「地域の人から学び、地域に貢献したことの成就感」を記している。生徒同士が協力し合い成就感を味わう中では、いじめにつながる要素はどこにも見当たらないことは確かである。

■　実施に当たっての工夫

どの活動にも言えることであるが、事前の準備と打合せが肝要である。中学校と公民館や稲枝地区諸団体の打合せや連携がスムーズに進められることが大事である。

■　事業の成果

〇学校と地域の協力体制が一層深まってきた。学校側の学校支援担当の先生や管理職の先生から支援の要望等を忌憚なく聞くことができ、地域の中の学校としてどうあるべきなのかをじっくり話すことができている。このことが、いじめ対応などにうまく機能していると考えられる。
〇８校園それぞれがニーズに応じた学校支援活動を実施しており、定着してきている。
〇今年度から、長年の課題であった中学生への放課後学習支援が、３年生の部活終了後の生徒に限られているがスタートでき、一歩前進した取り組みとなった。

■　事業実施上の課題

〇ボランティアの高齢化と固定化が見られるので、新しいボランティアを募ることが大事である。そのためには、地域に本事業の一層の衆知を図らなければならない。また、学校として本事業に関わる支援プログラムを計画的に構築し、学校支援を要望することも必要である。

■　子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動（稲枝東小学校）

■　彦根市
■　活動名 稲枝中学校区支援地域本部・稲枝東小学校（いじめ対応型）
■　関係する学校　　稲枝東小学校 稲枝中学校・稲枝北小学校・稲枝西小学校・稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・稲枝ふたば保育園

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	２０人
開　始　年　度	平成２０年度

■活動の概要

本校区にはＪＲ稲枝駅があり、近年、駅周辺地域の開発が進み、新興住宅地が増えつつある。それでも校区全体から見ればまだまだ農地が多くを占めており、彦根市の米どころの一角を担っている。

そのような校区で子どもたちは生活をしているものの、何らかの農作業を実際に経験している子は僅かである。子どもたちの生活圏内に豊かな自然や農地が広がっており、そこから学ぶ機会は十分あるはずなのだが、それらが生かされていないのが現状である。

そこで、本校では、地域の自然や歴史等に学び、自然や地域、そこに生きる人の命を大切に考える活動を『地域の力』をお借りして推進している。

■特徴的な活動内容

昨年度に引き続き、５年生の総合学習の一つとして、『米作り』に取り組んでいる。地域のボランティアの方々の協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、裸足で田んぼに入り、土に足を取られながらも意欲的に苗を植える姿が見られた。稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲をコーディネーターの方々や教師に満足そうに見せる姿が溢れていた。児童にとって、自然（植物）の命を感じながら大きな達成感を味わうことのできる貴重な時間となった。収穫した米は、精米をして給食の主食として全校児童がいただいた。昨年度は、東日本大震災の復興支援の一つとして、精米した米を東北地方にも送っている。

また、収穫した米を米麹にして味噌作りにも挑戦している。自分たちが関わった材料が使われているだけに、熱の入った味噌作り作業であった。

■　実施にあたっての工夫

貴重な体験をさせていただいている「米作り」だが、ボランティアさん達の支援・配慮によるところが大きい。また、活動の実施にあたっては、ボランティアさんのほうからアイデアをいただくことも多く、日々のコミュニケーションを豊かにし、学校とボランティアさんの間の風通しをよくしておくことが、活動を活性化させていく基本であると感じている。

■　事業の成果

〇ボランティアの方々が一年を通して継続的に関わってくださるので、子どもたちの人間関係にまで留意いただくケースも多い。子どもたちの気になる言動については、直ぐさま学校へ情報を伝えてくださっている。

〇ボランティアとしてご活躍いただいている方が、新たな方を紹介してくださることも多く、学校支援への熱い思いがボランティアさん同士で受け継がれている。

〇従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄ってくださっている。

■　事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。学校と地域が知恵を出し合い、新たな活動を模索していきたい。

■ 地域とともに　学びの充実をめざして（稲枝西小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 稲枝中学校区支援地域本部・稲枝西小学校（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校・稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１３　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

新入生が毎年 20 名をきるようになり、全校児童数が年々減少している。今までどおり、活動を続けていきたいことがたくさんあるのだが、子どもたちや職員だけでは無理が生じてきた。また、子どもたちの視野を広めたり、いろいろな経験や体験をさせたりして心豊かな子どもに育ってほしいと願っているが、交通機関が不便な地でどこへ出かけるのにも時間がかかり、あきらめざるを得ないことも多い。

本事業では、たくさんの地域の方々から力をお借りしながらいろいろな経験や体験を通し、子どもたちを心豊かに育てたいと願っている。そして、地域の方とふれ合うことで、ふるさとやそこに住む人たちを愛する心を育てたいと願い、活動を行っている。

■　特徴的な活動内容

〇地域をあげての花づくり・・・毎年、春と秋に学校や地域にたくさんの花を咲かせている。特に、学校のメイン花壇やサブ花壇、中庭には、フラワー委員が中心となって育てた花が咲き誇る。その準備として、種まきや土おこし、植え替え、草刈りなど子どもたちの活動時間に合わせて地域の方に協力いただいている。子どもたちが考える花だんのデザインには、いつも、「見守ってくださる地域の方」の存在が表現されている。

〇クラブ活動・・・この数年、クラブ活動の内容が固定化していた。子どもたちにいろいろな経験や体験をさせたいと考え、今年度は地域の方にお願いをしてみた。その結果、ホッケークラブ・ダンスクラブ（聖泉大学）、吹奏楽クラブ（県立大学）、調理クラブ・手芸クラブ・工作クラブ・茶道クラブ（それぞれ地域の方）を立ち上げることができた。運動会や音楽会などでその成果を披露することもできた。子どもたちの視野も広がり、生き生きと活動する姿が見られた。

〇学習・・・「総合的な学習の時間」では、各学年で地域学習を組み込んでいる。３年生では「地域の名人・達人」「昔のくらし」、４年生では「地域に残るわき水」、５年生では「米作り」「人にやさしい町づくり」、６年生では「町のお宝」「平和学習」である。各活動の中で、たくさんの地域の方に来ていただいて話をしていただいたり、現地で説明をしていただいたりしている。毎年、学習でもお世話になっているので、子どもたちが、地域の方やふるさとを愛する気持ちを膨らませていることを感じている。

〇夏休み補充学習・・・毎年、全学年で行っている。今年度は、学生さんに来ていただいた。子どもたちは、年齢の近い学生さんということもあり、気軽に質問したり話しかけたりしていた。課題についての質問だけでなく、学習全般の悩みや将来のことなども相談している高学年の姿も見られた。

■　実施に当たっての工夫

地域コーディネーターに、事前に「こんな活動をしたいので」とお願いしておくと、その道の達人の方を集めてくださる。基本は、子どもたちと一緒に活動していただくことにしている。

また、私たちをサポートしてくださる地域のボランティアさんがたくさんいてくださることや、どんなことをサポートしていてくださっているのかを全学年の子どもたちが知っているべきだと考える。そこで、１学期に、全校児童と地域ボランティアさんとの顔合わせを行った。いろいろなところで、私たちや私たちの学校を支えてくださっていることを知り、感謝の気持ちを持つ機会としている。

■　事業の成果

地域のたくさんの方からの声かけがあったり、何度か来ていただく内に親しみを感じるようになったりして、子どもたちは、安心して話しかけたり活動したりすることができた。子どもたちは心を落ち着かせて学校生活を送ることができた。また、新しいことに挑戦できる場もでき、生き生きと活動する姿も見られた。支援していただく内容も様々、年齢層も様々。こうした幅の広い支援者の方がいてくださることもよかった。

このように人とのふれあいを通して、人にやさしくする気持ちが育ち、それが、いじめをしない集団づくりにもつながっていっている。きれいな花が咲き誇る学校、地域の方に見守られている学校。このような環境の整った中で育っている子どもたちは、毎日、心穏やかに生活できている。

■　事業実施上の課題

たくさんの方にお世話になっているにもかかわらず、子どもたちにとっては一部の方や短い交流で終わってしまっている。もう少し、じっくりふれ合う機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝える場も持ちたいと願う。そして、ボランティアの方にとって、「義務感」ではなく、「やりがい」や「楽しみ」になるように心がけていきたい。

■ ふるさとに誇りをもつ心豊かな「いなむらっ子」の育成をめざして（稲枝北小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 稲枝中学校区支援地域本部・稲枝北小学校（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３１人
開 始 年 度	平成２０年度

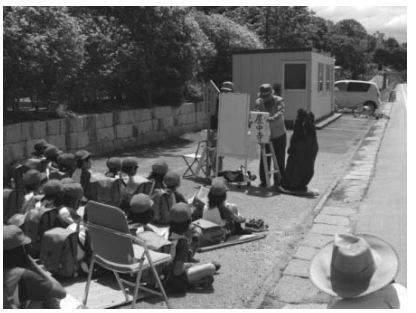
■ 活動の概要

稲枝中学校区学校支援地域本部が発足して７年目となった。地域コーディネーターが小学校との連携を大切にしながら、様々な活動を展開してくださるおかげで、いろいろな教育活動において地域の皆さんの力をお借りすることができ、子どもたちの活動がより質の高いものとなっている。学習、環境整備、行事など様々な場で、学校と連携しながら適切なサポートをしてくださっている。

①おはなしタイム（隔週木曜 朝8:15～8:30　各教室で読み聞かせ）
- ・おはなしボランティア８名。絵本等の読み聞かせや紙芝居など。
- ・地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を育む意義ある活動である。
- ・学期末には、お話ボランティアの交流会を開催している。

②環境整備活動
- ・ひょうたん栽培を始め、米作りや農園づくり、花壇づくりなどの支援。
- ・まちづくり協議会の方々による校内の環境整備・・・池の掃除、運動場や砂場の整備、植え込みの刈り込みなど。

③各教科学習活動（ゲストティーチャー）
- ・（３年）米作り・縄ない体験、（４年）曽根沼干拓について学ぶ
  （５年）琵琶湖の昔と今、地域のよさを見つけよう
- ・（６年）戦争中のお話を聞こう・ミシン学習補助・書き初め指導・栽培環境委員会への苗作り指導（高学年）など、各学年、学年部での学習活動において、なくてはならない存在となっている。



④登下校見守り（スクールガードボランティア）
- ・下学年、上学年の下校時に共に歩いてくださる。顔見知りとなり、子どもといろいろ話してくださる。子ども同士のトラブルなど、気になる様子を学校に伝えていただくことで、早めの対応につながっている。

■ 特徴的な活動内容

「稲村かるたオリエンテーリング」（平成 26 年５月 21 日実施）

今年度で 25 年目になる、本校恒例の行事。地域の自然環境や、文化財を巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心を育むことをねらいとしている。縦割り班グループでオリエンテーリングを行うことで、異学年の子ども間の協力と信頼の気持ちを育てることができる、意義深い活動である。今年度は下岡部･上石寺・下石寺方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を巡った。各班には、支援ボランティアの方が複数名ついてくださり、安全も確保できた。各ポイントでは、地域の学習支援ボランティアの方による説明を熱心に聞き、到着した下石寺運動場では、清掃活動やコスモスの種まき、集団ゲームなどを縦割り班で行い、異学年の仲間で楽しく活動した。上学年がリーダーとしての力を発揮するよい機会となった。

■ 実施に当たっての工夫
- ・夏休みに次年度のポイントを教職員が巡り、事前研修をする。
- ・地域の方に説明をしていただく。次年度のオリエンテーリングに向けてのお願いもしておく。
- ・ポイントの担当教師が事前に打ち合わせし、お話の内容やクイズの問題を確認しておく。

■ 事業の成果
- ・地域の宝、よさを実感でき、自分のふるさとに誇りをもつことができた。
- ・地域の大人の皆さんと交流することで、つながりが生まれ、他の場で出会ったときに挨拶ができるようになった。
- ・下校時のパトロールや、お話タイム、オリエンテーリングなど、子どもたちと密接に関わる中で、気になる言動や、一人で登校する児童の存在など、家庭環境、人間関係の変化などに気づき、学校へ情報をいただくことで、早めの対応につながった。

■ 事業実施上の課題
- ・本校職員の数が少ないため、オリエンテーリングなどの行事は、学習支援ボランティアなど多くの方との連携が必要であり、事前準備を周到に行う必要がある。時間を確保し、今後も継続して実施していきたい。
- ・年２回、本校では学校支援部会を開催している。学校がどんな支援を必要としているか、また支援部会がどんな支援ができるのかを交流する場である。学校内の行事や各学年の授業のどの場面でどんな支援が必要かをコーディネートしていただく方に早めに知らせ、広く支援していただけるように計画したい。
- ・地域支援ボランティアの方々が高齢化しているため、活動内容をまとめておき、次の方へ徐々に引き継いでいただく必要がある。

■　近江八幡市における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

■　めざす姿

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざす。そのために次の３点を柱に事業を展開する。

①地域の教育力の活性化

②教員が子どもと向き合う時間の拡充

③いじめを「しない・させない・許さない」ための仕組み作り

■　本年度の活動

５月　２日（金）事務局会議／コーディネーター委嘱式／コーディネーター意見交流会

５月 30 日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座

８月　４日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡
（ネットいじめの防止対策について等）

９月　１日（月）コーディネーターヒアリング
（現状および課題についての情報収集）

【コーディネーター研修会の様子】

９月 25 日（木）コーディネーター会議

11 月　７日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座（児童･生徒の状況把握）

12 月 11 日（木）コーディネーター研修会（コミュニケーション力について）／情報交換会

■　本年度の成果

実施校において「いじめ対応」に特化した「研修会」を開催することにより、教職員の意識向上を図り保護者や地域との連携の大切さや対応の仕方について学ぶことができた。

特に、児童・生徒の様子をきめ細かく観察すること（表情や言動への注意）を意識することにより、クラスや学校内の出来事だけを見るのではなく、学校外におけるやりとりをも見逃さないように努めることが重要であり、地域との連携の必要性を再確認することとなった。

また、いじめの「早期発見」、「早期対応」、「未然防止」といった学校･保護者･地域としての姿勢の確立に向けた取組がなされ、生徒の「いじめ実態アンケート調査」の結果からも徐々に改善されている様子をうかがうことができた。

■　今後の課題

「いじめ対応研修会」等を実施することにより、教職員と保護者や地域との連携の重要性が再確認されているが、まだまだ、市内全域への広がりに乏しい面も見受けられる。そのため、実施校をモデルとした情報発信を市として工夫を加えていく必要がある。

また、成果として、生徒アンケートの結果から改善は見られたとの意見はあるものの、あくまで減少傾向であり、根絶していない現状を踏まえ「いじめ対応」に関わって、さらに継続した取組を進めていきたい。

【情報交換会の様子】

■ 地域との連携を深め、子どもたちの居場所のある学校をめざして

■ 近江八幡市	コーディネーター数	１ 人
■ 活動名 桐原小学校支援地域本部（いじめ対応型）	ボランティア登録数	１２５ 人
■ 関係する学校 桐原小学校	開 始 年 度	平成２４年度

■ 活動の概要

いじめ対応・いじめ対策として、
①昼休み・掃除時間・登下校時を中心とし「見守り活動」
②ボランティアルーム・図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間つくり活動」　の両面からの取組を展開する。

■ 実施に当たっての工夫

①「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどうするのか」などをボードに示すことで計画的に進められるよう配慮した。
②ボランティア用にボランティアルームを設けるとともに、職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に打ち合わせが持てるように配慮した。
③地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンターだよりに学校地域支援の様子の紹介や支援募集を行った。
④学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

■ 事業の成果

①昼休み・掃除時間の見守り活動
　毎日昼休み、いじめ対策、居場所作りとして地域ボランティアの皆様に、学校内や校庭を見守っていただいている。また、掃除の時間、一緒に掃除をしていただいたり、声かけをしていただいている。
②登下校時の見守り活動
　子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様に、毎日活動を展開していただいている。
③学習中の見守り・支援活動
　６年生の野洲・奈良への歴史学習、４年生の日野川フィールドワーク、３年生のまち探検、２年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。

【２年 駅探検の見守り支援】

④ボランティアルーム、図書室、多目的ホールを活用した「子どもの居場所づくり」や「居心地のよい空間づくり」活動
　地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの遊び相手としてボランティアルームを活用し、子どもたちにとって居心地のよい空間をづくりに努めていただいている。
　また、図書ボランティアの皆さんが、一人でも多くの本好きの子どもを育てるために､図書室の環境を整えたり､図書の修理や廃棄手続きの支援をしていただいた。
　多目的ホールでは、毎月１~２回昼休みに、地域の方に自作の木工パズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。さらに、毎学期昼休みに、近江クロマティックハーモニカ・クラブの皆様によるすてきな演奏会を開催し、歌と演奏が多目的ホールに響き、心地よい時間をプレゼントしていただいた。

【ワクワク木工パズル＆ゲーム】

⑤家庭科やクラブ活動など様々な学習に関わった支援活動
　５年生では、家庭科のミシンを使う「エプロンづくり」にミシンボランティアとして支援していただいたり、歴史クラブでは、地域の歴史に詳しい方に何度もお越しいただいて地域学習を深めるお手伝いをしていただいた。他にも　子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

■ 事業実施上の成果と課題

　昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルや毎日の遊びの様子など気軽に伝えていただくことにより、いじめなどの早期発見・早期対応が可能となった。
　今後も、見守り活動をしていただく方々の輪を広げるとともに、地域の方々との心の交流・ふれあいができる居場所づくりと地域と学校が連携をさらに進めるために、今後も連絡調整を図っていくことが大切である。

■　学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動

■　近江八幡市	
■　活動名 安土小学校支援地域本部（いじめ対応型）	
■　関係する学校 安土小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１３５　人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図りつつ、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。また、地域ボランティアの協力を得ながら、いじめの早期発見、早期対応、抑止力の醸成に取り組んでいる。

■　特徴的な活動内容

・３年「物づくり体験」…信長ねぎ収穫、ちまき作り、せんべい作りの各体験の地域学習を行った。
・４年「西の湖学習」…　地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りを行い、環境について学習した。
・５年「米作り体験」…　田植え、除草、稲刈り、調理という米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
・６年「茶道体験」…　地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。
・全校「見守り、あいさつ運動」…　日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしてもらった。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに６年や児童会の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動が行われた。
・教職員「いじめ対応研修会」…　いじめ問題に焦点をあて、市の教育委員会から指導主事を招いて事例やその対策のあり方について指導していただいた。

■　実施に当たっての工夫

・教職員が地域コーディネーターと日常的に関わり、気軽に話せる関係を作っている。そうして、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディネーターから、多くの有益な情報を得ている。
・あいさつ運動には、大人だけでなく、６年や児童会といった子どもたちが参加して活動を盛り上げている。
・教職員対象に、「いじめ問題対応」の研修会を行った。学校だけでなく、保護者や地域を巻き込んだ事例やその対応策について、講師からお話を聞き、教職員の指導力向上に努めた。

【地域の大人や児童によるあいさつ運動】

■　事業の成果

・教職員と地域コーディネーターの連携が一層スムーズになることで、教職員の望む適材の地域講師を招いたり、地域での学習を効果的に進めたりすることができた。
・あいさつ運動に児童も参加することで、受け身でなく「自分たちもしている」という能動的な意識を持てた。また、地域の人たちが登下校時に見守りや声かけ活動を続けることによって、子どもと顔見知りになり親しくなって子どもの様子を見ておかしいと思ったら、学校に連絡をしてくださり、学校の指導に大いに役立った。
・教職員対象の「いじめ対応研修会」を昨年に引き続いて行った。学校での対応、保護者や地域を交えた対応等、様々な事例をもとに研修を深め、教職員の意識向上とともに、いじめを防ぐ力、早期に見つける力、適切に対応できる力等、資質向上に役立った。

【教職員対象「いじめ対応研修会」】

■　事業実施上の課題

・ボランティアが一堂に介する機会がなかなか持てず、ボランティア同士の意見交流をすることができていない。
・学校が知らない幅広い人材が地域に多数おられると思うが、それを学校で十分に把握しきれていない。様々な広報の手段を駆使して地域に発信し、情報収集に努める必要がある。
・いじめ対応研修会により、今年度学校の役員をしているＰＴＡ役員や地域の役員とは連携しながら取組ができているものの、広くＰＴＡ全体や地域住民を巻き込んだ取組はまだ十分でなく、さらに力をいれていく必要がある。

■　その他

・参考ＵＲＬ（安土小学校）http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~adusyo/

■ 地域とのふれあいのなかで、人とのつながり方を学ぶ

■ 近江八幡市	
■ 活動名 八幡中学校支援地域本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 近江八幡市立八幡中学校	

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	９０人
開　始　年　度	平成２５年度

■ 活動の概要

本校が考えるこの事業の趣旨は、『(1)地域ぐるみで生徒の育ちを支える。(2) 豊かな人間性を育み、郷土に愛着と誇りをもつ生徒を育てる。(3) 学校が抱える課題への支援を通して質の高い公教育をめざす。』ことである。

この事業を進めるにあたり、まずは教職員の意識の共有化を図ることが大切と考え、次のように設定した。

教職員の意識の変革・・・我々は、地域で生まれ、育ち、次代を担う生徒を預かっている。地域のことを学び、また地域に貢献する教育活動を行うことは、公教育としての学校の使命である。学校において、**地域の人材を有効に活用し、地域の方々とのふれあいの中で、生徒の人間関係形成能力を向上させる取組を推進することは、いじめや不登校などの学校が抱える課題にも有効である。**
めざす地域連携の形　　**学校を支援する地域⇔地域に貢献する学校**

■ 特徴的な活動内容

【授業支援ボランティア】

１年被服実習支援（12 月～２月）　２年調理実習支援（６月～７月）

全学年水泳実習支援（６月～７月）　全学年書道（毛筆）実習支援（10 月）

全学年剣道実習支援（11 月～12 月）

【総合学習支援ボランティア】

１年西の湖（８月）八幡（10 月）フィールドワーク支援　２年職場体験学習交通安全指導支援（11 月）　３年牧水泳場清掃活動交通安全指導支援（８月）

【学習支援ボランティア】

全学年夏・冬休みの補充教室・質問教室学習支援（７月～８月・12 月～１月）

■ 実施に当たっての工夫

○人間関係を築くのが苦手な生徒が多いなかで、地域の方に授業の中で支援してもらうのがベストと考え事業を計画した。

○地域担当の職員を各学年１名配置し、時間割上に会議ができる時間を設定する。また、ボランティアさんが集える地域連携室を設置するとともに、職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流がもてるよう配慮した。

○地域全体に浸透するように、学校だより（全世帯回覧・全保護者配布）に、学校支援地域本部の事業紹介やボランティア募集を定期的に行った。また、各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募った。

○この取組を進めていく中で、ボランティアと、授業者（教員）との共通理解が大切であることがわかり、事業を開始する前に必ず事前の打ち合わせ会をするようにした。これにより、その後スムーズに活動できている。

■ 事業の成果

○学校で行っている学校生活アンケートのいじめを問う設問で、**『いじめをしたことがある』（１学期末：H24（28%）H25（24%）H26（20%）、『いじめを受けたことがある』（１学期末：H24（22%）H25（17%）H26（13%）と徐々に『いじめと思う』実態が少なくなってきている。**

○授業を受け持つ教師一人では目が届きにくい場面が多々ある。**見られている意識が強くなり実習に集中する生徒が増えてきた。**また、地域の方が気になる生徒に、先入観なく気さくに声をかけてくださるので、**生徒も素直に応対し心の安定につながっている。**

○授業の中でなかなか話さない（話す機会がない）生徒も、何気ない会話で話をする機会が増え、**集団に中にいるという所属感を感じるようになり、生徒同士の会話も増えるようになっている。**

■ 事業実施上の課題

○地域コーディネーターとの連携は密に行えたが、**実際にボランティアしてくださる方と授業者（教員）の連携がうまくいかず、ボランティアの方がどこまで生徒と接していいのか困っておられた場面があった。**また、他の行事等で時間割が変更になることがあり、ボランティアの方に迷惑をかける場面があった。今後に生かしたい。

○授業のなかで地域の方とふれあいを通じて支援をしてもらうのが良いと考え取り組んできた。今後、放課後など有効活用し、学習や同好会のような形で、**個々に地域の方とふれあえる時間を設定し心の安定を図る事業を展開していきたいと考えている。**

■ その他

○**学校として積極的に地域貢献を実施している。**部活（八中太鼓の会をはじめとして）や生徒個々で各学区のイベント（小学校運動場芝生化ボランティア・託児や障害者施設へのボランティア・共同募金呼びかけ等）に参加している。また、職員も一人年５回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど**『地域に貢献する学校づくり』をめざしている。**

■ 湖南市における学校支援地域本部の取組（いじめ対応型）

■めざす姿

本市においては、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南市ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。地域と学校が一体となって子どもたちを支えていく新たな学校の形は、地域の中での人と人とのつながりと地域や学校への愛着心に裏付けされ、子どもたちが安心して生活し活動できる居場所づくりを実現するものである。子どもたちを温かく見守る地域の人々の存在、できたことや努力を認めてもらった経験は、子どもたちの内面に働きかけ、将来に大きな力となる。

■本年度の活動

（１）学校支援地域本部事業運営委員会　　６月６日（金）

・講話「学校支援地域本部の財政的自立を構想する」
　講師　文部科学省　ＣＳマイスター　高木　和久氏

・中学校区別分散会

（２）学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会　　１月 27 日（火）

・実践発表（石部中校区小中連携の取組）

・講演「第三中学校ピア・サポートの取組」
　講師　三原市立第三中学校教頭　原　克幸氏

（３）市内地域コーディネーター等研修交流会

【全市】　４月 24 日（木）　　10 月６日（月）　【中学校区別】　　各学期１回開催

・小中連携、小小連携の取組、学校と地域が連携していじめをなくす取組の情報交換

■本年度の成果

・<u>活動の意義が浸透</u>

広報紙を発行して地域の方に学校の様子や本事業の取組の様子を知ってもらうように努め、特に毎年継続している活動は、子どもたちや保護者に活動の意義が浸透してきた。その結果、取組み方に工夫が加わり、それぞれの立場で主体的に取組む姿が見られた。上学年と下学年、異校種間で交流する姿には、“よい伝統”が育まれつつある。

・<u>子どもに安心感とやる気と自信</u>

子どもが地域の人を知る機会が格段に増えた。声をかけ、励ましてくれる地域の人々は子どもたちにやる気と自信を与える。顔見知りのボランティアさんが関わってくださることで、子どもに安心感と自信を与えたという事例が数多く報告された。

・<u>いじめを未然に防ぐ</u>

子どもの課題を意識しながら、多様な場で多くの地域の方に子どもの様子を見ていただいている。学校は、ボランティアさんから子どもの様子を聞くことでいじめや子どもの抱える問題に気づき、対応することができている。いじめを未然に防ぐことができたケースもあった。

■今後の課題

・地域コーディネーターが軸となり、地域、家庭、学校の三者の大人が連携し子どもたちを包み込んで守り育てる環境を整えていく。

・学校で教師が正しい理解をさせる指導を行い、地域の大人が実際の活動で関わる中でも『大人はみんな同じことを言う』ことで、子どもに正しい社会規範を学ばせる機会とする。

■ 子どもの課題を共有して子どもの支援にあたる岩根小学校支援地域本部の取組

■ 湖南市	
■ 活動名 岩根小学校支援地域本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 湖南市立岩根小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２３８　人
開　始　年　度	平成２０年度

■ 活動の概要

本校は、平成19年４月「学校運営協議会理事会」を設置。今日の学校教育の現状と課題について「制度的」「物的」「人的」「教育内容的」の４側面から見直しを実施。平成20年度に「学校支援地域本部事業」を受託し、教育課題の解決に向け、学校では、地域の教育力を生かし、子どもの今日的課題の解決と豊かな学びをめざしている。地域では、自治の豊かさ（ローカル・コミュニティ）および、自己の生活や価値の高揚・受容をめざす豊かな集団（テーマ・コミュニティ）の縦軸・横軸の相互のコミュニティの育成を求めている。

■ 特徴的な活動内容

地域コーディネーターと**「ボランティア推進委員会」**の委員長、各ボランティアのリーダーが軸となって各学校支援ボランティアを統括。クラブ活動、学校行事や総合的な学習の時間、食に関する指導、読み聞かせ、図書館支援、土曜教室、放課後教室、１年生へ清掃支援等で、学校運営協議会理事会から年度末にいただいた三つの提言の中の一つである**「いじめの早期発見、早期対応の体制づくり」**を継続して取り組んでいる。より多くの目で子どもとかかわりながら、子どもを見守り、支援していただく中で、子どもの心のつぶやきやわずかな変化を見逃さず、地域コーディネーターや学校職員に連絡、連携いただく体制をとってきた。

■ 実施に当たっての工夫

地域と家庭と学校とが、子どもの課題を共有して子どもの支援にあたっていること

◇豊かさの中で子どもたちが失った大切なものを取り戻す。

・自分で考えて行動できる子、自分のことは自分でできる子に育てる。
・失敗を恐れず、失敗から学ぼうとする子、自他の違いを認め合える子に育てる。
・子どもを「お客さん」にせず、地域の担い手になるよう育てる。

地域でも子どもが主体的に参加し、学ぶ場をつくっていただいていること

・子どもにとって**「学校も地域の一部、地域も子どもたちの大切な学びの場」**という理念のもと、子どもたちが地域に出て学ぶ場を大事にしている。この中で、「岩根まちづくり協議会」や「岩根地域にホタルを飛ばそう会」の皆さんの力添えをいただき、子どもが主体となって運営する「ホタルまつり」のお店活動の場や、クラブ活動等での学習の成果を地域で開催される「岩根まちづくりフェア」において児童がステージで発表する場をもっていただいている。友だちと協力して取り組んだり、発表したりする機会を通じて子どもの自尊感情を高め、集団での存在感や最後まで成し遂げた達成感や成就感を感得させている。

■ 事業の成果

・子どもの課題を意識しながら、多様な場で多くの地域の方がかかわっていただく中で子どもの様子をみていただいている。教室や廊下では見えなかった、いじめにつながるおそれのある事例を見つけ、いじめを未然に防ぐことができたケースがあった。

■ 事業実施上の課題

・いじめのない社会の実現に向けて、子どもたちを取り巻く地域、家庭、学校の三者の大人が連携し合い、子どもたちを包み込んで守り育てる環境を整えていくこと。さらに、地域コーディネーターが軸となり地域の大人、保護者、教職員とが共に創り上げることができるよう、今後もいっそう連絡と調整を図っていく必要がある。

■ その他

・日頃、子どもとのかかわりで、気になる言動があった時に、支援ボランティア等として、どのようにかかわっていけばよいのかについて、講師を招いて学習をしたり、事例を通して「ワールドカフェ方式」で意見交流を深めたりする研修の機会を設定している。

■　地域と共に子どもたちの「心」を育て、いじめを防止しよう

■　湖南市
■　活動名 石部小学校支援地域本部（いじめ対応型） ＜石部小学校学校応援団＞
■　関係する学校 石部小学校

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１７０　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

昨年度より本校では、いじめの防止、早期発見ができるよう、子どもの「環境」作りの活動を行ってきた。子どもたちが地域のボランティアさんと同じ活動をすることにより、地域の人に目を向けるようになった。そうしていくうちに、次第に「心」の交流がはかられ、ふれあいを深めていった。学習支援だけではなく、地域の中で人と人のつながりを感じられるような活動が大事だと考え取り組んだ。

■　特徴的な活動内容

○「伝統文化」を通してのつながり　　―　茶道・箏・民謡体験　―

「伝統文化」はその技術や知識を持つ人が、表現・伝承していかなければ受け継がれていかない。しかし、時代の変化とともに、家庭や地域社会において子どもたちが理解したり、経験したりする機会が減っている。地域の方との文化交流を通し子どもたちが伝統文化のよさや豊かさを理解していくことを目的とする。抹茶を点て、箏の音を聴き、民謡に親しみ、情操教育の一環とした。

【一人ずつ箏を体験します】

○「人間の心の中」について考える　　―「雨降り小僧」 演劇鑑賞　―

ＰＴＡ親子人権研修会。人を信じながら何十年も待ち続けた妖怪の話から、友達を得て、人としての強さを持つことができたこと、本当の友達の意味、約束を守ることの大切さ、子どもたちが温かい気持ちになり、忘れてはいけない「心」というものを親子で考える機会とした。

【六年生が朗読劇に参加】

○親子で「心」を温めあう　　－「すきすき週間」－

スキンシップは、思いやりの心、優しい気持ちが育ち、子どもの成長にとってとても大切なものであると考えている。親子でいつもより少し意識して１週間スキンシップを含めたコミュニケーションをはかってもらう取組を行った。

■　実施に当たっての工夫

・１回きりの活動にならないよう、継続的な活動を続けていただいている。
・昼休みの時間を利用して学校応援団室で活動を行っている。活動が行われていないときもピアノを弾いたり、折り紙をしたりボランティアさんとふれあうことができるように、応援団室を開放している。

■　事業の成果

・「伝統文化」を継承したい、広めたいというボランティアさんの思いから始めた活動もあり、やりがいを感じ、子どもとの交流を楽しみにしてくださっている。
・「雨降り小僧」を観て子どもの感想では、「友達をたくさん作って、大切にしていこう。」「約束をきちんと守ろう。」「友達に対する言葉や態度に気をつけて、生活していこう。」と、友達に対する気持ちがたくさん書かれていた。保護者からは、「相手の立場になって考えること。心も身体も強くなって、逆境に立ち向かえるように成長してほしいです。」「これからの友達との関わりの中で、この劇を見たときの優しい気持ちを思い出し、お互いを思いやってくれたらうれしいです。」などの感想をいただいた。家に帰ってから子どもと劇の内容を振り返った方もいて、親子で人権を考えるよい機会となった。
・「すきすき週間」は、３年目の活動となる。スキンシップの取り方は各家庭で工夫してもらい、親子が笑顔になれる習慣になった。この時期がきたなあと思って家族で取り組んでくださる保護者もいて、活動が習慣になりつつあることをうれしく感じる。

■　事業実施上の課題

・現在のボランティア活動が今後も継続されていくように、教師側とボランティア側の役割分担や目的を明確にしていく必要がある。
・「いじめはよくない」と答える児童が多い中、「なぜいじめはいけないのか」「いじめとは何か」の問いに何人が答えられるかは疑問である。「人を受け入れる」、「人に受け入れてもらう」という信頼感を得られるような体験が重要だと考える。

■ 子どもも地域ボランティアも成長する 「みなみっこ応援団」

■ 湖南市
■ 活動名 石部南小学校支援地域本部（いじめ対応型） <みなみっこ応援団>
■ 関係する学校 石部南小学校

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	１３７人
開 始 年 度	平成２０年度

■ 活動の概要

・湖南市立石部南小学校は児童数 296 名。近隣には福祉施設が多くあり、様々な交流が行われている。
・学習支援や学校ボランティア活動に、地域住民が参加することにより、子どもと顔見知りになり、子どもの実態をつかんでもらえるので、地域でも細やかな目配りができるようになる。

■ 特徴的な活動内容

・体育大会で使用するハッピ作りを、地域ボランティアや保護者が一緒に行うことにより、多世代、地域同士の交流が行われる。
・学校と地域が一緒に合同研修会を行い、学校の現状を知ってもらう。
・６年生の書写の時間を使い、いじめ防止標語を書いたカレンダーを作成した。

■ 実施に当たっての工夫

・10 月に行われる体育大会に向けてのハッピ作りを、７月から始めて、子どもと関わる時間をたくさんとった。
・ボランティア研修会に多くの地域の方に参加して頂くために、案内の文書を子どもを通じて、早めに配布した。
・いじめ防止の標語カレンダー作成の打ち合わせを、担任の先生と何回も行った。用紙の準備や、ラミネート作業はコーディネーターが行った。
・毎月１回発行している、みなみっこ応援団だよりに、地域ボランティアさんと一緒に取り組んだことなどを記事にして、石部南学区へ配布している。

■ 事業の成果

・地域ボランティアさんと子どもが一緒に作業することで、子どもの顔や様子を知ってもらえた。
・家庭科の苦手な子どもたちに、顔見知りのボランティアさんが関わる事で、子どもは自信をつけられた。
・ボランティア研修会を先生方と地域住民が合同で行う事により、交流を深めることができた。
・子どもたちが作った、いじめの防止啓発カレンダーを、地域に配布することにより、子どもたち自身も地域のために活動していることを認識できた。
・毎月発行している、みなみっこ応援団だよりにボランティアさんの活動内容を掲載することで、地域の方に学校の様子や本事業の取り組みの様子を知ってもらうことができた。
・地域ボランティアさんは、子どもの顔見知りが増えたことで、スクールガードとして子どもの様子をより注意深く見守ってくださるようになった。

■ 事業実施上の課題

・地域ボランティアさんに個人情報(守秘義務など)についての研修を行う必要がある。
・ゲストティーチャーや家庭科等のボランティアさん等は、一定の人に偏ってしまう。

■ その他

今年度の新しい取り組みとして、石部南小学校と石部南学区まちづくり協議会との合同宿泊防災訓練を行った。防災訓練は１部、２部、と分けて行われ、

１部は、避難訓練、防災講演会、避難所体験、
２部は 炊き出し訓練、防災研修、宿泊体験

を行った。学校の避難訓練に地域の方が参加するのは初めてのこと。この日までに、学校長、防災担当の教諭、地域コーディネーターがまちづくり協議会との合同防災会議に参加した。

石部南学区は福祉施設が多くあるので、障がいのある方も地域の方も一緒に体育館へ避難してこられた。

防災授業は、３年生から６年生までは、保護者、地域住民と一緒に、滋賀大学教授・藤岡達也先生の防災に関する講演を聞いた。

１・２年生は、講演内容が難しいのではないかと、先生より声があがったので、福島で被災されて、石部に住んでおられる方にゲストティーチャーとして来て頂き子どもたちにお話いただいた。

防災〇×クイズを取り入れることで、低学年にわかりやすい学習ができた。防災カルタを使って遊ぶことにより、さらに防災意識が高まった。

合同防災訓練は授業参観も兼ねていたので、子どもと保護者、地域住民が一体となって防災教育を受けることができた。

■　菩提寺北小学校創立 20 周年記念式典＆あすなろカーニバル　≪学校と地域の力を集結≫

■　湖南市	
■　活動名 菩提寺北小学校支援地域本部（いじめ対応型） <あすなろ応援団活動>	
■　関係する学校 菩提寺北小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	８０人程度
開　始　年　度	平成２１年度

■　活動の概要

本年は 11 月に創立 20 周年の記念式典を開催するにあたり、毎年１月に開催していた、あすなろ応援団活動主催の「あすなろウィンターカーニバル」を前倒しして、「あすなろカーニバル」として同日に開催した。

そして、地域と学校と PTA とあすなろ応援団活動が一丸となり、全校生徒参加の活動となった。

■　特徴的な活動内容

「あすなろカーニバル」は餅つき、模擬店、バザー、クラフト制作、昔あそび、などが催され、全校生徒を縦割り班にして、班長の指揮のもと、班行動を行った。また、５、６年生は模擬店、バザーの運営を大人のボランティアと共に行った。

■　実施に当たっての工夫

全児童がすべてのブースを確実に回れるようにタイムスケジュールを縦割りによって組んだ。高学年が低学年を、責任をもって行動させること、また、模擬店などの運営に携わりながら、自分は必要とされているのだという自尊感情を高め、それは友達に対しても、尊重する気持ちがさらに深く芽生え、いじめをする素要をつくらない環境を作っていくのによい機会とした。

■　事業の成果

20 周年のお祝ムードが漂う会場で、まさに老若男女が集うものとなった。全校児童、保護者、卒業生、地域のボランティア、民生児童委員、日赤奉仕団、PTA 役員、PTA ボランティア、あすなろ応援団活動実行委員、教職員など、総勢 500 人参加の規模となり、創立から 20 年を経て、着実に地域の学校としての位置づけが出来上がった。子どもたちも地域、学校とたくさんの大人に守られている、自分は必要とされているということを身をもって感じられたと思う。また卒業生の大学生が先頭きって、後輩のために餅つきをしている姿は微笑ましく、大変頼もしく思えた。

■　事業実施上の課題

今年は、20 周年事業ということで、運営費も毎年よりは大幅に計上され、大変盛況に開催されたが、来年度からの体制を今一度考え、子どもたちがさらに自主性をもって運営できるようにしたい。21 年目の４月からはコミュニティスクールとして、また新しい歴史が始まるので、地域と学校との協働でより良い菩提寺北小学校にしていきたい。

■　その他

・いじめ対策として、もう一つ取り組んでいるのが、昨年に引き続き「読み聞かせ」による活動である。昨年は着ぐるみ劇をしたが、今年は大型絵本で、ペープサートを使い、音楽、効果音をいれ、「やさしい白いぞうのはなし」を上演した。毎回、視聴覚教室が満杯になる。菩提寺北小学校は落ち着いた雰囲気の中で、環境もよく、のんびりとした空気がながれているので、この良さを、さらに伸ばしたい。

・参考ＵＲＬ（菩提寺北小学校）　http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/

■ ふるさと菩提寺の子を育てる会

■ 湖南市
■ 活動名 菩提寺小学校支援地域本部（いじめ対応型） ＜菩っこを育てる会＞
■ 関係する学校 菩提寺小学校

コーディネーター数	２人
ボランティア登録数	２１４人
開　始　年　度	平成２２年度

■ 活動の概要

「菩っこを育てる会」を中心として、昨年度に引き続き子どもたちが活動しやすい過ごしやすい居場所作りを行ってきた。また、「家庭教育支援事業」とも活動を共有し、子どもたちの日常の様子を見守りサポートできるように努めている。

■ 特徴的な活動内容

・図書ボランティアを新たに募集し、低学年の保護者が多く登録してくださった。そのおかげで、図書の整理、図書の修繕、書架周辺のポップ作成、季節のコーナー、話題のコーナーなどの図書室での活動をしながら子どもたちの学校生活や、子ども同士の様子を見守ってもらうことができた。
・年間を通して異学年交流活動を企画・実施している。その際に高学年が低学年のサポートをすることで、毎年『やさしさ』『おもいやり』という気持ちを伝承しつづけている。
・本校の宝『裏山』は、子どもたちの学習・遊びの場であり、友だち作りの場でもある。その裏山の整備を「菩っこを育てる会」を中心に地域・保護者とともに計画実施している。今年度は、立ち枯れしている松を中心に約 200 本を伐採し、多くの地域ボランティアの皆さんの力で運び出すことができた。今後、新たに植樹を進めつつ、学習の森として活用できる展望を持っている。
・「家庭教育支援事業」で行った講演会の際に、いじめについても学習できるように子どもをとりまくさまざまな環境についての理解が深まるよう話題を広げ、子どもの置かれている現状について正しく理解し、やがて進学する中学生や高校生をも意識できる内容を盛り込んで啓発を行った。

■ 実施に当たっての工夫

・学校司書の活動日にボランティア活動を合わせ、新たな役割を担う不安を解消し、ともに活動し、ボランティアさんのアイディアも組み込んでもらい、徐々に慣れて活動が広がるよう工夫した。
・異学年交流活動では、低学年のサポートを高学年がうまくできるよう大人（ボランティア等）が見守り支えている。
・裏山の整備は継続的に行う必要があるため、「菩っこを育てる会」の中に新たにグループを設置する。レイカディアの植栽剪定グループや菩提寺きずなの会の皆様の協力を得る。

【全校遠足に地域ボランティアも参加】

■ 事業の成果

・昨年度、図書室の大改造を行い子どもたちの居場所作りをした。今年度は、明るくきれいになった図書室で、仲良く読書する児童たちの姿を数多く見ることができ、絵本コーナーでは友だちに絵本を読んであげたり、上学年の子どもたちが下学年の子たちと交流する姿を見ることができた。図書ボランティアも図書室での活動を通して親同士の交流ができ、子どもたちの様子をみまもるネットワーク作りにもなった。さらに、十進法分類でレイアウト変更され、カテゴリー見出しが分かりやすくなったことにより調べ学習の図書を探しやすくなるとともに関連図書を探し当てやすくなった。このことで、学校図書館の学習･情報センター機能が大いに発揮されるようになった。
・子どもたちの居場所作り（裏山、校内施設）に、地域の団体が参加してくださったり、保護者の協力があったり、支援事業の活動の輪が広がってきた。活動の輪の広がりは､親しみのある地域の方と子どもたちとのつながりが豊かになり､地域の人々が子どもの教育に携わる契機づくりとなっている。

【図書室で活動中の図書ボランティア】

■ 事業実施上の課題

・学校でいじめに対しての活動をしても、メディアなどからいじめを助長する情報等が流れてくる。そのことを家庭でも把握し、子どもをどのように正しく導くことができるかを学べる機会を増やしたい。学校で教師が正しい理解をさせる指導を行い、地域ボランティアが実際の活動の場でさらに関わりを重ねる中で、「大人はみんな同じことを言う」ことから正しい社会規範を学ぶ一助となっている。

■ その他

以前から住民が、学校の教育活動に参加・協力してくれている地域である。最近では、地元のお父さんたちのグループが、学校に協力を申し出てくださり､力作業や多くの人手が必要なときに声をあげてくれるようになった｡力強いサポーターができ嬉しく思う。

■ 心のふるさとづくり～育ちあう地域と学校～

■ 湖南市	
■ 活動名 水戸小学校支援地域本部（いじめ対応型）	
■ 関係する学校 水戸小学校	

コーディネーター数	２ 人
ボランティア登録数	７０ 人
開 始 年 度	平成２２年度

■ 活動の概要

いじめ対応型として地域ぐるみで学校運営をする体制を整備し、教員と子ども、子どもと地域、地域と学校が育ちあえる関係づくりに努めている。また、50 年前に始まったまだまだ新しい‘水戸’という地域の中で、学校が「心のふるさと」となるよう、それぞれが地域・学校に愛着をもち、力を発揮できるような場づくりに力をいれている。

■ 特徴的な活動内容

①「心」を育む活動を推進するために、夏休み中の 8 月 21 日、職員とボランティアの交流会を行った。「心の根っこを耕そう」をテーマに大人の関わりや発言が子どもの育ちに影響を及ぼす可能性について、自らの経験や考えをワークショップ形式で話し合い学ぶ場とした。

②図書ボランティアによる朝の読み聞かせで 11 月を「いのち」について考える月とし、「いのち・ともだち・こころ」についての本を全学年に紹介した。保護者にはお便りを配布し家庭でも子どもの心に寄り添う活動を啓発している。また、学校司書が勤務していない日にボランティアが図書室に来て、本の整理や子どもたちの居場所となる活動をしている。

③保護者とボランティア、地域を対象に「子育ち親育ち講演会」を 2 月 16 日に開催。地元在住の児童文学者、詩人の野呂　昶氏を講師に招き、昔話から読み取る子育ての方法や人としてのあるべき姿を学ぶ機会とする。

【ゲストティーチャーのお話】

【読み聞かせ】

■ 実施に当たっての工夫

①日頃忙しい教員とボランティアが対等な立場で話し合い、学べる場となるようなテーマを選んでいる。まだまだ敷居が高いと遠慮するボランティアもいるのであたたかい雰囲気の進行を心がけている。

②学年によってとらえ方や理解の仕方も違うので、慎重に本選びをしている。かたよった考えにならないようボランティア同士・教員がミーティングで意見交換をしたり、読み聞かせが子どもたちへのおしつけにならないよう配慮したりしている。

③子どもや保護者の現状を伝え、話していただきたいポイントを打ち合わせで共有している。

■ 事業の成果

いじめ対応型として２年目となり、応援団の絆が深まり教員からボランティアに授業へ参加してもらいたいといった提案が多くなり、地域住民の活躍の場が増え、子どもが地域や地域の人を知る機会となっている。また、ボランティアから子どもの様子を伺うことでいじめや子どもの抱える問題について気づき、対応することができている。地域の方々が「子は地域の宝」と言ってくださることは、学校やコーディネーターにとっても大きな励みになっている。

交流会では、気になることや課題についてお互いに話し合うことで活動の内容を見直したり、同じ方向をめざして子どもに関わったりすることができている。また講演会では、身近な地域の方に講師に来ていただくことで、大人も地域への愛着・自信が持てているように感じる。毎年新しいことではなく、同じことを修正しながら続けていくことで応援団・ボランティアの活動が定着しているように思う。

■ 事業実施上の課題

学校側の意向とボランティアの役割、子どもにつけたい力を共有すること、ボランティアの声を丁寧に聞いていくことが大切だとわかっているが、行事が重なるとなかなかその時間がとれていない。参加したくてもできない保護者もいるので、短時間、あるいはピンポイントでも参加してもらえるような広報・工夫が必要。

■ その他

子どもの日常に寄り添うあたたかいボランティアが本校の特徴。大切にされていると子どもが感じることが、思いやりの心を育んでいる。やりがいを感じ活動をしている大人の姿こそが、子どもの育ちを支えている。今後も気持ちよく活動していただけるよう事業を展開していきたい。

平成２６年度　滋賀県学校支援地域本部一覧（従来型）　８市町４５本部

No	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	城東小学校　佐和山小学校 旭森小学校　東中学校	0	12	5
		西中学校区支援地域本部	城西小学校　城北小学校 西中学校			
		南中学校区支援地域本部	城南小学校　城陽小学校 若葉小学校　亀山小学校 南中学校			
		彦根中学校区支援地域本部	河瀬小学校　高宮小学校 彦根中学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本小学校 鳥居本中学校			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	6	10	3
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		八幡東中学校「人生伝承塾」推進委員会	八幡東中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園			
		老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園			
3	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
4	湖南市	みくもっ子支援委員会	三雲小学校	0	3	3
		東っ子応援団	三雲東小学校			
		スクールサポートなすびいず	下田小学校			
		日枝中学校支援地域本部	日枝中学校			
		石部中学校支援地域本部	石部中学校			
		甲西北中学校支援地域本部	甲西北中学校			
5	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	蒲生東小学校　蒲生西小学校 蒲生北小学校　朝桜中学校	0	13	2
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校			
		箕作小学校支援地域本部	箕作小学校			
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校			
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		船岡中学校区学校支援地域本部	八日市西小学校 船岡中学校			
		愛東地区学校支援地域本部	愛東北小学校			
6	米原市	米原市学校支援地域本部	柏原小学校　山東小学校 大原小学校　伊吹小学校 春照小学校　米原小学校 河南小学校　坂田小学校 息長小学校	0	9	0
7	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王幼稚園　竜王西幼稚園 竜王小学校　竜王西小学校 竜王中学校	2	2	1
8	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀幼稚園　大滝幼稚園 多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園 多賀小学校　大滝小学校 多賀中学校	4	2	1
合　　計				12	51	16
				79		

■ 彦根市における学校支援地域本部の取組（従来型）

持続発展教育（ＥＳＤ）持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみんなで守り育てます。

■めざす姿

〇教員が子どもと向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに、地域住民が自らの経験や知識を活かす場として自己実現や生きがいづくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。市内７中学校区地域教育協議会（従来型/東.西.南.彦根.鳥居本 いじめ対応型/中央.稲枝）で実施する。

■本年度の活動

〇平成 26 年度の取組重点（継続）　地域協議会の活性化　学習支援活動を全ての小中学校で実施

〇実行委員会の開催（年３回）

構成委員：15 名（各中学校長、地域コーディネーター、彦根 PTA 連絡協議会会長）
事務局（生涯学習課長.主幹.学校教育課長.主査）

第１回：８月　４日(月)事業説明・実践交流

第２回：11 月 26 日(水)研修会・実践交流

第３回：３月 実践報告・振り返り

〇学校訪問　　11 月　７中学校訪問　学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

〇平成 26 年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰

12 月８日(月)　文部科学省東館３階講堂(東京都千代田区霞が関３－２－２)

被表彰団体:彦根市学校支援地域本部

〇特徴的な活動内容【従来型】

・小学校での登下校見守り、安全指導
・小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備
・夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援
・放課後の学習支援
・課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助
・中学校の部活動支援
・地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発
・その他学校のニーズによる支援活動

■本年度の成果

〇全小中学校で取組むことで、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。

〇地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

〇地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

【３年総合・わたしの町じまん】

■今後の課題

〇地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

〇事業を支える支援ボランティアの確保

〇人材バンクの整備

■その他

〇彦根市では、ＥＳＤ（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・活かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成 25 年度末の本市社会教育委員の会議の提言の中でも、この学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについても検討していきたい。

■ 子どもたちの笑顔のために～できる人が できる時に できることを～（東中学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 東中学校区支援地域本部・東中学校（従来型）	
■ 関係する学校 東中学校・城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校	

コーディネーター数	２ 人
ボランティア登録数	４８ 人
開 始 年 度	平成２０年度

■ 活動の概要

平成 20 年９月より彦根市で初めての学校支援地域本部事業が、元教員のコーディネーターの指導のもと、本校でスタートした。今年度も２名のコーディネーターにより、６年間の取り組みの成果をさらに生かして活動が進められている。本校では「生徒に寄り添う学習支援」に力を入れるとともに、中学校における特徴的な活動として「学習相談活動」「部活動の指導」「読み聞かせ・図書整備活動」「地域と学校の安心安全推進活動」にも支援の幅を拡げている。

■ 特徴的な活動内容

・「放課後学習における学習サポート」

３年生を対象に基礎学力の定着をめざして、11 月より３月まで、火曜日と木曜日に個に応じた学習指導の補助を行っている。開設教科を国語、数学、英語とし、今年度は 10 数名の生徒が自分の希望の進路実現に向けて励んでいる。学習支援として毎年地域のみなさんに募集をし、毎年来ていただいている地域の方、新たに来ていただいた学生の方を含め、７名の方にそれぞれの経験や専門性を生かした支援をお願いしている。

・「読み聞かせ・図書室整備活動」

「朝読書」の時間に「読み聞かせ」の予定を組み入れ、７～８名のボランティアのみなさんに各クラスで「読み聞かせ」をしていただいている。１学年７、８クラスのため、学年をＡ団、Ｂ団と２つに分けて実施している。図書室の整備活動には地域のボランティアの方々に毎週月曜日に来ていただき、図書室の開館時のサポートもお願いしている。

・「ゲストティーチャーによる授業」

１年生では家庭科の授業で「ゆかた体験」を実施し、10 名の着付けの先生に来ていただき、一人ひとりに浴衣を着る機会を設け、日本の伝統衣服としての着物のもつ意義を学習した。７クラスのため、数日に渡って先生方に来ていただいたが、１年生全員が体験できたことは意義深いことであった。２年生では「職業講座」として、今年度は「元プロ野球選手」による講演を職場体験前の事前学習として実施した。当日は学年だけでなく、参加を希望する他の学年の保護者にも広げることができた。職業を選択する上で希望をかなえるための努力の大切さを学んだ。３年生では「性教育講座」の講師として「産婦人科医師」を招き、「自分の命の大切さ」とともに「他の人の命の大切さ」を学習するとともに、家族に感謝する機会となった。

・「部活動の指導補助」

サッカー部、水泳部、卓球部、書道部、吹奏楽部の活動補助として、放課後や休日の活動時に専門的な指導をしていただいている。運動部においては、技術指導をお願いし、部活動の成績に大きく貢献している。書道部においては地域で書道教室を開いておられる先生にきていただき、有意義な活動となっている。

■ 実施に当たっての工夫

４月当初の職員会議で、地域ボランティア活動を本校教職員が理解し、積極的に取り組めるように、コーディネーターの方から事業内容を説明していただいた。このことにより各教師の要望等をコーディネーターの方と協議、相談しながら取り入れ、教育活動が滑らかに進められるようになった。３年生を対象にした「放課後の学習相談」の教室を少人数教室から理科室に変更した。理科室には大机が数脚設置されており、グループ毎に学習することができるからである。その他、ボランティアの方との連絡については当日の急な開始時刻の変更や実施の有無等について、「メール」を利用することにより混乱を避けることができた。

「放課後学習相談」活動の終了後、ボランティアの方に集まっていただき、学習内容や進度等の情報交換の場を設けることによって、課題や成果を確認する場となった。

■ 事業の成果

「放課後学習相談」では生徒とボランティアのみなさんとが打ち解け、希望の進路実現に向けて応援をしてくださることに生徒はこたえようと日々がんばる姿が見えた。生徒たちにとっては人の温かい思いを感じ、期待にこたえようとすることで自分を伸ばすことができたと思われる。

また、「ゲストティーチャー」を招いての学習では、教師の指導に限界がある専門的内容を教えていただき、生徒のもっている力をさらに伸ばす機会となった。

「部活動支援」についてもボランティアの方の専門性を生かして指導していただきそれぞれのスキルアップを図ることができた。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの登録数が減少傾向にあるのは、中学生対象の活動は敬遠をされることが多いからかと思われる。しかし、実際に活動に参加していただくと「思っていたより素直だ。」という声を聞くので、実態を地域に発信していく必要がある。

■ 伝統を引き継ごう　～マーチングバンド活動の充実に向けて～（城東小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 東中学校区支援地域本部・城東小学校（従来型）	
■ 関係する学校 城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校	

コーディネーター数	３　人
ボランティア登録数	２　人
開　始　年　度	平成２０年度

■ 活動の概要

〇活動のねらい

・マーチングバンドの演奏を通して豊かな情操を養うとともに、５・６年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちを育む。

・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。

・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちを育み、学校への愛着を深める。

〇編成と指導体制

・マーチングバンドは、６年生（後期は５年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の６校時に練習を行っている。

・教職員が分担して指導（前期９名、後期９名）にあたり、年間 30 時間程度活動している。

・外部から、非常勤講師(社会人活用）１名、ボランティア２名の方に演奏指導に来ていただいている。

■ 特徴的な活動内容

・各パートの練習（毎週金曜日６校時）

・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加

・市民運動会、城祭りパレードなどの地域行事への参加

・東中学校吹奏楽部との連携

■ 実施に当たっての工夫

・指導者確保のため、以前からボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集を掲載してもらったところ、２名の方がトロンボーンや打楽器の指導に来ていただけることになり、指導体制が充実した。

・12 月上旬から１月下旬にかけて、６年生から５年生への引き継ぎ期間を設定している。子ども同士の交流を通して、楽器等の演奏技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切にしていこうとする心も引き継いでいる。

・毎年５月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の生徒に本校に来てもらい、全校児童が生演奏を聴く機会をもっている。音楽鑑賞会の後には、東中学校吹奏楽部員に、マーチングバンドの演奏指導をしてもらっている。

■ 事業の成果

・本校を卒業した先輩の演奏を聴いたり、直接指導してもらったりすることで、音楽活動への意欲や中学校の部活動への期待感につなげることができた。

・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。

■ 事業実施上の課題

・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■ その他

マーチング活動を終えた子どもの感想

私は指揮者です。最初は、笛を吹くところや指揮者３人で合わすところなど、あまりうまくできなかったけれど、前の６年生に教えてもらったとおり練習を重ねるうちに完璧になってきました。指揮者はみんなをまとめる役で大変だけど、がんばって練習してきてよかったなあと思います。

「心を一つにする」ということを学びました。みんなで一生懸命、楽器に心を込めて演奏すると、終わった後とてもすがすがしい気持ちになりました。だから、これからも何かを大勢でするときには、このマーチングの演奏のように一生懸命みんなと心を合わせてやっていきたいです。

■ 地域に開き、地域に応える学校の創造（佐和山小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 東中学校区支援地域本部・佐和山小学校（従来型）	
■ 関係する学校 佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校	

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	１２１　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

〇保護者・地域ボランティアの協力

本校では、様々な教育活動を実施するにあたって、多くのボランティアの方の協力を得ている。ボランティアの内容としては、「生活科や総合的な学習の時間等の地域学習の安全見守り」「夏季休業中における算数学力補充教室」「読み聞かせと図書室整備」「さつまいもの苗植え指導」「家庭科のミシン補助、理科の実験準備・後始末」「校外学習の引率」「登下校の見守り活動」等である。支援のお陰で有意義な活動を展開することができている。また、教師の一人ひとりの子どもと向き合う時間の確保ができた。

〇オープンスクールの実施

毎年、11 月に「オープンスクール」を実施している。本年度も 11 月４日（火）、５日（水）、６日（木）の３日間をオープンスクールとし、２校時から５校時までを保護者、地域の方に授業を公開した。多くの方に来校いただき、授業や休み時間における子どもたちの様子をじっくりと参観していただいた。

■　特徴的な活動内容

・５月下旬に「さつまいもの苗植え指導」のため、地域のお年寄りに来校していただき、さつまいもの苗植えの方法を丁寧に、子どもたちに教えてもらった。本校区においては、核家族化が進んでおり、お年寄りと触れ合う機会があまりない子どもも少なくない。子どもたちは、さつまいもの苗植えを通して、笑顔でお年寄りと触れ合うことができ、心が潤うひとときとなった。12 月上旬には、収穫したさつまいもの調理にお年寄りを招いた。出来上がったスイートポテトをお年寄りもおいしそうに試食していただき、心温まる交流ができた。

・本年度、９月下旬に４年生は、ＪＲ線を使っての「琵琶湖一周体験学習」を実施した。保護者ボランティアにも参加してもらい電車の乗り降り・歩行における安全見守りや「藤樹の里あどがわ」における扇子作り体験補助等をしていただいた。より一層の子どもたちの安全確保とスームーズな体験活動が可能となった。

・オープンスクールにおいても不審者の侵入等に備えて、ＰＴＡの役員の方に協力いただき、受付および校内巡視のボランティアを依頼した。来校者受付名簿に名前を記入してもらったり、「来校者」という名札を付けてもらったりしながら、不測の事態に備えている。学校におけるリスクマネジメントの面からもボランティアの協力は欠かせないものであると考える。

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアを募る際に彦根東中学校区・学校支援本部発行の「学校支援ボランティアだより」が役立っている。各学校の必要なボランティア内容を掲載していただいており、それを見た地域の方がボランティアとして学校に協力していただくケースもある。また、本校では、多くの保護者、地域の方にメール登録をしていただいていており、学習支援等のボランティアを募るためのメール発信も行っている。さらには、学年だより等でボランティア募集を呼びかけることもある。

・オープンスクールの際に、来校者にアンケートをしていただいている。右に示したものが、本年度のアンケート集計結果である。アンケートには、自由記述欄も設け、来校して気付かれたことを記入してもらっている。アンケートをもとに、改善点やさらに伸ばしていく点を教職員が共通理解し、保護者、地域の声に応える学校運営に取り組んでいるところである。

	質　問　項　目	肯定的回答
学習面	1・学校は、落ち着いた雰囲気で授業が進められている。	93.3 %
	2・先生は、分かりやすい授業を行っている。	98.6 %
	3・子どもたちは、意欲的に学習をしている。	96.0 %
学校生活	4・学校は、施設・設備の面で掃除整備を十分行っている。	95.1 %
	5・子どもたちの休み時間、給食、掃除等の学習時間以外での様子で、楽しく過ごしている。	98.5 %
	6・子どもたちは、言葉遣い、礼儀、マナーなどの面できちんとしている。	91.0 %
	7・オープンスクールを今後も続けていく方がよい。	100 %
	8・オープンスクールの実施時期は、この時期でよい。	98.6 %

■　事業の成果

ボランティアに来ていただいている多くの方々から、「子どもたちの学校での活動の様子を知ることができて嬉しい。」「もっともっと学校に出向いて協力したい。」等の感想をいただいている。『子どもは、学校と家庭・地域が連携して育てていくこと』を今後も大切にしていきたい。

■　事業実施上の課題

「地域に開き、地域に応える学校の創造」を学校運営方針の一つにしている。今後も、さらに地域に開かれた学校を目指し、多くの情報を発信し、共有していきたいと考えている。

【　～学校教育目標：豊かな心をもち　求めて学ぶ　たくましい佐和山っ子の育成～　】

■　外部団体による生の体験に学ぶ（旭森小学校）

■　彦根市	
■　活動名 東中学校区支援地域本部・旭森小学校（従来型）	
■　関係する学校 旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校	

コーディネーター数	４　人
ボランティア登録数	１０９　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

・日々の学習と関わった事業を年間計画に位置づけ継続すること
・インストラクターによる着衣泳支援
・福祉体験

■　特徴的な活動内容

①毎週火曜日の朝の読書タイムにスマイルボランティアさんの支援をいただいて読み聞かせ活動をしている。また、家庭科の「ミシン」を使う学習の時、地域ボランティアの方にお知らせしてミシンの使い方を支援していただいた。他にも、生活科の「うごく　わたしのおもちゃ」でも、地域のボランティアの方におもちゃづくりの先生として支援をいただいた。

②体育科の水泳指導の内容である着衣水泳の支援に、スイミンググスクールのインストラクターの方に来校していただいた。服を着たままで、水難事故に遭った場合、水の中でどのようなことに注意したらよいか体験を交えて説明をしてもらった。また、水難事故を見かけたとき、どうしたらよいかの説明を受けた。

③総合的な学習のテーマ「旭森の町をやさしく！」の体験学習では、県立盲学校・視覚障害者センター・視覚障害者福祉協会・障害者福祉センター・盲導犬ユーザー・手話サークル「指音」・福祉教育サポーター・彦根市身体障害者更生会などたくさんの方の支援をいただいた。体の不自由な人から日々の生活について話を聞いたり、手話や点字、車椅子等の体験をしたりして、「障害」について考えをもった。自分が関心をもったテーマ（手話、車椅子、点字、盲導犬等）について調べ活動を行った。

■　実施に当たっての工夫

①ペットボトルや輪ゴムなどの身近な材料を生かして、子どもが簡単に作れるおもちゃづくりを、地域ボランティアの方から教えてもらうことができた。
②身近にある物（ペットボトルとタフロープなど）を使った人の命を救う手立てを学べるように工夫した。
③福祉体験では、身をもって体験したことから感じたことを大切にした。

■　事業の成果

・どの事業も外部から来ていただくことで、子どもたちが真剣に話を聞くことができ、その後の体験学習や調べ学習に生かすことができた。
・学校に多くの方に来ていただくことで、子どもたちの様子を直接見ていただき、学校の現状を知っていただく機会にできた。

■　事業実施上の課題

・昨年度までの情報を収集してデータベース化し、年度初めに活用でるようにしていきたい。

■　地域人材を生かした学校支援と地域の生徒理解をめざした活動（西中学校）

■　彦根市
■　活動名 西中学校区支援地域本部・西中学校（従来型）
■　関係する学校 西中学校・城西小学校・城北小学校

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	約５０　人
開　始　年　度	平成２１年度

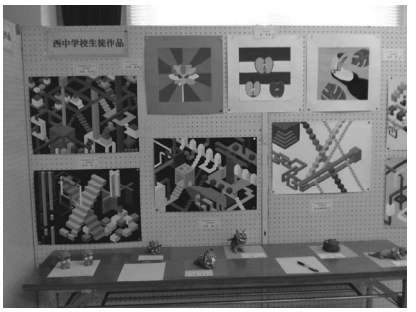
■活動の概要（それぞれの活動を以下のＡ～Ｄで示し、その掲載順に内容を記載した）

Ａ「校地の環境整備」
校地の樹木の多さや運動場の広さにより、地域の参加や技術を生かした環境整備の支援。

Ｂ「地域の文化祭に生徒の作品を展示」
地域の文化祭に生徒の作品を展示し、学校にも地域の作品を提供いただく相互交流の実現。

Ｃ「地域貢献活動の支援」
生徒の自主性を尊重した地域貢献活動を通して、生徒が地域で存在感を実感できるよう、地域の理解を要請。

Ｄ「地域人材の活用と交流」
地域人材の活用および教職員の地域活動の推進。



【地域の文化祭に生徒の作品を展示】

■特徴的な活動内容

Ａ　地域の人手や樹木剪定技術などの人材の結集による環境整備。
Ｂ　地域との作品交流を通して、地域が生徒の作品に興味・関心を寄せ、地域の作品も学校で展示してもらえた。
Ｃ　地域の生徒理解や受け入れ体制ができ、活動が円滑に進められた。
Ｄ　生徒による竹林整備活動と地域人材による門松づくりの交流。

■実施に当たっての工夫、

Ａ　地域ボランティア協議会への協力依頼により人手の確保ができた。以前から「中学校の敷居の高さ」が言われている中で、環境整備は比較的支援していただきやすい活動でもあり、その広がりが期待されている。
Ｂ　作品制作グループと学校や地域コーディネーターとの交流により、学校での展示が実現できた。
Ｃ　地域の生徒受け入れに対する事前打ち合わせなどができ、中学生が自然に地域の方たちと活動できる体制ができつつある。
Ｄ　地域人材が生徒の竹林整備や竹細工を指導することができたし、中学生もそのお礼として竹林整備などに意欲的になった。

■事業の成果

Ａ　毎年地域の参加が定着しつつあり、学校環境整備に地域の力の必要性を自ら感じていただいた。また学校サイドも地域の力のありがたさを強く認識し、地域と学校の距離が縮まった。
Ｂ　学校展示が実現でき、生徒たちが自主的に作品の感想を書いてくれ作品提供者に大変喜ばれた。こうした試みは、ただ単に地域と学校・生徒の交流に留まらず、生徒たちの優しさが提供者に感じてもらえたことは大きな成果だった。
Ｃ　地域貢献を通して、生徒と地域の方々との会話もその場その場で生まれつつあり、中学生にとって地域との壁が取り払われたり、安心できる居場所として、地域も動いてきた感じがしている。
Ｄ　生徒たちが地域の竹林整備や小学生の竹林体験のボランィアに参加して、大人の技術力や地域での学びを実感してくれた。

■事業実施上の課題

Ａ　地域・保護者・学校（生徒）の三者が、ともに環境整備に汗を流すことを通して、地域や学校の環境整備を継承したい。地域と生徒や保護者がともに同じ作業をしながら交流し、作業の仕方や技術を伝承することで、有意義な活動になると思っている。
Ｂ　生徒たちに、地域には様々な技術や特技をもっておられる方々がおられることを作品などを通しても知ってもらい、そうした交流を重ね、地域での存在感を認識してもらいたい。今後は学校と連携しながら、地域人材が授業などにも関わってもらえる機会をつくっていき、生徒たちの授業への意欲付けとしたい。
Ｃ　中学生になると急に、自分の生まれた町の行事に顔を出すことが少なくなる傾向がある。中学生の若い力や柔軟な発想を生かした地域貢献がさらに進んでほしい。そのために学校支援地域本部から地域へのきめ細かい働きかけが必要であろう。
Ｄ　教職員の高い専門性などを地域が活用することや、それらと並行して地域の学校への支援や技術の提供など、地域と学校の協働が進んでほしい。

【市民運動会にうどんバザーで貢献】

■　地域に学習の場を求め、地域の人たちとのかかわりの中でめざす開かれた学校づくり　（城西小学校）

■　彦根市	
■　活動名 西中学校区支援地域本部・城西小学校（従来型）	
■　関係する学校 城西小学校・城北小学校・西中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	６０　人
開　始　年　度	平成２１年度

■　活動の概要

城西小学校では、開かれた学校をめざして、以前から地域を学習の場としたり、地域の方々にボランティアとして指導に来ていただいたりして、子どもたちと地域の人・ものとの関わりをもてるようにしてきている。

地域のお年寄りで作られている「子どもらと楽しもう会」の会員の方々とは、特に低学年を中心に交流がある。新入児童の交通安全を意識させるための「キューピット人形渡し」や「七夕集会」「昔の遊び体験（生活科）」などに、快くかかわってくださっていて、子どもたちへの伝承遊びの指導や昔からの行事にかかわる話などをしてくださり、世代間の交流が図れている。

また、校区の歴史的な建物や店舗等の施設を見学に行き説明を聞いたり、地域の方の指導のもとに伝統的な焼き物に取り組んだりすることも、本校ならではの活動であるといえる。

さらに、地域の方には、スクールガードとして子どもたちの登下校の見守り等もしていただいている。

加えて、保護者のボランティアの方に、子どもたちに向けた本の読み聞かせをしていただいたり、校外での活動の支援をしていただいたりしている。

夏休みには、学習支援として地域の方に来ていただき、子どもの補充学習をしていただいた。

これらの取組を始めとして、協力していただける地域の方や保護者の方の支援のもと、以前から様々な活動を展開してきている。

■　特徴的な活動内容

総合的な学習の時間で３年生が取り組んだ「わたしの町じまん」の学習では、校区にある足軽組屋敷などの見学に出かけた。その際、地域住民の方がつくっておられる、「彦根辻番所の会」の代表の方に、案内をしていただき説明を聞くことができた。子どもたちは、解体修理が完了し４月から一般公開している足軽組屋敷と辻番所の中を見学することができた。

辻番所の窓から外をのぞいたり、屋敷の中を探索したりして見学した子どもたちは、怪しい人や知らない人が入り込んでいないかを辻番所の窓から確認していた。」という説に熱心に聞き入った。

この見学から、昔の建物が残っている校区のすばらしさを感じることができ、見学したことを、一人ひとりが自分なりにまとめた。

■　実施に当たっての工夫

総合的な学習の時間などの学習に関わる活動支援については、毎年行う活動が多く、以前から各学年と支援いただく方とのつながりができている。このため、活動を行う時期には、直接学年から連絡を取り支援依頼をしている。

スクールガードの方へは、毎月子どもたちの下校予定時刻を連絡し、見守りをしていただいている。

保護者ボランティアについては、活動する該当学年で通信等を使って支援依頼したり、全校的な活動にかかわっては、学校から依頼文書やメールを用いて募集を行ったりしている。

学習支援ボランティアは、地域コーディネーターの方に人選をしていただき、支援をお願いした。

■　事業の成果

いろいろな活動に、地域の方を始めとして保護者の方にも支援をしていただいている。

このことにより、専門的な知識をおもちの方からのお話を聞いたり、制作活動の技術指導をしていただいたりすることができた。また、世代間交流による地域のお年寄りとのつながりもできた。さらに、保護者の方、地域の方の支援により、子どもたちの学習活動に広がりと深まりが得られたといえる。

■　事業実施上の課題

地域の方に依頼する方法として、支援を必要とする学年から直接連絡をとり、打ち合わせをするなどしている。従って、各学年の担任と支援していただく方との連携がとれている。一方、年間を見通して支援していただきたい活動についての計画の整理が十分ではない。そのため、それぞれの学年で依頼した活動日が重なってしまうことがあった。

■　その他

年間を見通した学習計画のもと、地域の方や保護者の方へ支援依頼する活動を整理した上で、支援計画表を作成する必要がある。その計画表に、学年、教科名、単元名（題材名）、支援依頼先等を明示することによって、人材バンクとしての位置づけをもたせるとともに、支援依頼がより円滑に行え、より充実した学習活動が展開できるようにしたい。

■ 地域の方々と児童を結びつけるための取組（城北小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 西中学校区支援地域本部・城北小学校（従来型）	
■ 関係する学校 城北小学校・城西小学校・西中学校	

コーディネーター数	２ 人
ボランティア登録数	９４人
開 始 年 度	平成２１年度

■ 活動の概要

２名のコーディネーターを中心に「学習支援」「環境整備」「登下校支援」「読書支援」などの支援をしている。主に地域の方々と保護者を中心に構成されており、活動の内容等により参加する方が変わっていく。また、読書支援や登下校支援などのように、年間を通じて定期的にされているものや、学習支援や環境整備のように年間の決まった日時に集中して取り組むものがある。

■ 特徴的な活動内容

「学習支援」としては、生活科や総合学習で地域学習を進める場合に、地域についての様々な情報を教えてもらったり、東山の整備された竹林で、竹の伐採作業を地域の方と一緒にするなどの活動をしている。さらに、竹細工づくりを教えてもらうなど、地域の年配者でないと教えてもらえない事柄について、経験を深められるようにしている。また、全校行事として行っている「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、学校の特色ある教育活動として定着している。学区を大きく３方面に分割して、「彦根城コース」「佐和山城跡コース」「松原お浜御殿コース」を設定し、３年間かけて全てのコースを巡り歩いている。児童は小学校６年間で２回コースを回ることになる。同じコースであっても、下学年で体験したことと上学年で経験したことでは意味合いが変わってくると考える。

特に、６年生になるとその年に回るコースについて、地域に出かけていき様々な方から詳しく学ぶようにしている。その時に、地域の方を講師として招いたり、直接地域に出かけていったりして、ふるさとについての学習を進めている。その中で、学んだことを自分たちなりに咀嚼し、当日は全ての６年生が小グループのリーダーとなって下学年の児童を案内しながら、クイズ形式で学んだことの説明をして、地域についての学びを活かしている。当日は、保護者や地域の方々に安全ボランティアとしても多く参加してもらっている。

「読書支援」として、地域の方や保護者を中心に「読み聞かせボランティア」を募り、毎週木曜日の朝の活動の時間（約 10 分間）を使って、全てのクラスで読み聞かせをしていただいている。また、毎月図書室の展示スペースに季節感を漂わせる飾り付けもされている。

「環境整備」は、校舎外の除草作業や剪定作業を中心に、学期に１回程度の割合で前庭やグランドの整備をしていただいている。本校は、グランドが広く雑草が繁茂しやすい。教職員や児童の作業だけでは除草作業が草の生長に追いつかない。そのため、コーディネーターを中心に除草機具を使って、効率よく除草されている。また、うさぎ小屋の防寒対策や瓢箪ハウスを設置するなどアイデアを出して、学校の栽培活動や飼育活動が円滑に実施できるようにサポートしていただいている。さらに、今年度は絵画制作を趣味にしておられる方が、夢のある大型の油絵作品を寄贈してくださり、児童の学校生活に潤いを与えている。

■ 実施に当たっての工夫

２名のコーディネーターの方が、大変熱心に支援活動を考えられ、地域や保護者の力を学校の教育活動に活かそうと働きかけてくださるので、学校の教育活動が充実したものになっている。そのため、前年度までに実施した行事や活動についても、新たにコーディネーターの方と相談し、今年度の内容をしっかりと説明しながらどのような支援や協力が必要なのかを明らかにして協力を依頼している。また、コーディネーターの方は毎日のように学校に足を運んでいただいているので、常に密接な連携をとることができている。さらに、学校行事等を子どもの手作り招待状を添えて登録ボランティアに案内している。

■ 事業の成果

年度ごとに支援の活動が定着しているため、ボランティアの方も支援の仕方を心得てくださっている方が多く、子どもたちとも顔なじみになっていることから、適切な支援をしていただき、子どもたちも安心して活動に専念できることが多い。また、ボランティアとして参加された地域の方々も、子どもたちの明るく屈託のない笑顔や感謝の言葉を聞き、満足して帰っていただける場合が多い。そのことが好循環となっている。このような活動を新聞などのマスコミに取り上げられることも多く、地域の方にとっても子どもたちにとっても地域を誇れ、学校への愛着に繋がっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方々が固定化されつつある傾向にあるため、新たなボランティアの開発が必要である。特に、「登下校支援」では、ボランティアの高齢化が目立ち、病気や高齢を理由にボランティアをやめられる方がおられ、支援活動の維持継続が次第に困難になりつつある。保護者などに呼びかけたりしているが、先細りの傾向を止めるまでには至っていない。

■　彦根南サポートオフィス４年目の取り組み　～継続は力～（南中学校）

■　彦根市
■　活動名 南中学校区支援地域本部・南中学校（従来型）
■　関係する学校 南中学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１１人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

南中学校では、①図書ボランティア　②放課後学習支援　③環境整備の３点を中心に活動を行っている。また各小学校との連携をとるため、地域支援コーディネーターとご担当の先生方と学期毎に会議を持ち、情報交換を行っている。

■　特徴的な活動内容

①図書ボランティア

毎週月曜日、図書支援員さんとも協力しあって図書の整理・新刊のブックカバーかけ・生徒たちが本を手に取りたくなる並べ方の工夫など、事業が立ち上がった当初よりずっと活動を続けていただいている。

②放課後学習支援

「水曜ゼミ」と名付け、毎週水曜日の放課後一時間、数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。昨年より県立大学の教師を目指す学生の方にお手伝いいただき、熱心に指導して下さっている。

③環境整備

中学生の地域貢献活動と合わせて、グランド周りの側溝の土・泥上げを行う。今年は生徒の参加が 45 名と大変多く､保護者ボランティア４名の方をリーダーに３班に分かれて、側溝だけではなく中庭まで整備することができた。

【　水曜ゼミ　】

【　環境整備　】

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアさんが活動されていることを周知しやすいよう、昨年度末にベストを作成し各学校へ配布した。環境整備の時にボランティアさんに着用していただくことで生徒たちにもわかりやすく、活動のＰＲにもなった。
・学習支援の大学生の方々とはメールで連絡をとれるようにし、学校行事による時間変更や中止のお知らせをスムーズに回すことができた。

■　事業の成果

学習支援ボランティアの学生の方に、ゼミの後に活動記録を記入いただき、ご担当の先生からアドバイスや助言を書いていただいている。教師を目指す学生の方には、学習指導や生徒と関わる良い経験を提供できている。またこの事により、講義時間の変更によりボランティアの確保が難しいと思われた時もあったが、学習支援を続けたいと思ってくださる方が多く、友人紹介もあり、活動の継続につながった。

■　事業実施上の課題

事業が始まって４年となるが、先生方のニーズを把握することができていない。先生方への事業の周知徹底と効果的な支援をするためにも、次年度に向けてアンケートの実施が必要である。

■　その他

・今年、校区内の事務職員研修会にて学校支援地域本部事業の説明をさせていただく機会があった。事務の職員にもこの事業を理解いただいて、今後の活動へのご協力をいただけることは大変心強いものになる。
・〈彦根南サポートオフィス〉ブログにてボランティアさんの活動を紹介している。

■ 地域ぐるみで学校を支援する体制づくり（城南小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 南中学校区支援地域本部・城南小学校（従来型）	
■ 関係する学校 城南小学校・若葉小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	８５ 人
開 始 年 度	平成２３年度

■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■ 特徴的な活動内容

〇読書ボランティア
- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の本の整理・環境づくり

〇スクールガード活動
- ・登下校時の通学路の見回り（安全指導）
- ・下校時の公園等の見回り（不審者対応）

〇学習支援
- ・特別支援学級「花を育てよう」「地域に方とふれ合おう」
- ・１年　生活科「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ・２年　生活科「生き物とふれ合おう、育てよう」「町の人と仲よしになろう」
- ・３年　社会科「もっと知りたい！大好きな私の町」「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ・４年　社会科、総合的な学習の時間　「地域の住みよい町かんきょう」「いつまでも住み続けたいやさしい町づくり」
- ・５年　社会科、理科、総合的な学習の時間「米作りから見える食環境」「大切なびわ湖を守り続けよう」「つながりを大切にしよう　できること」
- ・６年　社会科・総合的な学習の時間　「平和な世界をめざして」「今の私、未来のわたし」
- ・全校　学校行事　「ふるさとのよさ再発見　城南学区の今と昔」

【地域の方に教わってさつまいもを育てる】

【地域の公民館長さんからお話を聴く】

■ 実施に当たっての工夫

どの活動においても支援してくださる地域の方や団体との事前の打ち合わせを行い、学校の要望や地域の方の思いを双方で出し合い意思疎通を図ることで、活動を値打ちのあるものにしていけるよう心がけた。

■ 事業の成果

〇読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週２回割当ての学級へ読み語りに来ていただいた。紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んでいただいているので、子どもたちは毎回楽しみにしている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫などを心がけ、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけてもらっている。生活アンケートからも、進んで読書をする子の数が年々増えてきていることがわかった。

〇スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいており、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

〇学習支援

学校と学校支援コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わり、一緒に苗植えをしてもらったり、地域の施設や伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。

■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部の活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づくと地域の方から声をかけていただくこともある。ただ、ボランティアの方はお仕事をされておられる方も多く、事前の話し合い等の時間を確保していただくことに負担をかけてしまうことがある。今後は、学習のねらいや内容を詳細に計画したり、メールでのやりとりを取り入れたりして、打ち合わせの時間を短縮するなどの工夫を加えるなかで、連携を進めていきたい。

■　つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～ゲストティーチャーから実感を伴った学習を～（城陽小学校）

■　彦根市	
■　活動名 南中学校区支援地域本部・城陽小学校（従来型）	
■　関係する学校 城陽小学校・城南小学校・若葉小学校・亀山小学校・南中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	７５　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、ご指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただき、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、スキー教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

■　特徴的な活動内容

○第２学年　生活科

「あそびがいっぱい　みんなであそぼう」

地域の方をゲストティーチャーとして招き、外国の遊びを教えていただいた。フィリピンの方からは、手遊び歌を教えていただき、みんなで楽しむことができた。台湾の方からは、中国ごまの回し方を教わった。活動を通して自分の地域や外国・異文化に関心をもったり、つながりを考えたりすることができた。

○第４学年　総合的な学習の時間

「未来へ一歩～見つめよう社会　見つめよう自分～」

地域で、車いすで生活をされている方から、日頃の生活の様子や困ったことなどをお聞きしたり疑似体験をしたりした。また、同じく地域に暮らしておられる視覚障害者からもお話を伺った。活動を通して自分たちが住む町を見直し、「みんなにやさしいくらし」について考えることができた。

○第６学年　総合的な学習の時間

「みんなと共に生きる町～さぐろう城陽未来遺産～」

地域の歴史や自然を調べる学習の中で、子どもたちが抱いた疑問について地域の方からお話を伺った。また、貴重な写真や資料等を効果的に使って、自分たちの住むふるさとの各町や寺院・神社、犬上川、荒神山などの歴史について説明していただいた。活動を通して、先人の思いや自分たちの住む地域を大切にしようとする人々の思いを考えることができた。

○第４～６学年　クラブ活動　茶道体験

地域の茶道の先生から、畳の歩き方や、お茶やお菓子をいただく仕草等の作法を教えていただいた。

■　実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせたりして、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■　事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■　事業実施上の課題

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していくことも求められる。

■ 共に手をとり　共に高まり合う学校支援をめざして（若葉小学校）

■ 彦根市
■ 活動名 南中学校学校区支援地域本部・若葉小学校（従来型）
■ 関係する学校 若葉小学校・城陽小学校・亀山小学校・城南小学校・南中学校

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２６　人
開　始　年　度	平成２３年度

■ 活動の概要

本校では、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。
①子ども達の登下校を見守るための、スクールガードの皆さんによる安全指導。
②子ども達が読書に対して興味関心をもてるようにと進めていただいている、読書ボランティアさんによる読み聞かせ活動。
③図書ボランティアによる、オープンスペースの図書室の環境整理。
④校地内の除草作業、枝打ち等の環境整備。

■ 特徴的な活動内容

・本校では読書活動を推進している。朝自習の時間を使っての継続的な読書活動はもちろん、家庭での読書を推進するため、親子で本を読む「家読（うちどく）」に取り組み、その成果を「家読通信」を発行し広めている。読書を推進する本校にとって、読書ボランティアおよび図書館ボランティアの方々の支援は、欠かせないものになっている。
・読書ボランティアは、毎週金曜日朝自習の時間を中心に活動いただいている。学期始めに、各月の実施日や担当学年についての話し合いを行い、計画的に実施している。１年生から６年生まで、それぞれの発達段階にあった本を、毎回読み聞かせしていただき、どの学年の子どもたちも食い入るように話を聞いている。
・図書ボランティアは、図書室の整理整頓を週２回していただいている。図書室がオープンスペースの本校は、利用がしやすく子どもたちの憩いの場になっているが、後始末が不十分になることがある。本を指定の場所に返却したり、傷んだ図書を修復したりする等、環境整備に尽力いただいている。

■ 実施に当たっての工夫

・子ども達や保護者をはじめとして、本事業をできるだけ多くの人に理解してもらえるよう工夫している。
・スクールガードの皆さんに対しては、年度当初に顔合わせの会を実施している。全校児童が体育館に集まり、スクールリーダーさんの話を聞いた後、スクールガードさん一人ひとりの紹介を行い、お言葉をいただいている。安全に関する子ども達への思いを聞くことで、感謝を抱く絶好の機会になっている。
・その他の活動についても、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方にその活動のねらいや内容を理解してもらえるよう、学校通信や学年通信等により、積極的に紹介している。

■ 事業の成果

・学校支援地域本部事業も数年が経過し、学校側が主体的に進めなくても、それぞれの活動を計画的、積極的に進めていただけるようになり、自然な取組として根付いてきたことは何よりの成果である。また、地域と学校が共に手をとり、子どもの教育環境を育て、豊かな心と健やかな心身を育てていこうとする気運が高まりつつあることも感じている。
・また、子ども達にとっても、地域の方々が自分たちのために活動していただいているという実感が高まっており、地域を愛し、今後は、地域のために貢献していきたいという気持ちが芽生え始めている。

■ 事業実施上の課題

・各団体による各取組は順調に進められているものの、学校全体として総括的にまとめ上げる母体がまだできあがっていない。そのため、学校支援を進める上で共通理解して取り組むことがあいまいになったり、互いの活動を理解し合ったり連携して活動を進めたりすることができていない。
・また、本校は開校以来 19 年目の新しい学校であり、新興住宅が多い等の事情もあって、地域や保護者の教育力がやや弱い。そのため、本事業のねらいを理解してもらい、ボランティアの人数を増やしていくことが大きな課題となっている。スクールガードにおいても高齢化の傾向があり、新しい人材確保に努力していく必要性を感じている。

■その他

・同じ中学校内でも、学区ごとに学校支援に対する意識や取組に差が見られる。互いの実践を日頃から交流し、中学校ブロック全体が盛り上がっていけるよう、さらに連携を深めていければと思う。

■　地域が支える教育活動の充実（亀山小学校）

■　彦根市	
■　活動名 南中学校区支援地域本部・亀山小学校（従来型）	
■　関係する学校 亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・南中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	３０人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

■　特徴的な活動内容

①校外学習の支援

・小規模校であるため、引率教員が少なく安全面で心配なところがある。そこで、コーディネーターにボランティアを探していただき、児童の引率支援をお願いしている。今年度の全校遠足の際には、各学年部に２名ずつ合計６名のボランティアに来ていただき安全に実施することができた。また、生活科や社会科、総合的な学習の時間等の地域学習では、史跡など子どもたちが調査する場所の説明を地域の人にしてもらっている。

◇今年度支援を受けた校外学習

全校遠足、２・３年町探検（生活科、社会科、総合）、４・５年校外学習等

②畑作りへの支援

・サツマイモの苗植えの際に地域ボランティアに、畑づくりをしていただいた。また、苗植えの際には畑の先生として子どもたちに植え方を教えていただいた。

③学校環境整備

・「トイレの女神様」として、地域のボランティアからトイレ掃除の支援を受けている。週に２～３回程度来校していただき、子どもたちに掃除の仕方を教えていただいている。

④学力向上への支援

・夏休みに、４年生以上の希望者を対象に学力補充教室（算数教室）を開催している。今年度は、地域の教員ＯＢ10 名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。また、夏休みに低学年対象の英語教室も開催し、その際も英語が堪能なボランティアの支援を受けた。

■　実施に当たっての工夫

・本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズもよく理解していただいている。
・担当教職員とコーディネーターとの打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
・毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしていただいている。
・校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■　事業の成果

・コーディネーターに教職員のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
・小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に行事を実施することができている。
・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感することができた。
・地域とのつながりが希薄になりがちだが、支援を受けることで子どもたちは地域でもボランティアに挨拶をするなどかかわりを深めることができている。

■　事業実施上の課題

・地域コーディネーターには、大変よく動いていただいている。しかしながら、次年度は辞退される予定であり、今後同じように動いてくださるコーディネーターが見つかるか心配である。
・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを期待したいところであるが、難しい面もある。

■ 地域と学校をつなぐ活動～学校支援の輪のひろがり～（彦根中学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 彦根中学校区支援地域本部・彦根中学校（従来型）	
■ 関係する学校 彦根中学校・高宮小学校・河瀬小学校	

コーディネーター数	４　人
ボランティア登録数	３２人
開　始　年　度	平成２３年度

■活動の概要

本事業も４年目を迎え、地域支援協議会の中で従来の取り組みとともに、地域の特性を生かした新たな事業を計画し取り組んだ。

①地域コーディネーターを中心として地域ボランティアと生徒が交流する事業として緑のカーテンづくりを行った。

②近隣の大学を中心に学習ボランティアを呼びかけ、週１回ではあるが、３年生を対象に放課後の補充学習会を開催した。

③「地域に貢献する彦中生」をスローガンとして、自治会を始め各種団体に呼びかけ、中学生が参加できる地域行事を把握し、地域の一員としての積極的な行事への参加を進めた。

・自治会、青少年関係団体、市主催行事への参加等

④地域のボランティアの方々への学校行事への積極的参加を図る。

・本校の伝統行事である長距離遠足の安全支援活動
・各種行事における交通指導
・支援学級の生徒を対象としたラン栽培講座の開催
・校地内整備作業への参加協力
・体験学習活動に伴う支援　等

⑤地域の方によるラン栽培講習会の開催

・特別支援学級を対象としたランの栽培講習会を開催し、移植作業を行う。

【縦3m×幅25mの緑のカーテン枠作り】

■特徴的な活動内容

本年度、地域の方々と生徒がともに活動できる場の提供とともにコミュニケーションづくり、さらに自慢できる学校づくりねらいとして、地域コーディネーターの方々を中心として緑のカーテンプロジェクトを立ち上げた。地域のネットワークを生かした地域ボランティアや、栽培アドバイザーに支援・協力いただき、「彦根一」の緑のカーテンづくりに取り組んだ。４月のプロジェクト会議における企画・立案から生徒を対象とした栽培のための講座の開催、近隣の施設での育苗体験、移植体験活動などを実施し、11月までの約半年間の継続的な取り組みを行った。また緑のカーテンコンクールにも応募し、賞を獲得した。

■実施に当たっての工夫

・事業展開するうえで地域コーディネーターの方々との連携協力を図るため、随時会合を行い日程および作業行程の調整を行った。
・地域コーディネーターの方々のもつネットワークを最大限に生かすため、学校の動きとの協調を図った。
・地域コーディネーターの方々のもつ特性能力を十分に発揮していただくような場を設定し、活動しやすい状況づくりに努めた。

■事業の成果

・日常の体験不足の生徒にとって、緑のカーテンの事業は新鮮にとらえられ、水やり等においても生徒の自主的参加で進めることができた。さらに地域の方から多くの支援を受け、支援体制も整い事業展開をスムーズに行うことができた
・本校の伝統行事である長距離遠足については、地域の理解も深まり、支援してくださる地域の方も多く、当日中学生に声をかけてくださるなど学校支援の輪も広がってきている。
・地域行事への積極的な参加により、徐々に中学生に対する地域の方々の見方も変わり、中学生のスタッフ依頼が多く寄せられてきている。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。また、これまで地域行事に消極的であったが活動を通して地域とのつながりもでき、年間を通じて積極的に参加する生徒も増えてきている。
・学生ボランティアによる学習支援については、自主的に放課後の学習会に参加する生徒が見られ、学習意欲の高揚につながっている。さらに日常の生徒支援にも可能な限り参加してもらった。

■事業実施上の課題

・地域ボランティアの方々の仕事との関係から日程調整が難しい面がある。
・地域ネットワークがまだ十分に活用できていない面が見られる。今回の取り組みを通じてさまざまな技術や職種の支援者がおられることが認識できた。今後、さらに充実を図るように取り組みを進めていきたい。

【８月のグリーンカーテン】

■その他

・地域には、協力する思いをもっておられる方も多く、地域の教育力をさまざまな活動に生かして、地域と学校が一体となった取り組みを今後も継続していきたい。

■　町の先生とふれあって遊ぼう　～楽しいわくわく交流会～（高宮小学校）

■　彦根市 ■　活動名 彦根中学校区支援地域本部・高宮小学校（従来型） ■　関係する学校 高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校	
コーディネーター数	２人
ボランティア登録数	８０　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

〇地域の高齢者の会「和楽会」の会員約 50 人に学校へ来ていただき、昔の遊びなど、様々な遊びを教えていただいたり、一緒に体験したりしている。

〇今年度も６月 19 日と 11 月 20 日の２日、13:30～14:15 の時間帯に来ていただいた。遊びの内容は、彦根・高宮カルタ、カロム、将棋、すごろく、トランプ、お手玉・めんこ、けん玉・おはじき、こま、あやとり、石けり、ゴムとび、カンぽっくり、まりつき、おどって遊ぼう　の 14 の遊びである。

■　特徴的な活動内容

〇「おどって遊ぼう」では、「地域のおどり『高宮音頭』を子どもたちに伝えたい、これからも残していきたい」という和楽会の方の強い思いから、高宮音頭を取り上げていただいた。振り付けをていねいに教えてもらい、みんなで心を一つにしておどることができた。

〇３年生の総合的な学習「たんけん！発見！わたしたちの高宮」では、約 20 年前に作成された高宮カルタを利用して、高宮の歴史を学ぶきっかけをつくっている。そのカルタをわくわく交流会でも取り上げ、遊びを通して地域に親しむ活動としている。

■　実施に当たっての工夫

〇各遊びごとの子どもの人数・遊びの内容・準備物などの詳しいことについては、日時を調整した上で「和楽会」の役員に来校していただき、打合せをした。どんな遊びを取り上げるかについては、わくわく委員会の児童の思いを尊重しながら、和楽会との話し合いの上で決定した。

〇交流会終了後、各教室で一人ひとりが活動を振り返り、和楽会への礼状を書いている。各クラス数点の手紙をまとめて、和楽会にお渡しし、手紙を通しての交流も図っている。

〇交流会の進行や準備、後片付けはわくわく委員会の児童が行った。和楽会会員の集合場所の会議室からそれぞれの活動場所への案内、交流会終了後に再び会議室に案内して、お茶を出しお礼の気持ちを伝えるところまでを児童が行った。

■　事業の成果

〇カロム以外は人数の制限がないため、子どもたちは自分がやりたい遊びを自由に選んで、異学年の友だち・和楽会会員と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。その遊びが上手にできるこつを教えていただいたり、和楽会会員と直接対戦したりして、交流会終了後は、とても満足そうに各教室に戻って来る子どもたちの姿が見られた。

〇和楽会とは年２回のわくわく交流会の他に、３年生が町の先生として来校いただき「昔の遊びやおやつ作り」を教えていただく機会をもったり、６年生が「三世代交流～餅つき大会～」で交流させていただいている。ふれあいが日常化することにより、子どもたちと和楽会会員との間には、親和な関係が築かれてきている。

■　事業実施上の課題

〇町の先生による月２回の読み聞かせ、安全ボランティアによる毎日の登下校時の見守りをはじめとして、本校の子どもたちは地域の方々の大きな支えをいただいて、日々生活をしている。わくわく交流会に来てくださった人をはじめ地域の方に対する「ありがとうございます」の気持ちが、学校以外の場でも自然と表れ、伝えられるように、活動を継続していく。

〇学校から和楽会の役員へ「こんな内容でお話をして欲しい。こんなことで協力をして欲しい。」と伝えると、喜んで手伝いをしていただいている状況である。今後、６年生の「平和学習」で戦争体験の話を聞かせていただく等、新しい分野でも協力をお願いしていく。

〇地域の方々に、学校支援の必要性を伝えるとともに、ボランティアとして活動していただく場を提供し、保護者や地域の方には「地域が支える学校」という認識を新たにしていただき、「地域に開かれた学校」をめざしていく。

〇教師一人ひとりがこの事業の意義を理解し、自らがコーディネートできる力をもつことが必要である。そのためには、教師が進んで地域に出かけ、先ずは地域を知り情報を収集・教材化していかなければならない。そして、地域に愛着をもち地域と共に子どもを育てていくというさらに高い意識をもつことが大切である。

■ 地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～（河瀬小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 彦根中学校区支援地域本部・河瀬小学校（従来型）	
■ 関係する学校 河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	５７　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校作りを目指して、地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～を合言葉に、学校支援地域本部事業を展開している。

５月の「田植え体験」「緑のカーテン作り体験」からはじまり、「稲刈り体験」「味噌づくり体験」「音楽活動支援」「ミシン学習支援」など、年間を通じて様々な学校の体験教育活動に支援をしていただいている。

本校で実施しているどの活動も子どもたちの学習活動を充実させることに役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってなかなか取り組めないような活動への支援が多く、学校教育の助けになっている。

■　特徴的な活動内容

○「米作り体験」

近年、本校では５年生の総合学習として、『米作り』に取り組んでいる。学習田を利用して、地域の農業委員などの協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔からの田植えの方法を教えていただいて実際に苗を植えている。

また、稲刈りでも、各自が鎌で刈り取った稲を千歯こきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験させてもらっている。児童にとって、いずれも貴重な体験となっている。収穫した米は、精米をして給食の主食として全校児童が食べるだけでなく、「味噌作り体験」や５・６年生の家庭科の調理実習にも活用している。

○「味噌作り体験」

「味噌作り名人」に来ていただき、味噌作りに挑戦している。米麹は５年生が収穫した米を使っており、自分たちが関わった材料が使われているだけに、熱の入った作業ぶりである。特に、味噌団子を味噌樽に詰め込む作業は、子ども達にとって大変楽しい活動である。

「手作り味噌」は、来年度まで給食室に保管し、秋以降給食に活用する。給食の味噌汁のみならず、５・６年生の家庭科の調理実習にも昨年の５年生が作った手作り味噌を使用しており、全校から「おいしい。」と好評である。

■　実施に当たっての工夫

「米作り　→　味噌作り　→　給食・調理実習」の一連の流れを組み立て、子ども達の意欲や関心の持続を図っている。また、自分達が食べることを通して、社会科や理科の教科学習のみならず、食育や環境学習との関連も図っている。

■　事業の成果

地域の、豊かな経験や技術をもっておられる人材を学校教育に活用することで、子ども達に経験や技術の伝承ができると考え、この事業に取り組んでいる。実際、昨年田植えを経験した６年生が、５年生に田植えの仕方や脱穀の仕方を教える場面や味噌を作った５年生が、その苦労等を全校に伝えている場面が見られた、親から子へ、子から孫へと伝えられてきた経験や技術が、上級生から下級生へと伝えられている。さらに、ボランティアさんに自ら挨拶をする子が増えるなど、子どもとボランティアさんとの繋がりが深まるのはもちろん、ボランティアさんどうしの繋がりもできることで、地域間の繋がりも深まっていく。

■　事業実施上の課題

昨年に引き続き、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけ、人材バンクの充実を図っている。しかしながら、人材は活用しなければ、せっかく人材バンクに登録してくださった方も、拍子抜けの状態になる。

今後は、学校の教育活動における人材の活用を年間指導計画に記載することを通して、有意義な活用実践ができるようにさらなる取組を進めていかなければならない。

■「鳥居本中学校学校支援本部事業（鳥居本学校サポートオフィス）の取り組み」（鳥居本中学校）

■　彦根市	
■　活動名 鳥居本中学校区支援地域本部・鳥居本中学校（従来型）	
■　関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２００　人
開　始　年　度	平成２１年度

■　活動の概要

〇学習支援

実施においては､各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科(家庭)、保健体育科、美術科、技術・家庭科(技術)、理科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

- ２年家庭科（郷土料理について）
- ２年技術科（電気の授業）
- １～３年体育（剣道）
- ３年理科（天体）
- ３年人権学習（部落問題学習）
- ３年美術(茶道体験)
- 総合的な学習の時間（３年卒業研究）
- 各学年本の読み聞かせ
- 夏・冬休みの補充学習

〇環境支援

- グランドの芝生の草刈り作業や水やり
- 「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」

■　特徴的な活動内容

〇地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

- 宿 場 祭 り・・・鳥中ソーランの披露
- 学区の運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏、中学生が役員として活動
- 学区の文化祭・・・鳥中ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究の発表

■　実施に当たっての工夫

鳥居本地区地域教育協議会を年３回持つことにし、１学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。２学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、３学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■　事業の成果

〇地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え､支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる｡特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。

〇学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老壮会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、３学期には、１年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

〇今年度も、校外へ出て、茶道体験をすることが大きな収穫であった。地域の教育力を活用できた点が評価できる。

〇一昨年度より、補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださっている。一昨年度は、冬休みだけであったが、昨年度と今年度は、夏休みと冬休みに来ていただくことができた。このことは大きな収穫と考えている。地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということなどの観点からもよかったと考えている。

〇地域行事への中学生の参加が、地域の活性化につながってる。

■　事業実施上の課題

〇補充学習への支援ということで、３名の方に指導していただくことができた。もっと多くの方に来ていただけると、学習という切り口で地域と生徒がつながることができる。そこを、どのように切り拓いていくかを考えていく必要がある。

〇地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていただける方々が地域の中には多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

〇学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。

■ 「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援（鳥居本小学校）

■ 彦根市	
■ 活動名 鳥居本中学校区支援地域本部・鳥居本小学校（従来型））	
■ 関係する学校 鳥居本小学校・鳥居本中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１００　人
開　始　年　度	平成２１年度

■　活動の概要

本校では、教育活動を４つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

１・２年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、３年生社会科の地域探検、地場産業、３年生以上の総合的な学習の時間の活動、５年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ（通年）など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

■　特徴的な活動内容

〇１・２年　生活科　「川遊び」

例年５月に１・２年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っており､本年度も実施した｡青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮してくださる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。

〇３年　社会科　「イチゴ農家の１年」

５月、地域のイチゴ農家の方から申し出ていただき新たな教材として取り上げることとした。児童に時期が終わって出荷できないイチゴを試食させていただいたり、秋や冬の世話について話していただいたりした。都会へ出ていたがふるさとにUターンして始められた事業について学ぶ中で、鳥居本のよさを認識できる学習にもなった。

〇４年　総合　「矢倉川調査隊」

６月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん２名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たにする児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はよりその思いを強くした。

〇５年　総合　「米づくり」

小野町の方の支援を得て、５年生は米づくりを行った。支援者の計らいで環境こだわり米「みずかがみ」を育てることとなり、児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、環境への配慮についても考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

〇６年　総合　「ふるさと鳥居本」

５月、６年生は地域の方から鳥居本の歴史について話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。

■　実施に当たっての工夫

活動の事前に担任が協力してくださる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■　事業の成果と課題

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分のすむ町への親しみや誇りを深めることができた。地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■　近江八幡市における学校支援地域本部の取組（従来型）

■　めざす姿

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざす。そのために次の３点を柱に事業を展開する。

①地域の教育力の活性化

②地域の人が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり

③教員が子どもと向き合う時間の拡充

■　本年度の活動

５月　２日（金）事務局会議／コーディネーター委嘱式／コーディネーター意見交流会

５月 30 日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座（読み聞かせ模擬体験）

８月　４日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡

９月　１日（月）コーディネーターヒアリング
（現状および課題についての情報収集）

９月 25 日（木）コーディネーター会議

11 月　７日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座
（読み聞かせ実践交流会）

12 月 11 日（木）コーディネーター研修会（コミュニケーション力について）／情報交換会

【情報交換会の様子】

■　本年度の成果

本事業を有効に機能させるためにはコーディネーターの役割によるところが大きく、特に教員との連携が重要である。そこで、各校のコーディネーター間での意見交流会や情報交換会を行うことにより、工夫を凝らした有意義な取組に結びつけることができた。

また、学校支援メニューフェアにおいては、多くの企業・団体等から認知され申し込みが増えた。その結果、模擬授業や展示ブースの充実が見られた。

【学校支援メニューフェア
模擬授業の様子】

■　今後の課題

他校園のコーディネーターの取組や他市の活動などの情報を収集しながら、情報を提供･吸収し合い、それぞれの校園の状況に合わせながらの一層の活動の広がりと深まりを求めていきたい。

特に、学校支援メニューフェアについては、限られた時間の中で、出展者も参加者も共に満足でき、生き生きとした子ども達の姿に結びつくように、内容のさらなる工夫を加えていきたい。

■その他

本事業は平成 21 年度から取り組んでいるが、併せて平成 23 年度からは、地域の人材を活用する市長ローカルマニフェストである「人生伝承塾事業」※を全 16 小・中学校で実施している。

※地域の先達が各校で総合的学習の時間等を使い、知識や技能、経験を児童・生徒に伝承する。

■ 地域の宝を学校に！

■ 近江八幡市	
■ 活動名 八幡小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 八幡小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	１０９ 人
開 始 年 度	平成２４年度

■ 活動の概要

学校と地域、家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の良さを知り郷土に誇りが持てる子どもの育成を目指し、「地域の宝を学校に！」をテーマに本事業を進めている。また、学校が抱えている課題を地域や家庭と共有し、「つながり」を意識しながら地域ぐるみで子どもを育成する仕組みを構築することをねらいにしている。取組の方針として、次の２点を大事にしている。

・無理をせずにできることから、できる人に協力や支援を依頼すること。
・数年かけて、学校支援の視点で地域や家庭とつながり、事業の充実を図る。

■ 特徴的な活動内容

初年度 51 名であったボランティア登録が 3 年目は 109 名と倍増した。活動は大きく分けて次の６分野にわたっている。

①環境整備…花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、配膳台カバー作り、ゴキブリだんご作り、でかパン作りとテント設営および撤収（運動会）など
②絵本の読み語り…毎週火曜日朝学習の時間に１年～３年 12 学級で絵本の読み語り
③学習支援…水泳補助、合唱伴奏、校区の話、デイキャンプ指導補助、ヴォーリズ学習、組み体操補助（運動会）など
④児童引率補助…校区たんけん、水郷めぐり、八幡堀学習など
⑤クラブ活動支援…家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
⑥栽培活動支援…夏野菜作り、ヒョウタン作り、大根作り、北之庄菜作りなど。

【２年大根栽培　手作りの紙芝居を使って】

また、毎年３学期にはボランティア同士の交流の機会として、「ボランティアの集い」を開催している。活動への率直なご意見をいただいたり、こんなことならできるなど次年度につながる交流ができ、本校の事業実施の上で貴重な機会となっている。

【４年ヴォーリズ学習】

■ 実施に当たっての工夫

活動内容を周知するために、保護者には学校だよりの裏面を使って、児童や保護者を含めた来校者には校内の掲示版を使って、地域の方にはコミュニティーセンターの掲示版を使ってボランティアの方々の活動の様子を紹介するなどして、情報を発信している。

また、ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行し、これが他学年の活動の様子を知ったり、ボランティアの輪を広げたりしている。

自治会へは、年度終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。

■ 事業の成果

この事業に取り組み、それぞれの立場での成果が見られた。

①学　校…専門的なことを教えてもらえたり、ボランティアの方々に関わってもらう事で授業がはかどったり、手伝っていただいたことで子どもと向き合える時間が産まれるなど。
②子ども…わからないことがすぐに聞けたり、地域の名人のすごさに触れたり、地域の大人の方と知り合いになれて自然にあいさつができるようになったりするなど。
③ボランティア…自分の持っている得意なことを発揮できたり、関わることで子どもの上達が見られ達成感があったり、ボランティア同士のつきあいや情報交換ができたりするなど。

これらの成果の背景には、地域コーディネーターの果たす役割がたいへん大きいと感じている。担任との打ち合わせや活動の段取りをはじめ、情報発信や交流まで担っていただいている。三方よしの活動につなげていただいていることが、たいへんありがたい。

■ 事業実施上の課題

次年度以降の実施にあたり、今後課題となることは次の点であると考えている。

・今後ボランティアとともにどんな子どもを育てていくか、教職員とコーディネーターが共通の意識を持つ必要があるのではないか。「地域は、学校の宝である」
・地域の子どもを育てているというボランティアの意識をさらに高めていきたい。「学校は地域の宝である」
・学校支援地域本部を学校に置くのか、コミュニティーセンターに置くのかどこに設置するのがよいか検討が必要である。
・ボランティアのさらなる確保と人材発掘を図る。

■ その他

・ボランティアの方々が、活動が無くてもふと学校に来てくださるようなスペースが作れると良いと考えている。

■ 地域とともに豊かな学びをめざして

■ 近江八幡市
■ 活動名 島小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 島小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	４８７ 人
開 始 年 度	平成２３年度

■ 活動の概要

本校区は、転出入がほとんどなく、昔ながらのコミュニティーの特徴を色濃く残す地域であり、学校に対して協力的であるとともに、学校に対する期待も大きい地域である。そこで、地域コーディネーターを中心に、コミュニティー・センターとも連携を図りながら、本校教育目標「ふるさとにほこりをもち、瞳輝く島の子」のもと、本事業を展開してきた。子どもたちの学びをより豊かなものにするための学習支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な下校のための見守り活動の３つの柱で実施した。

■ 特徴的な活動内容

校区内には、琵琶湖、西の湖、ヨシ原、里山、水田、大規模干拓地等があり、自然環境と生活が深く結びついた地域である。また、由緒・歴史のある寺社仏閣もあり、校区内の恵まれた自然・歴史・文化等の環境を生かし、様々な学習を進めてきた。

その中から、４年生を中心に取り組んでいる「菜の花エコプロジェクト」の取組を紹介する。地域の祭で松明を作るときに菜種ガラが必要なため、学校周辺の田畑では菜の花が栽培されていて、その一角を学習のために提供していただいている。そこで、菜種の様々な活用を学んでいけるよう地域学習（生活と結びついた学習）と環境学習（エネルギー・資源の循環を学ぶ）を兼ねて取り組んでいる。地域学習においては地域の同じ方に年間を通して支援していただき、環境学習においては専門的な機関に支援をお願いした。

【菜の花を植える花壇の整備】

具体的には、前年度に植えた菜の花の刈り取り・菜種落とし→採れた菜種の搾油→絞った油を使った調理→廃油の利用（キャンドル・ポンポン船・回り灯籠作り、バイオ燃料でカートを動かす等）、絞りかすの利用（油かすとして畑の肥料として使用）→菜の花植え（次年度に向けて３年生が作業）、松明作り→春の地域の祭で燃やしていただくという一連のサイクルで学習を展開している。刈り取り、種落とし、菜の花植え、松明作り、祭については地域の方の支援を、油を使った料理は保護者の支援を、搾油・油かす、キャンドル作りは、菜の花館の方に、バイオ燃料作り、カートの操作は、八幡工業高等学校の皆さんに支援していただいた。また、今年度は、子どもたちのより身近なところに菜の花を植えられるようにと、島小サポート隊の方が校舎前に花壇を整備してくださった。

■ 実施に当たっての工夫

学習支援においては、授業者（担任）が学習のねらいや計画をしっかりコーディネーターやボランティアさんに伝えることを心がけた。今年度は担任の半数が本校１年目になる状況であったので、担任自らも積極的に地域に関わっていくようにした。

上記の「菜の花エコプロジェクト」の他、２年「権座（内湖に浮かぶ島）での栽培と収穫」、３年「ヨシと私たちのくらし」、４年「ゆりかご水田」など地域の自然環境と深く結びついた学習を年間通して実施し、できるだけ同じ方に繰り返し支援していただけるようにした。その方を核にしてボランティアを募り支援していただくことで、学習のねらいに迫った活動が展開しやすく、子どもとの関係作りの上でも有効であった。また、「しが環境リーディング事業」の県指定を受けていることもあり、地域学習に環境教育の視点も入れて総合的に実施した。

【ヨシ編みの実演】

■ 事業の成果

実体験を基にした話や実物を見たり実際に経験したりすることや、人を通しての地域学習は、理解のみだけでなく、携わる人の思い、その思いが受け継がれていること（伝統や風習）を感じ取ることができ、子どもの豊かな学びにつながった。

また、本事業は３年目となるが、開始初年度からお世話になっているボランティアさんや、年間を通して支援いただいているボランティアさんは、子どのたちの様子を把握してくださっていて、短い打ち合わせで、授業のねらいや授業計画を理解してくださり、前回より良くなるようにという思いをもって関わってくださる。その思いが子どもに通じ、子どもがよい反応をしてくれることがボランティアさんのやりがいにもつながっている。

島小サポート隊は昨年度立ち上がったボランティア組織であるが、環境整備を中心に、多くの方が参加してくださるようになった。

■ 事業実施上の課題

本事業の支援体制が定着しつつあるが、安易な前年度の踏襲ではなく、教師が地域に愛着をもち、教材化に努めていかなくてはいけない。コーディネーターと連携し情報の収集にあたることも必要であるが、そのための時間確保が課題である。また、ボランティアさん同士やボランティアさんとコーディネーター、教員とが学校で気楽に打ち合わせなどができるスペースを確保したいと考えている。

■ 地域の自然や人と共存した教育の充実をめざす（沖島の人と自然を学ぼう）

■ 近江八幡市	
■ 活動名 沖島小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 沖島小学校・幼稚園	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	約２０人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

本校では、めざす子ども像として、「**お**もいやりのある子」「**き**たえあう子」「**し**まを愛する子」「**ま**なび合う子」を掲げている。沖島の自然や伝統にふれたり地域の人々とふれあったりすることで、郷土を愛する心情を育み、また、交流やたてわり活動を通して、学び合いの経験を積み重ねていきたいと考えている。

その活動の一つとして、地域の方に教えていただいて、沖島の自然を生かした昔ながらの食べ物を作るという取組を行っている。地域の方から児童へ、高学年から次の学年へと、伝統的な食べ物やその作り方が受け継がれている。

また、石切りや漁業（島民の７割の方が漁業組合に関わっている）といった地域の産業についても、地域の方に協力していただいて、計画的に学習している。他にも、年間を通して野菜作りに関わっていただいている。

沖島小学校においては、地域の方の協力が必要不可欠であり、地域と家庭、教師ならびに児童が密接に関わり合いながら、学習活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

〇食育に関した学習活動

・イバラの葉団子作り･･･ 学校の裏手にあるケンケン山に自生するサルトリイバラの葉を採集し、柏餅のようにして食べる。沖島には柏が自生していないため、その代わりとしてサルトリイバラの葉を用いたことに始まる。島内でもお年寄りの方しか作り方が分からなかったため、お招きして教えていただいた。それ以降、毎年自分たちで作っている。他にも、冬イチゴジャムやサクラの塩漬けなども作っている。

〇産業に関した学習活動

・沖島の漁について･････ 漁についてインタビューをしたり、実際に漁船に乗せていただいたりして、学習を深めている。
・エビタツベ作り･･･････ 沖島の伝統的な漁法・漁具について学ぶとともに、その作り方を経験させていただいた。
・フナ寿司作り･･･････････総合的な学習の時間に、沖島の漁や漁師について学習したことをきっかけに、その発展として３年前から始めた。地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、４月にうろこをふくなどして塩切りをし、２月に出荷している。漬けたフナ寿司は学校で保管し、児童が交代で水替えを行っている。

鱗を落とし、エラを取り除く作業を手際よく行っていた。

【フナ寿司作り】

作り方にも、様々な工夫がされていることを知ることができた。

【エビタツベ作り】

〇感謝の気持ちを表す学習活動

・なかよし会･･･････････自分たちで育てた野菜を使って、全児童が協力をしてカレーなどを作り、お世話になった方にふるまう。低学年の児童も、野菜を洗ったり食器を拭いたりするなど、できる仕事を積極的にしている。
・ふるさと集会･･･････地域の方をお招きして、学習発表会を行う。その際に、地域のお年寄りの方と一緒に、おやつを作って食べるなどして、交流を深めている。

■ 実施に当たっての工夫

・前年度に引き続き、地域への発信に力を入れた。学校便りは、地域に配布するだけでなく、通船の中や漁港の掲示板、待合室などにも掲示して、地域の方以外の目にもふれるようにしている。また、児童が書いた「おきしま新聞」も掲示している。

■ 事業の成果

・学習に意欲的に取り組むことができた。例えば、エビタツベの作り方を教わった際には、飽きることなく黙々と作業を続けたり、休み時間に自作のもんどり等を使ってエビ獲りをしたりするなど、関心が高かった。
・島外から通う児童にとって、地域の方とふれあったり、沖島の良さを知ったりする良い機会になっている。

■ 事業実施上の課題

・地域の方の高齢化が進んでいるため、人材の確保が難しくなる可能性がある。

■ 地域とともに学びの充実をめざして

■ 近江八幡市
■ 活動名 岡山小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 岡山小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	約１８０名（※登録制はとっていない）
開 始 年 度	平成２２年度

■ 活動の概要

本校では、H22 年度より本事業に取り組んでいるが、この事業が始まる以前から地域が学校に対したいへん協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。こうした地域の特性から、ボランティアの登録制はとらなくても、学校が要望する人材等を地域コーディネーターに依頼することで、環境整備や学習支援など学校と地域が連携したさまざまな学習を展開している。

■ 特徴的な活動内容

①「田んぼの学校」、野菜づくり支援

本校では「田んぼの学校」の活動を、２年生と５年生の異年齢交流として、農業委員さんをはじめ、地域の人の支援・協力を得ながら取り組んでいる。田植えや稲刈りでは、２年生が初めて体験する子どもが多いが、５年生が気にかけながら体験している。１・２年生は、米作りの他に野菜づくりにも取り組んでいる。野菜づくり名人に来ていただき、土作りから世話の仕方などを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫する。その取組の一環として、地域コーディネーターの企画で、２年生の校区探検のコースの一つに、地域の方に呼びかけ、野菜畑で作業をしてもらった。見学やお話、イチゴを食べさせてもらったりしながら、交流を深めることができた。また 11 月には、米作りや野菜づくりでお世話になった方を招待して収穫祭を開き、五平餅をいっしょに作って食べながら、地域の人や自然、食に感謝する活動を行った。

②福祉学習

中学年を中心に取り組んでいる障がい者理解の学習では、視覚障がい者の方や車椅子生活をされている方に来ていただいて、生活や思いなどを聞くとともに、その前向きな生き方を学んだ。また、たくさんの車椅子を準備いただき、実際に車椅子を体験する学習をした。４年生では、学校の前にある共同作業所の所長さんに来ていただいて、作業所の仕事内容や仕事をされている人について話を聞いたり、後日作業所に出かけ、その様子を見学したりした。

③その他

６年生では、陶芸の森の方の協力をいただき、茶碗の焼き物作りを体験した。その作品は、学区の文化祭に展示するとともに、３学期には、その手作りの茶碗で茶道教室を体験する。

また、２月には、４年生が「琵琶湖一周鉄道の旅」を実施する。本校では、湖西・湖北の地域から、班ごとに調べたい場所や見学場所、下車する駅等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがしていくため、引率者がたくさん必要である。そのため地域のボランティアさんの協力を得て実施している。

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターの人脈を生かし、地域の方や講師の協力依頼や連絡調整に動いていただいた。ただ地域コーディネーターに任せっきりになるのでなく、教員も昨年度までの取組等を活かし、主体的に計画していくことも重要である。そのため、学校と地域コーディネーターのそれぞれのよさを活かせるようある程度分けている。地域コーディネーターは、主に地域のボランティアさんとのコーディネートをしていただいている。２年生の校区探検の一つである牧町の野菜づくりは、コーディネーターが地域の方に呼びかけ、子どもの活動時間に合わせて畑作業に集まっていただいた。

■ 事業の成果

・地域コーディネーターが学習支援に関わる人材の連絡・調整・準備をしていただけることで、ずいぶん教員の負担軽減ができた。
・教員とボランティアさんのつながりができることで、その後の学習支援の依頼をしやすくなった。またボランティアさんの指導や助言が、子どもたちだけでなく教員にとっても学ぶことが多かった。
・地域の方やゲストティーチャーさんと出会い、交流することは、顔見知りとなってつながりができることで、朝出会った時に挨拶をする子どもたちもいる。またゲストティーチャーさんの話から、思いや前向きな生き方を感じる子どもたちもおり、豊かな心の育成につながっている。

■ 事業実施上の課題

・学校の環境整備や子どもの見守り、学習支援などさまざまな場で支援してくださる地域の方に、あいさつやお礼など感謝の気持ちを忘れないで自然と伝えられる子どもを育む必要がある。
・次年度学級増のため余裕教室がなくなり、活動が制限されるものもあり、工夫が必要である。
・学校支援等の教育活動の情報発信を充実させ、気軽に協力・支援してくださる人材を発掘したり、ボランティアの輪をひろげたりしていきたい。

■ 地域の力で教育活動の活性化

■ 近江八幡市
■ 活動名 金田小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 金田小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	５０ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部事業は、校区の方を委員として「金田学区地域教育協議会」を組織するとともに、学校支援地域コーディネーターを配置して昨年度からスタートした。本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を得て教育の充実に努めてきたが、コーディネーターが「金田学区まちづくり協議会」や「金田コミュニティセンター」とのパイプ役、関係機関との調整役を担い、より一層学校・家庭・地域が連携協力し、授業等の学習補助や教員の業務補助などの学校支援を行うことを中心活動とした。

■ 特徴的な活動内容

・１年「昔遊び・お正月遊び」
・２年「音楽鑑賞」「五色百人一首」
・３年「金田学区のいいところ」「福祉学習～盲導犬、車いす体験」
・４年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」「紙すき体験～はがきづくり」
・５年「バケツ苗栽培」「田植え・稲刈り」「環境学習～ヨシ笛づくり」
・６年「国際理解～青年海外協力隊」「ナップザックづくり」「落語に親しもう」

■ 実施に当たっての工夫

実際に見たり、聞いたり、触れたり、話だけでなく体験を中心とした活動を多く取り入れていただいた。また、コーディネーターを中心に依頼や連絡調整をし、教員の業務補助をしていただいた。

■ 事業の成果

すばらしい知識や技術をもった方から直接指導を受けることにより、子どもにとって、地域、技術、人が身近なものに感じられるようになった。地域に親しみを感じ、自分が住んでいる地域や人に誇りをもつようになった。

また、ゲストティーチャーやボランティアの方々は、子どもたちに優しく接し丁寧にわかりやすく話したり、説明したりしてくださるので、子どもたちもその雰囲気や思いに影響され、学習内容の理解がより深く、印象に残るものになった。指導者一人ではできにくい対応やきめ細やかな対応によって、子どもたちは作業等に自信をもって取り組み、最後までしっかりやり遂げる姿が見られた。子どもたちの不安やあせりが解消され、安心して活動できるので、教室全体・場全体が落ち着きのあるものとなった。

■ 事業実施上の課題

大規模校ということもあり、ゲストティーチャーやボランティアの人数を確保し、日程調整をすることが難しい。また年度当初に計画はするが、子どもの様子や担任団の希望で急きょ活動がふえたりするので、縦のつながりを考えた活動計画が必要である。地域の方々は好意で快く引き受けていただいているが、できることならほんの少しでもお礼ができるとよい。

■　地域の人に支えられ　価値ある体験を継続する

■　近江八幡市	
■　活動名 桐原東小学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 桐原東小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２０３人
開　始　年　度	平成２４年度

■　活動の概要

３年目を迎え、「教科等への学習支援」「朝の時間や休み時間の充実のための支援」「学校環境を整える支援」を中心に活動を行ってきた。「教科等への学習支援」では、生活科、総合的な学習の時間、家庭科等において学習ボランティアを招き、授業の支援をしてきた。また、「朝の時間や休み時間の充実のための支援」では、月に２～４回、朝読書の時間における読み聞かせや昼休みの手作りおもちゃ広場等を実施した。「学校環境を整える支援」としては、継続的にボランティアの方に来ていただき、図書室の飾りつけや前庭の花の世話、剪定等行っていただいた。

■　特徴的な活動内容（５年生の場合）

５年生では、「白鳥川の景観を良くする会（略称　景観隊）」の方々の支援をいただき、総合的な学習の時間において以下の日程で環境学習を実施した。

10月９日　白鳥川事前学習
（景観隊の方々と出会う。白鳥川の様子や特徴について知る。）
16日　現地学習（白鳥川に行き、景観隊の方々に説明を聞きながら、川に入り、自然や生き物などを観察する。白鳥川の様子や特徴をつかむ。）
17日 ～ 30日　体験したことをもとに白鳥川の環境についてまとめる。
30日　発表会（景観隊の方々を招き、自分たちがまとめたことを発表する。）
12月　景観隊が４月に実施する「白鳥川桜まつり」の桜ボンボリの絵を各自が描く。

■　実施に当たっての工夫

・ボランティアの方々と事前に目標や内容について詳細に打ち合わせを行い、支援のポイントを明らかにした。
・ボランティアの方々が生き生きと活動していただけるように支援の場の設定を工夫した。
・実施したことの啓発のため、地域コーディネーターが校長室前のコーナーに掲示物を貼ったり、広報紙を発行したりしてきた。

■　事業の成果

・ボランティアの方々に教えていただいたり、説明していただいたり、製作の補助をしてもらったりすることで、子どもたちの活動の場が広がった。
・子どもたちは、より多くの地域の大人の人と触れ合うことで、地域の人や地域が好きになっていった。
・ボランティアの方が「子どもたちに元気をもらいました。」と言って帰っていかれる場面があり、充実感を味わっていただいているようであった。

■　事業実施上の課題

・支援をするのに必要な人数について、学年や活動に応じて適切に決め出していくことが大切である。
・地域コーディネーターと担任が日常から支援の時期や内容について協議しておくことが大事で、そうすることによって学校全体としての活動のバランス（時期・内容）がとれることになる。
・１年生や５年生のように他学年でも活動に連続性を持たせることにより、ボランティアの方々と接する機会が増え、学習内容だけでなく、様々な側面から学ぶことができる。

■　その他

・今年度より、桐原東小学校区だけでなく、桐原学区全体にボランティアを呼びかけてくださったことにより、来ていただく人数が増えた。
・学校ホームページのブログ集で、学校支援の様子を紹介しています。
参考ＵＲＬ（桐原東小学校）http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiga/

■ 地域でともに育てる馬淵っ子

■ 近江八幡市	
■ 活動名 馬淵小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 馬淵小学校	

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80 人
開 始 年 度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では、「**ま**ごころのある子、**ふ**かく考える子、**ち**からいっぱいがんばる子」をめざす子ども像として、地域と協働で取り組んで3年目となる。以前から地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきたこともあり、今年度はボランティアさん同士の横の繋がりを広めることを意識して取り組んだ。その繋がりから新しい人材を発掘し、支援内容の広がりと充実が深まることをめざした。

■ 特徴的な活動内容

（1）年間を通した図書室支援とクラブ活動支援

図書室支援では、「居心地の良い図書室作り」をめざして、本を読む・調べる・ほっとする場という3点を基本にボランティアさんが、月二回、読み聞かせ・工作教室・整理・廃棄作業などに取り組んだ。

読み聞かせなどのボランティアさんの活動日には、図書委員の子どもたちと一緒にカードにハンコを押して取り組んだ。また、工作教室では、高学年の子どもたちが作り方を自分で考えて、ボランティアさんと一緒に低学年の子どもたちに教える姿がみられた。さらに、廃棄作業では委員会の子どもたちも廃棄基準を参考に本を選出して、教職員が選別し、ボランティアさんが廃棄作業を行うという分担と連携で取り組んだ。その結果、棚がすっきりして新しい本の置き場所を確保することができた。

クラブ活動支援の「家庭科クラブ」では、夏休みにボランティアさんが教師と一緒に作品の試作をして、子どもたちが取り組みやすい作品を決めたり、手順を検討する時間を作った。

（2）各種団体や個人など幅広い人たちの連携によるヘチマ学習の支援

4年生のヘチマ学習では、植えるための花壇作りから、土作り、支柱立て、ネット張り、収穫、タワシ作りなどの一連の作業を実施した。この支援には、老人会・民生委員さんや地域のブロック積み職人さんを始めとする様々な方々が連携して取り組んだ。

（3）地域と連携した茶道お点前の披露支援

1学期に6年生の茶道体験学習を支援していただいた後、秋の学区文化祭でそのお点前を披露する支援をしていただいた。新築のコミュニティセンターの茶室での学習は、本格的な茶道の場を体験することができた。そして、文化祭では、有志の子どもたちが 150 名の地域の方を接待する支援をしていただき、学んだことを実践することで子どもたちは自信を持つことができた。また、地域に還元する機会となって大変好評であった。

（4）その他の支援

水泳、書道、田んぼ、家庭科、ハザードマップ作り、ビニールハウス学習、しめ縄作り、獣医師会出前授業など

■ 実施に当たっての工夫

高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアさんが数名おられたので、新しいボランティアさんの発掘のため横の繋がりを広めた。また、ボランティアさんの活動日には掲示ボードでお知らせして、校内でも認識してもらえるように配慮した。

■ 事業の成果

事業も3年目となり、校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が時間を工面してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださる方が新しく加わり、専門的な内容を取り入れることができた。教師は専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアさんの来校を楽しみにするようになってきた。また、ボランティアさんは、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようにもなってきて、それぞれに充実したものとなってきた。

■ 事業実施上の課題

・本校は、ほぼ単級なので新年度担任が変わると前年度の引継ぎが十分なされない場合がある。
・顔馴染みのボランティアさんができると子どもたちが頼りすぎる場面がでてくる。
・専門知識のあるボランティアさんが増えすぎると一般の方が遠慮される場合がある。

■ 学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に

■ 近江八幡市	
■ 活動名 北里小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 北里小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	４００人
開 始 年 度	平成２１年度

■ 活動の概要

○地域ごとのボランティア活動

地域を挙げて、実にたくさんの方がボランティアとして支援いただいているので、これまで同様、本年度も北里商業協同組合のご協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取り組みとしてかなり定着してきたように感じている。

○ コーディネーターを核として広がるボランティアの輪

北里小学校区を基盤としながら、ボランティア登録はしていないが、本年度約300名を超える方にお世話になった。

本校児童の一部が自転車通学をしており、地域の自転車屋さんを中心に無料点検を実施してくださったり、昼休みに手作りおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを毎週開いたりして子どもたちのために活動してくださっている。

また、地域探険では、故郷の歴史や史跡の説明など、たくさんの方にガイドしていただいている。

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。

■ 特徴的な活動内容

○ボランティアグループ［ほんわか］による読み語り

落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で朝10分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ[ほんわか]さんによる「読み語り」を継続している。

12月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっているが、読み語り終了後、図書室の整備をしてくださる方もおられる。また、地域には現役時代図書館に勤務されていた専門家もおられ、多いときには週３回、図書室の整備をしてくださっている。

新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当してくださり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを暖かく支えてくださっている。その方の姿を見てか、徐々にできる範囲で図書室の整備をしてくださる方の輪が広がってきている。

■ 実施に当たっての工夫

・地域商店街（商業協同組合）との連携をはかるなかで、ボランティアポイントカードを発行し、地域商店街の活性化に繋がる事業展開を実施していること。
・地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。
・実績記録は確実に残すが、人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアさんに依頼していること。
・保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

■ 事業の成果

○地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。中には学校にお招きして感謝状や試食会を催した学年もあった。

ボランティアポイントについては、現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

○まちづくり協議会との連携

まちづくり協議会の組織の中に、学区の子どもたちに多様な体験活動を仕組んでくださる方々がおられる。もちろん、ここにもたくさんの地域の方々が関わってくださっている。この「子体験活動部」と学校の支援事業が今年度から連携を始めることとなった。

■ 事業実施上の課題

・今後まちづくり協議会との連携が、より結びつきの強く深くなるよう、組織の面からも連動することが必要であると考える。

■ ボランティアさんの特徴を生かし、学校のニーズに合わせてつなぐ武佐学区支援地域本部事業

■ 近江八幡市町
■ 活動名 武佐学区支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 武佐小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	７９ 人
開 始 年 度	平成２１年度

■ 活動の概要
・小学校区内の地域の方にボランティア登録をお願いし、学校の授業や行事で必要な時に来ていただく。
・ボランティアさんの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

■ 特徴的な活動内容
・プールやクラブ活動、家庭科等、よりきめ細かな指導が求められる授業に定期的に参加してもらう。
・体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
・地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらう。
・警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

■ 実施に当たっての工夫
・学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
・ボランティアさんの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせるようにしている。
・ボランティアさんどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
・ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアさんに送っている。

■ 事業の成果
・ボランティアの方に学校に来ていただいたり、地域で児童の支援を行っていただいたりすることで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
・地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
・授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていただけるので、児童一人一人によりきめ細やかな支援ができた。
・教室内の教科書を中心とした授業だけにならずに、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■ 事業実施上の課題
・企業やボランティアさんのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただいていたり良い特徴を持っておられるにもかかわらず、うまく活用し切れていないことがある。
・コーディネーターさんの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。

【 お話会 】

【 家庭科裁縫 】

■ 地域で育てる老蘇っ子

■ 近江八幡市	
■ 活動名 老蘇小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 老蘇小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	１９ 人
開 始 年 度	平成２３年度

■ 活動の概要

地域の方の支援による水田学習や図書の読み聞かせをはじめ、保護者や地域の方々に来校いただいてオープンスクールを開催している。本校では、地域の方の支援を受け、学校・家庭・地域が一同に会して様々な交流活動を行なっている。また、老蘇まちづくり協議会としての支援をうけた取り組みも行っている。

ボランティアの登録数も十分とはいかないが、本年度も募集を行ない、ボランティアの確保に取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

・４月 ②年 たけのこ掘り（三橋さん）
・４月 ④年 はちみつ体験（安土大好きみんなの会・養蜂園）
・４月 ⑥年 安土考古博物館見学
・４月 ⑤年 もみまき（大林正夫さん）
・５月 ⑤年 田植え（大林正夫さん）
・５月 ②年 野菜の苗植え指導（井上富美子さん・井上ミツ子さん）
・５月 ③年 奥石神社訪問（神職 井上さん）
・５月 ③年 石寺蓮池の話（土田庄之助さん）
・５月 ④年 菜の花の刈り取り（大林正夫さん）
・５月 ④年 いちご狩り（大林正夫さん）
・５月 ④年 へちま棚製作（大林正夫さん）
・５月 ⑤年 びわこ揚水機場見学
・６月 全校 交通安全教室

・６月 ④年 パッカー車によるゴミ学習（日吉 南さん）
・６月 ②年 石寺まち探検（川村妙子さん）
・６月 ⑤年 アイヌ文化講話（人生伝承塾 居壁太さん）
・６月 ④年 日野町クリーンわたむき見学
・６月 ④年 西の湖学習（人生伝承塾 奥田修三さん）
・６月 ⑥年 茶碗製作（陶芸の森）
・６月 ⑤年 ﾆｺﾞﾛﾌﾞﾅ仔魚養流と水生生物観察（ﾎﾞﾃﾞｨｶﾞﾄﾗｽﾄ）
・６月 ③年 図書館見学
・７月 ⑤年 ﾆｺﾞﾛﾌﾞﾅ稚魚の轟川放流
・７月 ⑥年 茶道教室（人生伝承塾 木俣唱子さん）
・９月 ④年 ひょうたん作り（水音治郎さん）
・９月 ⑤年 稲刈り（大林正夫さん）
・９月 ④年 ヨシ灯り作り（棚橋さん）
・10 月 ④年 菜の花の刈り取り脱穀（大林正夫さん
・10 月 ③年 森本養豚場見学
・10 月 ⑤年 家庭科ミシンがけ支援
・10 月 ⑤年 山梶製作所見学
・10 月 ③年 フレンドマート見学
・11 月 全校 オープンスクールデー（営農組合・老人クラブ・婦人会・まちづくり協議会）
・11 月 ③年 菜の花の植え付け（安田惣左右衛門さん）
・11 月 ③年 石寺れんこん栽培見学
・12 月 ⑥年 戦争体験講話（村地習作さん）
・12 月 ③年 盲導犬の話（人生伝承塾 原田勇さん）
・毎週水曜日 くすくすさんお話会（図書ボランティア）

■ 実施に当たっての工夫

学校支援の取組みの情報発信として、昨年に引き続き『ボランティア通信』を年に数回発行し、地域に配布・回覧することでボランティア活動の様子をわかりやすく紹介している。

■ 事業の成果

地域の方の支援を受け、学校・家庭・地域が一同に会して様々な交流活動を行なっているので、より密接に関係が深まっている。

■ 事業実施上の課題

土日に活動があり、職員の負担になっていることが懸念される。

■ 地域と共に子どもを育てる

■ 近江八幡市
■ 活動名 八幡西中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 八幡西中学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	１０ 人
開 始 年 度	平成２１年度

■ 活動の概要

本校は「美しく生きる」を教訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいます。その実現のために地域の人々に協力を願った結果、学校支援コーディネーターを中心にいろいろな分野での学校支援活動の輪が広がっている。

■ 特徴的な活動内容

（1）部活動支援活動の実施

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部・テニス部でほぼ１年をとおして、軟式野球部は数回だがお世話になっている。これらの部活動の支援員さんは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。

また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

（2）学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんにお願いしている。ホームページの更新作業も、支援員さんにより定期的にお願いしている。行事等があった場合は時間をおかず、その日のうちに情報を提供していただいている。今年は、修学旅行での情報提供をホームページ上に構築し、保護者が利用しやすいように変更していただいた。

（3）環境整備支援

支援員さんとＰＴＡによる環境整備事業を計画的に取り組んでいただいた。夏休みの一斉除草作業や卒業式の花道に使うビオラとパンジーのプランターへの花植えなどの活動などである。

また、プランターへの花植え活動は桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」と協同でおこない、幼稚園や小学校、子どもセンターなど地域施設へのお裾分けをおこなった。

【ホームページの製作】

■ 実施に当たっての工夫

・事業内容が地域にも分かるようビラを作成したり、子どもたちにもどういう人が関わっているのかが分かるよう図書室などに掲示した。
・部活動指導については、コーディネーターや部活顧問との連絡調整を緊密に持ち、学校教育方針に沿った指導をお願いした。

■ 事業の成果

○「事業で子どもがどのように代わったか」

・部活動の指導においては、学校では教えられない事柄について子どもたちは学ぶことができ教師の指導を素直に受け入れることができるようになった生徒もいる。
・部活動では、社会で必要な礼儀やあいさつなど人として基本的で大切なことがらを指導していただき、随分あいさつができるようになった。
・部活動の技術指導においては、教師ができない専門的な指導をしていただいた。そのため、技術の飛躍的な向上が見られた。
・環境整備事業で中庭の校長室に面した花壇にチューリップ、ストック、桜草等を植えてもらい、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様はもちろん生徒、教師の心を豊かにしてもらっている。

○「主な子どもの声」

・支援員さんは忙しいのに土曜、日曜など休みの日に指導してくださいました。ありがとうございます。これからもご指導よろしくお願いします。
・支援員さんは、指導だけでなくボールに空気を入れたりしてくれます。怒るときもしっかり言ってくださいます。とてもがんばって指導してくれます。いつもありがとうございます。

■ 事業実施上の課題

・学校支援地域本部事業を立ち上げ６年目になるが、地域の人が、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを痛感する。今年も支援員募集の案内を行っているが、予想以上に中学校の敷居は高いようで、思ったように人を集められない現実がある。「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという点にあると思われる。また、支援員さんの高齢化が進み、新たな人材の確保が急務である。
・別室登校の生徒や怠学傾向の生徒の数が増加しているが、学習の補助をお願いするこの分野の人材の発掘ができていない。教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。

■　ふるさとを知る・学ぶ～地域で学びの応援団～

■　近江八幡市	
■　活動名 八幡東中学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 八幡東中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２０人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

出会いと体験を通して、実感することにより、学びが単なる知識理解で終わることなく、自らの生き方を考える機会となるように、また、実践的態度として現れるように、総合的な学習の時間を中心に、講演会や聴き取り学習、体験学習を行った。

■　特徴的な活動内容

①地域調べ学習（１年）

・身近でありながら知らないことがたくさんある近江八幡市について、６つのカテゴリ（歴史・人物・食物・環境・文化・産業）に別れて、班ごとに調べ学習を行った。まず、本やインターネットで調べ、さらに現地に出かけ、聴き取り学習を行った。学習のまとめとして、パンフレットを作成して、班ごとに発表した。学年全体の発表会を親子フォーラムとして開催し、市のボランティア協会による観光紙芝居を親子で鑑賞した。

②人権学習、福祉学習（各学年）

・読み物資料やビデオといった教材での学習に加えて、近くで生活している方々を講師に迎え、直接話を聴く人権学習や福祉学習を行った。

【地域調べ（聴き取り学習の様子）】

■　実施に当たっての工夫

・生徒の発達段階や状況に合わせて、学年単位で実施したり、学級単位、班単位で実施したりして学習を行った。生徒が、講師をできるだけ、身近に感じることができるように、学習形態を工夫した。

■　事業の成果

〇生徒の感想

・今まで、何も気にしないで自転車を止めていたけど、今日の話を聞いて、目の不自由な人や車いすの人が困らないように、歩道や点字ブロックの上には自転車を止めないように気をつけようと思った。
・みんなに笑顔であいさつして、地域の人とコミュニケーションをとっていきたいと思います。そして、薬物、たばこなどの危険な物についてこれからもいろいろと自分なりに考えていけたら良いなと思っています。
・今日は、胸骨圧迫のやり方やＡＥＤの使い方を実際にすることができて、とても勉強になりました。普段の生活で倒れている人がいたら、学んだことを活かしたいと思います。３時間の授業があっという間で、とても楽しく学習することができました。

〇上記の感想のように、盲導犬との生活や車いすの生活が、関係のない社会ではなく、自分自身の生活と関わっていることに気づくことができ、日常生活への気配りや実践へとつながった。

〇薬物・性・命について身近な問題として考える機会ができ、友だちとのつきあい方、異性とのコミュニケーションの取り方を学習することができた。

〇その他、郷土近江八幡に興味を持ち、文化や伝統、産業などに触れる機会ができた。

〇授業の中で、学校関係者ではない多くの方々と出会い関わることができたことが、最も有意義であった。

【人権学習（盲導犬との生活から）】

■　事業実施上の課題

・教育課程から、特設の授業を行うには、内容や時間に制限がある。現在は、総合的な学習の時間で実施しているが、各教科学習内容を深めたり、活用したりする時間として実施できればよい。
・外部講師や、ボランティアを活用するためには、事前打合せ等が必要で、そのための時間確保が必要である。

■ 地域の力を学校に！！ 学校支援ボランティア

■ 近江八幡市	
■ 活動名 安土中学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 安土中学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	５６ 人
開 始 年 度	平成２３年度

■ 活動の概要

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための１つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくり」を進めている。以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。本事業でも学校支援コーディネーターを核として多くの学校支援ボランティアの方々の協力を得て、地域の特色を生かした教育活動を展開している。茶道体験活動、読書活動、環境整備活動等、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施する中で、生徒たちはいろいろなことを学んでいる。

このように、この事業を通じて地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりが更に進むことを期待する。

■ 特徴的な活動内容

①茶道体験活動

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長が茶道をこよなく愛したと言われている。また、信長が茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の一つとして、茶道体験を行っている。今年度も１年生全員を対象とした茶道体験教室や希望する生徒を対象とした茶道体験クラブを実施した。また、文化祭「天正祭」には、保護者や地域の方々向けの茶道教室を実施している。

②読書活動

本校では朝に 10 分間の「こつこつタイム」があり、１、２年生は朝読書に取り組んでいる。校区の２小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が 10 分間の読書活動に静かに取り組めている。そのような中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼して全学年で実施している。

③環境整備活動

本校には、植栽豊富な中庭があり、またその中には県下唯一の茶室「天正庵」がある。また、校舎周辺には６月頃に見頃を迎える 1300 本もの紫陽花が植えられている。これらの植栽の剪定・除草作業の支援をいただいている。さらに、必要に応じて他の学校環境整備に関わる支援活動もお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

・事業が長続きするためにも各活動の企画・運営すべてを学校支援コーディネーターにお願いするとともに、学校支援ボランティアの手配等もすべて担当していただいている。
・各活動で、学校支援ボランティアの方に準備から後始末までお願いできることはすべてお願いし、ボランティアの方のできる範囲内で活動を実施しているため、学校の負担は多くはない。
・各活動をしっかりマニュアル化することで、毎年同じことがスムーズに実施できるようにしている。

■ 事業の成果

・茶道体験教室等は、地域の特色を生かした活動で、生徒の関心を地域に向けることによって地域の良さ等を再発見する機会となっている。
・多くの地域の方と触れ合うことで、人との関わりやコミュニケーションを通して、人と関わる礼節などの社会性を身に付けていく。
・多くの貴重な体験を通して、教科等では学べない多くのことを学んでいる。

■ 事業実施上の課題

・今後、事業が継続し、各活動が充実するためにも学校支援コーディネーター、学校支援ボランティアの更なる発掘が大きな課題である。

■　地域の子どもは地域みんなで育てる

■　近江八幡市	
■　活動名 岡山幼稚園支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 岡山幼稚園	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	３４人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

・「地域の子どもは地域みんなで育てる」という岡山学区民の思いを大事にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てていく。

■　特徴的な活動内容

〇幼児教育の充実のために、地域の方々の力が発揮できるような活動を中心に計画を立て取り組んだ。

①保育支援・・・毎日の遊びや生活の支援・給食時の見守り・保育参加
②環境整備・・・プランターの花植え、植え方の指導支援・除草・樹木の剪定
③託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園の行事の時の託児

■　実施に当たっての工夫

・地域の会議での活動の周知
・コミュニティだより、園だより、クラスだより等での活動の報告

■　事業の成果

・「地域の子どもは地域みんなで育てる」という岡山学区民の思いを受けながら、幼稚園教育の充実のために、昨年度の活動の反省と課題を考慮しながら、地域コーディネーターと共に事業を進めてきた。
・今年度より、いろいろな特技を持っておられる地域の方々に保育に入っていただき、ていねいに関わっていただくことで、子ども達もあこがれたり、活動への意欲をもったりしてきた。
・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで、子どもの姿を知っていただくことができた。また、地域の方々の協力や子どもを育てることへの思いを感じた。
・子どもにとって、先生以外の地域の人たちにかかわることによって、一緒に遊んだり優しい声かけをしてもらったりして安心して幼稚園生活を過ごすことができた。

■事業実施上の課題

・今年度より、いろいろな特技を持っておられる地域の方々に保育に参加していただいた。来年度は、保育への参加を計画的に進められるようにしながら、さらに子ども達のあそびへの興味関心を高めていけるようにしていきたい。

【４歳児・折り紙でサンタクロースを折ろう。】
「どう折るの教えて・・・。」「じょうずに折れたね。」

【５歳児・こままわし教室 】
「はじめてまわせた！」「もう一回、まわしてみたい。」

■ 地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を

■ 近江八幡市	
■ 活動名 桐原幼稚園支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 桐原幼稚園	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３５ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

本事業を広く知ってもらえるように、月に１度のペースで活動内容などをおたよりにし、配布している。主な活動としては、畑を耕す・畝を作る・マルチをかけるなど畑の下準備や花壇の花苗植えなどの環境整備、子どもたちのボタン留めやリボン結びの練習になるような布おもちゃを作る手芸、そして２年目である今年度よりスタートしたものは４・５歳児への絵本の読み聞かせ、講演会や運動会の前日準備の際の未就園児の託児、園外保育時の安全指導がある。

■ 特徴的な活動内容

今年度から４・５歳児へ絵本の読み聞かせをしていただいている。季節にそった絵本や子どもたちの興味をそそる絵本、科学の絵本などを選んで読んでくださり、ボランティアの方々も子どもたちの喜ぶ姿や読み聞かせをしている時の子どもたちとのやりとりを楽しみに、読みに来てくださっている。絵本だけでなく子どもたちの聞く力が育つように、素話（すばなし）も取り入れてくださり、子どもたちにとって楽しみな時間でもあり、先生や保護者以外の方に絵本を読んでもらうという良い時間をもてているのではないかと思う。（３歳児への絵本の読み聞かせは３学期より始める予定）

■ 実施に当たっての工夫

・園外保育時の安全指導は、小学校に入学した時のことを考えて、スクールガードで活動してくださっている方にボランティアをお願いした。
・保護者ボランティアが参加しやすいように、子どもを送った後からなど時間をはっきり決めないようにした。
・その日の活動を園内に掲示し、参加したことのない保護者にも興味をもってもらえるようにした。
・ボランティアの活動状況を保護者におたよりで知らせ、興味のあることから参加してもらえるようにした。

■ 事業の成果

・桐原幼稚園は今年で２年目だが、少しずつ地域の方にも本事業が浸透してきたようで直接幼稚園にボランティアでお手伝いしたいという連絡をいただくことがあった。
・子どもたちにとって、保護者や祖父母以外の地域の方と関わることが良い経験になっていると思う。小学校に入学してからもスクールガードや小学校のボランティアとして子どもたちと関わってくださる方も多いので、通学時など見知った人がいることで、子どもたちの安心材料になっている。ボランティアの方にとっても、園以外で子どもたちに声を掛けることができない今、子どもたちと関われることが楽しく思っていただいているようだ。
・講演会や運動会の前日準備の際の未就園児の託児では、普段ゆっくりお話を聴けなかった保護者も集中して聴くことができたと喜んでいた。ボランティアの方々も子どもたちと折り紙や工作をしながら遊ぶことができて楽しかったといってくださった。
・園外保育時の安全指導では、交差点での横断歩道を渡る際の見守りや、子どもたちのペースに合わせ先導して歩いてくださり、小学校での集団登校の良い予行練習になったのではないかと思う。
・特に環境整備の畑の下準備など、地域ボランティアの方を中心に作業のやり方などを教えてもらうだけでなく、保護者と地域の方の異世代交流にもつながったようだ。

■ 事業実施上の課題

・同じボランティアの方に偏ってしまいがちなので、保護者を含め支援ボランティアをどうやって増やしていくか。今活動してくださっているボランティアの方々を大事にしながら、より地域と密着して活動を知ってもらい、協力していただけたらと思う。

■　地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・

■　近江八幡市	
■　活動名 金田幼稚園支援地域本部事業（従来型）	
■　関係する学校 金田幼稚園	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２９　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

金田幼稚園創立 50 周年記念のリーフレットの表紙を手作りしよう！！

■　特徴的な活動内容

・平成７～10 年頃、金田幼稚園では、環境学習の一つとして、ケナフを育て和紙づくりをしていました。また、コミュニティーセンターでもケナフを使って、環境問題に取り組んでおられ、当時から、地域と幼稚園が連携を密にした教育がなされていて、今日まで続けられていたことを、今回の取組を期に改めて感じることができると思い、取り組むことにした。その時のケナフを乾燥させたものが保存されていることが分かり、今回、それを使って子どもたちが紙すきに挑戦した。

■　実施に当たっての工夫

・紙すきを楽しく体験できるよう、和紙で「50」の数字は、ちぎり紙で教師が作成し、事前に用意しておく。
・紙すきに協力する保護者に、ボランティアさんによる事前の紙すき講習会をする。
・園児たちは水着に着替えて用意した紙すきの上に「50」を置き、その上からもう一度紙をすいて数字がはがれないようにする。

■　事業の成果

・他にはないたった一つの手作りパンフレットができた。
・50 周年に向けて園児達も祝う気持ちが高まり、環境学習ができるとともに地域の方々とのふれあいもできた。

■　事業実施上の課題

・園児数が多いため難しいが、保護者や地域ボランティアさんの数をもう少し呼びかけることによって環境学習や地域の方のふれあいがもっとできたと思う。
・紙すきをするだけではなく、今年度の 50 周年を機に、ケナフの栽培から地域の方とともに取り組むと更に環境への学習や興味も深まると共に、地域の方々との触れ合いもできたのではないか。

■　その他

・本園は、園児数が多く個性豊かな趣味や才能を持つ保護者の方も多く、経験して来られたことなどいろいろな事に挑戦もでき壁にぶつかった時でもすぐに対処でき、想像以上の作品が仕上がる。また、金田学区は、昔から金田に住んでおられる方と、全国いろいろな所から引っ越してこられた方も多く、それぞれの地域の特色や、経験して来られたことなど幅広く、教えていただく人材も多い。今後も手伝って頂ける地域ボランティアさんをたくさん発掘できるよう力を入れたい。

【 50 周年記念式典　リーフレット 】

【　紙すきの様子　】

■ 「ボランティアさん、ありがとう！また、来てね！」「また、来るよ！」

■ 近江八幡市	
■ 活動名 北里幼稚園支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 北里幼稚園	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	１５ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

①ボランティアポイントの取組

・地域の子ども達を育てる上で、多くのボランティアの方々に支えていただいている。北里商業協同組合のご協力をいただき、保育園・幼稚園・小学校にボランティアの提供をいただいた方に買い物補助券を渡し、お礼の１つとしている。

②地域・ボランティアとのパイプ役

・昨年度に参加していただいたボランティアに加えて、今年度は、今まで食育支援の一員として活躍されていた方や保護者サークルにも参加していただけ、幅広い人材となった。

③年間計画立案や事業の実施

・どの行事や事業にボランティアに来ていただくといいのか、保育展開の中にどのように活かしていけばいいのか等、考えあわせて活動を展開した。

■ 特徴的な活動内容

①絵本の読み聞かせ・紙芝居上演

・毎月１回年間計画に位置付け実施した。行事の中に組み入れたり、季節に合わせた内容にしていただいたりしている。事前に打ち合わせ、年齢や発達に応じた絵本選び、読み方等についても各自で工夫していただくことができた。

②食育サポート（カレー作り、焼き芋、おでんパーティー等）

・栽培活動を活かしての様々な食育推進を実施する中、子ども達がクッキングし収穫の喜びやみんなで食べることの楽しさを味わっている。包丁の持ち方を教えてもらったり、見守ってもらったりして、一人ひとりの子ども達が安心して自信を持ってクッキングできるようになってきた。

③その他（環境整備、お茶会サポート、昔遊び、英語で遊ぼう、腹話術）

・環境整備、お茶会の手伝い、昔遊びへの参加等があり、年間を通しての見通しを持ち、その都度詳細について検討し、事業展開に努めた。

■ 実施に当たっての工夫

・年度当初にボランティアにきていただく内容検討を図り、募集チラシを全戸配布しボランティアを募った。
・学期毎に、掲示物を作成し、子ども達、保護者、来園者に見ていただけるように展示した。多くの方々に活動を理解していただけ、身近なところに掲示することで、子どもも保護者も関心をもって見ることができた。
・幼稚園から発行している情報誌に記事を掲載し、月１回の情報発信に努めた。
・活動毎に実施記録を作成し、実施内容や参加者、感想、反省、課題等を記録に残し、次回の活動展開につなげた。

■ 事業の成果

・カレー・お茶会・おでんサポート、昔遊び、花壇整備、月１回の紙芝居や絵本の読み聞かせ、英語で遊ぼう等のボランティアに来ていただくことができた。一緒にクッキングをしたり、紙芝居や絵本を読んだりしていただくことで、子ども達は、自然に親しみをもち、笑顔でかかわることができた。来てくださったボランティアの方々も大変喜んでくださり、「また来てね！」「いつでも来るよ！また、言ってね。」と気軽に言ってくださる光景も多く見ることができた。

・子ども達が、栽培・収穫した野菜を使って、お世話になった方々を招いて、「ありがとうの会」（おでんパーティー）を開催した。子ども達の感謝の気持ちでおもてなしができ、楽しい会となった。
・ボランティアに来ていただいた後、反省会を持つことで、「～もどうだろう・・」「この内容なら、子ども達も喜ぶのでは・・」とボランティアしていただく内容の広がりが見られ、年間計画のみならず、ボランティア内容の幅が広がった。
・園の行事が豊かになり、参加した方々からは、「子ども達からパワーをもらったわ！」「楽しかった！」と言う声が聞かれたりした。昨年度より参加者数も増えつつある。

■ 事業実施上の課題

・より健やかな子どもの育成につながるよう、地域にどんな人材があるのか、園内にどう活かしていけるのか等を考え今後も実施内容を検討していきたい。

■ つながる、広がる、ボランティアの輪！

■ 近江八幡市	
■ 活動名 安土幼稚園援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 安土幼稚園	

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	５０ 人
開 始 年 度	平成２４年度

■ 活動の概要

本園でのボランティア活動は３年目を迎え、保護者の中にかなり浸透してきた。今年度も、環境・託児・図書の３つのボランティアを募り、事業を進めていった。ボランティアは地域ボランティア、保護者ボランティアで構成されており、今年度は、保護者同士の口コミもあって、誘い合って登録する人もおり、保護者のボランティア登録者が昨年より増加した。

≪環境≫　木々の剪定や落葉拾いなど時期を見て実施し、子どもたちが安全で過ごしやすいように環境を整えていった。また、園庭で気持ちよく活動ができるように、なつまつりや運動会前に園庭の除草作業を実施。このときは、登録している人だけではなく、保護者全員に知らせて、ボランティアを募っていった。参加してもらいやすいように、8 時 30 分から 9 時 30 分までの１時間を３日間というように設定し､気軽に参加してもらえるようにしたことで多くの保護者に参加してもらえ、その様子を見た子どもたちも一緒に作業をするようになっていった。

年に２回、花壇の花植えの企画（花の種類や配置などのデザイン）をして、子ども達と一緒に花を植えた。専門的な知識を持ったボランティアが子どもたちに植え方や世話の仕方などの話をし、大切に植えて花がいっぱいになるのを楽しみに植えていった。

≪託児≫　保護者がゆったりと子どもの参観に行けるように、参観のたびに託児を設けている。申し込みの人数に合わせて、ボランティアに声をかけ、参観の間、未就園の子ども達を預かった。３学年が同じ日に実施する保育参観の時には、地域ボランティアが託児を、各学年ごとの参観日には他学年の保護者ボランティアが託児を担当するようにし、互いに見合う体制にしていった。

≪図書≫　毎月１回絵本のよみきかせをしている。よみきかせの経験のある人もいれば、ない人もいるので、経験のある人とペアを組み、よみきかせの様子を見せてもらうことをしながら、どういうふうに読んだらいいのか、どんな本を選んだらいいのかなど工夫しながら進めている。また、毎週水曜日は、絵本の修理日として位置づけ、参加できる人が参加できる時間に絵本の修理や整理をする日にしている。

ボランティアが少しでも楽しく自信をもって読み聞かせができるように安土図書館司書を講師に招いて研修会を行い、よみきかせの悩みも出し合いながら、絵本の読み方や持ち方などアドバイスをしていただいた。

■ 特徴的な活動内容

園庭の木々が大きくなりすぎて困っていたところ、レイカディア大学を卒業された方が中心となって活動されているボランティアに、木々の剪定をしてもらうことになった。コーディネーターを中心に、園のボランティア、職員も一緒に作業をし、２日間にわたる大がかりな作業だったが、協力し合って気持ちよくできた活動となった。

園での困りごとをコーディネーターがしっかりと受け止め、色々な人に声をかけていく中で、ボランティアの活動の場を求めている方にうまくつながったという結果になった。

■ 実施に当たっての工夫

コーディネーターを中心に、気軽に楽しく活動できる雰囲気づくりを心がけ、やって楽しかった、やりがいを感じたと思ってもらえるようにしている。職員間でボランティアの活動の様子を共通理解し、してもらっていることを子どもたちに知らせて、感謝の気持ちがもてるよう、互いに気持ちよさを感じられるよう進めている。また、ボランティアが負担に感じないように、活動によっては、時間や日程に幅をもたせて「いける時に行く」体制にしていった。

■ 事業の成果

ボランティアだよりや、保護者の口コミで活動の内容や楽しさなどが伝わってきている。参加したボランティアからも、「ドキドキするけど、読み聞かせを聞いてもらえるのが楽しい」「家にいるより、体を動かしたり、人と関わったりしている方がいい」という声もあり、やりがいを感じて参加する人が増えてきた。また、新たなボランティアの参加もあり、人とつながって広がっているボランティア活動を実感できた。

■ 事業実施上の課題

今のボランティアの範囲でできることもあるが、今回のように木の剪定など専門にされている方とつながっていけるよう、このことならここへ聞いてみたらいいという体制づくりが必要と感じた。

■ 地域の方と共につながる園教育を！

■ 近江八幡市
■ 活動名 老蘇幼稚園支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 老蘇幼稚園

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	２４ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

昨年度より学校支援地域本部事業に取り組み、①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業など）②絵本の読み聞かせ（月２回～４回）③託児支援（保育参観・学級懇談会・ＰＴＡ研修会など園の行事の間）④水遊び支援（３歳児の水遊び時の着替え支援）を中心に教育活動を支援する。今年度も支援ボランティアを募集し、できる方ができる時に活動に参加してくださるように、コーディネーターの連携のもと事業を進める。

■ 特徴的な活動内容

・栽培活動
畑作りからサツマイモの苗植え指導をする。（４・５歳児と一緒に）
夏の花苗植えをする。（５歳児と一緒に）
・園庭整備
園庭の除草作業をする。
・絵本の読み聞かせ
給食後・・絵本室で子どもたちの選んだ好きな本を読む。
降園前・・保育室で３・４・５歳児それぞれのクラスで、ボランティアさんが選んだ本を子どもたちに読み聞かせをする。
・水遊び支援
３歳児の水遊びの時に、水着への着替えや衣服の着脱支援をする。
・託児支援
保育参観・学級懇談会・給食試食会・ＰＴＡ研修会など園の行事に、託児をする。

■ 実施に当たっての工夫

・昨年より継続した活動に水遊び支援を加え、更に事業が充実できるよう進めていった。保護者や地域の方に昨年の成果や事業内容を知ってもらえるよう手紙を配布し、昨年度より参加されている方は継続してそして更に人数が増えるようボランティアを募った。
・絵本の読み聞かせにおいては、時間帯や場所を検討し、クラス全員のこどもたちに読み聞かせをする機会をつくる。

■ 事業の成果

・運動会前に園庭の除草作業の手伝いを募ったところ保護者も多数参加し、ボランティアの方と一緒になって作業を進めることができた。きれいになった園庭で、子どもたちは気持ちよく活動し、運動会も安全に楽しく開催することができた。
・絵本の読み聞かせは、給食後の時間を利用、木曜日を原則に絵本室で子どもが選んだ本を読んでもらいほっとする一時となった。また、その後は保育室で降園前に絵本の読み聞かせをする。読み聞かせだけに終わらず、ＣＤに合わせた歌を取り入れたり、動いたりと子どもたちが絵本の世界を楽しむ機会がもてた。
・栽培活動では、畑作りから苗植え収穫まで指導していただき子どもたちと一緒に作業をしていただいた。子どもたちも水やりなど頑張ってし、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。
・保育参観や学級懇談会・ＰＴＡ研修会など園の行事に、託児をしていただいたことで、下の子を気にせず、保護者は安心して我が子の様子を見たり関わったり研修に参加することができた。
・支援ボランティアの方も子どもたちの名前を覚えて親しみをもって関わってくださったり「一緒に遊んで楽しかった。」「元気をもらった。」と関わりを楽しみ、喜んで参加してくださる姿が見られた。
・事業内容を理解して、園の活動に進んで支援をしたり、協力したりする姿が見られ、継続事業のよさが感じられた。

■ 事業実施上の課題

・できる人ができる時にということで、事業を進めているが、保護者ボランテイアにおいても、仕事に出られる方も増え、なかなか事業を進めるにあたって、ボランティア人数が少なくなってきている。充実した事業を進めるためには、豊かな人材の発掘が必要であり、より多くの方に地域ボランテイアとして気軽に参加していただけるように努めていきたい。園教育の理解をしていただきながら、園と地域がともに子どもたちを育てていけるようにしていきたい。

■　栗東市における学校支援地域本部の取組

■　めざす姿

地域の方々の理解、協力を得ながら、とりわけ学校での活動における健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は９小学校、３中学校を有しているが、そのうち１中学校において、学校支援地域本部を設置している。もとより、地域のボランティアの方々により生徒指導面における学校支援を目的として組織された団体が基幹となって活動を進められており、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、学校や家庭での教育活動支援を進めている。

当該校における活動が青少年の育成に良い影響をもたらし、他校へと広まっていくことによって、市全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上、学校との連携を深め、広げていくことをめざしている。

■　本年度の活動

１校において学校地域支援本部を設置している。サポーター会議において年間の行事予定や、サポーターを増やす試みについての取り組みについて協議を行った。

■　本年度の成果

１校のみではあるが、その中で美化活動や見守りをはじめ、サポーターの協力を得ながら多くの活動を実施できた。校内の活動だけではなく、育てた作物の販売等、他団体（ＪＡ）の協力も得られ、サポーター活動について、多くの人に広報ができたと感じている。

■　今後の課題

他校にどのように広めていくかが課題である。一番の問題となるのはスタッフの確保である。企業の人材不足により、高齢者の再雇用や女性の社会進出が進んでいることで、ボランティアとしてスタッフを募集しても、人が集まりにくい。「学校関係の活動に対する協力」となると構えてしまう人が多いとも考えられる。まず、コーディネーターとなる人材の安定的な雇用を確立し、常に地域に対して学校支援への協力を呼びかけられるような体制づくりが求められる。

学校運営について協力する団体としてはＰＴＡもあり、活動が重複する組織の設立、活動の実施については行政側から強く推進しても「負担の押し付け」ととらえられる恐れもあることから、地道な啓発活動により、地域から自発的に活動が起こるよう期待している。

現在実施している１校の活動内容や実績を広く広報することにより、他校での実施の気運を盛り上げていくことが必要である。

■ 「おらが学校！」 地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」

■ 栗東市	
■ 活動名 「栗中サポーターズクラブ」 栗東中学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 栗東市立栗東中学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	２８人
開 始 年 度	平成２０年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成 19 年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。

発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を校内に増やす取組からスタートした。

現在 28 名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と 45 社の学校支援地域本部をサポートする地域事業所「栗中ブースターズ」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く学校教育支援活動を実施している。

【生徒と共に地域清掃】

■ 特徴的な活動内容

①学習環境支援・・・美化活動を兼ねて学習の様子を参観
②図書室支援・・・新着図書のデータ登録や書籍整理など図書室運営全般を支援
③環境整備支援・・・破損箇所修理や植栽伐採など、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援
④通学マナーアップ・・・登下校時の危険箇所での立番活動
⑤学校行事支援・・・学校行事、校外学習、生徒会活動などへの支援
⑥栗中コミュニティガーデン・・・学校と地域との協働運営菜園で野菜等の栽培

【学校と地域の協働運営菜園で収穫した野菜を地域に販売】

■ 実施に当たっての工夫

・「栗中サポーター」の来校を職員へ周知・・・来校時には専用のユニホームを着用していただき、職員にサポーターの来校が一目で分かるようにする。また、来校される方の名前と活動内容を職員黒板に記し、全職員への周知に努める。
・職員の確実な対応・・・「栗中サポーター」の活動時には、必ずコーディネーター、または管理職等が対応。「栗中サポーター」任せにならないように、毎回学校との交流を欠かさないようにする。また、活動前後には、直接「栗中サポーター」から話を聞き、「栗中サポーター」の想いやアイデアを大切にするように心がける。そして活動後には、可能な限り報告書に活動内容や感想等を記入していただき、活動を形として残す。
・校内に「栗中サポーター」専用スペースを確保・・・「栗中サポーター」専用の部屋を設け、活動の前後の時間を過ごしていただく。この部屋は、「栗中サポーター」と職員が活動の打合せをしたり、「栗中サポーター」同士の交流の場として活用している。このような専用の空間を設けることで、用具や備品の区別化だけでなく、校内での「栗中サポーター」の位置づけを明確にし、よりスムーズな活動へとつなげるようにする。
・目に見える活動報告・・・幅広く地域住民に支援活動を報告するため月報の「栗中サポーター通信」を保護者、地域自治会長、民生委員、主任児童委員、補導員、保護司あてに毎月 900 部配布。また、校内には校長室前壁面に活動の様子を、写真を交えて紹介し、外部からの来校者の目にも留まるよう掲示する。

■ 事業の成果

校内巡回による授業時の見守り、通学時の危険箇所の見守り、図書室整備、美化環境作業支援など、発足当時から継続してきた校内中心での支援活動に加え、近年では学校行事支援や協働菜園運営など、新しい取組も発展、定着させてきた。このことにより、「栗中サポーター」活動の幅が広がり、また同時に活動の場も地域へと広がりを見せている。具体例としては、協働菜園での収穫野菜をＪＡや２年生勤労体験学習の一環である起業体験店舗で販売したり、生徒会や部活動との協働実施の地域美化活動を行ったりするなどである。このため、学校関係者だけでなく、広く一般の方々に、地域住民で組織する学校教育支援団体「栗中サポーターズクラブ」について認知していただく機会となった。そして今年度はこれまで継続してきた「栗中サポーター」活動が認められる場が多い１年でもあった。「栗東市青少年育成功労者」への表彰、滋賀県教育会「心の教育推進事業」への表彰、そして、文部科学省「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」受賞といった場で、「栗中サポーター」活動の功績が認められた。これらの受賞は、「栗中サポーター」にとっても、今後の活動への大きな原動力にもなっていると実感している。

■ 事業実施上の課題

本校の学校支援地域本部活動も７年になり、校内のみならず、地域へも活動がひろがってきたが、登録いただけるサポーター数が増えない状況にある。地域の様々な場で広報活動を実施し、多くの方々に興味を示していただけるが、なかなか「栗中サポーター」としての登録までいかないのが現状である。学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」を今後も継続させていくためにも、この事業の成果と必要性をより多くの方々に知っていただき、息の長い安定した支援活動にしていくことが課題といえる。

■　湖南市における学校支援地域本部の取組（従来型）

■　めざす姿

本市においては、「学校支援地域本部事業」の取組を開始して７年が経過し、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南市ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。すでに岩根小学校は平成 19 年にコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と学校が一体となって子どもたちを支えていく新たな学校の形を推進しているが、他の学校も、それぞれの地域や子どもの課題について実行委員会や学校運営協議会制度導入に向けた「Ｃ･Ｓ推進委員会」で熟議を重ね、地域の力を生かした支援活動のあり方や地域とつながる学校経営マネジメントのあり方について研究を進めている。

■　本年度の活動

学校支援地域本部事業運営委員会　６月６日(金)

１）講話「学校支援地域本部の財政的自立を構想する」

講師　文部科学省　ＣＳマイスター　高木　和久氏

２）中学校区別分散会

学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会　１月 27 日（火）

１）実践発表

２）講演「第三中学校ピア・サポートの取組」

講師　三原市立第三中学校教頭　原　克幸氏

市内全地域コーディネーター交流研修会

第１回　４月 24 日(木)　　第２回　10 月６日(月)

・地域コーディネーターの資質向上、情報ネットワークの構築に向けた研修

中学校区別地域コーディネーター交流研修会　　各学期１回開催

・小中連携、小小連携を意識した学校応援団の取組の企画立案

・学校と地域が連携していじめをなくす取組の情報交換

■　本年度の成果

・地域コーディネーターを中心に小中校区間の情報交換が積極的に行われ、学校や地域の特性・実情を生かしながら、持続する取組の充実が図られた。
・中学校に支援本部が設置されたことにより、小中連携、多世代交流の事業、体験講座の実施など今後につながる新たな活動が創出された。
・従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「授業の補助」に加え、今年度から「土曜の教育支援事業」により、「学力補充のための学習支援」や「体験教室」の取組が積極的に実施され、地域をあげての子どもの学力向上への気運が高まりつつある。

■　今後の課題

・まちづくり協議会の組織に学校と地域を結ぶコーディネーター力が育つことで事業がさらに円滑に実施できると考えられる。研修の機会を持ち、事業の周知と地域人材の育成を図る必要がある。
・経済的自立に向け、地元自治会やまちづくり協議会、企業（事業所）等との連携のあり方を探る。

■ ひとりだちできる子どもの育成を支援します～みくもっ子支援委員会　この１年～

■ 湖南市
■ 活動名 三雲学校支援地域本部（従来型） <みくもっ子支援委員会>
■ 関係する学校 三雲小学校

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	２８３人
開　始　年　度	平成２３年度

■ 活動の概要

前年度展開していた事業を継続し活動している。今年度は、環境支援、見守り支援を主に工夫をし、活動した。

環境支援では、子どもたちの情緒の安定を願った学校の内外の整備を行った。（詳しくは、次項「特徴的な活動内容」参照）

見守り支援では、子どもたちへの寄り添いという思いで続けている掃除のサポート、子どもたちの安全・安心を支援する登下校の通学ボランティアや図書室での見守りボランティアに重点を置いた。

また、家庭教育支援員さんとも連携をとって、不登校傾向の児童の支援についても一緒に相談している。

■ 特徴的な活動内容

環境の整備においては、前庭の植木の剪定、「三雲サクラ花壇」の手入れ、花壇に季節の花植え．防災井戸の囲い作り等を行った。

玄関前では、平成３年３月創立 120 周年記念を記念してつくられた湖南市在住の彫刻家深田充夫さんの「心の鑑」のシンボルを中心に季節の花が彩りを添えている。

この２年間で、前庭が見違えるほど整備された。休み時間には子どもたちも前庭にあるびわ湖池の周りで歓談する姿も見られ、憩いの場として復活した。

【 環境ボランティアで整備した「心の鑑」】

■ 実施に当たっての工夫

花の苗については、前年度の花から種を取り、苗作りを環境ボランティア中心に植栽、草引き、水やりなどの作業は、生き物がかり委員会の児童を中心に、１年中季節の花が咲いているように花壇づくりを進めている。

活動の中で５・６年生の委員会の児童とも交流が深まっている。また、理科や総合学習等で前庭の草花が活用される場面もあり、学習の場としても使用されている。

■ 事業の成果

掃除サポートについては、すぐには成果として表れないものの、去年指導していただいた手洗い場の掃除は、今年度になって、どの学年もスポンジ片手に一生懸命磨いている姿を見ることができた。

登下校の安全を見守る通学ボランティア、図書室での見守りボランティアとして地域の方々に関わってもらうおかげで、子どもたちの聞く姿勢が向上し、一定の成果が見られた。

毎学期末に子どもたちが手紙を書いて通学ボランティアのみなさんに渡す活動も定着してきた。

【休み時間　図書室の見守りボランティア】

・いつも 見まもってくれて ありがとう。車を とめてくれて ありがとう。あめのときも たってくれて ありがとう。（１年生）
・いつもありがとうございます。あいさつをしてくれたら わたしたちもいいきもちになります。これからも みまもってください。（１年生）
・スクールガードさんのおかげで、いつもみんなが安全に登校・下校できています。これからも体に気をつけて、わたしたちを守ってください。（４年生）
・いつも見守ってくださり、ありがとうございます。２学期がんばったことは、しっかりと交通ルールを守ったことです。これからも交通ルール守っていきます。（４年生）
・見守ってくださってありがとうございます。寒くなってくるので、体に気をつけてください。（４年生）

■ 事業実施上の課題

保護者の皆さんの間での本事業の浸透度がまだまだ低いように思える。引き続き広報などで活動発信して、保護者の方々との顔つなぎをもしていくことが必要である。成果がすぐに出なくても長い目で見て積み上げていくことが大切ではないかと考えている。また、新しいボランティアさんの発掘にも力を入れ、定着させていきたい。

何よりも地域や保護者の皆さんに子どもたちの良さを知ってもらえるよう努めたい。

■　支援の広がりと充実をめざした「東っ子応援団」の取り組み

■　湖南市	
■　活動名 三雲東小学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 三雲東小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１５０　人
開　始　年　度	平成２３年度

■　活動の概要

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、地域の大人との様々なふれあい活動を通して、子どもの安全と学習活動の充実を図る。そのために大きく次の３点を中心に取組をすすめている。

①学習活動を支援する。
②安心・安全を確保する。
③学習環境を整備する。

■　特徴的な活動内容

○「菜種の栽培」（農園ボランティアとの定例事業）

その年に採れた菜種を種蒔き・育苗（秋）
→ 育った種を３年生が畑に移植（冬）
→ 新年度に満開（春）
→ 花が終わった菜種を４年生が収穫・乾燥（初夏）
→ 乾燥した菜種を４年生が脱穀（夏）
→ 採れた種の製油作業を業者に依頼・種の一部を次の３年生に送る（夏）
→ 菜種油・油粕をＰＴＡバザーで販売（秋）

※　継続した活動と自主財源の創出、活動への認知を高める広報活動

■　実施に当たっての工夫

○新しいボランティアメンバーの募集で活性化を図る
・在籍児童の親・祖父母等にも積極的に呼び掛けることで、ボランティア参加者が増加。
・コーディネーターが新規参加者へ活動についての説明を実施。
・コーディネーターが参加者と積極的に関わることで人間関係を構築し、円滑なボランティア活動を実現。
・学年の行事や学校行事にもボランティアの参加を意図的に募ることで、参加者の学校理解・児童理解を促進。

■　事業の成果

○学校支援地域本部事業の可能性の拡大
・従来からある「農園ボランティア」のメンバーも新旧の入れ替わりを経て活性化された。
・新規事業が増え、地域の人材の様々な個性が、ボランティア活動に活かされる場面が増えた。
・単発のボランティア参加者が、それを契機に継続して様々な活動に参加してもらえることが増えた。

■　事業実施上の課題

○ 計画的な学習支援について

これまでの経過から、学習支援ボランティア募集の一覧等を作成し、年度初めに提示することで、計画的なボランティアの采配を可能にする。

○学習支援の在り方について

活動に対する児童の満足感を大切にするあまり、「失敗はさせたくない。」「うまく効率よく進めてやりたい。」との大人の思いが前面に出過ぎ、準備や手出しをしすぎるきらいがある。「児童につけたい力」「めざす子ども像」を学校とボランティア参加者が共有するシステムの構築が急がれる。

○事業の今後の方向性について

地域から児童に向けての支援が活発になってきたが、一方で地域の行事等に児童が参加し「役割」を担うことも推進していきたい。こうした双方向の支援の実現を通して、学校支援地域本部事業がより確かな学社連携を推進していく一助になればと考える。

■　その他

○関わってくださっている地域のボランティア参加者に対する児童の感謝を表す場はあるが、保護者にはまだまだそういった活動に対する認知が低い面があることから、広報活動のさらなる工夫を要する。

■ 図書ボランティア“こっとん・トン♪”の取り組み　【下田っ子応援隊　なすびぃず】

■ 湖南市
■ 活動名 下田小学校支援地域本部（従来型） ＜下田っ子応援団　なすびぃず＞
■ 関係する学校 下田小学校

コーディネーター数	２人
ボランティア登録数	１３人
開　始　年　度	平成２４年度

■ 活動の概要

下田小学校では、学校支援地域本部が設置される以前から、図書ボランティアグループの活動がされており、活動内容は子どもたちへの「読み聞かせ」が中心だった。学校支援地域本部が設置されてからも以前と同じように活動を続けていたが、グループの名称がなかったため平成 24 年度に「こっとん・トン♪」という名前をつけた。そして、活動の幅を広げるために昨年度より、読み聞かせグループを「チームＹ」とし、新しく図書室の環境整備のグループも立ち上げ「チームＢ」として活動をはじめ、今年度はより活動を活発にした。

■ 特徴的な活動内容

～「チームＹ」の活動内容 ～
- ・下小タイムでの読み聞かせ
  （火曜日／８時 20 分 ～ ８時 40 分）
- ・１年生への読み聞かせ
  （金曜日／５校時目）

≪活動の目的≫
① 読み聞かせによって様々な本にふれることで、本に親しんでもらう。
② 好きなジャンル以外の本を知る機会を増やす。

～「チームＢ」の活動内容 ～
- ・季節ごとの図書室の飾りの制作、飾りつけ
- ・本の整理、修理

≪活動の目的≫
① 図書室を飾ることで、興味を持ってもらい、足を運んでもらうきっかけにする。
② 季節ごとの飾りつけで、季節の移り変わりや、季節の行事ごとを感じてもらう。
③ 本の修理をおこない、整理をすることで、本を大切に扱う心を育てる。

■ 実施に当たっての工夫

① 以前は、読み聞かせのたびに、使用する絵本などを市の図書館に借りに行く等の手間がかかっていたので、昨年度より小学校の図書室の本を借りることができるように、貸出用バーコードを作成してもらった。
② 「チームＹ」・「チームＢ」どちらにも気軽に参加してもらえるように様々な方に声掛けをした。
（例）・「チームＢ」の集まりの前に登録メンバー以外のボランティアや地域の方にも告知をするようにした。
・「チームＹ」が読み聞かせをしているときに興味のある方には見学に来てもらえるようにした。
④ 図書協力員と地域コーディネーターで、図書室の整理や飾りについて話し合う機会をふやした。

■ 事業の成果

① ボランティアが図書室の本を借りられるようになり、読み聞かせ用の絵本などを用意することが簡単になった。
② 子どもたちに図書室にある本を紹介できるようになった。
③ １年生の教室に毎週のようにボランティアがいくことで、子どもたちの他の活動時にもボランティアがかかわりやすくなった。
④ 図書室を季節ごとに飾ることで、子どもたちはもちろん、ボランティア自身も季節ごとの行事などに関心を持つようになり、飾りつけも外から見たときに美しく見えるように工夫したことで、地域の方にも楽しんでもらえるようになった。
⑤ 活動に参加しやすくなったことで、いろいろな方が来てくださり、交流や情報交換の場としての役割も担うようになってきた。

■ 事業実施上の課題

① 「チームＹ」（読み聞かせ）は難しく考えられてしまい、新しいメンバーが集まりにくい。
② 低学年への読み聞かせ用の絵本を選ぶときも悩むことは多いが、学年が上がるにつけ、本を選ぶときの基準が難しい。
③ 図書室の整理をする時に、ボランティアだけではやりにくいことがある。
④ 図書室の環境整備について、小学校の図書委員会と一緒に何か考えることができるのではないか。
⑤ 中休みや昼休みに子どもたちと一緒に本を選ぶなど、図書委員の補助をするようなボランティアがいてもいいのではないか。

■　地域と共に子どもを育てる　～地域の方は学校へ、子どもは地域へ～

■　湖南市	
■　活動名 日枝中学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 日枝中学校	

コーディネーター数	２　人
ボランティア登録数	１５　人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

自分の持っている力を地域活動に活かすことを通して、感動や達成感を感じてもらえることを目指して活動している。また地域の方々には生徒の自主性、自発性を尊重しながらその時その子が必要とするサポートをしていただいている。

■　特徴的な活動内容

○「お弁当教室」･･･地域の健康推進員の方にお手伝い頂き、お弁当教室に取り組んだ。「簡単お弁当を作ろう～食べることは生きること　食べさすことは愛すること～」をキャッチフレーズに、誰でも失敗なく作れるように献立を工夫した。

学校給食のない日にお弁当を持たせてもらえない子どもが数名いる。近くのコンビニで調達したり、部活動の最中に空腹で倒れ保健室で栄養ドリンクをもらう子どももいる。親に作ってもらった弁当はカッコ悪い、コンビニ弁当の方が良いと思っている子もいる。また、高校へ進学すると給食がなくなり、毎日お弁当を持って登校することになり、親からも毎日のお弁当作りに不安や面倒さを感じるという声も聞かれる。調理に不慣れな子どもや忙しく時間のとりにくい親に、下ごしらえに手間や時間をかけなくても、複雑な作業や味付けがなくても、バランスの良い食事を作ることはできるということを知ってもらえるきっかけになればという目的で実施した。

○「公民ぜみなーる」･･･社会科の先生にお願いをし、中学校の図書館で月に一度夜間に、大人の学びなおしのための公民講座を開講。親や祖父母世代にも苦手意識を持ったまま大人になったという声も多く、学びなおすことで中学生と家での会話のきっかけになることを目指す取り組み。参加者の年齢層も広く、毎回好評で、週末の夜間であるにも関わらず参加人数の減少は見られないうえ、要望により当初より開講日が増えている。

○「湖南工業団地製品の校内展示」･･･自分の育つ街は素敵な所なんだと誇ってもらえるよう地元の特色を紹介する取り組みの一環。中学校から眼下に広がる湖南工業団地だが、一体どんなモノを作っているのか知る人は少ない。そこで学校へ工業製品を貸し出して展示させていただけるよう依頼した。生徒たちに知ってもらうことを工業団地の企業の方々も大変喜んでいただき世界や日本を支える技術の数々に、生徒達だけでなく先生方や来校された地域の方にも驚きや深い興味をもって展示を見ていただけた。

○その他の取組：キャリア教育、サマースクールでの宿題サポート、図書室開館支援、中学生の夏休み学習会、家庭科実習の補助、お弁当教室、水戸まちづくりフェスタ、水戸オータムカーニバル（多文化共生）、下田ふれあいまつり、下田ふれあい餅つき大会

■　実施に当たっての工夫

お弁当教室については、レシピや手順には書いていない裏技や注意点、コツなどを細かく生徒に伝えて頂けるように、本番前にリハーサルを行い、教えてやって頂きたい内容を記した用紙を準備、ひとつひとつの工程でのポイントを全員で共有した。本番にはテーブルに１～２名ずつ指導に入って頂き細かく指導をしていただいた。

そのほかの行事においても、ボランティアの方々に月ごとの学校の行事表をお渡しすることで中学校への継続的な関わりへの声掛けに役立てている。

■　事業の成果

健康推進員さん達をはじめ多くの方々としっかりと関われたことにより、生徒たちは自分たちの地域にはこんなにも沢山の方が健康づくりや安心して活動できる環境づくりのために気を配ってくださっているということに気づくことができた。

地域の方からは難しい、敷居が高いと言われていた中学校への支援が、心配していたとは逆で子どもたちの素直さ、できた時にみせる満足な笑顔に魅了され、中学生とかかわれたことを感謝して頂くこととなった。この取組みの後の応援にも積極的に協力頂けることとなった。様々な取り組みの中で自分の住む近くにいろんな仕事で極めていらっしゃる方がいることに気づくきっかけとなった。

「自分は地域の大人達に歓迎・信頼されている」「地域の子ども達の力になれている」という気持ちから、地域の子ども会などから離れても地域の一員だということを実感してもらうことができたように思う。

先生方からは地域の方に入っていただくことで生徒達のマナーが向上し落ち着いてきたという感想をいただいている。

■　事業実施上の課題

ボランティア活動における生徒の自主的な参加の難しさが大きな課題である。地元のイベントではお客としての扱いではなく生徒の自主性が活かされる活動にシフトしていきたい。子ども達が身近で豊かな知見を得るきっかけになるよう、より幅広い人材確保に繋がるよう活動を深めたい。また、広報紙が生徒から親へ渡っていないことや保護者の方々においても仕事の都合などによる関心の薄さも感じられることから、地域に向けての広報を積極的にしたいと考えている。あわせて、傍に工業団地や商店街があるという地域の特性を活かして、各企業様にもご協力いただきながら中学生と共に、新たな地域活動の取り組みへの提案に挑戦し、目に見える形で地域一体の姿を推進していきたい。

■　その他

・参考ＵＲＬ（日枝中学校）http://www.edu-konan.jp/hie-jh/pindex.htm

■ 学校を拠点とした地域づくり、人づくりをめざして

■ 湖南市	
■ 活動名 石部中学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 石部中学校	

コーディネーター数	２ 人
ボランティア登録数	５０ 人
開 始 年 度	平成２６年度

■ 活動の概要

今年度から支援地域本部の活動を開始。２小学校区からそれぞれ１名ずつ、計２名のコーディネーターが連携を取りながら週に４日、一日３時間の活動となっている。学校行事で保護者や地域の方が来校される日（体育祭や文化祭、さらには学校公開日など）は、受付をはじめ、来校者に関わる役目を受け持つ。勤務の日には可能な限り学校職員（主に学校長）との懇談を行い、今年度は学校の意向のもとに進める活動を心がけている。また、ＣＳ推進委員会などの会議にも事務局の立場で出席をするなど、来年度に向けて学校と地域をつなぐパイプ役としての効果的な動きを探っているところである。

■ 特徴的な活動概要

①地域の方による学校支援活動

〇中学校１年生と２年生を対象とした「本の読み聞かせ」活動

小学校で「本の読み聞かせ」を経験した生徒に、引き続き読み聞かせの良さを味わってもらうことと同時に、地域の方が読み聞かせを通して中学生に関わっていただき、地域みんなが応援していることを感じてもらうために実施している。４名の方々が週に１回ずつ、朝の読書の時間（10 分間）に来校し、学級を順番に回ってくださる。一人年間 24 回（８回× ３学期）。

〇３年生の面接練習支援活動

３年生が来春の進路選択を本格的に考えていく 10 月、希望者に対して放課後を利用した面接練習を実施。面接官は地域の方にお願いし、１対１の面接を一人 15～20 分、行っていただいた。今年度の希望者は 100 人中 18 名。（昨年 15 名）

②生徒による地域づくり貢献活動

・今年度、試験的に実施したのが「中学生の夏祭りスタッフ」。あらかじめ各自治会の区長さんに趣旨を説明し、学校で希望者を募って、各生徒が自分の住む自治会の夏祭りにボランティアスタッフとして参加。区によっては、事前の話し合いにも中学生が参画し、企画段階から地域の方とともに催しを盛り上げることができた。生徒は「地域の方と顔見知りになれた」、地域の方は「中学生のイメージが変わった」との弁。

■ 実施にあたっての工夫

・地域の方がボランティアとして学校で生徒と関わっていただくときは、必ず事前に集まっていただき、教科の場合は担当教師はもちろんのこと、学校とボランティアさんの共通理解を図る機会を設定している。ボランティアと言えども、生徒に関わっていただく場合、生徒にとっては地域の先生としての認識を培っていきたいものである。
・地域コーディネーターが２名体制なので、月に一度は２名そろっての打ち合わせ会を実施。学校長、教員の担当、コーディネーターが顔を合わせて、翌月の計画等も含めた懇談を実施している。

■ 事業の成果

・地域の方が常時（午前中だけでも）学校にいることで、学校職員にとっても、来校される地域の方にとっても、「コーディネーターが学校と地域とをつなぐ役目」という見方が定着してきた。
・地域のボランティアさんが学校にきてくださり、中学生が地域で活躍する場面をつくることで、地域の大人の「中学生への理解、中学生への期待、中学生への関心、さらには学校への親しみ」が生まれてきた。
・地域代表の推進委員会を開催する中で、「地域の課題」「中学校の課題」「地域の強み」などの議論がなされ、表面的な論議ではなく、実行隊としての論議の深まりが見られるようになってきた。

■ 事業実施上の課題

・取り組む内容として、様々な意見や考えが交流される中で、しっかりと整理をし、どう優先順位をつけて取り組んでいくかの判断、決断が求められ、あせらずに着実に前進していくことの実践が求められている。
・「地域の方による学校支援」も「中学生による地域貢献」もあくまでも『中学生を含めた地域づくり』の手段であり、ボランティアを増やすことが目的ではないので、そのねらいをしっかりとふまえた共通理解と実践を積み上げていくことが求められている。

■ その他

〇平成 28 年度より「学校支援地域本部」と「学校運営協議会」を併せた活動を推進していくための準備を進めている。

■　地域の力を学校へ　中学生の力を地域へ

■　湖南市	
■　活動名 甲西北中学校支援本部（従来型）	
■　関係する学校 甲西北中学校	

コーディネーター数	２　人
ボランティア登録数	１４　人
開　始　年　度	平成２６年度

■　活動の概要

今年度から学校支援地域本部事業の活動を開始した。２つの小学校区からそれぞれ１名ずつ、計２名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら様々な活動に取り組んできた。学校と様々なボランティア活動をつなぐ役割を担うコーディネーターとは、定期的に打合せ会議をもち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるよう心がけた。今年度は学校の意向のもとに進める活動を心がけている。来年度に向けて学校と地域をつなぐパイプ役としての効果的な動きを探っているところでもあり、学校としての方針やねらいをより明確化させながら継続的な取組につなげていきたい。

■　特徴的な活動内容

〇ファイルカバー制作における生徒への支援

１年生の家庭科授業において、ファイルカバーを布地で制作する上で、「まつり縫い」と「刺し子」をボランティアさんに支援していただきながら授業を進めた。具体的な内容としては、長方形の布の製図、刺し子、手縫い、ミシンを使用してファイルカバーを仕上げるための支援活動である。

１回の授業におけるボランティアさんの数は平均４～５名で、１グループに１名の割合でボランティアさんの支援を受けることができ、裁縫を苦手とする生徒にとっても心強い存在となった。10 月から 12 月までででのべ 30 回裁縫ボランティアさんに来校を願い、多いときには９名のボランティアさんが来校してくださる日もあった。継続的に来校したいただくことで子どもとの関係も築け、よりスムーズな支援につながった。そのことが最終的には、生徒一人ひとりの興味や関心、意欲向上にもつながっている。

■　実施に当たっての工夫

家庭科における裁縫授業のボランティア支援では、担当教師とボランティアさんによる事前打合せを可能な限り実施した。具体的な打ち合わせ内容としては、生徒の現状把握と制作工程の確認をした。また、担当教師とボランティアさんの打合せが日程の都合上実施できない場合については、地域コーディネーターを通して行うようにした。このように細かな事前の打合せを可能な限り実施することで、スムーズに授業を進めることができた。また、生徒を個別に支援する際、ボランティアさんが仕上げていくのではなく、生徒の力を引き出し、生徒自身が完成させることができるような支援をボランティアさんにお願いした。

■　事業の成果

教師の説明だけでは理解が難しく、実技が上手くできない生徒に対して、教師の補助としてボランティアが丁寧に教え、また側で励ましてくれた。そのことにより、ファイルカバーの制作を途中であきらめてしまうことなく、最後までやりきろうとする生徒が一人でも増えたのではないかと思う。その結果、生徒の達成感や満足感を高める援助につながったと思う。また、担当教師からは、裁縫という機会そのものが少なくなってきている中で、作業そのものが大変スムーズに進んだという感想があった。

１グループに１名の割合でボランティアさんに支援を受けることができたことは、裁縫を苦手とする生徒にとっても心強い存在となっているだけではなく、裁縫そのものに対する苦手意識を少しでも払拭することにつながったように感じる。

■　事業実施上の課題

この取り組みが始まった当初は、裁縫ボランティアさんを探すのに苦労したが、授業が始まり子どもとの関わり合いや、授業担当者との事前の打合せや確認作業を重ねていく中で、スムーズな支援につなげることができた。

ボランティアさんの中にはご高齢の方も多く、学校までの移動手段に市のバスを使用されている方もおられ、授業時間の変更が生じた際にボランティアさんに伝えることができず迷惑をかけた。

■　その他

初めての家庭科支援の事業で最高齢 86 歳の方から裁縫授業による支援を受けることができた。また様々な地域から多くのボランティアさんにお手伝いをお願いしたため、ボランティアさん同士のつながりがあまりないままにスタートしたが、回を重ねるにつれて互いに打ち解け交流することにより、ボランティア間に仲間としての輪が広がっていくことが実感できた。

■ 東近江市における学校支援地域本部の取組

■めざすすがた

東近江市では、地域住民及び保護者、関係諸団体などが協力し、地域全体で学校を支援することにより、児童・生徒の健やかな成長を育むことを目的として当事業を推進する。

■本年度の活動

研修会・協議会の開催について

・第１回　平成 26 年５月 28 日（水）19：30～21：00
学校・家庭・地域における今年度の事業等について説明
各事業に対する質疑応答と情報・意見交換
各事業の交流と子どもたちの現状把握

・第２回　平成 26 年 11 月 18 日（火）19：00～21：00
「東近江市学校支援地域本部（東近江市地域教育協議会）
研修会開催」
講演「学校・家庭・地域連携のこれからを考える」
滋賀大学社会連携研究センター長・教授
滋賀県「学校・家庭・地域連携協力事業」推進協議会座長
神部　純一　氏

・第３回　平成 27 年２月～３月に開催
次年度の学校・家庭・地域の連携による教育について

【ＰＴＡに配布やコミュニティセンター館内の書棚等に配置による啓発活動】

・東近江市学校支援地域本部報告集配布

・東近江市学校支援地域本部リーフレット配布

■本年度の成果

・第１回協議会での現状と課題をふまえ、滋賀大学社会連携研究センター長・教授　神部純一先生を迎え、地域コーディネーター、各地区地域教育協議会関係者、小中学校の教職員、まちづくり協議会関係者、コミュニティセンター職員、青少年団体関係者等を対象に研修会を開催したこと。

・各本部の地域コーディネーターが自身の資質向上を目的に県教育委員会主催の研修に毎回多数参加したこと。また、文部科学省主催の教育フォーラムにも研修のために派遣できたこと。

・４月より毎月地域コーディネーター連絡会議を開催し、研修の伝達や報告、各本部の情報交換等実施したこと。

・上記のことにより、地域の団体や施設等に学校支援地域本部事業について、より周知することができ、まちづくり協議会やコミュニティセンターとの新たな連携協働の機運が高まった。連絡会議では、情報の交換だけでなく当事業に対する意見が活発に交わされる。また、研修に参加したコーディネーターは積極的に他の市町や府県のコーディネーターとのコミュニケーションを図られ、他地域の具体的な実践ついての情報伝達もあり、新しい視野に立った実践も提案された。

■今後の課題

・今年度、新規に１学校支援地域本部を設置した。さらに次年度も新規に支援本部設置を進めている。今後、東近江市では市内小学校全てに地域コーディネーター設置をめざす。そのために、当事業を広く啓発し、学校・家庭・地域全体に周知徹底され、その効果が十分に理解される手立てと工夫が重要である。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校）

■　東近江市
■　活動名 蒲生地区学校支援地域本部（従来型）
■　関係する学校 蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	１５０　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要
- 小学校での読み聞かせと図書ボランティア
- 登校旗の修理や環境整備
- 田んぼの学校
- 日野川での環境学習
- ３年生のまち探検
- 「あかね通学合宿」

【　通学合宿　地域の方の案内　】

■　特徴的な活動内容
- 「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」と言うキャッチフレーズのもと、児童生徒は地域の一員であることを念頭に学校からの要請を受けて活動している。
- 「あかね通学合宿」については、地区内の６年生を対象に実施している。自治会の公民館等で宿泊し、児童は自治会のみなさんの見守りの中、自立した生活を目指している。地域のなかからゲストティチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えて頂く「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会にし、地域の教育力を高めることも大きな目的としている。
- 朝桜中学校へは、「下校見守り」を継続的に実施。生徒の下校時に校門であいさつ運動を展開している。この活動は民生委員、児童委員との協力のうえ民生委員、児童委員を中心に保護者と一緒に活動している。

【　登校旗修理　】

■　実施に当たっての工夫
- 支援の内容に適したボランティアをお願いすることを心がけている。
- 「あかね通学合宿」は、児童には学校や家庭では体験出来ないことをこの通学合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもあるいは、学校と地域が繋がる機会となるように、ゲストティチャーをはじめ自治会の中から広くボランティアをお願いしている。
- 地域の一員である児童生徒が、地域のイベントや行事に参加出来る機会がないか常に情報を収集する。

■　事業の成果
- 「あかね通学合宿」は、参加児童の家庭から合宿参加後、生活に自主性が見られるとの意見が多く聞かれる。地域内で児童とボランティアの繋がりが広がり、地域で当事業が認識されてきた。
- 中学校の下校見守りでは地域のなかで「みんなが見ているよ」というメッセージが生徒に伝わっていると思われる。
- 地域の大きな行事、イベントに児童生徒が参加することは地域の一員である事の意識づけになっている。

■　事業実施上の課題
- 年間を通じてのボランティアをいただく方は固定化しつつある。また、年齢が高くなってきている。
- 「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、事業が理解されるまで時間がかかりすぎる。
- 学校内においても、当事業への理解度は様々である。

■　その他
- 参考ＵＲＬ（蒲生西小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/ganishisho/
  （蒲生北小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/gakitasho/
  （朝桜中学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/chouchu/

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生東小学校）

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生地区学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 蒲生東小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	２４人
開 始 年 度	平成１９年度

■ 活動の概要

・本校の学校支援地域本部事業の開始は平成１９年度からであるが、平成１３年度より学校ボランティア会が組織され、地域が学校教育に参画していく土壌が熟成していた。

・学校の様々な学習活動や行事の支援活動は、ボランティアの特技を活かして多岐にわたる。

教育課程においては、

①校外学習での講師や引率
②朝読書での本の読み聞かせおよび図書館整備
③スキー教室指導
④田んぼの学校の指導補助および田んぼの管理
⑤マラソンの試走及び大会での立哨
⑥家庭科実習の補助
⑦福祉教育の支援

・地域の取り組みにおいては、

①通学合宿の企画および運営（３泊４日）
②登下校の子ども安全見守り隊の活動を実施している。

【 通学合宿にて「夢工作」】

【 田んぼの学校にて「昔の除草作業体験」 】

■ 特徴的な活動内容

・地域学習を中心にあらゆる学習活動の支援ボランティア活動を行っていること。
・子どもが地域に出て活動する「通学合宿」を企画・運営してもらっていること。

■ 実施に当たっての工夫

・月一回のボランティア会議を開催し、ボランティアが参加しやすい情報を提供している。
・ボランティアの特技を活かしてもらえる内容で依頼している。

■ 事業の成果

・児童がより体験的・実践的で安全な活動を実施している。
・児童の郷土愛を育成している。

■ 事業実施上の課題

・学校の教育目標とボランティアが支援したい内容のすりあわせ。
・新しいボランティアの募集。

■ その他

・年二回の学校職員との懇親会を企画し親睦をはかっている。
・参考ＵＲＬ（蒲生東小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/gahigashisho/

■ ふるさとのひと・自然・文化のよさを学ぶ

■ 東近江市
■ 活動名 湖東第一小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 湖東第一小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	９５ 人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

本校の「三方よしの子ども像」の一つに「ふるさとに学ぶ子ども」がある。その具現化に向けて、学校支援ボランティアの方と協力しながら、実践を進めてきた。

本年度は、昨年度の実践をもとに、地域の「人・自然・文化」に学ぶ学習を継承・発展させてきた。保護者・地域ボランティア方の繋がりや町づくり協議会の方などから情報を得、多くの方の協力を得て子どもたちの学習を進めていくことができた。

■ 特徴的な活動内容

児童の登下校の見守りは日常的に、読み聞かせ活動は定期的に行っていただいている。周囲が田んぼや畑に囲まれていることもあり、「たんぼのこ」での田植えや稲刈り、今年は学校の畑で３年生が大豆の栽培、収穫に取組んだので、その支援もしていただいた。

また、地域探検もいつもと違う地域にもでかけ、地域の歴史や史跡などの話を聞くことができ、「ふるさとに学ぶ」を実践することができた。６年生の総合的な学習の時間にも、60 年に一度行われる「ドケ祭り」の保存会の方に来ていただき、祭りのいわれや伝承されてきた踊りなどを教えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

地域の方々が自分から積極的に出てこられることは少ないが、情報を得てお願いに行くと快く引き受けてくださる。「おらが学校」という意識は強く、様々な児童に対しても粘り強く丁寧に支援をしてくださる。今年は、昨年度からの実績もあり、子どもたちに出会うのを楽しみにしていただいている地域の方も増えてきた。

実施に当たっては、担当教諭との学習内容の打ち合わせをしっかり行い、そのことをもとに下調べやお願い、打ち合わせなどを行うようにした。学習したい内容をしっかり伝えておくことや質問内容なども事前に伝えておくように心掛けた。それでも、予想外の質問が出たりしたが、「このことを学びたい」というねらいがはっきりしていたため、うまく対応していただいたことが多かった。

■ 事業の成果

学 年	内 容
全 校	読書ボランティア・登下校ボランティア・除草作業ボランティア・絵本の広場（３学期）
１年生	昔遊び（３学期）
２年生	郵便局の見学（３学期）
３年生	地域探検（ハナノキの見学・豆腐屋・半鐘場・工務店・神社） 福祉体験（アイマスク体験）・視覚障害のある方のお話 たんぼのこ・大豆、小豆の植え付け、収穫
４年生	福祉体験（車いす体験：３学期）・たんぼのこ・地区消防団、派出所の仕事
５年生	家庭科（裁縫実習支援）、たんぼのこ、米感謝祭・スキー教室ボランティア
６年生	ドケ祭りについて、地層学習、戦争体験について・スキー教室ボランティア（３学期）
委員会活動	菊水園・ほっこりさん（福祉施設）訪問

活動が少しずつ定着してきたので、一度来ていただいた方や見学に行かせていただいた事業所の方からは、「協力するので、いつでも声をかけてね。」と言っていただくことが多い。子どもたちも、地域の知った方に話を聞いたり、体験をさせていただいたりすることで、学習がより深まっているように感じる。

■ 事業実施上の課題

どの学習にどのような人材が必要か、どこに行けばよいのかなど、教員とも情報を共有していくことが大切であると感じている。

また、学習内容とも関わって、今年度実践してきたことをもとに来年度さらに発展していけるよう各担任教諭とも十分に打ち合わせを行ったうえで進めていきたい。

【 ドケ祭りの踊りを学ぶ 】

【 半鐘について説明を聞く 】

■ その他

・参考ＵＲＬ（湖東第一小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/kot1sho/

■ 育てよう湖二っ子！（学校、家庭、地域が一体となって）

■ 東近江市	
■ 活動名 湖東第二小学校支援本部（従来型）	
■ 関係する学校 湖東第二小学校	

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	２５ 人
開 始 年 度	平成２３年度

■ 活動の概要

①学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・水泳指導・ピアノ伴奏・スキー指導補助など

②ゲストティーチャー：農業見学（菊栽培・トマト、きゅうり栽培）・働く人調べ（料理店さん・大工さん）・地域見学（お寺・石材店・史跡など）

③その他：バスケットボールチーム依頼・掃除に学ぶ会依頼など

■ 特徴的な活動内容

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）

年間を通して数回、朝学習の時間に絵本の読み聞かせに来ていただいている。自分の子どもが卒業してからも継続して来ていただいている方も多く、子どもたちはたいへん楽しみにしている。

②家庭科ボランティア

玉留めやなみ縫いなどの裁縫の基本からミシンなどの指導補助をお願いしている。数名の保護者が無理なく都合のつく日に来ていただいている。

教師一人では手が回らなくて困っている児童への支援やミシンのトラブル、安全面などの支援をしていただき、たいへん教育効果が上がっている。

【 ミシンの学習 】

③水泳指導ボランティア

保護者に水泳の堪能な方がおられ、高学年の水泳指導に数回来ていただいた。泳ぎの手本など技能面やメンタル面の指導をしていただいた。

④農業見学

３年生社会科の学習で、農家の方（子どもの祖父母）をゲストティーチャーとしてお願いしている。現地へ出かけていき、栽培の仕方や工夫、苦労などのお話や質問に答えていただいている。「少しでもお役に立てば」と喜んでくださっている。また、子どもたちもたいへん親しみを感じている。

⑤働く人調べ

３年生総合的な学習で、子どもたちの要望をもとにゲストティーチャーを探す。仕事場に出かけていき、仕事の内容ややりがいなどのお話を聞いたり、実際に見学したりすることを通してゲストティーチャーの仕事に対する熱い思いが子どもたちに伝わり、たいへんよかった。また、ゲストティーチャーの方も、「よい機会を持っていただいた」と喜んでいただけた。

■ 実施に当たっての工夫

・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
・保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用

【 社会見学学習 】

■ 事業の成果

①学習支援ボランティア

・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
・ 困り感のある子どもを支援していただき、子どもの学習意欲の高まりにつながっている。
・子どもたちの様子が分かり、つながりが持てることを喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー

・専門的知識や技能で教育効果が高められた。
・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
・地域の方からは「子どもたちに分かる説明が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

■ 事業実施上の課題

・地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。
・環境ボランティア（花壇の定植・グラウンドの除草作業・松の剪定など）を求めているが難しい。
・急なボランティア要請に対応できない。

■ その他

・参考ＵＲＬ（湖東第二小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/

■　「保護者ボランティア」から「地域ボランティア」への質的転換の年

■　東近江市	
■　活動名 湖東第三小学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 湖東第三小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１８　人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要

本校は、地域教材や地域の人材を生かし、学習内容や行事の充実を図っている。本年度は、本事業も二年目に入り、家庭や地域との連携を深め、より効果的な取り組みとなるように努めてきた。

■　特徴的な活動内容

①本校では豊かな心や表現力、確かな学力をはぐくむ一環として、読書活動の推進に努めている。朝読書の他、「ふれあいタイム」に読書ボランティアが定期的に活動している。特に本年度から「読み語りボランティア『あめんぼ』」として、メンバーが定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、次の発表の稽古・打合せを実施するなど、倶楽部として大変な熱心な取り組み状況である。

②３年生まち探検において、地域の伝統産業である梵鐘工場を訪問。工場見学から体験的要素を取り入れた学習ができた。

③３・４年生の「総合的な学習」（福祉学習）では、アイマスク体験や盲導犬の実物にふれる学習、手話サークルの方々との交流の機会が持てる学習が出来た。その成果は『わくわく祭り』において、ポスターセッションとなって発表もできた。

④６年生の滋賀県立平和祈念館での平和学習においては、地域の郷土史家の方の体験談とパワーポイントを駆使しての説明で、より学習が深まった。

【ボランティア『あめんぼ』による
ふれあいタイムでのハロウィン読み語り】

⑤ＰＴＡ等の行事時における託児ボランティアを募集した結果、各種行事に保護者が安心して参加できるようになった。新たなボランティアが生まれる兆しが出てきた。

⑥昨年より、「地域を知る」というねらいの職員フィールド学習（「池庄町を知ろう」）を実施している。そのことで、地域学習の視点も「湖東地区・豊椋地区の歴史と文化」に焦点を当てて組み立てる方向性が生まれてきた。

■　実施に当たっての工夫

①地域の教材や人材を発掘し、学習内容の充実に努めた。

②従来からの地域学習や、総合的な学習の実施において、コーディネーターが関わる中で、『湖東地区まちづくり協議会』や『湖東地区福祉協議会』など関係機関との連携をより密にして学習内容の質的向上を図ろうとした。

③コーディネーター自らが「昔遊びボランティア」や「まち探検」の引率、ゲストティーチャーとなることで、担任や児童とのつながりを深めた。

【３年生 まち探検『金寿堂』での釣鐘撞き】

■　事業の成果

昨年度から始まった本事業によって、地域学習やボランティアの活動の幅が広がってきた。多くはボランティアが加わることで取り組みが充実し、創造的な取り組みへと質的変化を遂げつつある。また、地域の子どもを家庭や地域が協力して育てていこうとする気運も徐々に高まってきている。

■　事業実施上の課題

①地域に出て、地域ボランティアを活かしての学習は、幅も広まり内容も深まる有意義なものであるが、どうしても時間が必要となる。限られた時間内で、効果的な学習となるような検討がさらに必要である。

②学校便りや地域の広報で、ボランティアを募集しているがさらに登録人数を増やすことが必要である。

■　その他

・本年度、ホームページがリニューアルされて学校の様子を効果的かつ効率的に保護者などに知らせることができるようになった。
参考ＵＲＬ（湖東第三小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/kot3sho/

■ 地域とともに歩む学校

■ 東近江市
■ 活動名 箕作小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 箕作小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	１３０ 人
開 始 年 度	平成２２年度

■ 活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を生かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区全域で「清水小脇街づくり協議会」「太郎坊応援団」「中野地区まちづくり協議会」が組織され支援活動が成されている。今年度は、“箕作山環境調査隊”はじめ各学年の様々な教育活動やグランドの芝生化に対して箕作小学校応援隊として力強い支援の輪の広がりが見られている。

■ 特徴的な活動内容

・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践には、教職員とともに“地域に学ぶことが大切”であると考え、全教職員が箕作山に登り、地域の自然に触れ地域の人たちとともに町の歴史、現状、箕作山の保全などについて研修する機会を持った。
・全校マラソン大会で保護者とともに地域の人たちが子どもたちの健やかな成長を願い声援を送った。
・６年生児童が八日市の伝統文化の大凧を東近江大凧保存会の協力を得て作成した。大凧に判じもんで、子どもたちが選んだ文字を入れ、保存会の支援のもと２畳敷大凧をグランドで大空高く揚げることができた。
・６年生児童が地元工芸の布引焼きを地元陶芸家の方たちに指導してもらい、茶碗作りを体験した。卒業を前に保護者を招き、自分で作った茶碗を使って「感謝の会お茶会」を開催する計画である。

【 みんなで植えた芝生、
緑いっぱいのグランド 】

・“グランドの芝生化”が全児童、箕作小学校の応援団、環境ボランティア、ＰＴＡ、市教委によって実施された。
・環境調査隊（５年生）が箕作山に登り、清水小脇街づくりのメンバーから山の歴史、自然の様子、生息する動植物、山の保全について学んだ。
・ボランティアによる読み語りを全学年対象に実施した。今年度は保護者の有志とともに地域に伝わる民話をもとに紙芝居を手作りによって製作した。全学年児童が従来からの名作の本とともに地域に伝わる昔話に親しむことができた。
・１年生は昔からの遊び（けん玉、羽根つき、竹とんぼ、カロム、お手玉）を箕作小応援隊の方と一緒に遊び体験をする計画である。
・３年生は箕作応援団に七輪を使って火のおこし方を教えてもらったり、餅を焼いたりする計画である。

■ 実施に当たっての工夫

・各学年の学習のねらいや学習の取り組みのテーマ“見て　聞いて　やってみる”をモットーにした学習活動の理解のもと支援活動が適切になされるよう地域と適時連携をとっている。
・支援内容に適したボランティアが依頼できるように各所、各団体、個々の方にも幅広く連携を図るように努めている。
・これまでの取り組みを継続し、学校、地域、ボランティア三者がともに安心感、親しみ感、信頼感が持てるようにできる限りお互いの思い、考えが伝わるように日ごろから連携に努めた。

■ 事業の成果

・活動団体が組織されてきたことにより活動内容が整理された形で支援ができるようになった。
・広範囲な学区であり、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、中野・八日市両コミュニティセンター、八日市ボランティア協会などと細やかに連携を図ることにより、適材適所のボランティアを依頼することができるようになった。
・箕作山探検隊、米作り等の体験の積み重ねの継続は、児童、ボランティアともに成就感、親しみ感が持て打ち合わせや実践においても効率的に実施できていた。
・地元農家の野菜栽培の見学を通して、安心安全な食物栽培を知り、農家の人々に感謝の思いを育んだ。子どもたちの質問や礼状に心温まり、栽培意欲が湧いてくるという感想もいただいた。

【 箕作山から見たわたしたちのまち 】

・自分たちの住むまちを見て歩き町の人々に多くのことを教えてもらい学習に対する関心意欲が高まった。子どもたちの地域の一員としての自覚につながった。

■ 事業実施上の課題

・「地域とともに歩む」学校として地域の絆が深まり、子どもたち、地域、学校にとって充実したものにするには、打ち合わせ、相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、解決方法の追求など循環していくことが課題である。
・学校と地域の思いやねらいが通じ合い、さらに充実した継続と支援の輪の広がりがみられるようにコーディネーターの役割を果たしていくことが必要である

■ その他

・参考ＵＲＬ（箕作小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/mitsusho/

■　～花と図書で地域とつながろう～

■　東近江市
■　活動名 市原小学校支援地域本部（従来型）
■　関係する学校 市原小学校

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	３０人
開　始　年　度	平成２５年度

■　活動の概要
①「いつも身近に本を置こうプロジェクト」
②「花いっぱいの地域にしようプロジェクト」

【 ボランティアの方による苗づくり 】

■　特徴的な活動内容
①ミニ図書館設置（地域の公民館・集会所等に設置）
②子どもたちとボランティアの皆さんで育てた花の苗を地域に配布

■　実施に当たっての工夫
①ぬくもり（手づくり感等）を大事にする。
②児童と地域の方々とのつながりを大切にする。

■　事業の成果
①保護者や地域の方々の来校者数が倍増した。
②絆が深まる：「街で出会ったときに子どもから『おっちゃん、こんにちは』と挨拶してくれ、うれしかった。」

■　事業実施上の課題
①学校や保護者、地域の方々、それぞれが互いに理解すること。（さらに情報の共有化を進める。）
②もっと保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらうこと。(ホームページや広報誌等うまく組み合わせて周知の徹底をさらに図っていく。)

■　その他
〇学習支援ボランティアによって実施された内容等
・５、６年家庭科の学習支援（ミシン）
・５年田んぼの学校（しめ縄づくり、稲刈り体験、餅つき等）
・全校マラソン大会の安全等見守りのための立ち番
・読み語り活動（毎週木曜日の朝に実施）
・４年消防団の活動（社会科）　　など

【 ミニ図書館を利用する児童 】

■　その他
・参考ＵＲＬ（市原小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/

■ 地域とのつながりを大切にしながら、地域の方々に感謝して…

■ 東近江市	
■ 活動名 五個荘小学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 五個荘小学校	

コーディネーター数	１人
ボランティア登録数	４０人
開 始 年 度	平成２５年度

■ 活動の概要

社会の急激な変化とともに、子どもたちを取り巻く環境が複雑多様化し、先行き不透明な今日、学校教育への大きな期待が寄せられている。しかし、学校だけで子どもを育てていくのには限界があり、教育の基盤である家庭や地域での教育と連携をはかっていく必要がある。

このような状況の中で、今まで以上に学校と家庭、地域が手をとり、子どものよりよい成長を願い、「地域の子どもたちは、地域で育てる」という視点に立って連携を深めていく必要がある。

こうしたことから、本地域本部ではコーディネーターを窓口として、学校や各学年で必要な支援要請をコーディネーターに依頼し、コーディネーターの地域の人脈を足がかりとして、学校に協力していただける方を探していただき、協力をお願いしている。

■ 特徴的な活動内容

・茶道、生け花、太鼓などクラブ活動における学習アシスタント型の支援
・家庭科でのミシンを使った学習での学習アシスタント型の支援
・学校まわりの植木剪定作業など施設メンテナー型の支援
・本の読み聞かせを行う学習アシスタント型の支援
・校外学習の引率補助を行う学習アシスタント型の支援
・総合的な学習の時間「ふるさと学習」での地域の歴史について専門知識を講義するゲストティーチャー型の支援
・スキー教室における学習アシスタント型の支援

【 ６年生　家庭科ミシン学習 】

■ 実施に当たっての工夫

・多くの方々が、地域の学校を支えてくださっていることを伝えるため「学校だより」やホームページでボランティア活動の紹介を行い、また来校者にむけて昇降口玄関に写真を掲示し、ボランティア協力の紹介を行っている。
・協力いただいた方々に、地域本部事業会計より学校目標を印刷したプリントをクリアファイルにはさみ配布することで、次の活動の協力につながるようにしている。

【 ２年生　校外学習 】

■ 事業の成果

・コーディネーターの積極的な働きかけにより、昨年度に比べてより充実した事業となってきている。
・専門的な知識と技能をもった方に直接、そして具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となった。
・子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援ができるようになった。
・子どもが地域の方々と顔見知りになることができ、地域の方々と親密になることができた。
・地域の方が、学校のようすを知ることができるよい機会となり、学校理解につながった。

■ 事業実施上の課題

・地域には、まだまだ「地域の学校のために、何か自分に役立てることはないか。」と感じている方は、たくさんおられるように感じる。こうした学校をサポートしてくださる方々を、今後も発掘して支援や協力を求めていきたい。

■ その他

・参考ＵＲＬ（五個荘小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/

■　地域につくられた学校・子ども応援団

■　東近江市	
■　活動名 玉緒小学校支援地域本部（従来型）	
■　関係する学校 玉緒小学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	３８　人
開　始　年　度	平成２４年度

■　活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域のつながりを深める「地域につくられた学校・子どもの応援団」と言える。玉緒小学校ではこれまでも下校の見守りや朝読書で読み語りの支援を進めてきたが、一昨年度から社会科の地域学習や総合的な学習の時間、家庭科の実技指導補助など教科等の学習支援を行っている。

今年度も、学習効果が上がることをめざし地域のボランティアが子どもの学習活動に積極的に関わり応援団の役割を果たした。

■　特徴的な活動内容

当事業３年目となり、学習活動の支援に対して見通しを持つことができ先生方の要望を早めに知ることができる、計画が立てやすい等今までの積み重ねの効果が見られる。また、地域ボランティアの方々の数が増え多くの方々に多様に学習活動に関わっていただくことができた。

【　１年生活科「あそびのひろば」　】

■　実施に当たっての工夫

・１年生活科「あそびのひろば」

昨年度と同じボランティアの方々であり、事前の打ち合わせは短時間で済み、実際の支援も見通しがありスムーズに活動できた。

・３年社会科「校区探検」

校区内の自動車整備工場やきゅうりハウス、牛舎などを昨年に引き続き見学させていただいた。説明や子どもの質問の応答など、慣れてきていただきわかりやすく参考になった。

【　１年生活科「あそびのひろば」　】

・４年社会科「蛇砂川の歴史や役割」

校区に流れている蛇砂川について、氾濫を防ぐ改修工事やホタルの観察や保護に関わってこられた方々に直接お話を聞いた。ふるさとの川の歴史や環境について地域の方々に学ぶことで身近に感じることができた。

・４年総合的な学習「玉緒の宝！　里山探検隊」

地域のまちづくり協議会が立ち上げられた「大森の里山」で自分のテーマを決めて課題解決をする自然体験学習を進めるにあたり、たくさんのボランティアの方々にお世話になった。協議会の立ち上げの苦労やその願いの話を聞いて学ぶこと、実際にのこぎりで木を切って遊び道具や基地を作ることなど、学校の中ではできない貴重な体験学習ができた。

ボランティアの方々は、子どもと何度も交流するうちに親しくなり会話を重ね、喜びをもって対応してくださるのがわかった。

特に今年度は、地域の方々の協力のおかげで事前や途中で相談を重ね、内容をさらに充実させたことで、今後の本校４年総合的な学習の時間の中心的な活動となるのではないかと考える。

・５・６年家庭科「ミシンを使って」

家庭科は，子どもたちが実際にミシンを使う学習がある。この学習において、ミシンの点検や指導補助のボランティアに延べ 12 名の方々にお世話になった。これにより個々の児童にきめ細かな助言ができた。

■　事業の成果

どの学年も数年にわたり同じ地域の方々にお世話になっている学習が増えている。これにより、関わっている方々の見通しが効き子どもと接することに慣れ、新たなアイデアや安全対応などさらなる充実が見られた。

■　事業実施上の課題

地域の方々に、これらの事業を伝えるため広報活動を進める必要がある。これにより、地域の方々のおかげで地域に学ぶ子どもの姿やその良さを伝えたい。

■　その他

・参考ＵＲＬ（玉緒小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/tamasho/

■ みなみっこ地域応援団

■ 東近江市
■ 活動名 八日市南小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 八日市南小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３０人
開 始 年 度	平成２４年度

■ 活動の概要

本校では平成 24 年度より本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちの学習、活動の補助に多くのボランティアに協力いただき事業を進めている。

学習活動を効率よく進めるために、５年生、６年生の家庭科調理実習やミシン補助、滋賀学園の生徒による市陸の指導などにおいて教師の指導の補助をしていただいたり、５年生田植えや稲刈りの補助、なかよし学級のさつまいも植え、３年生の校外学習引率補助、１年生の秋みつけ引率補助、２年生のポップコーン作りやスイートポテト作り、干し柿作りの補助など、安全できめ細かな学習環境を整える支援をしていただいたりしている。

また、学期ごとの図書室の壁面かざり、はちまき補修、音楽会看板作りなどの施設や設備の維持管理の支援も行っていただいている。その他、４年生の地域の歴史、３年生の昔のくらし、１年生の昔あそびなどで、ゲストティーチャーとして来校いただき、理解を深めるために直接指導もしていただいた。南部コミュニティセンターの畑で３年生のじゃがいも掘り、アフタースクールのさつまいも掘りなど地域と連携した取り組みも進めている。

【 ６年生 市陸上記録会の練習 】

【 ２年生 干し柿づくり 】

■ 特徴的な活動内容

・学期ごとの図書室の壁面かざり
・５年生田植え、稲刈りの補助
・５年生、６年生の家庭科調理実習、ミシン補助
・南部コミセンの畑で３年生のじゃがいも掘り
・なかよしさつまいも植え
・はちまき補修
・３年生校外学習引率補助
・６年生滋賀学園の生徒による陸上運動指導
・音楽会看板作り
・アフタースクールのさつまいも掘り
・１年生秋みつけ引率補助
・２年生ポップコーン作り補助、スイートポテト作り補助、干し柿作り補助
・１年生昔あそび、３年生昔のくらし、４年生地域の歴史

■ 実施に当たっての工夫

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターの方にご協力をお願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにした。

ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにした。

まずは活動する学年の保護者ボランティアを募り、そのあと登録ボランティア、地域ボランティアを募集するようにした。学期ごとにボランティアだよりの発行を行った。

■ 事業の成果

滋賀学園の陸上部指導による市陸上記録会の練習では、回を重ねるごとに高校生もどうすれば伝わるかを考えて指導するようになった。調理実習、ミシン授業の補助のようにたくさんの方の協力が必要な授業にも大勢の方に参加いただくことができた。なによりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってね」と言っていただけ、子ども達からは「次の時間もきてくれるの？」と言ってもらえたことが大きな成果である。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の不安の解消、スムーズな取り組みができるように、支援に入っていただく授業の前に先生と打ち合わせをできるようにしていきたい。年に１度は学校と地域、保護者ボランティアの交流会などをして、少しでも学校に興味を持ってもらい、地域の方にボランティアへの理解を深めていただくよう努める。

地域に眠っておられるボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと考えている。

■ その他

・冬休みから地域で学習支援を始め、将来的には「放課後こども支援」のように、こどもの学習支援、居場所作りを進めたいと考えている。それには、ますます地域とのつながりを強くし、支援の輪を広げていかなければならない。
・参考ＵＲＬ（八日市南小学校）ＵＲＬ http://www2.higashiomi.ed.jp/yminamisho/

■ みんなで支える学校　みんなで育てる子ども

■ 東近江市	
■ 活動名 船岡中学校区学校支援地域本部（従来型）	
■ 関係する学校 八日市西小学校・船岡中学校	

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	２３１ 人
開　始　年　度	平成２４年度

■ 活動の概要

① 地域の子どもは地域で守る

〇「子ども見守り隊」による児童生徒の安全確保と事件・事故の未然防止

② 教育活動への支援

〇学校行事

・ふるさと文化祭でのゲストティーチャーやボランティア（昔のおやつ・おもちゃ作り、餅つき・よもぎ餅作り、縄ない体験、戦争体験談など）
・校内マラソン大会での交通立ち番や応援垂れ幕の作成
・スキー教室での技術指導や活動支援

〇日常の教育活動

・１、２年生活科校外学習での見学地までの引率（安全指導）や活動支援
・学級の子ども達への読み語り
・５年総合的な学習の時間（たんぼの学校）での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援
・５年家庭科実習での裁縫、ミシンの実習支援
・６年社会科や総合的な学習の時間での身近な地域の歴史を学ぶ
・部活動の技術指導や活動支援

③ 教育環境への支援

〇校庭の樹木剪定

④ 教職員研修（校区現地研修講師）

〇校区の歴史遺産等の紹介や解説

【　田んぼの学校　】

【　子ども見守り隊感謝のつどい　】

■ 特徴的な活動内容

〇「子ども見守り隊」の活動

・下校時の子ども達の安全確保のために、11 地区で「子ども見守り隊」を結成して、子ども達に付き添っていただいたり、交通量の多い危険な交差点などに立っていただいたりしている。
・登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの活動の場になっている。
・「子ども見守り隊」の方を招待して交流・感謝の集いを開き、感謝の気持ちを表すとともに地区の取組事例報告や情報交換等を行った。

■ 実施に当たっての工夫

・学校だより等で取組を地域に発信する。
・地域の各種団体との連携を深める。
・人材データをファイリングする。

■ 事業の成果

・専門的な知識や技能を修得された方の支援により、学習内容や活動がより豊になり、質が高く、わかりやすいものになった。
・教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わることができた。
・地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関われることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
・子ども達は地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。

■ 事業実施上の課題

・子ども達の学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり、効果的な支援を図りたい。
・教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、船岡校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。

■ その他

・参考ＵＲＬ（八日市西小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/ynishisho/
（船岡中学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/funachu/

■ 地域の教育力を継続・発展させる学校

■ 東近江市
■ 活動名 愛東北小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 愛東北小学校

コーディネーター数	１ 人
ボランティア登録数	３２ 人
開 始 年 度	平成２６年度

■ 活動の概要

本校区は豊かな自然に囲まれ、地域の特色を生かした教育活動が伝統的に行われている。そのため、学校支援地域本部は今年度立ち上がったが、以前から学校と地域との結びつきは強く、学校の教育活動に効果的な連携が図られてきた校区である。また、地域コーディネーターには校区を周知し、物的・人的にも幅広いつながりをもつ方に協力をお願いした。今後はコーディネーターを中心に、これまでの支援体制等の在り方を工夫・改善し、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもたちを育て、見守る体制を整えていきたいと考える。また、今後「地域創生」が加速する中、学校が地域の活性化の核になるよう本部事業を充実させたい。

■ 特徴的な活動内容

①梨の栽培

果物栽培の盛んな愛東地区で、５年生は近くの梨園のご支援を得て、梨栽培に取り組んでいる。受粉や摘果の方法を教えていただき、梨づくりの工夫や苦労を体験している。収穫体験には地元の愛東北・南両幼稚園児を招待し、立派に実った梨は毎年運動会で販売している。

【 梨の栽培 】

②ケナフで卒業証書作り

環境学習の一環として始まったケナフを使った卒業証書作りは今年 17 年目を迎える。毎年地域の方の支援の下、すでに伝統行事となった感があり、６年生の期待の取組である。ケナフの栽培から、刈り取り、粉砕、紙すきとその時々で支援者の方から色々なことを学びながら、世界で一枚の卒業証書を作成する。

③もち米づくり

本校では２年生が行っている。２年生には荷が重い分、多くの方々の支援をいただく。田植え・刈り入れ・脱穀と普段出来ないことを経験し、お世話になった方には収穫したもち米でおはぎを作り、感謝の気持ちを伝えている。

【 子ども自転車大会 】

④子ども自転車大会への参加

交通安全への重点的な取組は本校の特色の一つである。このうち「交通安全子ども自転車大会」へは平成 25 年度から参加し、大会に向けて練習を重ね東近江地区の大会で優勝し、県大会でも好成績を収めることができた。子どもたちの努力はもちろんであるが、支援者の方々の熱心な指導があった。

⑤職員も地域を知ろう

「子どもたちにも増して、私たち職員も地域のことを知ろう」職員のこんな思いでフィールドワークとして、学区内にある寺院や福祉施設を見学した。今後も地域の方々に地域を教えていただこうと考えている。

■ 実施に当たっての工夫

①地域の広報誌や文献などを活用し、地域の歴史や史跡などを詳しく調べた。
②地域の関係機関「愛東コミュニティーセンター」「愛東地区まちづくり協議会」「愛東地区社会福祉協議会」などと連携を図り、内容の充実に努めた、
③コーディネーター自らが、教室へ出向き「地元のまつりの様子」等を子どもたちに話したり、職員のフィールドワークではガイド役として、地域の特色を職員に伝えたりすることができた。

■ 事業の成果

①今年度からスタートしたが、地域コーディネーターの方が地域についての理解と関係機関とのつながりが強く、支援者の方を比較的スムーズに探すことができた。
②愛東地区には各分野に精通されている「多彩なゲストティーチャー」がおられ、子どもたちは生の声を聞くことできる。
③活動（６年：ケナフで卒業証書作り）によっては、支援者と子どもたちだけでなく保護者の方もつながることができた。

■ 事業実施上の課題

①１年目であるので地域コーディネーターは学校の様子を知るために、主な教育活動の理解やＰＴＡ役員会、等にも出席し、保護者や関係者には学校支援地域本部事業についての理解と周知をしている段階である。
②多くの特徴的で伝統的な活動を支援者の理解を得ながら、授業時間数との関連で精選していく必要がある。

■ その他

・参考ＵＲＬ（愛東北小学校）http://www2.higashiomi.ed.jp/aikitasho/

■ 米原市における学校支援地域本部の取組

■　めざす姿

これまで築いてきたボランティアとの関係を大切に、各学校区で子どもたちの読書支援を含め、さまざまな形で地域ぐるみで学校を支援していける体制の確立とボランティアの確保・育成をめざす。

■　本年度の活動

①運営委員会５回：年間計画、成果報告会の持ち方検討、「米原市子ども読書活動推進計画（第２次計画）」の検討、成果報告会開催、事業検証、次年度取組検討

②研修会等：おはなしの講習会２回、ボランティア交流会３回開催

③「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」に取り組み、学校図書館を大改造

■　本年度の成果

事業７年目を迎え、市内の全小学校でボランティア（登録数 117 人）が子どもたちの読書活動を支援してくださっている。そのボランティアの力に支えられているところが大きく、ボランティアの交流・研修の場を設け、情報交換や活動を広くＰＲすることができた。

①ボランティアの円滑な引継ぎと活動

巡回文庫（各小学校の全クラスに毎月、本とおはなしを届ける活動）は、保護者がしてくださることが多く、子どもが卒業されると同時にボランティアも卒業されることが多かったが、新１年生の保護者が巡回文庫ボランティアに入られると、前年度までのボランティアが初回と 2 回目の運搬に付き添われるなど、きめ細やかな引継ぎがなされた。また、子どもが卒業されても今度は学校図書館の壁面制作や本の修理、環境整備のボランティアとして残り、新メンバーに指導してくださる姿が見られた。

②学校図書館の大改造

「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」を活用し、学校、児童、保護者、地域が一体となって学校図書館を大改造し、読書センター、情報センター、学習センターとして機能する学校図書館を整備し、事業検証を行った（地域ぐるみで学校図書館の整備）。

③ボランティア活動の広がりとＰＲ

成果報告会において、学校を支援してくださるボランティアの活動を広く紹介し、ボランティアへの参加を呼びかけた。また、ボランティア同士の交流が深まり、ボランティアグループ同士で読み聞かせの勉強会や情報交換が行われたり、ボランティアの企画事業に他のグループが賛同し協力するなど、横のつながりも広がってきている。

■今後の課題

①ボランティアの継続や引継ぎ、新しくメンバーを確保し育成していくことは、各学校の地域性や少子化の現状の中では、なかなか難しい課題である。

②今後は、読書に特化した学校支援ではなく、各小中学校区でいろいろな面において地域ぐるみで学校を支援していく体制を整えていく必要がある（読書活動支援はその一部として継続する。）。

■その他

・学校図書館大改造の様子は、行政放送（伊吹山ＴＶ9/5 号）で放映、広報まいばら（9/15 号）に掲載。

・平成 26 年度成果報告会「本との出会いは宝物」は、12 月 13 日（土）近江公民館にて開催。

■　全市的な取組による読書支援“みんなで本を読もう”

■米原市
■　活動名 米原市読書活動学校支援（従来型）
■　関係する学校 米原市内の全小学校（伊吹、春照、柏原、大原、山東、息長、河南、坂田、米原）

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	１１７　人
開　始　年　度	平成２０年度

■　活動の概要

米原市では、平成 20 年度から読書に特化した学校支援地域本部事業の取組を始め、昨年度からは、「読書活動推進事業」として、学校・家庭・地域が連携・協力しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、昨年度からすべての学校でボランティアによる読書支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②おはなしの講習会の開催、③ボランティア交流会の開催、④学校図書館の大改造、⑤「米原市子ども読書活動推進計画（第２次計画）」の検討、⑥成果報告会の開催である。

■　特徴的な活動内容

・巡回文庫･･･市内の全小学校の全クラス（特別支援学級を含む）に実施。学校間の運搬は各学校担当のボランティアで、本と一緒におはなしを届けていただいている（月１回）。
・おはなしの講習会･･･読み聞かせや子どもの読書活動についてのスキルアップ講座開催（年２回）。
・ボランティア交流会･･･ボランティアグループによるおはなし会の実演、情報交換、交流による学習会などを実施（年３回）。
・モデル校を設定･･･コーディネーターが集中的に関わるモデル校を設定（２校）。
・学校図書館の大改造･･･モデル校の坂田小学校で、滋賀県教育委員会生涯学習課の「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」を活用し、夏休みに教員、児童、保護者、ボランティア、地域が力を合わせて学校図書館をリニューアル。
・成果報告会･･･事業の報告会を全市民にＰＲし、ボランティアの活動を広く紹介した（12 月に開催）。

■　実施に当たっての工夫

・巡回文庫･･･子どもたちの手の届く所に本を置き、本に親しむ機会を増やすことを目的とし、毎月各学年に応じた 40 冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会を設けている。
・学校図書館の大改造･･･かつて児童数急増時に普通教室が不足し学校図書館を教室にし、その後、再び図書館に戻したものの学習スペースとして十分な机や椅子がなく、１クラスの授業実施に支障をきたす現状に課題のある坂田小学校で、教員、児童、ボランティア、地元企業の協力のもと、極力費用をかけずに行った。

■　事業の成果

・巡回文庫のボランティアは、これまで子どもが卒業されると同時にボランティアも卒業されることが多かったが、新１年生の保護者が巡回文庫ボランティアに入られると、前年度までのボランティアが一緒に付き添われるなど、きめ細やかな引継ぎがなされた。また、学校図書館の本の整理や壁面製作などの環境整備においても新メンバーに指導してくださるなどの姿が見られた。
・学校図書館の大改造によって、学校図書館が読書センター、情報・学習センターとしての機能を兼ね備え、子どもたちの読書環境が整った。実際の作業は１日であったが、改造に当たっての事前準備において、ボランティアによる本の分類・整理、地元の事業所から足りない書架の材料提供、建築組合による室内補修など、地域ぐるみで学校図書館のリニューアルが実現できた。また、保護者も実際に関わることで達成感とともに今後のボランティア活動への意欲につながった。そして、この事後検証としての「学校図書館を活用した授業（６年生の国語の授業）」では、１クラス全員が座れる環境で、学校図書館の使い方・資料の集め方・引用の仕方・まとめ方などを学習でき、地域全体の力で学校図書館の大改造がもたらす効果が絶大であることが実感できた。

・おはなしの講習会やボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中、ボランティア同士のつながりが広がり、成果報告会ではボランティアの活動を広く市民にＰＲし、活動への呼びかけが図れた。

■　事業実施上の課題

・ボランティアの継続や引き継ぎ、新しくメンバーを確保し育成していくことは、今後も継続した課題である。
・今後は、各小学校区で読書活動支援を含め、さまざまな形で学校を支援していく体制を整えていく必要がある。

■　その他

・坂田小学校の学校図書館大改造の様子は、行政放送（「伊吹山テレビ」９月５日号）で放映、広報まいばら（９月 15 日号）に掲載。
・平成 26 年度米原市学校支援地域本部事業成果報告会「本との出会いは宝物」は、平成 26 年 12 月 13 日（土）開催。（参加者 75 人）

■　竜王町における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

町内においても核家族化や価値観の多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域の教育力の低下が懸念されている。

このような状況下、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要である。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図る。

更に、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校（子どもたち）支援に関わる中で子どもたち（学校）を中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に、地域へとその対象を広げ、互いに支え合うことを通して、一層のまちづくり活動の推進へと繋げることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり人づくりをめざす。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町学校応援団				
委員名簿	氏　名	所属・役職等		氏　名	所属・役職等
	市田太芽男	中学校教頭		三嵜住子	コーディネーター
	関谷典子	小学校教頭		杼木博子	コーディネーター
	新庄　証	西小学校教頭		尾川源太郎	コーディネーター
	寺嶋恭子	幼稚園教頭		関川雅之	公民館長
	冨田綾子	西幼稚園教頭		松村知洋	係長
	長岡道子	総括マネージャー		竹山　壽	主査
	草崎　明	コーディネーター			

■本年度の活動

12 月 19 日（金）学校応援団ボランティア情報交換会開催

３月　中旬　　運営委員会開催。

※ 年３回（学期毎）学校応援団だよりの発行。

※ 通年　学校応援団（ボランティア）募集。

■本年度の成果

ボランティア情報交換会では、参加者は少なかったものの、普段支援いただいているボランティアさん同士の活発な情報交換ができた。

■今後の課題

・ボランティア情報交換会の参加者がまだまだ少ないので、周知の仕方や日程の調整など参加者の増加に向けた対策を検討する必要がある。

・支援内容によって、ボランティア登録者が多い支援と少ない支援との差があるので、新たな人材の確保に努めたい。

■ 学校・家庭・地域総ぐるみによる学校支援

■ 竜王町
■ 活動名 竜王町学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 竜王幼稚園、西幼稚園、竜王小学校、西小学校・竜王中学校

コーディネーター数	４ 人
ボランティア登録数（新規）	４８ 人
開 始 年 度	平成２２年度

■ 活動の概要

核家族化や価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭･地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

〇託児支援

・竜王幼稚園では、保育参観時や懇談会時に託児支援を行った。お母さんから離れて、始めは泣いていた子どもたちも、しばらくすると遊びはじめ、お母さんのお迎えのときにはすっかり笑顔であった。

・竜王西幼稚園でも、ＰＴＡ総会時や講演会時等に託児支援を行った。「小さい子どもがいるとなかなか参加できない行事もあるので大変助かります。」との保護者の声が多く聞かれた。

〇学習支援

・竜王小学校で『町たんけん・地域の人と仲よくなろう』の支援を行った。11 名のボランティアさんが、町内のお店等に出かけ、インタビューする子どもたちの安全の見守りをしながら引率や、困ったときのサポート等の支援をしてくださった。

・竜王西小学校で『たなばた飾り』の支援を行った。ボランティアの皆さんが多くの竹を用意して学校へ届けてくださった。また、６名のボランティアさんが七夕飾りを一緒に作ったり、笹に紐で結んだりしてくださった。

・竜王小学校で『家庭科』の支援を行った。竜王小学校では、５年生は手縫い、６年生はミシンでの実習のある授業が行われ、16 名のボランティアさんがグループ毎に１名ずつ補助として支援を行った。５年生の手縫いによる小物作りでは、完成まで時間がかかったが児童たちはとても喜んでいた。また、６年生からは、感謝の手紙をたくさんいただいた。

〇行事支援

・竜王小学校・西小学校で田植え・稲刈りの支援を行った。田植え時では、一列に並び掛け声や太鼓の合図で植えていった。稲刈り時では、稲の刈り方や束ね方を熱心に教わっていた。

■ 実施に当たっての工夫

・統括マネージャーとコーディネーターとが定期的に会議（定例会）を持つことにより、支援依頼内容を正確に伝えることができる。

・支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ行き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアさんと話し合いをしながら、今後につながる情報交換を行う。

■ 事業の成果

・１人では難しいことでも、ボランティアの皆さんに分かりやすく支援していただくことにより、できた（達成した）事が自信へとつながり、今後、子どもたちが成長する『きっかけ』になると思っている。

■ 事業実施上の課題

・支援内容がいろんな分野であるため、今後、各支援分野においてリーダーを決めるなどして、よりきめ細かな支援ができるよう連携を図っていきたい。

・保護者ボランティアさんが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了される場合が多いため、今後継続した活動をしていただくため、何か有効な対策をとっていきたい。

■ 多賀町における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は、自分の持っている知識や経験を子どもたちへ伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

■ 本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を毎月１回開催し、地域における行事案内や地域の課題などを各自が持ち寄り協議検討を行っている。特に子どもの体験活動に関する情報交換では、地域と学校が互いに連携できるように取り組みを進めている。また、地域の教育力の向上に関する事業（広報活動やボランティア研修）に力を入れており、今後の担い手の育成にも取り組んでいる。

【 会議の様子 】

■ 本年度の成果

学校支援地域ボランティアの参加登録者数が 87 人と昨年と比べて増えた。また、支援した先から喜ばれることが多くなった。地域ボランティアの方も子どもたちと接することにより、社会の役に立てている喜びや生きがいにもつながっている。

■ 今後の課題

学校が求めている支援員の方と実際に登録されている支援員の方の需要と供給が一致しないことが多々生じている。特に、学習活動支援で授業の補助および放課後の学習支援の要望にこたえられていない。大学生などのボランティア登録を考えているが、町内には大学もなく難しい。今後は、近隣の大学との連携を模索していく必要がある。

【 施設見学の様子 】

■ その他

多賀町地域教育力推進協議会　　開催数：年 10 回　　委員数：26 名

団体	多賀町ＰＴＡ連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		ＪＡ東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者ｻｰｸﾙ「ぶらんこ」		大滝小学校
	Ｄドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「ＳＫＯ」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人 「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

■ 「みんなで支える学校」多賀町学校支援地域本部事業の取組

■ 多賀町
■ 活動名　多賀町学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校 多賀幼稚園・大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園

コーディネーター数	１　人
ボランティア登録数	８７　人
開　始　年　度	平成２０年度

■ 活動の概要

町内の７つの小中学校、園を対象に、読み聞かせをはじめ環境整備や安全見守りなどを中心に支援している。
また、年に３回程度ボランティアさん向けの研修会を実施している。

■ 特徴的な活動内容

平成 24 年度より両小学校のプール授業時の監視ボランティアを実施している。
監視台の上からの安全見守りや、プールの虫拾いなど。また見学児童への声掛けなど。暑い時期だが、沢山の方に予定を組んで支援していただいている。今年度は保育園からの依頼も増え、遊具の補修作業などの整備依頼があった。

■ 実施に当たっての工夫

電話連絡に加えて、文書で依頼をお願いし、雨天の際の連絡など学校の判断が必要な場合は、直接ボランティアさんへ連絡していただき、スムーズに変更に対応できるようにしていただいている。また、登録しているだけにならないように、未経験の方にも依頼の声掛けをするようにしている。

■ 事業の成果

学校生活の中で日常的に地域の方が関わることで、子ども達が地域の方に出会えるのを楽しみにしていることからも、地域の力が活かされていると感じている。

	実施回数	のべ人数
図書関係(読み聞かせなど)	32	150
環境整備	14	43
校内･校外安全見守り	33	59
学習支援	3	9
その他(研修会など)	3	14

＊１１月時点

■ 事業実施上の課題

・登録していただいているボランティアのみなさんが比較的高齢の方が多く、町に高校や大学がないため、依頼の内容によっては応えられないものもある。また、高齢でボランティア登録を取り消される方もおられる中、今後の課題として、保護者層へ積極的にＰＲしていくことや、町で開講している講座との連携を図る必要がある。
・決まった時期や曜日に学事が集中し依頼が重なるため、ボランティアさんの確保が難しいこともある。

■ その他

町の広報に学校支援ボランティアだよりというコーナーがあり、毎月学校支援の活動報告を掲載している。活動している自分の姿が広報に掲載されることで自信に繋がり、積極的な関わりを持つきっかけとなっている。

Ⅲ　放課後子ども教室の実践事例

Ⅲ　放課後子ども教室の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

◆平成２６年度放課後子ども教室一覧　・・・・１１５
◇栗東市　・・・・１１６
◇米原市　・・・・１２４
◆放課後児童クラブの現状調査　・・・・１２９

Ｈ２６　放課後子ども教室一覧表

市町名	教室数	運営委員会・教室名	実施場所	開催曜日	開設時間	委託	委託団体名
栗東市	7	○栗東市地域教育協議会					
		葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校体育館 コミュニティセンター葉山東	水	15:00～17:00	○	栗東市地域教育協議会
		はるたっこ広場	治田小学校体育館 コミュニティセンター治田	金	15:00～17:00		
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校体育館 コミュニティセンター治田東	水	15:00～17:00		
		治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西	水	15:00～17:00		
		大宝わくわくタイム	大宝小学校体育館	水	15:00～17:00		
		さんさん・キッズ	大宝東小学校体育館 コミュニティルーム	水	15:00～17:00		
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校体育館 コミュニティセンター大宝西	水	15:00～17:00		
米原市	4	○米原市放課後安心プラン運営委員会					
		放課後キッズinおうみ	近江地域内の里山・農園・公民館	平日・日	9:30～11:30 10:00～14:00	○	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会
		放課後キッズinまいはら	河南小学校、旧息郷小学校 すぱーく米原	土	9:00～11:00	○	NPO法人 MOSスポーツクラブ
		放課後キッズin　310	米原市山東生涯学習センター	水 土	15:00～17:00 9:30～11:45	○	NPO法人 カモンスポーツクラブ
		放課後キッズinジョイ	伊吹薬草の里文化センター 伊吹山文化資料館 伊吹山麓青少年総合体育館	水・日	16:00～17:45 10:00～12:00	○	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団
計	11						

■　栗東市における放課後こども教室の取組

■　めざす姿

〇地域の教育力を向上させ、地域で子どもを育てる環境の形成および、子どもたちに様々な体験活動を通じて、地域とのつながりを深め、健全な青少年の育成をめざす。

■　本年度の活動

〇７小学校区にて放課後の見守りや体験活動、軽スポーツ、学習（宿題）を行う。
季節に応じたイベント（七夕やハロウィン、クリスマスなど）や誕生月会など、子どもたちが参加して楽しめるイベントを企画した。

■　本年度の成果

〇週に１回程度ではあるが、放課後の安全な交流の場として、様々な団体との協働により、多くの体験活動を実施できた。

■　今後の課題

〇スタッフの確保は常に大きな課題になっている。数十人の児童が軽スポーツをする際に、数名しかスタッフがつけないことがある。
〇また、継続して活動していけるよう、安定した補助金の確保。
〇９小学校区のうち、開催できていないところがあるが、なかなか地域でスタッフの呼びかけをしても集まりにくい。子ども相手になると体力的にも負担を感じられるケースが多く、若い方は仕事をもっておられる場合が多いので、協力を得にくい。
〇学童保育所との一元化により、人員の確保について地域ボランティアだけではなく、児童の指導ができる方の参加があればよいと思う。
〇「放課後の見守り」が主たる内容になっており、「何らかの体験学習」、「学ぶことの楽しさを感じる」という専門性が高い内容についてはあまり実施できていない。

■　その他

〇地域のボランティアの方が主として活動を支えてくださっているため、現状では放課後の見守り活動や、地域の方との交流推進ができているので良いと感じている。

■　おとなとこどもが一緒に活動し、多くの体験で地域文化を伝えていきます。

■　栗東市	
■　活動名 葉山東ふれあい子ども広場	
年間開催日数	３１日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	４３　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館の空き時間やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

申し込みの時点から「軽スポーツ」、「クラフト（あやとり、コマ、クリスマスリース、カレンダー、ストロー笛などを作成」、「囲碁・将棋」に分け、一年を通してその活動を行う（途中変更可）。定期的にお楽しみ会を行い、３班全員が集まって交流できるような機会を作る、また地域の文化祭にクラフトで作成した作品を出品し、活動内容を広報している。

【　次の一手は…　】

【　栗東ロテリアで地域の名所をおぼえよう！　】

■　実施に当たっての工夫

３班に分けているが、学期末での全体活動で交流を図っている。コミュニティセンター事業と連携して、出来るだけ多くの活動を実施できるように工夫している。

■　事業の成果

コミュニティセンターのかかわりが深いので、地域全体で子どもを見守ろうという取り組みになってきている。今後も協力者をふやしながら活動を続けて生きたい。クラフト、自由遊び、囲碁・将棋と希望を分けて参加者を募っているため、子どもたちの参加率はよかった。

栗東ロテリア（カードゲーム）で地域の名産品や名所の勉強をしたが、多くの子が地元のことを知らないことに驚き、また、興味を示していた。

■　事業実施上の課題

スタッフの確保、特に軽スポーツの指導者が不足している。現在のスタッフが高齢化していく中で、いかに世代交代していくかが重要な問題となっている。事故の不安があったので、小さいお子さん（未就学児）連れでのスタッフ参加を断っていたが、今年からは参加してもらっている。

■　その他

参加者が自分の好みに応じた活動ができているので、のびのびとしている。

■　放課後のあそびば　はるたっこ広場

■　栗東市	
■　活動名 はるたっこ広場	
年間開催日数	２８日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	６２　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館の空き時間やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や自由活動、軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

学校を集団下校でコミセンに集合後、受付から活動開始までの時間は各々宿題等をしている。今年度から本の読み聞かせサークルに、絵本の読み聞かせの協力をいただき、本に興味のある子は別室で読み聞かせ行っている。活動は学校体育館をお借りし、自由遊び（長縄跳び、バドミントン、ドッジボール、フリスビーなど）行い、スタッフが見守りや活動の補助をする。

■　実施に当たっての工夫

基本は自由遊びで、スタッフは一緒に遊んだり、見守りをしたりしている。

季節ごとに、時節に応じたクラフト作成やお楽しみ会を実施している。

別途参加費を徴収することになるが、お楽しみ会を設けていることで、普段はあまりしないお菓子作りなど体験できるようにしている。

【自由活動の一コマ　大縄跳び　】

【　初回、校長先生よりあいさつ】

■　事業の成果

本読み聞かせサークルの協力を得たことで、スタッフ全体、時間的、体力的なゆとりができた。

自由遊びの後から途中参加する子も、静かに、落ち着いた感じで部屋に入り、先にいる子どもたちの邪魔にならないよう、気を配れるようになった。

場所については、小学校の体育館を借りているので、人数が多くても対応できている。のびのびと走り回れているので、子どもたちも楽しそうである。

■　事業実施上の課題

現在は「定員」を設けずに、参加したい児童全員に参加してもらっている（募集は１年生から６年生まで、現在の参加は１年生から４年生まで）。今年度は 70 名以上の参加申し込みがあり、低学年ほど多いことから、スタッフが不足気味である。スタッフも高齢化していることから、次の世代の人材にどのように事業を引きついていくかが大きな問題であると思っている。

来年度以降は定員を設けるかどうか、スタッフ間でしっかりとした協議が必要である。

■　その他

できれば市内の他教室と同様に水曜日に開催したいが、他の活動と重複して体育館が使えないため金曜日開催にしている。

スタッフ一同、協力して子どもが楽しめるような内容を企画して行きたいと考えている。

■ みんなでたのしくチャレンジ「はるひがっこ」

■ 栗東市	
■ 活動名 チャレンジはるひがっこ広場	
年間開催日数	２８日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	４２　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

七夕飾りやハロウィンでのクラフト作成、お持ちつきや恵方巻の作成など、季節を感じられる活動を取り入れている。受付後はまず宿題タイムをもうけ、地域スタッフが分からない点を指導しながら宿題をこなし、自由活動（バドミントン、ドッチボール、長縄跳び、フリスビーなど）を行う。英語での絵本読み聞かせも今年度から取り入れている。

■　実施に当たっての工夫

地域スタッフが持っている技能を活用した内容を取り入れ、子どもたちに多くの体験活動が出来るようにしている。時節のイベントを取り入れ、子どもたちに季節を感じられるように工夫し、事業の計画を立てている。

【ハロウィン、ジャックランタン作り】

【みんなが揃うまでは自主的に宿題、
スタッフは分からないところをサポート】

■　事業の成果

軽スポーツやクラフト活動のほかに、本年度からは英語での読み聞かせも取り入れている。子どもたちにとって聞いて理解できるところまではいかないが、耳から入ってくる英語と、絵本の絵柄を見て、話の内容を連想することで、外国語への取り組みやすさを感じてもらいたいと思っている。スタッフ内でも活動の幅が広がることと、様々な人材を活用することで負担の軽減も図れ、能力が活かせることでスタッフにもやり甲斐が生まれている。

■　事業実施上の課題

スタッフの確保。これまでは小学生の活動で走り回ったときに危ないので、小さなお子さんがいる方からスタッフ申込（子ども連れ）があっても断っていたが、そういった方にも参加してもらい、人材の確保と活動の幅を広げたいと思っている。小さい子（未就学児）がいることで上級生との交流も図れるのではないかと期待している。

■　その他

保険代以外にも「自主活動費」として５００円徴収している。それにより参加が減ったとは感じておらず、逆に活動内容に幅ができたので良かったと思っている。主に補助金対象とならない食料費に当てて、誕生月会など、子どもたちが楽しめるよう工夫している。

■　あいさつしっかり「はい」と返事、時間をまもり友達を大切に、最後までやりぬくのびのび広場

■　栗東市	
■　活動名 治西のびのび広場	
年間開催日数	３３日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	５７　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、コミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動、体験学習などを行う。

■　特徴的な活動内容

ニュースポーツや学校プールでの水泳、地域文化際での創作活動、人権学習や平和学習など地域の施設や人材に広く協力をいただきながら、年 33 回の活動を行っている。また他団体が主催するスキー教室や琵琶湖でのボート教室、クリスマス会、奉仕活動など、心身ともに健全な成長を促せるよう、内容を工夫している。

■　実施に当たっての工夫

自分たちでサツマイモを植え、収穫した後、戦時の食糧難のお話を聞いて戦争の悲惨さや平和の大事さを学習する。

帰宅時には同じ自治会の児童が集まって集団下校をするようにしており、一人になる場合はスタッフが付いていくようにしている。親の迎えがある児童がいる場合は、同じ方角の児童も送ってもらうよう依頼している。

【　平和学習の風景　1】

【　平和学習の風景　2】

■　事業の成果

自分たちでサルビアの花を植えたり、サツマイモを育てたりしながら、人権ついて学習し、平和のありがたさについて考えたりしている。作文を書き、みんなの前で発表することで、自分の思いをしっかり伝える経験をつくることで、一人ひとりがみんなのために考えて行動する意識が芽生えている。

学校施設を多く借りられていることや、先生方のご協力、他団体へのイベント参加をしていることもあり、子どもたちには様々な体験活動や、放課後の安全な活動が実施できた。

■　事業実施上の課題

児童数増が続いており、放課後子ども教室への申込者も高止まりしている。学校の有志の先生方に積極的に協力していただいているおかげで多くの参加者を見守ることが出来て、イベントを実施することができている。現在は有志の先生方のご尽力による活動が多いので、地域のスタッフ自らが動き、事業を実施していく内容を増やし、人材の確保と、質の向上に努めていく必要があると考えている。

定員を設けずに募集をかけているが、設定の是非についてもスタッフにおいて協議が必要と考えている。

■　その他

学校やコミュニティセンターをはじめ、他団体との協力により、夏はプールや水辺の活動、冬はスキー教室などが実施できている。現状は学校教諭の負担が大きいことから、少しずつでも地域スタッフが上手く参画できるようにしていきたい。

地域の方やコミュニティセンター、学校の協力が強く現状、運営は上手くいっていると感じている。今後も放課後の児童の見守り活動が続けられるように、パートナーシップを継続していきたい。

■　今日はどんな活動かな、みんなわくわく、楽しい時間をすごしましょう。

■　栗東市	
■　活動名 大宝わくわくタイム	
年間開催日数	２３日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	４４　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館の空き時間を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

受付後は宿題タイム。その後、ラジオ体操をして毎回異なるゲーム（チーム対抗のリレー競争や、ビンゴゲーム、昔遊びなど）や創作活動（バルーンアート、ブーメラン、どんぐりを使ったアクセサリー・けん玉づくりなど）を行っている。最後は毎回ドッジボールを行う。他団体の協力も得ながら、子どもたちに様々な体験活動を経験できるようにしている。

■　実施に当たっての工夫

前年度までの活動内容から「継続して行う活動」に、当年度からの「新しく行う活動」を取り入れ、子どもたちが毎日参加することが楽しみになるような内容をスタッフで相談し決めている。子どもたちの中には「クラフト作成が好きな子」と「体を動かすことが好きな子」がいるので、毎回、最初にラジオ体操、最後にドッジボールを行っている。

全体を４班に分けて、チーム対抗でのゲームやドッジボールを実施することにより、協力することの大切さやみんなのために最後までやりきる気持ちの育成に取り組んでいる。

児童数の多い学区でもあり、定員を設けている。

【　バルーンアートに挑戦　】

【　活動の前にしっかり準備運動　】

■　事業の成果

ドッジボールでは、年度当初は１年生と２．３年生を分けて実施していたが、夏からは合同で４班に分かれ、毎回対戦相手を変えて実施している。上級生がボールをまわしてあげたりして、下級生の面倒を、周りの子どものことを考えて行動できるようになってきていると感じる。はじめは自分で投げることを恥ずかしがる子もいるが、次第に雰囲気やメンバーに打ち解けてきて、自分から動けるようになってきている。

■　事業実施上の課題

スタッフの確保で、どの団体にどのように協力を求めていくかが問題。紙ベースで募集をしてもなかなか人が集まらないので、声かけで参加を促している。

スタッフが増え、定員オーバーで抽選に外れる子も無くなり、希望者が全員参加でいるようにできるようにしたいと考えている。

■　その他

学校の終業時間が早まったことで、子どもたちの相手をする時間が増えたことにより、スタッフの負担増を心配していたが、何とか対応できている。子どもたちにとっては時間的にゆとりを持って、「宿題」、「体操」、「活動」、「ドッジボール」と進められているのでいい結果が出ていると思う。

■　おひさまのようにみんな笑顔でたのしく活動

■　栗東市	
■　活動名 さんさん・キッズ	
年間開催日数	２６日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	３４　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館の空き時間を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

宿題タイムをもうけて、スタッフも含めて皆で教えあいながら宿題をする。その後、ラジオ体操、自由遊び（ボール遊び、折り紙、フリスビー、バドミントン、縄跳び、お絵かきなど）を行う。

■　実施に当たっての工夫

活動については、宿題やラジオ体制を行った後、子どもの自主性に任せて自由遊びにしている。スタッフが少ないので、実施できる内容には限りがあるので、主として宿題のサポート、自由遊びと見守りが活動の中心になる。

【　宿題タイム　】

【　ラジオ体操で準備運動　】

■　事業の成果

自由遊びの中で、子どもたちが協調性や自主性を身につけている。地域の人とかかわり、見守り活動を行うことで「地域で子どもを守り育てる」機運が出てきている。

■　事業実施上の課題

子どもの参加希望者が多い中で、対応できるスタッフの不足が慢性的な問題である。スタッフ不足により他の教室のようなイベントの企画や様々な活動ができないのが残念である。急速に都市化が進んだ学区であり、若い世帯が多く、リタイアした方の人材が集まりにくいことも考えられる。

更なる活動内容の充実を図るためにはスタッフの増員や専門スキルを持った人材（団体）の協力、コーディネーターの増員等を期待している。

■　その他

現状では「放課後の安全な見守り活動」を主旨として活動している。みんなで宿題をし、ボール遊びやクラフトの作成等をすることで、目的としては達成できていると感じている。

急速に都市化が進んだ地区でもあり、放課後の遊び場として学校施設を利用できることはありがたいことである。

■　地域みんなで子どもとふれあい、安全な遊び場をつくろう。

■　栗東市	
■　活動名 大宝西ふれあい子ども広場	
年間開催日数	２９日

コーディネーター数	１　人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	２９　人
開始年度	１９年度

■　活動の概要

放課後の時間、学校体育館の空き時間やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■　特徴的な活動内容

宿題タイムをもうけて宿題を済ませた後、自由活動（ボール遊び、縄跳び、フリスビー、オセロなど）を行う。七夕飾りやクリスマス会など季節の催しや平和学習　他団体の協力を得て、エコキャンドルの作成や栗東ロテリア（ボードゲーム）、ニュースポーツなど様々な体験活動を行う。

■　実施に当たっての工夫

クラフト活動と自由遊びに加え、季節ごとの催しを加えて、様々な体験活動を実施している。空き瓶と蝋を使ってエコキャンドルを作成し、クリスマス会において全員で点灯する。

【　七夕まつり　】

【　エコキャンドルづくり　】

■　事業の成果

グループ分けを行い、上級生が下級生を見るようにしているので、自立心や協調性が育ってきている。

いろいろな団体の活動を加えていくことで、子どもたちが興味をもちやすく、物事に積極的に取り組むようになった。

多方面からスタッフに協力をいただいているので、情報のやり取りやイベントでの協力が得られやすい。

１年生が学校になじむ時間が必要と考えて、活動は６月から開始している。そのため、最初のから整列や座って人の話を利くことができる子が多いと感じた。

冬、体育館での活動は非常に寒く、子どもたちの参加率に影響が出るかと心配するが、あまり子どもたちは気にならないようでよかった。

■　事業実施上の課題

保護者、民生委員等に声かけを行い、スタッフとして参加いただいているので、他の教室に比べるとスタッフの数は不足していない。一人の負担が多くならないように、今後も協力者、指導者の確保に努める。

■　その他

他団体との交流、特に普段自分たちが触れ合う機会が少ない外国人との交流や、外国の話は子どもたちにとってとても興味ぶかいようである。保険代以外でも自主活動費をもらい、毎月の誕生日会などを実施している。

■　米原市における放課後子ども教室の取組

■めざす姿

　放課後や週末に学校施設やその他公共施設等を活用して、地域に応じた子どもたちの安全・安心な場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学びと遊びの体験、異年齢交流の機会を提供し、地域で子どもを守り育てる環境づくりを目指します。

■本年度の活動

本年度の活動　　実施回数：６回

委員：15 人

（有識者、福祉・教育に関わる機関や団体の代表者、子どもの保護者、公募市民など）

・米原市子ども・子育て審議会において、放課後キッズの活動を報告し、今後の活動などについて、議論しました。

■本年度の成果

　子どもたちに感想を聞く機会があり、「いろいろな体験ができるから楽しい」など、放課後キッズの趣旨である体験を楽しんでくれていることに嬉しく思いました。

　地域の方とふれあう場を作り、交流を深めることができた。

　様々な体験や遊びを通して子どもたちの成長を支援することができた。

■今後の課題

・放課後児童クラブとの連携を図る。

・土曜日の活動が多いため、平日の放課後にシフトできないか検討する必要がある。

・今後の放課後キッズのあり方や方向性などについて再度協議をする。

・会員制であるため、いつでも誰でも参加できる開かれた居場所にしていく必要がある。

■　安心できるよ、発見しよう、体験しよう。子どもの新たな居場所づくり

■　米原市	
■　活動名 放課後キッズ in おうみ	
年間開催日数	５ 日

コーディネーター数	１　人
子どもの平均参加人数	３５　人
開始年度	平成２２年度

■　活動の概要

子どもたちにとって安全で快適になるような学校の休日を提供するため、地域のおじいちゃんやおばあちゃん、ボランティアの皆さんにご協力を頂き、異世代間交流や体験活動を行っている。この事業を通じて、地域の方やボランティアさんの特技や技術、生活の知恵を活かし、地域の子どもたちの健やかな成長を見守り、青少年の健全育成の子育て支援に取り組んでいる。

■　特徴的な活動内容

地域にある豊かな地域資源や人材を活かした活動を行っている。具体的には、今年度、地域で子ども達が自由に遊ぶ場所を提供する活動をしている「うかの冒険あそび場」と合同の企画を行い、子ども達の充実した放課後の過ごし方の一例を示した。また、琵琶湖が近いことから、湖岸にある砂を使った企画「砂像作り体験」を行い、地域にある環境を活かした遊び方を体験してもらうことで郷土愛を育む体験を行った。

■　実施に当たっての工夫

地域の子どもたちに農業を中心としたさまざまな体験活動を提供しながら、子どもたちにメンバーの持つ長年培った経験と知恵を継承し、子どもたちの健全育成に取り組んでおられるボランティア団体「どろんこの会」や里山の保全を目的として様々な活動をしている団体「やまんばの森」などの熱心に活動しておられる地域の団体や書道家などの作家の方に協力をして頂きながら、幅広いジャンルの様々な活動を体験する機会を子ども達に提供している。

■　事業の成果

地域の方やボランティアさんが全面協力をしてくれているおかげで子ども達は放課後キッズの活動時間中、気兼ねなく安心して過ごすことができ、保護者にも安心して子どもを預けて頂くことができた。子ども達は、家や学校ではなかなか出来ない体験を通して、家とも学校とも違う新しい友達と自分達で考えて工夫する力を養うことができた。また、同時に子どもたちの主体性と社会性を育む機会にもなった。

■　事業実施上の課題

事業を数年続けていくと活動内容がマンネリ化してしまう部分がある。今年度も新たな企画を立ち上げて、子ども達や保護者が退屈しない活動を心掛けた。今後も活動のマンネリ化を防ぎながら、地域一体となった子育ての一助となるように活動を進めていきたいと考えている。

■　その他

当事業では地域資源を最大限に活かしながら、他にはない活動内容を提供している。地域に居住する保護者や子ども達が自分達の住む地域のことを知り、自分達の住む地域の魅力に気付いてほしいとの思いを持ちながら、活動をすすめている。今後も活動を通して、地域の子育てに貢献していきたい。

■　米原市放課後安心プラン「放課後キッズ in まいはら」

■　米原市	
■　活動名 放課後キッズ in まいはら	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	３　人
子どもの平均参加人数	１９．６　人
開始年度	平成２３年度

■　活動の概要

米原市では、子ども達にとって安全で快適な放課後の居場所づくりの推進に取り組んでいます。そのなかで米原市米原地域では、総合型地域スポーツクラブ「ＭＯＳスポーツクラブ」が、米原市の『放課後安心プラン』の一環として、「放課後キッズ in まいはら」に取り組んでいる。

「放課後キッズ in まいはら」では、子ども達が安全な環境で思う存分遊べる場所、ゆったりと安心して過ごせる居場所として放課後や休日に公共施設等を活用し、いろいろな体験や交流活動が行えるようにしている。年度初めに参加者を募り、６月から 12 月まで毎月１回の活動を実施している。

■　特徴的な活動内容

総合型地域スポーツクラブが中心となり活動しているため、バドミントンや卓球、ミニテニスなどのスポーツ体験が中心となっている。指導にはスポーツクラブの会員の方にもご協力頂いているところである。

米原市では、カヌー体験を通じて米原の豊かな自然を体験してもらいたいと、カヌー・カヤックを導入されているため、生涯学習課の協力を受け、放課後キッズ in まいはらでもカヌー体験を実施している。

■　実施に当たっての工夫

遠足や野外活動以外の活動日は、２種目以上のスポーツ体験の準備をし、その場でグループ分けを行って時間帯によって違う体験をすることで、子ども達が飽きないように工夫している。

遠足では事前学習としてコーディネーターがまとめた遠足先のクイズ形式の情報を冊子にして配布し、ただ体感するだけでなく、興味を持って見ることや考えることができるようにしている。

また、活動内容に直接関係はありませんが、活動ごとの受付では必ず、保護者ではなく参加者自身に名前を答えて頂いています。学校以外の場でしっかりと発言できるような機会を作ることを目指しているためです。11 月初旬には、「参加者」「保護者」「教育活動サポーター」それぞれに向けたアンケートを配布し、現状への意見や来年度に関することを問い、それぞれの立場の意見や希望を集約し、来年度の活動に繋げていけるよう努力した。

■　事業の成果

体験する機会がなかなかないカヌーや、意外に体験する機会の少ない卓球などの活動の場を提供できた。

学校や学年が異なっている参加者が、それらを超えて協力して楽しんで頂けたように思います。また、ミニボーリングでは、子ども達が自分達でルールや役割（ピンを並べる係、ボールを戻す係など）を考えて実践するなど主体性をもって活動する姿を確認できた。

受付では、当初は保護者に名前を言ってもらっていた参加者が、中盤以降は聞かなくても自ら率先して名乗り、保護者の力を借りることなくスムーズに受付できるようになった。

■　事業実施上の課題

保護者の積極的な参画を望む声がある一方で、活動時間帯に仕事をされている保護者の方もおられ、参加者の送迎を親類や友人に頼んでいるケースも見られる。仮に保護者の参加を推進した場合、現状では必ず保護者不在の参加者が発生していまい、疎外感などを感じさせてしまう事態になりかねない。そのため、慎重に判断するべき案件だと思われる。

■　家でできないいろんな体験が、いくつも盛り込まれています

■　米原市	
■　活動名 放課後キッズ in ３１０	
年間開催日数	上学年：２５日 下学年：１４日

コーディネーター数	１　人
子どもの平均参加人数	上学年：８人 下学年：７人
開始年度	平成２６年度

■　活動の概要

４月から翌年３月にかけて、下学年は月１回から２回、上学年は月２回を実施した。ボールに親しむことを数多く取り入れ、家庭ではなかなかできない体験も実施した。上学年と下学年に分かれて活動を行った。

■　特徴的な活動内容

上学年は、バドミントン、乗馬、卓球、スキー、スケートなどの活動を行った。
下学年は、ボール遊び、乗馬、農園、水泳、スケート、しめ縄づくり、書初めなどの活動を行った。

☆ バドミントン・・・事務局スタッフの指導で行った。
☆ 卓球・・・卓球サークルの指導を得て行った。
☆ ボール遊び・・・事務局スタッフの指導で、柔らかいボールや小学生バレーボールを使って、ボールに親しむ活動をした。
☆ 乗馬・・・近隣の乗馬クラブで４月と１０月に実施した。
☆ 農園・・・事務局スタッフの指導で、カモン農園で５月にさつま芋苗を植え、１０月に収穫した。
　　農園の近くで、５月にはイチゴが、１０月にはイチジクがとれ、思わぬ収穫に保護者達も舌鼓を打っていた。
☆ 水泳・・・外は木枯らしが吹く中、温水プールで水泳と温泉気分を味わった。
☆ スケート・・・県立アイスアリーナで、ウインタースポーツのスケートを体験した。
☆ スキー・・・奥伊吹スキー場に集合して、地域の有資格者の指導で、ふれ合いと技術向上を目指して行った。
☆ 正月飾りつくり・・・親子でミニしめ縄づくりを体験した。
☆ 書初め教室・・・正月５日に書初めとぜんざいで正月を祝った。

■　実施に当たっての工夫

☆ ボール遊びについては、子どもたちが退屈しないように、休憩時間を長めにとりながら実施した。
☆ 乗馬体験や農園体験、スケート体験、正月飾りつくり体験では、親子で参加してもらって大人にも体験してもらい、家庭での話題になることをねらった。
☆ 水泳は、事故が危惧されるので、保護者に安全管理にあたってもらった。
☆ 書初め教室では、学校の宿題になっている学年もあるので実施した。また、公民館の鏡餅をぜんざいとしていただき、新年を祝い、今年度の放課後キッズを締めくくった。

■　事業の成果

☆ 異年齢間、学校間の交流ができた。また、親子で体験した活動では、子どもの活動というより放課後ママ的な活動となり、ママ友もできたようで予定にないふれあい、つながりが深まった。

■　事業実施上の課題

☆ 上学年、下学年ともに２歳違うと運動能力などの差がかなりあり、一緒に活動することのむずかしさがある。
☆ 低学年ほど活動に集中できず、退屈、飽きっぽいなど活動内容の企画がむずかしい。

■　多様な体験、深める交流　　いぶきっ子の豊かな心の育成を目指して

■　米原市	
■　活動名 放課後キッズ in ジョイ	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	１　人
子どもの平均参加人数	３４　人
開始年度	平成２１年度

■　活動の概要

第１回（5/28）　ミニ運動会を楽しもう
３班編制で班対抗による軽スポーツの体験をした。
①綱引き　②スパー玉入れ　③しっぽ踏み　④パン食い競走

第２回（6/18）　バスボムを作ろう
重曹、クエン酸、片栗粉を材料にバスボム（入浴剤）をつくった。

第３回（7/16）　グラウンドゴルフを楽しもう
伊吹第２グラウンドでグラウンドゴルフを体験する。余った時間でホールインワン大会。

第４回（10/4）　福井県立恐竜博物館見学と恐竜化石発掘体験・・・土曜日実施。借り上げバスで体験学習に出かけた。

第５・６回（11/19,26）　３色だんご作りに挑戦！！・・・・・・・・地域人材の活用。

第７回（12/10）　キャンドルホルダーを作ろう

第８回（1/18）　かるた・百人一首＆餅つき大会（青少年育成会議伊吹支部との共催）

第９・10 回（2/18,25）　お楽しみ！お菓子作り

■　特徴的な活動内容

３色だんご作りに挑戦！！

地域で和菓子店を営む方を教育活動サポーターに迎え、３色だんご作りを体験した。だんごの生地作りは難しく時間もかかる作業なので、出来上がった生地を用意していただき、切ってだんごに丸め、串に刺して蒸す活動を体験した。お店の商品のように大きさの揃った団子にはならなかったが、子どもたちは楽しんで活動に取り組み、おいしい３色団子ができた。

始めに持ち帰り用の３串を作り、次に試食用のだんごを作った。子どもたちは、丸い団子だけでなく好きな形にもして、とても楽しそうであった。試食では、そのまま食べたり、あんこやきな粉をつけて食べたりした。和菓子屋さんの思いとしては、そのまま食べてもおいしいし、きな粉やあんこで味に変化を加えるとまた違った美味しさが味わえることに気づかせたかったようである。どの味もそれぞれにおいしく、和菓子の味の基本を感じることができた。最後の質問コーナーでは、和菓子屋さんの朝が早いことやとてもたくさん作っておられることにがわかり、仕事の大変さを感じとることができた。

■　実施に当たっての工夫

①活動内容は、スポーツ、もの作り、見学活動など偏りのないように計画した。
②グループ活動の際は異学年混合とし、高学年児童に役割を持たせ、リーダー意識を育てるようにした。
③安全確保　・学校から帰宅後、必ず保護者による送迎とする。
・放課後児童クラブ参加児童は、必ずクラブ指導員の引率による。
④緊急対応　・センター外での活動には、必ず救急鞄を携行する。
・緊急連絡先を児童名札裏面に記載し、緊急連絡に備えた。

■　事業の成果

〇スポーツ、調理、もの作りなど様々な活動を体験させることができた。
〇高学年児童にリーダーとしての自覚の芽生えが見えた。
〇２小学校合同での活動により学校間の交流が図れた。また、グループ活動により異学年交流も進んだ。

■　事業実施上の課題

〇新しい活動の工夫・開拓
〇教育活動推進員の高齢化
〇活動内容によって児童負担金が多くなる。

放課後児童クラブの現状

平成26年5月1日現在

1　放課後児童クラブ数実施状況

（1）　小学校の状況

小学校区数	226 か所	児童数	82,588 人
小学校１～３年生の総数	40,588 人	＊４～６年	42,000 人

（2）　放課後児童クラブの概況

補助対象別クラブ数	国庫補助対象	大津市	市町単独実施	合計
	210	60	6	276

（3）　放課後児童クラブの状況

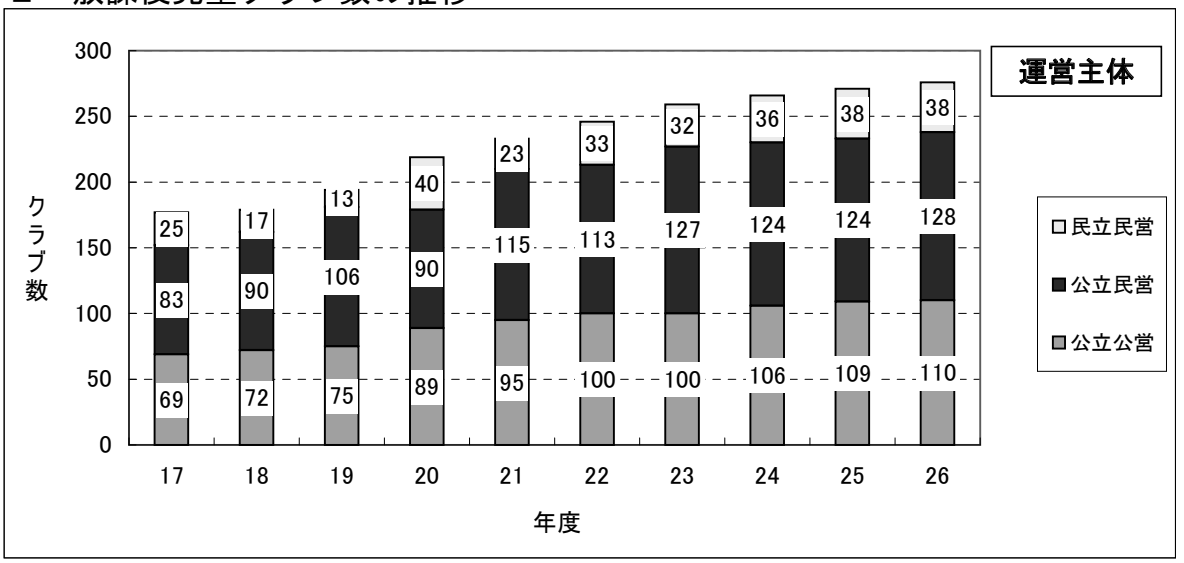
調査項目		公立公営		公立民営		民立民営		合　計	
実施場所別放課後児童クラブ数	児童館・児童センター	1		2		5		8	
	学校の余裕教室	48		15		2		65	
	学校敷地内専用施設	33		47		4		84	
	公有地専用施設	22		46		2		70	
	民有地専用施設	2		1		9		12	
	民家・アパート	0		0		2		2	
	公的施設利用	3		11		2		16	
	団地集会室	0		1		0		1	
	保育所	0		0		6		6	
	幼稚園	1		5		2		8	
	商店街空き店舗	0		0		2		2	
	その他	0		0		2		2	
	合計	110		128		38		276	
登録児童数別放課後児童クラブ数	９人以下	2		4		1		7	
	１０人～１９人	4		5		8		17	
	２０人～３５人	40		26		5		71	
	３６人～７０人	59		79		20		158	
	７１人以上	5		14		4		23	
	合計	110		128		38		276	
障害児受入数別放課後児童クラブ数	受入なし	13		19		13		45	
	１人	27		34		14		75	
	２人	26		21		6		53	
	３人	17		17		4		38	
	４人以上	27		37		1		65	
	合計	110		128		38		276	
終了時刻別放課後児童クラブ数	１７：３１～１８：００	43		18		3		64	
	１８：０１～１８：３０	65		38		9		112	
	１８：３１～１９：００	2		70		18		90	
	１９：０１～２０：００	0		2		5		7	
	２０：０１～２１：００	0		0		2		2	
	２１：０１～２２：００	0		0		1		1	
	合計	110		128		38		276	
休日の開館状況別放課後児童クラブ数	土曜日（毎週実施以外）	108	(2)	93	(21)	38	(1)	239	(24)
	日曜・祝日	0		8		7		15	
	長期休暇	110		107		38		255	
学年別児童数	小学校１年生（障害児）	1,541	(80)	1,762	(92)	470	(10)	3,773	(182)
	小学校２年生（障害児）	1,328	(80)	1,662	(106)	415	(8)	3,405	(194)
	小学校３年生（障害児）	904	(52)	1,166	(68)	308	(6)	2,378	(126)
	小学校４年生（障害児）	463	(39)	744	(49)	201	(7)	1,408	(95)
	小学校５年生（障害児）	204	(19)	432	(32)	112	(6)	748	(57)
	小学校６年生（障害児）	97	(9)	244	(20)	69	(6)	410	(35)
	その他（障害児）	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計（障害児）	4,537	(279)	6,010	(367)	1,575	(43)	12,122	(689)
学年別登録できなかった児童数	小学校１年生（障害児）	4	0	14	(1)	4	0	22	(1)
	小学校２年生（障害児）	5	0	12	(1)	0	0	17	(1)
	小学校３年生（障害児）	6	0	6	0	0	0	12	0
	小学校４年生（障害児）	7	0	42	(1)	1	0	50	(1)
	小学校５年生（障害児）	6	0	4	0	0	0	10	0
	小学校６年生（障害児）	1	0	4	0	0	0	5	0
	その他（障害児）	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計（障害児）	29	0	82	(3)	5	0	116	(3)

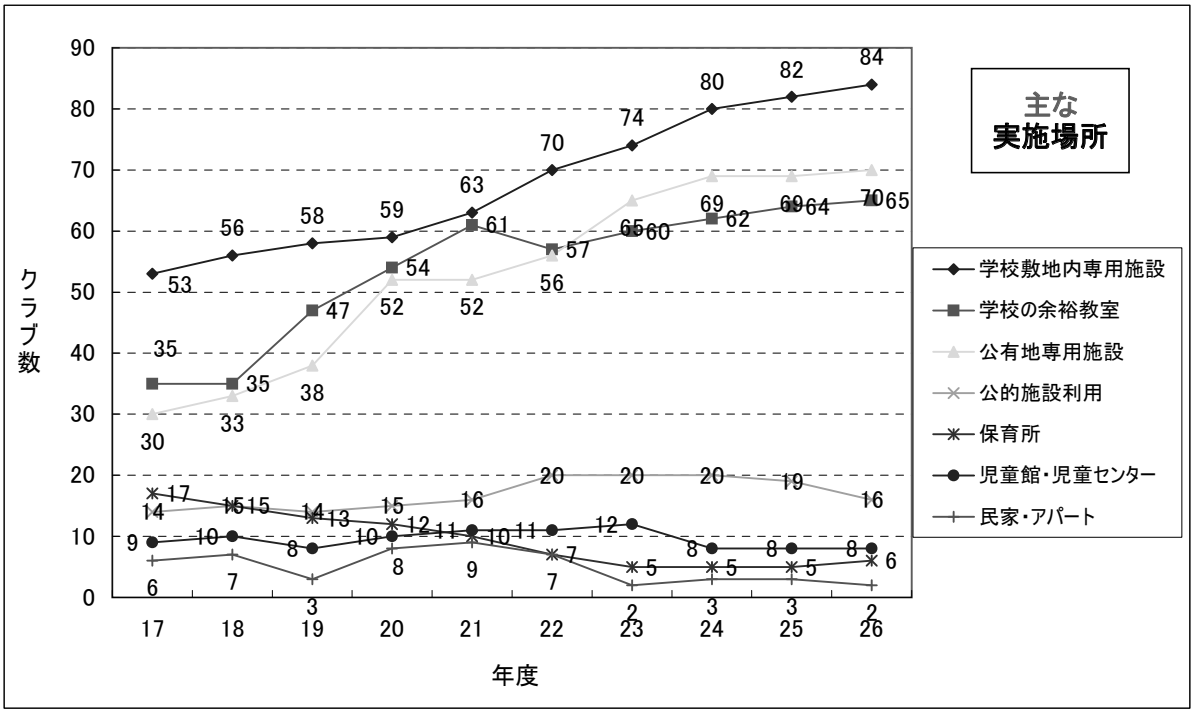
注：（ ）内の数は、再掲である。

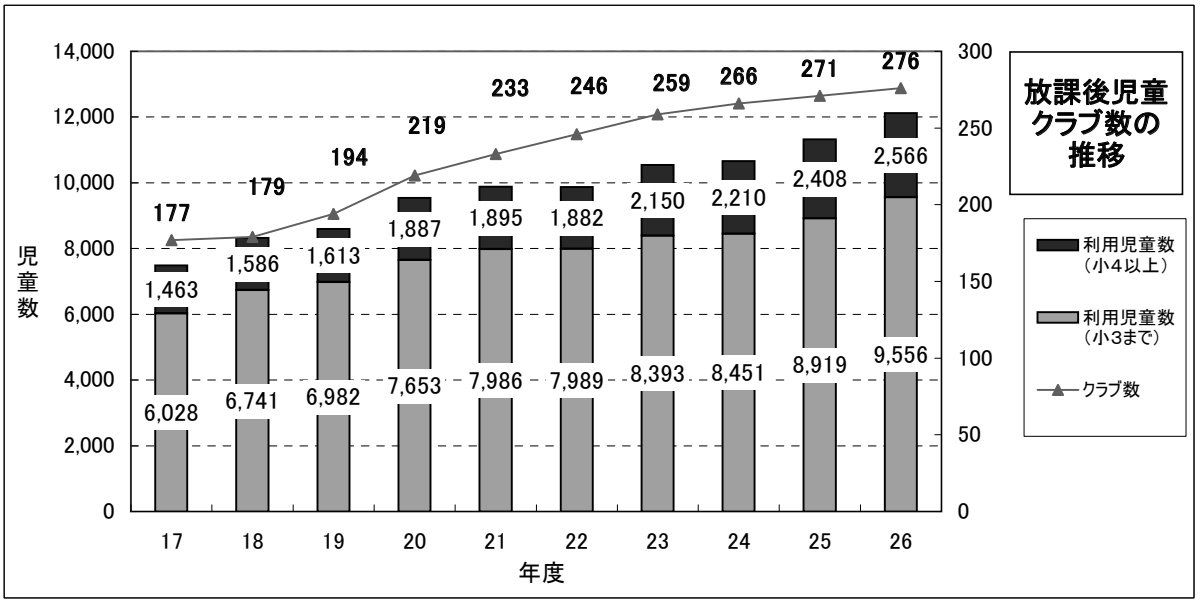
（4）　市区町村の実施状況

全市区町村数	実施率	実施市区町村			合　計
A	（B／A）	市（特別区）	町	村	B
19	100 %	13	6	0	19

2　放課後児童クラブ数の推移







Ⅳ　家庭教育支援活動の実践事例

Ⅳ　家庭教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３１

◆平成２６年度家庭教育支援活動一覧　・・・・１３１
◇近江八幡市　・・・・１３２
◇草津市　・・・・１３４
◇甲賀市　・・・・１３６
◇湖南市　・・・・１３８
◇高島市　・・・・１４０
◇東近江市　・・・・１４３
◇日野町　・・・・１４５
◇竜王町　・・・・１４７
◇多賀町　・・・・１４９

平26年度　学校・家庭・地域連携協力推進事業
家庭教育支援活動事業一覧

○事業実施市町及び取組教育支援活動　　9市町18活動

	市町名	学習講座・行事等の実施	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動
1	近江八幡市	○	○	○
2	草津市	○		
3	甲賀市	○	○	○
4	湖南市	○	○	○
5	高島市	○	○	○
6	東近江市	○		
7	日野町	○	○	
8	竜王町	○		
9	多賀町	○		

○教育支援活動の内容

【学習講座・行事等】

	市町名	実施学校区数	幼児期講座	学童期講座	思春期講座	父親向け講座・企業出前講座	親子参加行事	その他	計
1	近江八幡市	9		9					9
2	草津市	2		2			2		4
3	甲賀市	3		3			12		15
4	湖南市	3		2					2
5	高島市	16	15	16	6				37
6	東近江市	22	3	7	3		2		15
7	日野町	5	19	15	1	5			40
8	竜王町	2						11	11
9	多賀町	2	4				12		16

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	対象者	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	5	家庭教育支援コーディネーター	・主に学校においての相談活動や研修会の企画 ・関係機関や家庭と連携して、問題の解決を図る
2	甲賀市	4	子育てサポーター	・家庭教育支援チームにおける活動 ・家庭教育に関する学習講座
3	湖南市	2	地域教育活動支援者	・家庭教育支援チームにおける活動
4	高島市	1	退職シニア層	・学校や家庭、地域での子育てボランティア
5	日野町	1	子育て支援員、一般	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	324（延べ）	○	○	○
2	甲賀市	19	6	○		
3	湖南市	19	108（延べ）	○	○	○
4	高島市	21	48	○	○	

「平成26年度事業計画書」より

■　近江八幡市における家庭教育支援の取組

■　めざす姿

各小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属する。家庭教育支援コーディネーターが軸となって学校と保護者、地域をつなぎ、学校・保護者と地域のつながりの中で家庭教育力の向上を図り、子育ての不安や悩みを解決する仕組みを作るとともに、小学校の保護者対応を支援する。学校・地域の連携による家庭教育支援の仕組みを充実させる。特に、軽い悩みを持つ保護者を受け止めて重い悩みに移行させないことや、重い悩みの保護者を把握したら適切な相談窓口・機関につなぐ場とする。

■　本年度の活動

〇家庭教育推進協議会：９月３日(水)、11 月 14 日(金)、２月（市全体の家庭教育支援について協議）
〇家庭教育支援コーディネーター・担当者会議：５月 28 日(水)、９月 11 日(木)、10 月７日(火)
〇家庭教育支援コーディネーターヒアリング：８月 21 日(木)、25 日(月)、９月１日(月)、10 月１日(水)
〇家庭教育支援コーディネーター・まちづくり協議会子育て担当者等合同研修：12 月 2 日(火)
〇家庭教育相談員による教育相談：９月 24 日(水)　安土小学校、11 月５日(水)　桐原東小学校
〇家庭教育研修会：１月 31 日(土)　（講師　安倍映子さん（元武佐こども園長））
〇企業・NPO との連携：

・10 月９日(木)　八幡小学校が、株式会社ワコールのツボミスクールを活用し、「成長期の女の子の下着選び」について保護者が話し合うサロンを実施。26 年度で３年目となり保護者に好評である。
・12 月２日(火)　㈱ナリス化粧品と NPO 法人ママの働き方応援隊と連携し、育児に忙しく時間のない母親対象の「クイックメイク講座」開催。

※他に八幡小学校が NPO 滋賀次世代文化芸術センターの別室登校・不登校児童生徒支援プログラムを活用。

■　本年度の成果

家庭教育支援コーディネーターを小学校内に配属しているので、小学校との意思疎通が図りやすく、地域と小学校のパイプ役となっている。コーディネーターは地域の情報を学校に伝え、学校はそれを参考にして保護者対応等を行っている。コーディネーターは、地域の人材なので保護者も話しやすい。コーディネーターは、それぞれの学校や地域の実情に応じた保護者懇談会や講演会、イベントを学校と連携して行っている。加配教員や SSW が配属されている小学校は、コーディネーターと連携して適切なテーマで対象を絞った保護者の語り合いの場の開設などの効果的な取組みを行っている。

【クイックメイク講座】

■　今後の課題

家庭教育支援コーディネーターの出勤時間が年間 36 時間しかないので十分な活動ができない。家庭教育支援コーディネーターや家庭教育支援事業が、学校・保護者やまちづくり協議会等の地域に十分周知されていない。市立 12 小学校のうち学校の希望により現在９校が実施しているが、未実施校においても今後この取組を広げていきたい。

【コーディネーター会議】

■　小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

■　近江八幡市	
■　活動名 学習講座・行事の実施、地域人材の養成、家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	研修会 27 回、家庭教育推進協議会３回、コーディネーター会議３回

コーディネーター数	９　人
家庭教育支援員数	２１　人
実施学校区数	９小学校区

■　活動の概要

市立 12 小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した９小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属。家庭教育支援コーディネーターが軸となって、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市教育委員会は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行う他、まちづくり協議会や小学校等への事業の周知活動を行っている。

〇学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが軸となって、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、親子の料理教室やイベントなどを行っている。市教育委員会は、コーディネーター等対象の家庭教育研修会等を開催している。

〇地域人材の養成

各小学校の家庭教育支援の軸となる家庭教育支援コーディネーターの資質向上のため、コーディネーター会議を開催している。市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に関する行政サービス、他市町の先進事例等の情報提供を行っている。コーディネーターの横の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

〇家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校で、家庭教育支援コーディネーターが学校教員やＳＳＷ、教育相談員、まちづくり協議会の子育て担当者等と連携しながら、情報収集・共有し、事業に活用している。家庭教育相談員が要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

■　特徴的な活動内容

〇家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターが収集する児童の家庭や地域の情報は、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含んでおり、児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に役立っている。

〇企業・ＮＰＯ等との連携

学校支援メニューフェア出展企業・団体等とも連携し、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体を家庭教育支援コーディネーターに情報提供し、各小学校での活用を促している。㈱ワコール、㈱ナリス化粧品、ＮＰＯ滋賀次世代文化芸術センター等の活用実績がある。学校支援メニューフェアを介して、ＰＴＡが㈱ＮＴＴドコモ、京都水族館等を活用している。

〇コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校教員と意思疎通が図りやすく、コーディネーターは地域の人材なので保護者や地域の人も話しやすいので、コーディネーターは学校と保護者・地域のパイプ役となっている。

■　実施に当たっての工夫

〇ＰＴＡ事業や授業参観､学校行事等の後に事業を行うなどして参加者の確保に努めている。

〇コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教育委員会からの情報提供・先進事例紹介に力を入れて、コーディネーターの資質向上を促している。そのことで、学校や地域から信頼を得て一層保護者や地域から相談や情報が寄せられ、事業の質や認知度の向上につながることを意図している。

■　事業の成果

〇教育相談が必要か微妙な保護者が、少人数の話し合いの場に来ることで心を軽くしているようである。

〇少人数で対象とテーマを絞ることで、保護者の参加意欲が高まり、悩みの軽減につながっている例もみられる。

〇コーディネーターが収集する家庭・地域の情報は、学校の児童・家庭への指導・支援等に活かされている。

■　事業実施上の課題

〇子育てサロン等の保護者の交流の場は、参加者が少なく、参加が必要な保護者が参加しない。適切なテーマ決定が難しい。

〇家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 36 時間なので、十分な活動ができない。

〇全小学校で事業を実施できていない。コーディネーターとして適切な人材がいない等の課題による。

■　草津市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

本市においては、近年、子育て世帯の転入や核家族が増加しており、また家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も少なくない。

家庭の教育力の向上を推進していく上で、子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基礎となる能力を身に付けることをめざし、家庭における学習の場、情報の提供・啓発活動等の充実を図る。

■本年度の活動

家庭教育力の向上のため、市立幼稚園、小学校、中学校の各単位ＰＴＡと連携し、子育ての手法や保護者同士の繋がり合いの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して補助金を交付することで、各単位ＰＴＡのニーズにあった家庭教育支援を実施した。

家庭でのコミュニケーションを深めることを目的とし、読み聞かせと音楽演奏で家族と子どもの心をつなぐ場とする「子どもが輝くブックトークコンサート」や、今年度から家庭読書（家読＝うちどく）を中心とした「家庭教育サポート事業」を開始し、参観日やＰＴＡ研修会等にあわせ、保護者への学習機会を提供するなどの家庭教育支援をおこなった。

市広報においては、今年度、生涯学習課と図書館と連携し「家庭読書」をテーマに家庭教育に関する事業を掲載し、市民に啓発をおこなった。

《各単位ＰＴＡの家庭教育学習事業》

《子どもが輝くブックトークコンサート》

■本年度の成果

家庭教育サポート事業や市広報での啓発においては「家庭読書」という軸を据えたことにより、本市における家庭教育支援の１つの実施体系ができた。

また、各単位ＰＴＡへの補助制度による支援・連携により、各幼小中学校のニーズにあった家庭教育プログラムが効果的に図ることができた。

■今後の課題

子育て世帯の転入や核家族が増加しており、家庭での子どものよりよい生活習慣や、コミュニケーションを図るために、さらなる取組みを進めるために、効果的な講座や活動支援を提供する必要がある。

■　「家庭読書（家読＝うちどく）」で家庭でのコミュニケーション

■　草津市	
■　活動名 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	２講座

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	０　人
実施学校区数	２校区

家庭教育サポート事業　【学習講座・行事の実施】

■　活動の概要

市内小学生保護者を対象に、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、「読書大好き草津の子ども」推進事業の一環として、家庭読書（家読）の推進による家庭でのコミュニケーション能力の向上や、保護者向けの学習プログラムを提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。

■　特徴的な活動内容

子どもと保護者が、家庭の中でちょっとした時間を利用して本の世界を共有したり、会話をすることで、家庭の絆の深まりや基本的な生活習慣を身につけるきっかけにもつながる。

そこで本事業は、小学校低学年の保護者を対象とした図書館司書等の講座により、子どもが本を好きになるきっかけをつくり、家庭での読み聞かせや読書、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さについて保護者への理解を深め、家庭教育の充実を図る。

■　実施に当たっての工夫

・授業参観時に引き続いておこなうなど、参加しやすい方法を心がけた。
・他部署とも連携を図りながら、普段、講演会に参加されない保護者の方にも興味深く受講してもらえるよう内容を考慮した。

■　事業の成果

・図書館司書による本の楽しみ方、子どもたちへの読み聞かせのコツなど、読書を通じた家庭のあたたかい会話のきっかけづくりとして確認するきっかけとなった。
・家庭の中で、ちょっとした時間を利用して本の世界を共有したり、会話をすることで家庭の絆の深まりや基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなった。

■　事業実施上の課題

・受講者は比較的、家庭での教育への関心が高い方が多く、今後、家庭教育力の全体的な底上げをおこなうため、より効果的な事業展開を実施していく工夫が必要である。
・ＰＴＡ関係者などと連携し、継続的に事業を実施する仕組みづくりを行う必要がある。

《家庭教育サポート事業実施の様子》

■　甲賀市における家庭教育支援の取組

■　めざす姿

親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。また、地域ボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターを養成し、事業協力をいただくことで、地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

■　本年度の活動

〇学習講座・行事の実施

・はじめまして親子講座～赤ちゃんとストレッチ～（年５回）
・ベビーマッサージ講座（年９回）
・ママも０歳パパも０歳おはなし＆ミニコンサート（年３回）
・親子ふれあい食育講座（年３回）
・親子ふれあい運動広場（年９回）
・親子ふれあい絵本広場（年３回）
・いきいき孫育て講座（３回連続講座）
・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園・小学校）（年 12 回）

〇地域人材の養成

・甲賀市子育てサポーター養成講座（３回連続講座）
・家庭教育サポーター・ブックスタートサポーター合同研修（年１回）

〇支援チームの設置・活動

・はじめまして親子講座～赤ちゃんと遊ぼう～（年５回）
・親子ふれあい音楽広場（年２回）
・家庭教育サポーター会議（年４回）

■　本年度の成果

〇学習講座・行事の実施

事業ごとに実施しているアンケート結果では、参加者の満足度は高い。参加者が継続して参加したり、テーマごとに参加できるよう工夫しているため、参加率も全体的に高い。

〇地域人材の養成

家庭教育支援ボランティアは、ブックスタートサポーターに１５名、家庭教育サポーターに４名の新規登録を得た。（ブックスタートサポーター５２名、家庭教育サポーター２３名　H26/12 現在）

〇支援チームの設置・活動

事業前後の会議をとおして、参加者ニーズの討議などが行われ、事業内容の充実につながっている。

■今後の課題

多様な保護者のニーズに応えながら、家庭教育の大切さを啓発していくために、事業の見直しや手法の検証を常に行う必要があり、スタッフの意識の向上や情報共有を図っていきたい。

■その他

・こども未来課　家庭教育支援事業の案内　http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm
・甲賀市広報　あいこうか　http://www.city.koka.lg.jp/7891.htm（家庭教育啓発記事を隔月掲載）

■甲賀市家庭教育支援事業～ゆっくりゆったり子育て親育ち～

■　甲賀市	
■　活動名 ①学習講座・行事の実施　②支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数） ①3回 ②4回	①ママも０歳パパも０歳 おはなし&ミニコンサート ②家庭教育サポーター会議

コーディネーター数	２　人
家庭教育支援員数	２３　人
実施学校区数	3校区

■　活動の概要

①『ママも０歳パパも０歳おはなし&ミニコンサート』

子育てをはじめる保護者やその家族に、家庭教育の大切さを啓発する講座として平成２５年度から開催し、子育て不安の軽減をはかっている。絵本や音楽と出会い、穏やかで楽しい時間を過ごしてもらうことで子育てを楽しみにできるようにすることが事業の目的である。

『～わらべうたと小さな音たち～』　講師　山本　文蓉　さん　　開催地：甲南図書交流館

第１回　　７月　５日（土）　１７組　４２人参加

第２回　１１月１５日（土）　１８組　４６人参加

□家庭教育サポーター会議

家庭教育サポーター会議では、実施予定の家庭教育支援事業の講座内容について検討したり担当者の調整を行っている。また、実施した事業の反省点や課題について話し合う場として実施している。計画段階から事業実施後の次回の事業に向けた話し合いにまで継続して家庭教育サポーターに関わっていただくことで、地域全体で子育てを見守り身近に応援する意識を高めていくことを目指している。

第１回　５月１２日　９名参加　／　第２回　９月８日　１２名参加　／　第３回　１２月１２日　４名参加

■　特徴的な活動内容

①『ママも０歳パパも０歳おはなし&ミニコンサート』

・参加型のコンサートとして、家庭でのふれあいにつながるような実践的な内容を盛り込んでいる。

②家庭教育サポーター会議

・家庭教育サポーターが講師や出演者として参加する事業とそれ以外の家庭教育支援事業についても、会議で内容を検討し、より保護者のニーズに応えられるようにしている。

■　実施に当たっての工夫

①『ママも０歳パパも０歳おはなし&ミニコンサート』

・土曜日に開催し、タイトルに「ママ、パパ」を入れて、父親が参加しやすいようにしている。

・図書館を開催場所とすることにより、絵本と触れる機会を増やす。

②家庭教育サポーター会議

・事業を報告に終わるだけでなく、サポーター個人の事業の感想なども含めて話し合うことで、堅苦しくなりすぎないようにしている。

■　事業の成果

①『ママも０歳パパも０歳おはなし&ミニコンサート』

・毎回定員を超える申込があり、父親同伴の参加率が高い（定員の半数以上）。

・赤ちゃんとのふれあい方がわからない保護者に歌などを紹介することで、身近なふれあいのきっかけになっている。アンケートでも家庭での実践につなげようとする感想が見られる。

（アンケートに記入された参加者の感想）

・親子でふれあえたのですごくリラックスできた。わらべ歌を歌いながら一緒に手遊びしたりしたのが楽しかった。

・普段、家で親子だけの生活が多いので、他の家庭や先生の話などためになった。またこのような講座があれば参加したい。

・パパも参加できてよかった。家族で参加できてよかった。

②家庭教育サポーター会議

・幅広い年代のサポーターの参加により、会議でそれぞれの年代ならではの意見が得られ、意見を参考に事業の予定が組まれることで、参加者の増加につながったり、保護者のニーズに応えることができた。

■　事業実施上の課題

①『ママも０歳パパも０歳おはなし&ミニコンサート』

・親の様子や表情などを見ながら、気持ちを察知し、臨機応変に対応していく必要がある。

②家庭教育サポーター会議

・参加事業に力を入れる一方で、出演者や講師としての役割に集中してしまい、身近な存在として後方支援する場が少なくなっている。家庭教育支援やボランティア活動の意義について意識を高めるため、フォローアップの研修を行う。

■　湖南市における家庭教育支援の取組

■　めざす姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていくための大切な場所である。しかし、現代社会における「家庭」は、忙しく孤立した状況の中で、親が個別責任において子育てを行うものとなっている。そのことから、子育てに悩み、子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている人々は、数多く存在する。

家庭教育支援事業は、家庭で子どもを育てることの大変さを担っている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえ、共感しつつ学習や相談・支援を行うものである。

■　本年度の活動

〇支援チームの設置・活動

①三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」の中に位置付けている。

コーディネーター　１名

主任児童委員、地域総合センターのスタッフ

・不登校傾向や教室に入れない児童の個別対応と保護者支援

②菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」

コーディネーター　２名

子育てサポーター　４名

・不登校傾向や教室に入れない児童の個別対応と保護者支援

・保護者対象に毎週水曜日１３：３０～１５：００「ほっとサロン」を開設

〇地域人材の育成

勉強会の開催　　６月２７日（金）

講演「子育ての手抜き」～コツとヒント～

講師　桂田　そうし氏

〇学習講座・行事等の実施

講演会の開催　　第１回１２月３日(水)

講演「これからの時代を生きていくために何が（必要）重要か」

講師　鈴木　秀一氏

第２回　２月（三雲小学校において PTA 研修会と兼ねて実施）

■　本年度の成果

・支援員は孤立している保護者と悩みを共有し、一方で学校側とも情報を共有し子どもへの支援の糸口としている。

・個々の子どもに寄り添い見守る活動を続けることで、落ち着いた学校生活を保障できている。

・学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の役目を続けている。

■　今後の課題

・学校支援地域本部事業に家庭教育支援的な活動が位置付いている本部も多い。しかし、子どもへの対応について学校と支援員の共通理解が十分図れていない場合は、支援員の不安は否めない。

・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会を多くの人に提供していきたい。

■　子どもに寄り添い、家庭・地域と連携を

■　湖南市	
■　活動名 家庭教育支援事業の３活動	
講座数（年間活動日数）	３講座

コーディネーター数	３　人
家庭教育支援員数	３　人
実施学校区数	３校区

＊支援チームの設置・活動＊

＜三雲小学校＞

■　活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけられた家庭教育支援も２年目となり、昨年度に引き続き就学時検診のサポート、校内外での子どもたちとの関わりに重点を置き活動した。

■　特徴的な活動内容

なかなか登校できない児童を中心に、課題の大きい児童に対して家庭訪問も含めた個別の支援に力を入れている。

■　実施に当たっての工夫

本年度より新たに主任児童委員や地域総合センターとの連携を図ることで、地域での子どもたちを見守る家庭支援の体制を強化した。

■　事業の成果

地域での支援体制が拡大し、情報交換の場ができたことで、より効果的な活動ができるようになった。

また、支援員が校内や地域行事に積極的に参加することにより、多くの保護者と出会い会話することが増えた。

■　事業実施上の課題

課題がある子を中心にコツコツと地道な活動を積み重ねている。校内では今後も子どもたちとの関係を築きながら、校外においても有効な活動を広げ、保護者との繋がりをさらに深めていく必要がある。

＜菩提寺小学校＞

■　活動の概要

昨年に引き続き、子育てや親子間の悩み心配事を一緒に考える居場所作りと授業に入れない児童に寄り添い見守る活動を行った。

■　特徴的な活動内容

今年度も、参加の有無にかかわらず毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を実施した。その際に、支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」でかかわりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらった。

寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報がいくようにしている。

■　事業の成果

保護者は、思っていることを話し聞いてもらうことで、気分もリフレッシュでき、仲間作りのきっかけにもなっている。また、自分の子どもの様子を知ることで、まわりとの関係を周知できるようになった。

＊地域人材の養成＊

■　活動の概要

保護者の中で新たな人材発掘ができたらという思いでテーマや講師を選定し、勉強会を実施した。

■　特徴的な活動内容

・開催日　平成２６年６月２７日　１０：４０～
・場所　　菩提寺小学校会議室
・参加者　３２名
・講師　　桂田そうし氏（特別支援教育巡回相談員）
　「子育ての手抜き」～コツとヒント～

■　事業の成果と課題

気軽に参加してもらうために、子どもたちの学校生活を撮った写真を掲示した。それを見ながら講演を聴いてもらい好評だった。参加者が自らの子育てについて研修する機会にはなったが、家庭教育を支援する人材の育成につなげるには、継続した勉強会の開催や情報交換の機会が必要である。

＊学習講座・行事等の実施＊

■　活動の概要

校区を超えて、中学校区全体に発信する講演会を実施した。

■　特徴的な活動内容

・開催日　平成２６年１２月３日　９：３０～
・場所　　菩提寺まちづくりセンター　小会議室
・参加者　２１名
・講師　　鈴木秀一氏（県スクールソーシャルワーカー）
　「これからの時代を生きていくために何が（必要）重要か」
※２月　三雲小学校において、学習講座を開催予定

■　事業の成果と課題

コーディネーター研修でお出会いした鈴木秀一先生の話を、保護者の皆さんにも是非聴いてもらいたいと企画した。市内全域への周知は難しかったので、中学校区を対象に案内チラシを配布し、各学校には案内した。

参加者数は少なかったが、来られた方は皆満足され好評だった。就学前の子どもを持つ保護者も参加できるよう、計画的な期日の設定と広報の工夫が課題である。また家庭教育支援コーディネーターとして家庭教育支援に関する情報収集に努め、講座の企画・運営に生かせるようにしたい。

■　高島市における家庭教育支援の取組

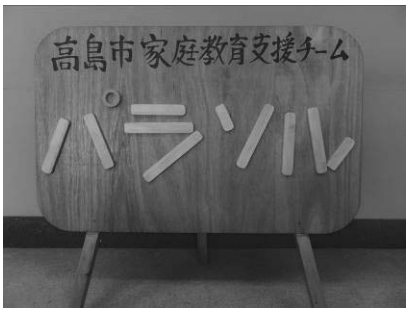
■　めざす姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、子育てのスキルトレーニングがなされないまま親になることも多い。

また、都市化の進行による、地域における人間関係の希薄化も指摘され、近所に気軽に子育ての悩みを相談できる相手がいなくなったために、地域で孤立する親が増えてきた。

このような状況を踏まえ、親子の絆づくり、祖父母や高齢者の子育てや地域の子育て支援を促進し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

■　本年度の活動



〇高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

・子どもの育ちを地域で見守っていくため、昨年度に組織化した家庭教育支援チームの支援活動を推進。今年度より月２回、子育てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。

〇地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」

・退職シニア世代がゆとりの時間を生かし、孫育てや地域参画に対する関心を高め、地域で子育て支援や青少年育成に取り組む人材を育成するため、祖父母の役割や地域参画を学ぶ講義やおやつづくり（食育）などの全４回の講座を開催。

〇共育研修会

・地域ぐるみで子どもたちを健やかに育てる環境づくりを整え、様々な団体が連携・団結し、地域で子どもを育てる機運を高め、充実・促進させるため、社会教育団体関係者や学校関係者、ＰＴＡ等を対象に研修会を開催。

〇子どもにどうかかわりあうか講座

・市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として、保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供し、家庭での教育力の向上をはかる。

■本年度の成果

・家庭教育支援チームの定期的な活動が始まったことにより、地域における家庭教育支援の体制が整った。

・講座や研修会では、親、祖父母、地域住民等、それぞれの立場で子どもとのかかわりを振り返る機会となった。

■今後の課題

・子どもたちについては、年々成長していくため、成長に合わせた幅広い年齢に対応できる内容や成長段階に絞った内容など、効果的な内容についての支援活１動や講座等の提供をしていく必要がある。

■　『生きる力』～高島市に元気な子どもを育てるために～（その１）

■　高島市	
■　活動名　　支援チームの設置・活動 地域人材の育成 学習講座・行事等の実施	
年間活動日数 講座数	２４日（会議・研修会を除く） ３１講座

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	２０　人
実施学校区数	１６校区

高島市家庭教育支援チーム「パラソル」　【支援チームの設置・活動】

■　活動の概要
- 子育てや家庭教育に関する相談対応や親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会の提供などを行う。
- 地域とのつながりづくりや専門機関との橋渡しを行う。

■　特徴的な活動内容
- 毎月第２水曜日と第４土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことが基本となり、質問にはあくまでもチーム員自身の子育て経験等から答えることとし、必要があれば、専門機関に繋ぐこととしている。

■　実施に当たっての工夫
- 今年度から本格的な活動が始まったため、チラシの配布等による広報や保護者が興味・関心を持つ内容を盛り込み、まずは知ってもらい来てもらえるよう、活動の周知に努めた。
- 保護者がひろばまでわざわざ行くのではなく、普段の生活の中でよく立ち寄る場所で開催できるよう、スーパーの空きスペースを借り、活動を始めた。年度途中で公民館施設に場所を移すこととなったが、周辺にはスーパーや銀行、郵便局、市役所などがあり、変わらない方針で活動できている。
- 子どもの対象年齢は定めないものとし、毎月平日に１日、土曜日に１日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。

■　事業の成果
- ひろば利用者のリピーターも増え、保護者や子どもにとって安心できる居場所として定着しつつある。
- チーム員会議や研修会を開催し、情報交換や学習することにより、日々、チーム員の活動意欲も高まっている。

■　事業実施上の課題
- 子どもの対象年齢は定めていないものの、ひろば利用者のほとんどが乳幼児等の低い年齢層の親子となっているのが現状であるため、今後、小学生・中学生などの高い年齢層の親子にも気軽に来てもらえる内容・環境の整備をする必要がある。
- 活動をさらに充実させるためには、支援員の確保（増員）が必要である。

地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」　【地域人材の育成】

■　活動の概要
- 退職シニア世代を対象に孫育てや地域の子育てについて学ぶ講座を開催。

■　特徴的な活動内容

【第１回】子育て事情と祖父母の役割「祖父母のために子育て今昔物語」
【第２回】遊びから学ぶ子どもの育ち
「笑って学ぶ子育てのコツ～絵本とおもちゃを通して～」
【第３回】病気・けが「とっさの時に！役立つアレコレ」
【第４回】おやつづくり「孫とつくろう！おうちで簡単おやつ作り」

■　実施に当たっての工夫
- 現在の子育て事情や遊び、病気・けが、食育をテーマに、孫と過ごすために知っておきたい内容を楽しく学べるように企画した。

■　事業の成果
- 受講者からは「古い子育て方法では孫育てはできない。最新の方法を教えてもらえてよかった。」「昔からの文化の大切さや遊びの大切さを改めて考えさせられた。」などの感想が寄せられ、今後の孫育てや地域の子育てに役立ててもらえるものとなった。

■　事業実施上の課題
- 受講者には、高島市家庭教育支援チーム「パラソル」への活動参加の呼びかけ等も行っているが、受講後、家庭や地域に持ち帰って活かしてもらえているか不透明な部分がある。

■　『生きる力』～高島市に元気な子どもを育てるために～（その２）

共育研修会　【学習講座・行事等の実施】

■　活動の概要
・子ども社会の現実を知り、家庭・学校・地域が連携し、子どもの育ちを見守っていけるよう、研修会を開催。

■　特徴的な活動内容
①テーマ：～高島のこどもはうちらみんなで育てていこうや～
②日時：平成２６年１２月６日（土）午後2時～午後４時３０分
③内容
・事例発表：高島市家庭教育支援チーム「パラソル」
NPO 子育ち子育てサポートクラブ「きらきらクラブ」
・講演：「地域で子どもを育てるには」
講師　　神奈川大学講師・評論家　　久田　邦明さん
・グループワーク
③参加者：社会教育団体関係者、学校関係者、ＰＴＡ、
高島市青少年育成市民会議委員　など

■　実施に当たっての工夫
・グループワークを取り入れ、共通の課題を考える各団体等との情報交換をし、参加者自らの活動に繋げていけるよう工夫した。

■　事業の成果
・子どもとのかかわりを通して感じることや大人がすべきことについて学び、「家庭、学校、地域、全体で子どもを見守り育てていく」必要性を考える機会となった。

■　事業実施上の課題
・ＰＴＡ関係者等は毎年、人が変わることもあるため、開催時期を年度初めにし、その年度の取り組みを進める仕組みづくりについて考えるなどの工夫をする必要がある。

子どもにどうかかわり合うか講座　【学習講座・行事等の実施】

■　活動の概要
・市内小中学校および幼稚園・保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。

■　特徴的な活動内容
①実施期間：平成２６年４月～平成２７年３月
②対象：市内小中学校および保育園・幼稚園（私立を含む。）の保護者
③内容：（一部を掲載）

日	場所（対象）	内　　容
6/11	マキノ東保育園	幼児期の発達にとり大切な身体の使い方 （講師：阪田隼也さん）
6/20	藤波こども園	子どもの育ちに寄り添って子育てを （講師：嶋崎ひな子さん）
6/30	本庄小学校	親子で命の大切さを考える性教育 （講師：斉藤智孝さん）
9/5	なのはな園	「スマホは必需品？ケイタイ・スマホとの付き合い方を考える５つのポイント」 （講師：川合ちえみさん）
11/22	マキノ北小学校	いじめ・学校不適応・子育てについて （講師：鈴木秀一さん）

■　実施に当たっての工夫
・ＰＴＡ事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。

■　事業の成果
・普段は講演会等に参加されない方にも聞いてもらうことができた。
・子どもに関わっていくことの大切さを再確認する機会となった。

■　事業実施上の課題
・子どもは日々成長するため、成長に合わせた内容についての親学習の機会を継続して設けていく必要がある。

■　東近江市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

〇子育て中のすべての親への学習機会の提供をめざして

東近江市では、家庭で親子が共に学ぶことができるよう、親自身が家庭教育の意義や役割を学習するための親の学び・家庭教育支援事業を実施し、家庭の教育力向上をめざし取り組んでいる。

特に、ＰＴＡやコミュニティセンターの子育て支援講座などでは親の学びを支援する研修会が数多く開催されていることから、それらの研修会に無関心の人を、学びの場に取り込めるような工夫がなされた活動に対して支援している。

■本年度の活動

以下の内容での研修会を各幼稚園・学校・コミュニティセンターとの連携協力のもとで実施

〇短時間（30 分程度）の学習会・研修会

幼稚園のお迎え前や入学説明会等忙しい保護者でも参加しやすいよう比較的短時間のもの

〇親子参加型の学習会・研修会

小さい子どもを家に残して研修会に参加できない親子が一緒に参加できるもの

〇サロン型の学習会・研修会

子育ての悩みを話せる相手がなく、子育てにしんどい思いをしている保護者が気軽に立ち寄れて、相談、仲間作りのできる場を設定するもの

〇広く公募する研修会

ＰＴＡなどが主体となり講師や指導者を招いて実施する講演会形式のもの

【平成 26 年度　家庭教育支援活動実施幼稚園、小中学校、コミュニティセンター一覧】

７月　愛東北幼稚園　／　市辺コミュニティセンター

９月　玉緒小学校　／　湖東中学校

10 月　永源寺中学校

11 月　蒲生北小学校　／　布引小学校　／　湖東第一小学校　／　愛東コミュニティセンター

12 月　中野コミュニティセンター

１月　　市辺コミュニティセンター（市辺幼稚園）／　箕作小学校

■本年度の成果

・就学前児童から中学生の保護者まで幅広く支援を実施できた。

・これまで当事業の協力は幼稚園や学校が中心であったがコミュニティセンターからの実施も増えた。学校・家庭・地域をつなぐ目的からも意義がある。

■今後の課題

・学習会・研修会により多く保護者の参加という点では成果があった。しかし、家庭教育に無関心であったり、子育てに困窮していたりする保護者にまで当事業の趣旨を伝えるための手立てや工夫に課題がある。

■　親育ち活動の応援

■　東近江市	
■　活動名 親と子どもの共育ち	
講座数（年間活動日数）	１２講座

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	０　人
実施学校区数	２２小学校区

■　活動の概要

○　学校、園、家庭、地域が連携協力し、保護者への学習の機会の提供や子育ての相談等を通して「親育ち」を応援し、子どもが豊かな人間性を育みつつ、安心して暮らせる環境づくりを目標に活動。

■　特徴的な活動内容

○　保護者を対象とした「短時間の学習会」「親子参加型学習会」「サロン型学習会」「広く公募する研修会」いずれかの形態での学習会・研修会の実施を呼びかけ、実施意向のあった幼稚園、小中学校、コミュニティセンターへの支援を行った。

■　実施に当たっての工夫

○　本事業を広く周知するために、東近江市ＰＴＡ連絡協議会総会やコミュニティセンター館長会議、職員会議にて紹介。
○　小さな子どものいる保護者も参加しやすいように託児保育も支援の対象を広げた。

■　事業の成果

○　市のＰＴＡ総会で周知をした結果、例年に比べて中学校からの申請が増えた。
○　コミュニティセンターでは、小さな子どものいる保護者をターゲットに子育て支援を目的とした事業ができた。
○　より多くの保護者が参加しやすい形態の計画により親子参加型の学習会・研修会が増えた。

■　事業実施上の課題

○　より多くの保護者を取り組む様々な工夫を各園、学校、コミュニティセンターにおいて実施され効果を上げた。しかし、幼稚園や小中学校、地域の活動に何らかの理由で参加しなかったり、距離を置いたりする家庭に対する具体的な支援の手立てが必要。

■　その他

○　当事業の推進により、学校教育と社会教育が両輪となり、子どもの生きる力を育み、生涯教育へと発展していくように今後も学校、家庭、地域の連携協働をコーディネートしていけるよう努めたい。

■　日野町における家庭教育支援の取組

学校・家庭・地域が連携した青少年健全育成について
「地域の子どもを地域で育てよう！」

■めざす姿

「地域みんなで、日野の子どもを育てていこう！」という誰にでもわかりやすいメッセージを地域の中に発信し、ふるさとの未来を担う明るく元気な子どもたちを自主的主体性を持って「自分たちの子」を育てていかなければなりません。そこで、「地域子育て」の概念を定着させ、学校と家庭と地域そして行政が四輪駆動となり、ともに関わり動き、地域自らが「日野のたから」である子どもを育てていく具体的行動をとらなければなりません。

大人から子どもへ、人と人との関わりを大切にして温かい交流を行い、子どもをやさしく見守り信頼の絆をつくり、地域の教育力を高めるために様々な関係する団体と協力をしながら「地域子育て」事業をすすめています。

■本年度の活動

子どもたちのことを地域の大人が正しく理解し、地域から子育ての輪を広げていくために青少年に関わる諸団体が協力し「日野町地域子育てフォーラム 2014」を開催した。

■本年度の成果

地域の大人が家庭教育の大切さを認識し、子どもたちの学力・学習状況、生活を取巻く状況について理解が深められた。また、家庭で大切にしたい６つの条文と「わが家の１か条」の家庭教育７か条と「ケータイ・スマホ・ゲーム機利用に際して親子の約束」を提案し家庭で話し合うことの大切さを地域に発信ができた。

■今後の課題

大人が、子どもの目線に立って、表情や言葉に耳を傾け、子どもの心を読み取る努力が必要である。そして、子どもを気づかい、それぞれの家庭で親子の心のふれあいを大切にし、社会のルールやマナーを教え、基本的な生活習慣を身につけさせ、地域全体での子育て環境のあり方を見直すことの重要性について、今後、継続的に議論していく必要がある。

「みんなが助け合う社会」「相手を思いやるやさしい社会」をつくり、お互いが顔を合わせ、共にこれからも挨拶を交し合える人間関係と地域社会を築きあげることが大切である。

■　“日野のたから”を未来につなぐ　心豊かでたくましい人づくり

■　日野町	
■　活動名 学習講座・行事等の実施・地域人材の養成	
講座数（年間活動日数）	24 講座、人材養成会議・講座 8 回

コーディネーター数	２人
家庭教育支援員数	８人
実施学校区数	５校区

■　活動の概要

幼稚園井戸端学習会（6 講座）、就学前学習講座（5 講座）、PTA 等子育て学習会（9 校園）、子育てサロン学習会（5 講座）を実施している。また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議　2 ヶ月に 1 回実施、子育てサポーター会議を年 3 回実施し庁内体制と地域の子育て関係者が連携し、人材発掘の情報交流を持っている。さらに子育て支援の輪を広げるためにサポーター養成講座（5 講座）を平成 27 年 2 月に実施予定している。

■　特徴的な活動内容

幼稚園や小学校に保護者が集まる機会に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にして欲しいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供し、家庭での教育力の向上を目的に開催している。

また、地域社会全体で子育てを行う機運を高めるため、地域社会で子育てに関わる必要性についての基本的な講義を行うとともに、地域の子育て支援者を育成することを目的に、実際に子育て支援者として活動する際に役立つ実践的具体的な講義を行なっている。

■　実施に当たっての工夫

「ゆっくりおおきくなあれ」という子育て応援通信紙を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して広報紙を発行している。町内の子育てサロン事業や様々なつどいの場の情報をお知らせし、日程をカレンダー化することによって、各種イベントや講座・学習会に参加しやすいように情報提供をしている。併せて子育てサロンと連携し「子育てスタンプラリー」を開催し、関係するイベントや学習会に参加しやすい機運が芽生えてきており、子育て事業に参加者数が伸びてきている。

また、家庭教育に関わるおじいさんおばあさんにも子育て教育に参加いただき、幅広い家庭での子育て支援を促している。

■　事業の成果

〇幼稚園井戸端学習会、就学前学習講座

さまざまな機会を捉えて学習会を開催することで、普段は講演会に参加できない保護者にも学習機会を提供できている。また、広報紙で事業の日程内容をお知らせすることで、参加者が増えてきている。

〇ＰＴＡ等子育て学習会

実施単位をＰＴＡにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供できた。

■　事業実施上の課題

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。講師選定の参考となる資料を提供していくなど、より家庭教育支援に繋がる学習会となるよう図っていきたい。

〇子育てサポーターの育成

養成講座に参加いただいた方がそのままサポーターに登録いただけるとは限らず、養成まで至らない場合も多い。子育てに関心がある方を取り込むところに難しさがある。

■　竜王町における家庭教育支援の取組

■めざす姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりをめざす必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏　名	所属・役職等		氏　名	所属・役職等	
	寺嶋恭子	幼稚園教頭		古株裕基	幼稚園ＰＴＡ会長	
	冨田綾子	西幼稚園教頭		川畑信行	西幼稚園ＰＴＡ会長	
	関谷典子	小学校教頭		森島芳晶	小学校ＰＴＡ会長	
	新庄　証	西小学校教頭		芝本正臣	西小学校ＰＴＡ会長	
	市田太芽男	中学校教頭		嶋田　治	中学校ＰＴＡ会長	

■本年度の活動

講師等との事前打合せ（意見交換）

参加のためのチラシ作成と啓発活動

３月中旬　次年度事業内容の検討会

■本年度の成果

町全域を対象としたフォーラムを開催することにより、学区を越えて互いの情報交換等を行い、地域や関係団体との連携を深めることができた。

学習講座・行事を実施することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりを支援することができた。

■今後の課題

学習講座等の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

■　子どもたちの夢や希望を育もう！

■　竜王町	
■　活動名 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	７講座

コーディネーター数	３　人
家庭教育支援員数	１０　人
実施学校区数	２校区

■　活動の概要

〇子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

〇町内の PTA が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

■　特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

〇お弁当作り講習会

９月４日（木）、１６日（火）開催。対象は３歳児保護者。３歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。

【竜王西幼稚園】

〇子育て講演会

１０月２２日（水）開催。対象は保護者。核家族化がすすむ中、日々の子育てにおいて、不安を感じていることを相談できずに悩み孤立していく保護者の姿も見られる。また、子育てに必要なことは何なのかという戸惑いや不安が大きい。このような状況の中、講演会に参加することを通して、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

【竜王小学校】

〇子育て講演会

１１月１８日（火）開催。対象は保護者。子どもから大人までが知らないうちに被害者にも加害者にもなり得るインターネット上での様々な問題は、重大かつ深刻な問題となって大きく取り上げられている。そのような子どもたちを取り巻くインターネット社会の落とし穴や問題点について話を聞き、今後の子育てに生かす。

【竜王西小学校】

〇竜西フェスティバル

１１月８日（土）開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学など親子で参加体験し地域の人との交流を深める。

【竜王町教育フォーラム 2014】

１１月２２日（土）開催。対象は保護者、教職員。平成２６年度竜王町 PTA 連絡協議会がかかげる「楽しもう！夢と希望を育む子育てを。語り合おう！親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。

■　参加者の主な感想

・日々の生活の中で、おやとしてもこの子育て方法で間違っていないのか、こんな時の対応はどうすればいいのだろうかと悩みながら過ごしていますが、講演を聞き、何歳になってもやり直しがきくとおっしゃっていただいたので安心しました。子どもが大人 になった時に「おかあさん１００点だよ」といってもらえたらうれしいだろうなと感じました。

・私自身気持ちを落ち着かせ心にゆとりを持てば、それが子どもにも自然に伝わり、悩みもなくなっていくのかなと思いました。

■　事業の成果と今後の課題

・講演のなかで「子育ては何歳でもやり直しができる」という言葉を聞き、子育てに対してかまえていた部分が、ほっと力が抜けて、そのことが親自身が心にゆとりをもって、子どもに関わっていこうとする気持ちへとつながって行ったのではないかと思われる。今後も保護者自身が、日々を振り返り子育てを楽しみながらしようとする意欲へとつながっていくような場の提供を心掛けていきたい。

■　多賀町における家庭教育支援の取組

■めざす姿

　核家族化が進む現代社会において、地域で子育て世代に適切な子育てに関する情報等や親子のきずなを育む機会を提供し、保護者の教育力向上を応援することで家庭教育の充実をめざす。

■本年度の活動

　月１回の頻度で開催される多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を活用し、現場における要望や情報などを持ち寄り、協議、検討、調整を行っている。

【会議の様子】

■本年度の成果

　家庭教育の重要な時期である乳幼児から就学前までの子どもをもつ保護者の子育て支援、きずなを育む取組みができた。

■今後の課題

　現場の要望を重視しすぎ協議会の意見等が反映されにくいため、今後は方針等を定め一定の目標を示すなどの工夫が必要である。

■その他

　多賀町地域教育力推進協議会

　開催数：年 10 回、委員数：26 名

団体	多賀町ＰＴＡ連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		ＪＡ東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者ｻｰｸﾙ「ぶらんこ」		大滝小学校
	Ｄドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「ＳＫＯ」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人 「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

■ 現場にあった子育て支援の提供をめざして

■ 多賀町	
■ 活動名 子育て講演・親子ふれあい活動の実施	
講座数（年間活動日数）	１４講座

コーディネーター数	１　人
家庭教育支援員数	６　人
実施学校区数	２校区

■ 活動の概要

・町内の子育てサークルや保育園、幼稚園を対象に、子育て講演や親子ふれあい活動を実施している。

〇子育て講演

開催日	対象者	人数
５月２２日（木）	たきのみや保育園児の保護者	１３人
６月２４日（火）	多賀ささゆり保育園児の保護者	３２人
７月　３日（木）	多賀ささゆり保育園児の保護者	１００人
７月　７日（月）	大滝幼稚園児の保護者	１２人
１１月　６日（木）	平成２７年度小学校入学予定児童の保護者	６３人

〇親子ふれあい活動

開催日	対象者	人数
４月１７日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	３２人
６月１６日（月）	多賀幼稚園児およびその保護者	８４人
７月１９日（土）	多賀ささゆり保育園児およびその保護者	２００人
７月１７日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	２８人
１０月　２日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	２８人
１０月１６日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	３２人
１１月　６日（木）	たきのみや保育園児およびその保護者	４１人
１１月１５日（土）	多賀幼稚園児およびその保護者	１０７人
１１月２０日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	３０人

■ 特徴的な活動内容

・就学時健診の機会を捉え、保護者に対する子育て講演を行っているため、参加率もほぼ１００パーセントと非常に高く効果的である。

■ 実施に当たっての工夫

・各現場のニーズに合わせた講師選定を優先としているため、保護者のニーズや指導者（先生）の想いが事業に反映させることができ非常に有効的である。

■ 事業の成果

・親子ふれあい活動では、講師の配置により、貴重な子どもと保護者のふれあいの時間を有意義に過ごすことができ、楽しく効果的な事業の実施が行えている。

・子育て講演では、日頃の忙しさから子育てにおいての本質を見失っている保護者も多く、講演に対する関心が高い。

■ 事業実施上の課題

・子育て講演をさらに多くの人に参加してもらえるよう工夫していく必要がある。

■ その他

特になし。

入学予定児童の保護者向け子育て講演会

多賀ささゆり保育園の親子ふれあい活動

Ⅴ　土曜日の教育支援活動の実践事例

Ⅴ　土曜日の教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・１５１

◆平成２６年度土曜日の教育支援活動一覧　・・・・１５１
◇長浜市　・・・・１５２
◇草津市　・・・・１７１
◇甲賀市　・・・・１８１
◇野洲市　・・・・１９２
◇湖南市　・・・・２００
◇東近江市　・・・・２１０
◇竜王町　・・・・２２１
◇多賀町　・・・・２２８

H26土曜日の教育支援事業一覧表

No	市町名	活動名	開催場所	委託	委託団体名
1	長浜市	長浜小学校区土曜学び座	長浜公民館		
		長浜北小学校区土曜学び座	養蚕の館		
		神照小学校区土曜学び座	神照公民館		
		南郷里小学校区土曜学び座	南郷里公民館		
		北郷里小学校区	北郷里公民館		
		長浜南小学校区土曜学び座	西黒田・六荘・神田公民館	○	長浜南土曜学び座協議会
		びわ地区土曜学び座	びわ公民館		
		湯田地区土曜学び座	湯田公民館		
		田根地区土曜学び座	田根公民館		
		下草野地区土曜学び座	下草野公民館		
		上草野地区	上草野公民館		
		七尾地区土曜学び座	七尾公民館		
		湖北地区土曜学び座	湖北公民館	○	特定非営利活動法人　学びの里湖北
		虎姫地区土曜学び座	虎姫公民館		
		高月地区土曜学び座	高月公民館	○	高月地域づくり協議会
		木之本地区土曜学び座	公立木之本公民館		
		余呉地区土曜学び座	余呉文化ホール		
		西浅井地区土曜学び座	西浅井公民館	○	西浅井地区地域づくり協議会
2	草津市	英語教室	草津市立人権センター 市民交流プラザ		
		絵画教室			
		タブレット教室			
		環境学習			
		作文教室1		○	株式会社 学研エデュケーショナル
		作文教室2			
		作文教室3			
		作文教室4			
		歴史教室			
3	甲賀市	水口中央公民館親子ふれあい講座	水口中央公民館		
		水口中央公民館子ども公民館講座	水口中央公民館		
		土山中央公民館親子ふれあい講座	土山中央公民館		
		土山中央公民館子ども公民館講座	土山中央公民館		
		KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」	かふか生涯学習館		
		KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」	かふか生涯学習館		
		親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		
		子ども体験講座	甲南公民館		
		遊学舎　親子体験学習	信楽中央公民館		
		遊学舎　物づくり夢工房	信楽中央公民館		
4	野洲市	野洲学区わくわく子どもクラブ	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰやす	○	野洲市地域教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰみかみ		
		野洲市 ぎおう子ども教室	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰぎおう		
		篠原地域子ども教室	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰしのはら		
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		
		中主地域子ども教室	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰなかさと		
		野洲市地域子ども教室　兵主学区	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰひょうず		
5	湖南市	いしべっ子土曜教室	石部小学校		
		ひがしっこ教室	三雲東小学校		
		岩根小土曜教室	岩根小学校		
		菩提寺学区土曜日事業	菩提寺小		
		菩提寺学区土曜日事業	菩提寺北小		
		しもしょう サマースクール 2014	下田小学校		
		宿題応援隊	水戸小学校		
		甲西北中学校土曜日事業	甲西北中学校		
		日枝中学校土曜日事業	日枝中学校		
6	東近江市	そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区地域教育協議会
		くらふと☆デコ			
		蒲生野太鼓わらべ組			
		マックスダンス（初級）			
		マックスダンス（中級）			
		ITキッズクラブ			
		KIDS FLOWER			
		陶芸クラブ			
		手話キッズ			
		囲碁・将棋クラブ			
7	竜王町	和太鼓クラブ	竜王町公民館		
		絵画クラブ	竜王町公民館		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		
		チャレンジクラブ	竜王町公民館		
		パソコンクラブ	竜王町公民館		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		
8	多賀町	土曜講座（サタスタ）	あけぼのパーク多賀	○	（株）ケイ・エム・ジーコーポレーション
		子ども陶芸教室	多賀町中央公民館		

■　長浜市における「土曜学び座」の取組

■　めざす姿

近年、子どもを取り巻く生活環境が大きく変化する中、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制を築くことにより、子どもたちの生きる力を培うことを目指している。

■　本年度の活動

地域の豊富な社会体験を持つ外部人材の両方を活用し、社会全体の地域教育力の向上を図った。
また、公民館相互の連携を深めることで土曜日の事業に取り組みやすくするとともに、より質の高い事業を実施した。特に、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用して、土曜日に体系的・継続的な学習プログラムを企画・運営した。

■　本年度の成果

地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用することを念頭に入れて講座を企画・運営することにより、参加者、講師、ボランティアスタッフ等、事業に関わる人が増えている。その結果、地域において大人と子どもの関わりや交流の機会も増え、地域で子どもを育む体制が形成されている。

また、様々な体験活動を通した異年齢同士の交流を深めることにより、子どもたちは基本的な社会性を身につけることができ、子どもたちの生きる力が育まれている。

■　今後の課題

「土曜学び座コーディネーター」を採用しているが、市内２０館という多数の公民館に対応しながら、社会教育に精通し、学校の教育課程も理解している必要があり、なかなか厳しい職務である。公民館同士が連携しながら、今後も地域のニーズを反映した様々な体験活動をねらいとする講座を企画・運営する必要がある。

【市内公民館合同事業での活動風景　】

【　市内公民館合同事業での展示　】

■　自然や地域の人々とのふれあい体験の場「土曜学び座」

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　長浜小学校区	
年間開催日数	２８日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	３９人

■　活動の概要
- 小学校の週休二日制に伴う「子どもの居場所づくり」
- 地域ボランティアや各種団体、機関、高等教育機関などと連携しながら、指導講師のもと月２～３回、多岐にわたる体験学習講座を実施

■　特徴的な活動内容
- 地域のボランティアの方の協力を得るなど、地域とのリンケージによる講座の開催
- みそづくりや焼いもづくり、そば打ち体験、飯ごう炊さん、座禅など、非日常体験学習の実施
- 地元の長浜バイオ大学や長浜農業高校での学習体験や、地元高校生の協力による講座の開催
- 小学校ＰＴＡ祭り、地元長浜まちなかフェスタへの出前講座の開催

【冬に仕込んだみその熟成を待ち、９月に仕上げ（味噌すり・試食）】

【火おこし体験の後、焼いもづくり】

■　実施に当たっての工夫
- 他の公民館の実施事例を参考とし、新しい内容による講座の検討
- ジャンルが偏らないよう、さまざまな社会体験ができるよう、内容を検討

■　事業の成果
- 学校や家庭では得られない知識や技能、体験、社会性を身につけ、協調性や自立心を養うことができた。
- 地域の人の参加により、世代間交流を図ることができた。
- 自由にグループを作ることにより、異年齢間における交流ができた。

■　事業実施上の課題
- 参加人数の重視や、リスクを回避するあまり、屋内型の「ものづくり講座」に偏重する傾向にある。
- 男の子が少ないなど、参加者が固定化する傾向にある。
- 予算の減少により、遠隔地などでの自然体験学習が実施できない。
- 他地域での事例研修や情報提供がなく、新たな講座の開催へとつながらない。

■　その他
- 土曜授業が実施される中、「土曜学び座」の再検証が必要である。

■「土曜学び座」は身近な地域における社会教育の場

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　長浜北小学校区	
年間開催日数	２５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	３０人

■　活動の概要

「囲碁教室」と「リズムダンス」は毎月定期的に行い、専門的な技術も身に付けられることをねらっている。
この２つを軸として、その他に「もの作り」や「体験」といった、実際に子供達が体を使って経験の出来る事を中心に色々な場を作っている。

■　特徴的な活動内容

・月１で行っている「リズムダンス」３Ｂ体操の要素を取り入れて、いろんな音楽に合わせてのダンスや基本的なストレッチ・柔軟体操も取り入れ、子供達の基礎体力アップにつながるような運動を行っている。
・「蚕の里まつり」でダンスの発表の場を設け、子供達が自身の技術力アップや人に見せるという意識をもち、いつもしている事へのマンネリ化を防ぐためにも、緊張感のある場の経験を積むことが出来るようにしている。
・今年で、３年目になるが参加者も年々増えている。

「地球温暖化を考えよう」

実際どうして温暖化になるのか、という話のときには、低学年の子供には少し難しかったが、エコ買い物やゲームで説明をされると、楽しく参加して理解できたようだった。

後半は、質問された事に積極的に手を挙げて答えていたので、楽しく理解してくれたと思う。

■　実施に当たっての工夫

出来る限り、子供達が実際体験できる事を実施する。
地域の子どもの興味関心を惹くようなプログラムの企画立案を心がける。
伝統的な文化を引き継ぎ、その力を身につける講座を検討する。
滋賀県地球温暖化防止活動推進委員を講師として環境学習に取り組む。

■　事業の成果

物作り・体験と言った教室にはいつも５０人を超す参加者がある。
マジック教室は大変人気があり、８０名以上の参加があった。
子ども囲碁教室では講師の指導により、技能が高められている。

■　事業実施上の課題

どうしても５・６年生の高学年の参加者が極端に少ない。高学年の子供も興味をもってくれて、低学年の子供も一緒に出来る教室を考えていきたい。
小学校と連携した活動についてさらに検討する必要がある。

■　その他

平均すると女の子の参加者の方が多いので、もう少し男の子が興味を持ってくれるような事を考えていきたい。保護者の参加がほとんどないので、もう少し子供達と一緒になって参加をしてほしい。

■　地域の絆ではぐくむ「土曜学び座」

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　神照小学校区	
年間開催日数	１４日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	２２　人

■　活動の概要

地区青少年育成会議との共同開催により、野外での体験学習に力を入れている。
その他、地域ボランティアの方や各種団体の方に講師を依頼して講座を開催している。

■　特徴的な活動内容

【田植え～しめ縄まで】

５月に田植え、10 月に稲刈りを行った。12 月は例年、しめ縄づくりを実施している。また今年度は、さつまいも植え、落花生植えを実施した。田んぼ、畑の作業を通じて、自然の良さや大切さ、不思議さを体験してもらえたと思う。

【デイキャンプ】

10 月に高島市のヴィラデスト今津でデイキャンプを実施した。バスを使ってキャンプ場まで行ったが、２時間近くかかりまた細い道で大変だった。しかしキャンプ場はとても見晴らしの良いところで、参加者は、飯盒炊はんや焼き芋、アスレチック等を体験した。また、キャンプ場から琵琶湖を望み、自分たちが住んでいる長浜市の位置についても勉強することができた。大変良い研修となった。

【　田植え　】

【　デイキャンプ　】

【親子のつどい】

８月に地区青少年育成会議・地区民生委員児童委員協議会及び長浜市スポーツコミュニティクラブとの共同開催により、神照小学校体育館でニュースポーツを楽しんだ。暑い夏の体育館ということで環境的に心配したが、楽しく過ごすことができた。参加は保護者同伴で募った。昼食は地元ボランティアの方々のご協力をいただき、おいしいカレーをつくってもらった。参加者に大変好評だった。

■　実施に当たっての工夫

子供が楽しみながら、新しい発見ができる環境を増やす。
親子での参加の機会を増やし、親子のコミュニケーションの場としてもらう。
性別にかかわらず、参加できる機会を増やす。

■　事業の成果

参加いただいた子どもの成長を通じて、保護者、地域ボランティア等のきずながができていると感じている。
青少年育成団体や地域の青少年育成ボランティアグループとの活動連携により、子どもを地域全体で育てていこうとする雰囲気ができている。

■　事業実施上の課題

充実した事業を実施するためには地域ボランティアの方の確保が必要。
リピーターが多い。初めての子供でも参加しやすくなるための工夫を考える必要がある。

■　地域交流のきっかけは「土曜学び座」から始まります。

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　南郷里小学校区	
年間開催日数	１８日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	２６　人

■　活動の概要

工作、軽スポーツ、調理、自主学習など

■　特徴的な活動内容

夏休み期間中に「まなびのひろば」として自主学習の場を設けた。６日間で延べ 131 名の参加者があり、高学年の参加も通常の講座よりは多く、いつもと違う顔も見られた。地域づくり協議会や地域の元教員、大学生などの協力を得て、宿題や自主学習に取り組んだ。学習以外にも運動遊びや工作、調理などの体験も取り入れた。

■　実施に当たっての工夫

できるだけ地域の方に講師をお願いするようにし、交流の場となるよう考えている。

■　事業の成果

学校でも縦割り活動などはあるが、異学年の交流の場になっている。兄弟で参加していて、上の子が下の子の面倒を見るなど微笑ましい場面も見ることができる。

また、「伝承遊び」や「わらべうた」「手遊び」などを子どもたちに伝えたいので、学び座で計画してほしいと言ってくださったり、看板業の社長から廃材(シール)を頂いたりと、地域の方から声掛けをしてくださることがあり、大変ありがたく思う。また、健康推進員や民生児童委員などの協力もあり、地域に「学び座」が定着していると感じる。

■　事業実施上の課題

保護者の方にも参加してほしいのだが、難しい。特にスポーツ推進員の指導で行うビーチバレーや大縄跳びなどは、地域にスポーツを広めるきっかけ作りにしたいという考えもあるのだが、これまでに保護者の参加はない状況である。

また、参加者が開始時間ぎりぎりに来ることが多く、予定表や口頭で注意を呼びかけているが改善されない。

■　その他

お手伝いをしてくださるボランティアの方があり、大変ありがたく思う。

学び座卒業生で 10 代から 20 代の若者がスタッフとして参加できるようなつながりを作りたい。

【廃材のシールで「はり絵」を作成】

【「まなびのひろば」で自主学習】

■　地域の人々や自然と交流する土曜学び座

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　北郷里小学校区	
年間開催日数	１８日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１５　人

■　活動の概要

学び座を通して週末の居場所づくり、大人とのふれあいの場、体験活動の充実等、子どもたちの健全育成や地域教育力の向上等を目指し、主に、調理や工作、スポーツや野外での体験活動、伝統的な体験活動等を行っている。そのため、講師は公民館との連携から、北郷里地区の方や市内ボランティアサークル、趣味の講座等各方面で活躍されている方にお願いしている。

■　特徴的な活動内容

・「三世代交流もちつき大会」、「北郷里一長～～い太巻きずし作り」
　：どちらも長年行われてきた北郷里地域の風物詩。北郷里地区の三世代が集まり三世代間や地域間の交流を目的として行う。地域の幼稚園児からご年配の方まで幅広い世代がもちつきや太巻きずし作りを通してふれあうことができる。
・「おばけやしきをつくろう！」
　：上記講座に加え、夏の恒例事業になりつつある。平成 26 年度で 4 回目となる。劇団を講師に迎え、小学生を対象に開催している。公民館の中におばけやしきを作り、参加者がおばけに扮してお客を驚かすといった内容で、徐々に参加者やお客が増えつつある。

■　実施に当たっての工夫

・各事業で安全面に配慮し、その上で、子供たちはもちろん大人も興味を持つような内容になるよう工夫している。
・工作や料理に関しては、過去数年間の学び座の内容と、小学校で「ハッピータイム」という取り組みがあるのでそこでの内容とかぶらないようにしている。
・開催には地域の各種団体やボランティアスタッフと連携を図り、支援をいただきながら実施している。

■　事業の成果

・全体を通して、前年に比べ各事業で応募者や参加者が増加している。
・太巻きずし作りに関しては、毎年長さの記録を更新しており、参加者の意欲を高めることにつながっている。

■　事業実施上の課題

・事業内容を「参加したい」と思うものにし、参加者を増やしていくこと。
・小学１年生から６年生が一緒になって同じ内容の事業に取り組むので、理解力や体力面での差が出てしまうのがどんな内容をするにしても課題となる。１年生でもできることで、６年生にも面白味があるものを毎回企画するのが、関係者一同頭を悩ませる部分である。
・開催時のスタッフ不足。「土曜学び座」を地域の各種団体をさらに巻き込んだ事業にすること。

■　その他

「特徴的な活動内容」でも上述したが、北郷里地区で長く続いている事業がある。それは、地域住民の方々が、その事業を大事に思い、続ける意志を持って取り組んできたからであり、その意志を次世代が継いできたからであると感じている。

【「おもしろ実験で学ぼう！科学講座」の様子】

【「おばけやしきをつくろう！
～みんなでつくる物語～」の様子】

■　地域で育て、ふれあい、見守る「土曜学び座」

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　長浜南小学校区	
年間開催日数	１７日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	２３　人

■　活動の概要

　長浜南小学校区に３つの公民館がある為、それぞれの地域の特色を生かした活動。企画や運営は三館が協力し、地域の行事と重ね合わせながら年間を通じ、多彩な活動内容となっている。

■　特徴的な活動内容

　西黒田地区に伝わる金太郎伝説から「金太郎相撲大会」や、地域の伝承遊びに触れる「カロム大会」、また、地産地消を学ぶ「そば打ち体験」などの活動に取り組んでいる。

【「そば打ち体験」】

【「金太郎相撲大会」】

■　実施に当たっての工夫

・地域の機関(地域づくり協議会など)と連携を取り、これらの主催する行事と合同で開催するなどして、地域で子どもを見守り育てるという意識を高めている。
・マンネリ化しないように、他の公民館の実施講座を参考にし、新しい内容の講座を取り入れている。

■　事業の成果

・挨拶や、靴を揃えて脱ぐことの声掛けにより、社会性や協調性を養うことが出来るようになってきた。
・異年齢のグループ分けにより、高学年が低学年の面倒を見られるようになってきた。
・地域のイベントへの参加で、世代間交流を図ることができた。

■　事業実施上の課題

・２年生以上になると、スポーツ少年団に加入する子どもが多くなるため、学び座の参加者の割合は低学年が多く、男の子の参加も少ない。どの講座も、参加者数は、年々減少傾向にある。
・ものづくりの講座だと参加者は集まるが、自然体験の講座になるとなかなか参加者が増えない。

■　その他

市内の他学区の公民館との情報の共有・交換により、事業内容の充実をはかっている。

■　異年齢児童の活動の場であり、大学生、社会人との交流の場。“土曜学び座“

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　びわ北・びわ南小学校区	
年間開催日数	１７日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１６　人

■　活動の概要

毎月１回から２回、工作、調理から軽スポーツ等、講師指導の下で２時間活動する。
地域の方を講師に招き、地域連携プログラムの一つとしている。

■　特徴的な活動内容

土曜学び座として１０月　４回実行　チアリーダーを計画、文化祭にて踊り、ステージを盛り上げる。
音楽にあわせて、２本の縄をつかってとぶ縄とびダブルダッチ→文化祭に再度行う。

読書サークルによる読み聞かせ教室
七夕ささかざりの折り方教室
おもしろ科学実験教室
マジック教室
おりがみ教室
新春お楽しみ会とコロッケバーガー
ブラコップのキーホルダー
トマトのキーマカレーとミックスジュース
オリジナルフォトフレームをつくろう
お菓子つくり教室
ネイチャークラフト教室

■　実施に当たっての工夫

学校行事、地域の行事が重ならないにしている。
地域講師による伝統文化を継承する活動を行っている。

■　事業の成果

ものづくりや調理では仕上げる喜び達成感が感じられ、特に大学生の講座では一体感が醸成されており、子ども達の自立心の確立にも寄与している。
読書活動を通して、地域の子どもの生活の中に読書の習慣が生まれている。
子どもの活動が地域の文化祭の盛り上げに役立っている。

■　事業実施上の課題

最近、土曜学び座、人が集まらない傾向になって来ている。内容のマンネリ化を防ぎ、他の公民館との情報のやりとりをし、考えていきたい。
土曜日に地域の小中学校が授業をされる場合、講師との日程調整が難しくなる。
学び座に参加する子どもと地域の大人との交流活動をさらに深めていく必要がある。

【ダブルダッチであそぼう！】

【文化祭参加　　（チアリーダー）】

■　「土曜学び座」は、ふれあい校外学習の場

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　湯田小学校区	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１５　人

■　活動の概要

学校完全週５日制に対応して、子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始まったのが、土曜学び座です。講座の内容は、「囲碁・将棋教室」「工作教室」「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」などさまざまです。これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭では学べない体験ができると思います。

■　特徴的な活動内容

５月　フォトスタンドづくり
６月　キッズダンス
７月　夏休み宿題工作教室
１０月　アイロンビーズ
１１月　キャップで、電電太鼓
　　マグネットクリップ
１２月　ＬＥＤで行灯工作教室
１月　ひな人形づくり
２月　英語で遊ぼう

【キッズダンス】

【アイロンビーズ】

■　実施に当たっての工夫

子ども達が交流できる講座や、楽しんでできる物づくりの講座等、さまざまなジャンルの講座づくりを心掛けている。
英語活動講座等のプログラムで地域の学校との連携を図っている。
特にものづくりに関わる内容は地域の子どもの興味関心が高く、充実を図っている。

■　事業の成果

異年齢との交流や、学校とは一味違う体験の場を提供できた。
LED を使って科学の基礎的な興味関心を高めることができた。

■　事業実施上の課題

参加人数が少ない講座もあり、いろいろな子ども達に参加してもらえるような講座を開催したい。
市内公民館相互で講座内容についての情報交流を行っているが、各地域の規模の違いもあり、地域の実情に合わせた企画の検討が必要である。
材料費が次第に上がってきており、講座を企画する上での課題となっている。

■　地域で学ぼう！仲間と遊ぼう！田根っ子「土曜学び座」

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　田根小学校区	
年間開催日数	１５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１３人

■　活動の概要

原則土曜日の午前中に開催。スポーツ少年団や習い事等に通っていない児童が受講することで、学校以外の学びや体験を通した青少年健全育成を行う。

■　特徴的な活動内容

地域づくり協議会や健康推進協議会等の身近な地域団体と共催・連携し事業を開催。また、地域の方による趣味等を生かした事業の開催。

・荷造り用のナイロン紐を使ったり、また包装紙やペットボトルキャップを利用したエコを学習しながら工作を楽しむ講座の開催。
・地元の絵の先生に来てもらって、夏休みの宿題にも役立つ下書した画用紙を持って来てそれに絵具やポスターカラーで仕上げる「色ぬり教室」の開催。
・地元の地域づくり協議会との共催でビンゴゲームを楽しんだ後に、地域のみなさんと一緒におしゃべりタイムとおはぎで会食といった講座の開催。

■　実施に当たっての工夫

実施する事業（物づくり等）の中に「英語で遊ぼう＆～工作」と題して、簡単な英会話を取り入れて事業に変化をつけ実施。また、事業の一部を小学校の地域の人とふれあう中休み時間を利用して「学び座出前講座」として実施。

■　事業の成果

全校児童 70 名の中で公民館での講座は平均６～７人で、出前講座では 20～50 人近くの参加者がありよい成果であった。
また、さまざまな内容で事業を実施することができ、参加の児童・保護者には好評であった。

■　事業実施上の課題

今後は、さらに事業の内容を吟味し、よりよい内容の企画で実施し、高学年の児童にも多く参加してもらうようにすることが課題である。
浅井地域全体での講座の検討。

■　その他

土曜日に学校の授業が実施されるようになれば、この時間帯に実施している学び座も検討していく必要がある。

【段ボールの筒の廃棄部分を利用した小物入れ作り】

【荷造り紐を利用したトンボ】

【ペットボトルキャップを利用したでんでん太鼓】

■　地域で育てる　下草野の土曜学び座

■　長浜市	
■　活動名 下草野公民館土曜学び座　　浅井小学校区	
年間開催日数	４１日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	２人
子どもの平均参加人数	１７人

■　活動の概要

学校完全週５日制に対応して、子ども達の身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築、また、教室を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的とする“土曜学び座”講座を各公民館で開催している。

講座の内容は、「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」「自主学習教室」などさまざまです。

これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭で学べない体験ができるよう、創意工夫しながら、実施しています。

■　特徴的な活動内容

６月　下草野ほたるまつり in カラオケ大会
７月　トランポリン運動教室・
　　おもしろ科学実験教室「スライムをつくろう」
　　読書感想文書き方教室２回講座
10 月　大阪ガスの考える防災教室とサバイバルクッキング教室
11 月　こどもフリーマーケット（ぷれすく合同）
12 月　クリスマスコンサート in 下草野公民館（ぷれすく合同）
　　キッズ書道教室

＜あざいぷれすく２＞

年間を通して参加する講座で、子どもが中心となり、活動しています。毎回、楽しみにしてくれ、スキルアップをしています。
また浅井地区全体の小、中学校対象の為、学区間、異年齢の子ども達同士のふれあいの場になっています。
将棋教室 年８回、　陶芸教室　年 11 回、　ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ教室　年８回、　ﾌｯﾄｻﾙ教室　月２回、　ｷﾞﾀｰ&ﾍﾞｰｽﾚｯｽﾝ　年７回
ﾌﾗﾜｰｱﾚﾝｼﾞﾒﾝﾄ年４回、　イラスト倶楽部　年９回

■　実施に当たっての工夫

学校とも連携を取り、なるべく行事のない日に実施している。
来てくれた子どもたちに興味のあることを聞くことにより、子どもたちの目にとどまる講座を考えるヒントにもなる。

■　事業の成果

子ども達との交流やいろんな体験の場、地域の方とのふれあいの場を提供できてよかった。
土曜学び座も定着してきて、次は、何をするの？と楽しみにしてくれている。

■　事業実施上の課題

講座の内容によって、参加人数がかたよるのが、今後の課題である。

■　その他

今後も子どもたちが興味を持つような講座・役立つ講座を考え、子どもたちが参加してよかった！！と思ってもらえるよう頑張っていきたい。

■　「土曜学び座」は子ども達のわくわく体験の場所

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　浅井小学校区	
年間開催日数	９日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１３　人

■　活動の概要

平成 14 年 11 月から、学校完全週５日制に対応して、子ども達の身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始まりました。講座の内容は「工作」「料理」「スポーツ」「科学」「環境」とさまざまです。地域とのふれあいを大事にし、子ども達には、学校では学べない体験・発見をして欲しいと考える。

■　特徴的な活動内容

５月　アイロンビーズを作ろう！
６月　マグネットクリップ
７月　プラコップ・コースター
　　トランポリン運動教室（下草野・プレスク・上草野合同）
９月　グラスデコ
10 月　大阪ガスの考える防災教室とサバイバルクッキング教室（下草野・上草野合同）
11 月　プレッツェルを作ろう！

【トランポリン協会・滋賀県立大トランポリン部の学生さん
・地域の方の協力で開催】

【大阪ガスの考える防災教室】

■　実施に当たっての工夫

・円滑に進むよう前もって準備をし、時間内に終われるように行っている。
・子ども達の楽しめるよう講座の中で、　どんなことがしたいかを聞いている。

■　事業の成果

・運動教室・工作教室・料理教室など学校、家庭ではなかなか体験できないことができ、子どもの好奇心を伸ばすことができた。
・防災教室は、子どもが防災について関心をもてたと感じた。

■　事業実施上の課題

・講座内容によって参加人数がかたよるのが今後の課題である。
・子ども達が興味をもって参加できるようにしたい。

■　その他

・子ども達の笑顔が絶えない場所でありたいと思う。

■　土曜学び座ふれあい講座

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　七尾小学校区	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	２人
子どもの平均参加人数	１１人

■　活動の概要

平成１４年１１月から、学校完全週５日制に対応して、子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始まりました。

講座の内容は、「囲碁・将棋教室」「工作教室」「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」などさまざまです。これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭では学べない体験ができると思います。

■　特徴的な活動内容

５月	アイロンビーズ	10 月	バルーンアート
６月	ジャガイモで料理をしよう	11 月	でんでんだいこでストラップを作ろう
７月	キッズダンス	12 月	クリスマスケーキを作ろう
８月	色ぬり教室	１月	グラスデコをしよう
	マグネットクリップ	２月	キッズダンス
			英語で遊ぼう

【アイロンビーズ】

【マグネットクリップ】

■　実施に当たっての工夫

学校行事や地域での行事と重ならないようにしている。

旧町内の公民館との情報交換により、事業内容の充実を図っている。

■　事業の成果

他学年との交流や、さまざまな体験の場を提供できてよかった。

■　事業実施上の課題

土曜学び座は定着しているが、講座内容によって参加人数が偏るのが今後の課題である。

■　「土曜学び座」 まなび・ふれあい・つながり

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　湖北公民館	
年間開催日数	３６日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	３５　人

■　活動の概要

子どもたちの週末の居場所づくりとして、創作・体験活動の充実。
地域の大人と子どもがふれあう機会がもてる活動。

■　特徴的な活動内容

湖北町には、中世三大城のひとつで、日本五大山城といわれる小谷城趾がある。そこで、今年は子どもたちに小谷城の歴史を知ってもらうために取り組んだ。こういった、地域に関する事を取り入れた活動ができるようにしている。
また、居場所づくりの推進で、公民館教室（自主事業）「造形あそび教室」・「将棋教室」を開講している。

【よろちゃん会と大道芸を楽しもう】

【クリスマスボード作り】

■　実施に当たっての工夫

少しでも多くの子どもたちが参加してくれるよう、内容の充実を図った。　また、メディアでもよく言われている子どもたちの理科ばなれが、軽減するよう実験教室をおこなった。

■　事業の成果

交流の少ない３校が、いろいろな体験を通しながら交流することができた。
異年齢グループを作ることにより、高学年が低学年を指導する姿がみられた。また、同学年グループでは、わからない子のサポートをしている姿もみられた。
学び座のなかで、地域の方を講師に迎えることがあり、地域の人との関わりを持つことができた。

■　事業実施上の課題

湖北はスポーツ少年団の加入率が高いため、学び座の参加者は低学年がとても多く、子どもが固定化している。
運動など、からだをつかう講座では、参加率が極端にさがる。
学区による、参加率の偏りがある。

■　その他

安全管理については、保護者の方の協力を得ておこなっている。また、緊急時の対応もできるよう職員に周知している。

■　土曜学び座　学びのステーション

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　虎姫小学校区	
年間開催日数	１５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１８人

■　活動の概要

・子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」として、様々な体験学習を企画し開催している。
・大人も一緒に体験して楽しいと思う内容を工夫している。

■　特徴的な活動内容

・子どもたちの成長過程が見れる体験学習にするため、同じ参加者が参加する３回連続講座を２講座企画した。
　１　ダンス教室　大学生が大勢講師として来てくれた。講座の最後には保護者の方の前で、練習の成果を見てもらい、大学生のダンスも披露してもらった。
　２　お菓子教室　３回を同じメンバーでやることで、子どもたちの役割分担も自然とできて協力しながらやり遂げることができた。
・市内のバイオ大学生に講師を依頼し、普段接する機会が少ない「少し大きいお兄さん、お姉さん」と一緒に学ぶ講座を開催した。

■　実施に当たっての工夫

・季節の行事ごとを大事にしたいと考え、物づくりなどを計画するときに季節の行事に合わせた企画を考えている。
・料理教室などは、包丁などのケガ、やけどなど事故が無いように配慮するため、学生リーダーや地域ボランティアの方にスタッフをお願いして安全に配慮している。

■　事業の成果

・連続講座とすることで、子どもたちの技量が上がるのと大人の指示が無くても後始末などできるようになった。また、子ども同士で協力して進めていく様子も見られた。
・ペットボトルのキャップで「でんでんだいこ」を作る活動等を通して、環境に配慮しリサイクル活動に取り組む姿勢を培った。

■　事業実施上の課題

・５・６年生の参加が少ない。プログラムを工夫しているが難しいと感じる。
・１年生から６年生と幅広い子どもが対象なので、低学年には難しかったり、高学年には簡単すぎたりする。
・講師料が少ないため、依頼できない場合がある。また、無償ボランティアで来てもらうのも限界がある。実際、安全に成果のある講座をするには、子どもの扱いに慣れた講師を依頼する必要がある。ただ子どもと遊ぶだけでは無いので、講師料の予算を十分確保するべきである。
・地域の小学校との連携についてさらに検討する必要がある。

【３回連続お菓子づくり講座　最終回　プチシューづくり】

■　高月公民館土曜学び座　〈土曜はみんなの宝ばこ〉さぁ公民館へ行こう！

■　長浜市	
■　活動名 高月公民館　子ども教室	
年間開催日数	２４日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１４　人

■　活動の概要

当公民館での土曜学び座は、料理・アート・日本文化の３つのクラブを設けている。年度初めに子どもたちの希望で所属クラブを決定し、各クラブ８回の講座を開催している。

■　特徴的な活動内容

・コドモズ・キッチンクラブ：子どもでもできるカンタン料理を学び、ママを安心・パパを感心させようと子どもたちの人気の料理教室に年間を通じて取り組んでいる。

・きっず・アートクラブ　　：粘土で不思議な生き物をつくる。自分のイメージで富士山を描いたり、想像力を養うアートの楽しさ、不思議さを体験している。

・こども・おけいこクラブ　：古来よりお稽古事と呼ばれている、生け花・茶道・書道など日本の伝統文化にふれ、礼儀作法などもあわせて身に着けている。

【茶道で日本文化にふれました】

【大好きなハンバーグを作っています】

■　実施に当たっての工夫

講座の講師は、当公民館でサークル活動をするクラブの皆さんなどにお願いするなど地域の人々の交流とサークル活動の活性化も期待している。

■　事業の成果

クラブ化することで年間を通して１つのテーマに取り組むことができ、子どもたちには知識や技術の習得が深まっている。 また、講座のスケジュール管理など事務の軽減も図られている。

■　事業実施上の課題

テーマ別のクラブ化を２年実施しましたが、子どもたちは料理に人気が偏る傾向があり、抽選漏れの子どもへの対応が課題で来年度では課題解消の工夫をしたいと考えている。

■　学校の垣根を越えて、みんなでワイワイ楽しく学ぶ“土曜学び座”

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　杉野・高時・木之本・伊香具小学校区	
年間開催日数	９日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１２　人

■　活動の概要

５月　キッズアート「君の作るドラゴン伝説
　　ありがとうのフォトスタンド
６月　グラスデコを楽しもう
７月　キッズアート「戦うサーファー」
９月　Let's　Cooking　「パン作り」
10 月　フラワーアレンジメントに挑戦
　　デコスイーツにチャレンジ
11 月　Let's　Cooking　「おはぎ作り」
12 月　キッズアート「クリスマスで仮装ぱーてぃ」

【布・紙・ダンボールなどを使って「クリスマスで仮装パーティ」】

【みんなで楽しく「おはぎ作り」】

■　特徴的な活動内容

自由に「描く・創る・表現する」をテーマに年に３回、キィズアートグループの協力を得て実施。アートの力を借りて自分自身を大切にする心・仲間を思いやる心を育んでいる。

また、それとは別に紙や布・糸など自然のものを使っての小物つくり、地元の郷土料理グループによる料理教室など、体験学習も行っている。

■　実施に当たっての工夫

毎回テーマを決め、さまざまな画材、素材を準備し子どもたちが安心して自由にアート表現出来る環境作りを心掛けている。
様々な分野に卓越した地域の方に講師になって頂けるようお願いしている。
開催日を学校の行事と重ならないように考慮している。

■　事業の成果

高学年が低学年に優しく教えることが出来、学年・学校に関係なく仲良く出来た。
地元の人を講師に迎えることで地域の話・家族の話ができ、子どもたちも保護者も親しみを持てた。

■　事業実施上の課題

講座の内容によって参加者の人数がかたよる。また、参加者が固定化してきている。
地域でのボランティアの発掘が必要。
小学校が４校あるため、行事に重ならないよう開催日を決めるのが難しい。

■　子ども達は地域の宝　体験を通して成長する土曜学び座

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　余呉小学校区	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	２６　人

■　活動の概要

５月　ペットボトルと紙ねんどでランプシェードを作ろう
　　プラコップで作っちゃおう
６月　しゃぼん玉つくろ
７月　飯盒でご飯を炊いてみよう
　　ふうりんの音で涼しくなろう
８月　夏のお楽しみ会
９月　切り絵に挑戦しよう
11 月　スノードームを作ってみよう
12 月　ペットボトルでクリスマスツリー
１月　お抹茶体験（仮）
２月　そば打ち体験

■　特徴的な活動内容

地元の材木店から頂いた木材で飯盒炊飯をしたり、地元の竹を切ってきていただき、流しそうめんをしたりしました。
初めて体験する子どもが多く、子ども達も親御さんも喜んでくださった。
あと、ペットボトルを使ったリサイクル学習として、ランプシェードやツリーを作ることにより、すぐに資源ごみにしてしまうのではなく、いろいろな事に使えるという事を学べたのではないかと思う。

【飯盒炊飯】

【ペットボトルツリー】

■　実施に当たっての工夫

・低学年の参加が多いので、全学年通して楽しめたり、挑戦できる講座内容の計画ができた。
・ボランティア確保の為、民生委員児童部会の方々にもお声をかけて、お手伝いに来ていただいた。
・講座実現の為、青少年育成余呉地区民会議と共催で講座を開催した。

■　事業の成果

・参加者も多く、楽しみにしてくれる子どもたちが多いのがとてもうれしく思う。

■　事業実施上の課題

・当初計画していた運動系の講座が出来ずに、物づくりや体験に偏ってしまった。
・もっといろんなジャンルの講座を計画していきたい。

■　「土曜学び座」は地域の子どもの笑顔が大好きです！

■　長浜市	
■　活動名 土曜学び座　　西浅井小学校区	
年間開催日数	１９日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	３３　人

■　活動の概要

・４月　キッズサスケ
・５月　おはなのブローチづくり、フットサル
・６月　スイーツデコ、ゲーム大会
・７月　七夕ささかざりとプラネタリウム
　　きもだめし大会とスイカわり
・　８月 デイキャンプ体験
・10 月　キッズサスケ
・11 月　文化祭クラフト体験、フットサル
・12 月　公民館へ行こう、もちつき大会、公民館クリスマス会
・　１月　スイーツマグネット、鬼ごっこ大会
・　２月　バレンタインチョコづくり、フットサル

【キッズサスケ　～　バランスウォーキング】

【　キッズサスケ　～　大玉相撲　】

■　特徴的な活動内容

平成２５年度から実施している「キッズサスケ」、今年度は２回開催したが、どちらも参加者は多く毎回楽しみにしてくれる子どもたちが多くいる。

頭脳と体力をつかって、いろんなゲーム、レースにチャレンジする

（内容　～　バランスウォーキング、時限爆弾、円盤アタック、大玉相撲、フィールドフラッグ、ピンポン運び、他）

■　実施に当たっての工夫

物作りばかりなど、実施内容が偏らないよう年間計画をたてた。

子どもたちが、のびのびと楽しめる時間であるような体験を目指した。

■　事業の成果

今年度は全体的に参加者が増加した。運動、物作り、季節の行事、体験活動などを、バランスよく企画し実施することができた成果ではないかと思う。今後も、子どもたちが参加したいと思えるわくわくするような企画を考えていきたいと思う。

また、中・高生ボランティアが積極的に参加してくれ、異年齢交流ができた。

■　事業実施上の課題

現在２００人に満たない小学校の児童が、これから益々減少傾向にある中、参加者の確保が課題となってきている。

また、料理教室を実施する際のボランティアの確保が課題。

■　草津市における土曜日の教育支援の取組

■　めざす姿

＜子ども＞

・自らの意志で目的をもって活動に参加しようとする子ども。

・興味を持って活動に参加し、自らの学力を高めようとする子ども。

＜地域＞

・子どもたちの安全な居場所が確保された草津市。

・学びたいという意欲をもった子どもたちが、経済的な心配をすることなく参加できる学習の場がある草津市。

・学校教育とは別に、市内小中学生の学力向上のための場がある草津市。

■　本年度の活動

〇作文教室（民間委託による指導）

〇体験教室（市内の大学生・企業・市役所職員による指導）

英語教室、絵画教室、タブレット教室、環境学習教室、理科実験教室、歴史教室

〇運営委員会

体験教室の事前打合せ等

〇研修会（民間委託業者主催）

作文教室講師を対象とした研修

■　本年度の成果

・市内の全小中学校より参加者が集まったこと。

・小中学生合わせた募集人員が８０名のところ、６５名の参加があったこと。（充足率の増加）

（小学生　３９名、　中学生　２６名）

・中学生の出席率が、これまでより高くなっていること。

（Ｈ２５年度　６０．５%、Ｈ２６年度　６８．４%）

■　今後の課題

・より多くの子どもたちが参加したくなる・参加しやすくなる環境の整備

（会場数、実施曜日、実施時間帯、活動内容等の検討）

・草津市における学びのセーフティネットの充実

・小中学生の学習に適した会場の確保

■　その他

＜アピールポイント＞

・参加した子どもたちが、大変真剣に意欲的に取り組んでいること。

・市内全域から集まる参加者同士のつながりが深まっていること。

■　ゲームや歌を通して英語に親しもう！

■　草津市	
■　活動名 英語教室	
年間開催日数	２日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	５０　人

■　活動の概要

立命館大学英語研究会に所属する学生から、英語を使ったゲームや歌などを通して、英語で話すことに慣れ親しむ活動を企画・指導いただいた。１日の活動時間は、小学６年生　10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。２日間にわたって実施した。

実施日：９月６日、９月１３日

■　特徴的な活動内容

・Birthday　chain（名前と誕生日を英語で紹介しあう）
・英語でじゃんけん　Rock, Paper, Scissors
・英語でかるた（発音を聞いて合うカードを見つける）
・洋楽 Listening&Singing（英語で歌おう）
・英語すごろく（チームを作って対戦形式で行う）

■　実施に当たっての工夫

・活動の中で出てきた単語の発音についての留意ポイントやその単語から知識を広げるような話題提供を行うことで、英語に対する興味が膨らむようにした。
・体を動かしながら英語で話す活動をいくつも取り入れることで、楽しい雰囲気の中で進められるようにした。
・ゲームを通して、参加者同士の人間関係が深められるように活動を工夫した。

■　事業の成果

・小学校において外国語活動に取り組んでいることもあり、簡単な日常会話や単語については身につけていた。このため、英語で話したり、歌を歌ったりすることについて、恥ずかしがることなく取り組めていた。
・英語を得意とする参加者からいろいろな知識を引き出すような声かけもあり、個を生かした活動が展開できた。
・２日に渡って実施したが、参加者も多く、興味を持っていることが伺えた。特に、中学生は真剣な態度で臨んでいた。
・「覚えておくと便利なこと」や「得意顔になれること」などといった言い回しで学生が話しかけてくれていた。興味をそそるような声かけであり、知識として記憶しておこうとする意欲を掻き立てていた。

■　事業実施上の課題

・活動内容や準備物等について事前に十分な打合せをしておくことで、開催目的が明確となるため、指導を進める上でもやりやすく、また主催する側の意図に沿ったものとなる。
・市内小学生や中学生が使っている教材や教科書等の内容を、事前打合せの際に講師に示すことで、子どもたちの外国語（英語）活動についての習得状況が明らかとなり、より実態に即した活動が仕組めることになる。

■　その他

・講師としてお願いした立命館大学英語研究会の学生の意気込みと能力がすばらしく、講師間の事前協議や準備等もしっかりとされていて、大変スムーズに活動が展開された。また、英語の発音等があたかもネイティブであるかのように聞こえるほど洗練されており、個々人の努力が伺えた。子どもたちにとって、「自分も努力によって身につけることができるのでは」と思えるすばらしいモデルに出会えたことで、英語学習に対する興味が一層沸いてくるよい機会となった。

■　マンガやイラストで伝えたいことを表現しよう！

■　草津市	
■　活動名 絵画教室	
年間開催日数	１日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	５７　人

■　活動の概要

立命館大学琵琶湖漫画研究会に所属する学生から、イラストやマンガ・似顔絵などの描き方やこれらを用いた効果的な表現方法等について指導していただいた。また、自分たちがイラストなどの絵を描くことが好きになったきっかけとなる出来事などについても話してもらった。１日の活動時間は、小学６年生　10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：９月２０日

■　特徴的な活動内容（指導内容）

・似顔絵を描く際の特徴のとらえ方について
・思いを伝えることに主眼をおいたイラストの描き方について
・イラストやマンガで表現することのよさについて

■　実施に当たっての工夫

・参加者が表現しやすい大きさを選んで描けるように、大きさの異なる２種類の用紙を準備した。
・見本となる作品を用意しておき、提示することでイメージを持ちやすくした。
・イラストで表現するよさや意味合いを明らかにすることで、目的に応じた描き方ができるようにした。
・扱いやすい画具として、色鉛筆を用いた。
・プロジェクターと実物投影機を活用し、見本や参加者の作品をリアルタイムで大きく映しだすことで、活動内容の理解促進や活動意欲の持続を図った。

■　事業の成果

・イラストに持たせる意味合いを明らかにすることで、リアルに描いたり、デフォルメ効果で描いたり、全体を描いたり、あえて一部分のみを強調して描いたりというようにさまざまな描き方があり、それを適切に選択することが大切であるとの理解を深めることができた。
・文章やイラストをうまく組み合わせることで、より効果的に思いや考えが伝えられることが理解できた。
・学習のまとめとして新聞づくり等を行う際、効果的にイラスト等を使おうとする意識を高めることにつながった。

■　事業実施上の課題

・今回は１回限りの講座であったが、３回程度の連続講座として、それぞれに違うテーマを決めて実施することで、より参加者のニーズに合った学びの機会が提供できるのではと感じた。例えば、ポスターづくり講座などは大変効果的であると思われるので、ぜひ開催してみたい。
・会場と時間等の関係で、今回は画具として色鉛筆を用いたが、可能であれば、テーマにもよるが水彩絵の具などを使えるとよかった。

■　その他

・今回の絵画教室は、参加者のニーズにマッチしたようで、今年度実施した「草津市土曜日学びの教室」全２５回のうち、参加人数が最も多い講座であった。
・指導を依頼した学生は、研究会としてこのような形で指導する機会は初めてであると話していたが、指導者２名がうまくかけあいをしながら、参加者の興味をひきつけた指導を行ったり、伝えたいことをより分かりやすく伝えられるように事前に打合せをして指導にあたったりなどの工夫をしており、感服した。

■ アニメーションで表現しよう！

■ 草津市	
■ 活動名 タブレット教室	
年間開催日数	３日

コーディネーター数	２ 人
土曜教育推進員数	４ 人
子どもの平均参加人数	４７ 人

■ 活動の概要

ICT 支援員ならびにラインズ株式会社の社員により、タブレットの基本的な操作方法やプレゼンテーションアプリを用いた簡易アニメーション作成の手順などを指導していただいた。１日の活動時間は、小学６年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：１１月１日、１２月２０日、１月３１日

■ 特徴的な活動内容

グループで決めたテーマにもとづき、タブレットを使って簡易アニメーションをつくる。

■ 実施に当たっての工夫

・タブレットにインストールされているアプリの基本的な使い方の指導、タイピング練習等を丁寧に行う。
・簡易アニメーションを作成するにあたって、使える材料（小物）として、人形や模型、粘土、装飾品、紙とペンなどを用意しておく。
・時間の関係上、グループでの作品づくりとなるため、グループ編成を行い、グループで活動する時間と個別に活動する時間を使い分ける。
・参加者のイメージが膨らむように、講師が作成した作品を見本として提示する。

■ 事業の成果

・グループで相談していろいろなアイデアを出し合い、自分たちの主張が分かりやすく表現できるように、簡易アニメーションを作成することができた。
・今年度市内の小学校に配備されたタブレットを使った講座であったため、操作に慣れている部分も見られたが、今回使ったアプリの操作方法も新たに知る機会となり、今後の学校での活用に生かせるものとなった。
・グループで相談して役割を分担し、協力して作品づくりに取り組めた。
・発想豊かな作品ができあがった。

■ 事業実施上の課題

・参加者一人ひとりの訴えたいこと（テーマ）にちがいがあるため、時間的な課題がクリアできるのであれば、個人としての作品づくりの機会も確保したい。
・１回目は、市内に配備されているタブレット２５台を収納ボックスに収めて会場まで搬入したが、かなりの重量となったため、２人がかりで搬入・搬出を行うこととなり、準備と後始末に時間がかかった。
・会場を市内小学校にすれば、タブレットの搬入・搬出の時間が省けるとともに、ネット環境が整っているため、今回とは違った内容で実施することが可能となるが、土曜日に学校を開けることにもなり、管理の面で課題がある。

■ その他

・市内の小中学校を日ごろから巡回して支援いただいているＩＣＴ支援員さんに講師としてお越しいただけたことで、スムーズな運営が図れた。

■ 地球にやさしい生活を送ろう！

■ 草津市	
■ 活動名 環境学習	
年間開催日数	１日

コーディネーター数	２ 人
土曜教育推進員数	３ 人
子どもの平均参加人数	４５ 人

■ 活動の概要

（株）大阪ガスグループキッズ応援プロジェクトに応募し、地球環境とエネルギーについて、実験を通してご指導いただいた。１日の活動時間は、小学６年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：１２月１３日

■ 特徴的な活動内容

液体窒素の冷熱実験と地球に優しい燃料電池を体験しよう！

（1）インドネシアやブルネイ、オーストラリアなどから天然ガスを海輸するにあたって、－１６０℃まで冷やすことで体積を 1/600 にして運ばれてくることを説明し、その後、液化天然ガスの代替物質として、－１９６℃まで冷やして出来る液化窒素による冷熱実験を行う。冷熱により体積が小さくなること、物質が固くなることなどを体験する。

（2）地球温暖化の要因の一つである二酸化炭素などの排出量を抑えながら電気を作るために自然エネルギーを利用した発電が行われていることを知るとともに、実際に実験をとおして風の力や燃料電池により発電できることを学ぶ。

■ 実施に当たっての工夫

・上記（1）については、原則示範実験とする。（2）は配付されたキットを使って小グループごとに実験に取り組む。
・（1）については、危険を伴うので、「立ち上がったり、前に出てきたりしない」ように事前の指示を厳守させる。
・二つの実験を通してエネルギーの概要を理解した後、身近な生活における省エネルギー対策として、個々人が地球環境を守るための実践的な行動に移せるよう、テキストを用いて具体的な行動目標を決定させる。

■ 事業の成果

〇喫緊の課題として多くが認識している地球温暖化の問題に関わり、具体的な実験を通して学ぶことができたことはよかった。
〇自らの生活の中から無駄を省き、エネルギー消費量を少しでも抑えるための生活様式に変えていこうとするエコ意識や意欲が、多くの参加者の今後のめあてとして明らかにされたことはよかった。それぞれの家庭や友人等に今回の学びを広げていこうとする意識が育つきっかけになればと思う。
〇子どもたちの素直な知的好奇心を湧きたたせる機会としてうまく機能した。今回のねらいとは少しずれるが、学習後に「これを液化窒素につけてみてください」と消しゴムや手袋、ペン、雑草などを持って前へ出てくる姿が多数見られたことは、成果としてあげられる。なお、この状況が、男子よりも女子に顕著に見られたことは驚きであった。

■ 事業実施上の課題

小学校の理科において、空気中の成分として酸素や二酸化炭素、窒素についての学習をする。窒素については大きな割合を占めているものの、あまり大きく取り上げることはない。今回、液化天然ガスの代替として、液化窒素を用いた冷熱実験を行った。いろいろな物質を液化窒素につけて冷やすことで体積が極小されることや取り出すとすぐに蒸発することなどが明らかになった。今回の実験の目的とは少しずれるのだが、窒素の持つ有用性について、ふれてもらえると子どもたちの認識が新たにされてよかったのではと感じた。また、今回のような学習環境の中でも可能であるのなら、窒素を－１９６℃まで冷やすことで液化窒素に変わっていく過程を実際の実験もしくは映像で見せてもらうことができれば、より理解が増したように思った。

■ その他

出前授業として依頼したため、（株）大阪ガスのご好意により、講師の謝金や消耗品費等の経費は一切不要であった。

■　身近なものを紹介しよう！

■　草津市	
■　活動名 作文教室１	
年間開催日数	３日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	４１　人

■　活動の概要

（株）学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第１クール目。１日の学習時間は、小学６年生が10:00～12:00、中学生が14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生ともに後半30分は質問タイムとして設定している。）である。一つの基本テーマで３回（３日）実施する。

実施日：７月５日、７月１２日、７月１９日

■　特徴的な活動内容

小学生テーマ「身近なものを紹介しよう」

①自己紹介文を書こう　②わたしの友だちについて書こう　③私の学校を紹介しよう

中学生テーマ「自分と友だち」

①私　②私の家族　③友だちから学んだこと

■　実施に当たっての工夫

（１）実際に作文に取りかかる前に、プリントを活用して言語指導を行う。
（２）作文活動は、文の構成にあわせてスモールステップをふみ、それぞれに自分の考えや思いをメモとしてまとめる。
（３）まとめたメモを順番に書いていきながら、１枚の作文に仕上げる。
（４）書いた作文は添削されて次回以降に戻されるので、講師のコメントをもとに修正を加える場合もある。

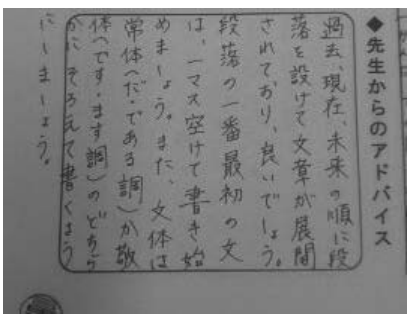
■　事業の成果

文章の構成（起・承・転・結）にあわせて、まとめるポイント等がプリントには示されており、そのポイント（質問）に応じて自分の考えや感じたこと、思ったことなどをメモ書き程度にまとめていくことで、構成の整った作文ができる。
このことから、子どもたちは、あまり抵抗感なく書き進めることができた。
また、字数制限がされているものの、さほどの量ではないため、少し工夫することで最終行まで書き満たすことができ、達成感を感じやすかった。

小学生テーマ「『身近なものを紹介しよう』　③私の学校を紹介しよう」では、各自が自分の学校のよさを大いに紹介した。
このことにより、参加児童間での交流が生まれ、市内の他の小学校について知ることができてよかった。

■　事業実施上の課題

毎回参加が原則であるが、都合により欠席する場合もあるため、参加していない日の作文が添削されて返却されたときに、自分の作文がないことがある。系統立てた指導がされてはいるが、欠席したことで全く次につながらなくなることはない。しかし、参加者が居づらくなるような雰囲気にならないように配慮する必要がある。


◆先生からのアドバイス
過去、現在、未来の順に段落を設けて文章が展開されており、良いでしょう。段落の一番最初の文は、一マス空けて書き始めましょう。また、文体は常体（だ・である調）か敬体（です・ます調）のどちらかにそろえて書くようにしましょう。

■　その他

添削指導により、個々の作文用紙に講師先生のアドバイスが記載されて、返却される。

＜例＞

「過去、現在、未来の順に段落を設けて、文章が展開されており、良いでしょう。段落の一番最初の文は、一マス空けて書き始めましょう。また、文体は、常体（だ・である調）か敬体（です・ます調）のどちらかにそろえて書くようにしましょう。」

■　順序だてて説明しよう！

■　草津市	
■　活動名 作文教室２	
年間開催日数	３日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	３８　人

■　活動の概要

（株）学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第２クール目。１日の学習時間は、小学６年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで３回（３日）実施する。

実施日：７月２６日、８月２日、８月９日

■　特徴的な活動内容

小学生テーマ「順序だてて説明しよう」

①　順を説明しよう　　②料理レシピをつくろう　　③４コママンガを説明しよう

中学生テーマ「資料を見て書く」

①　書量調査　　②新聞を読む時間　　③食料自給率

■　実施に当たっての工夫

小学生については、「はじめに」「つぎに」「おわりに」といった接続詞の使い方を主たる学習内容として実施した。それぞれにまとめたものを一つの段落として構成し、説明文を作成した。

中学生については、グラフや表から読み取ったことをまとめて段落を構成し、最後に自分の考えを記述するという手順で説明文を作成した。グラフや表を読み取る観点もプリントに記載されており、読み取りやすい工夫・一つのグラフや表から何を読み取ればよいのかに気づける工夫も加えた。

■　事業の成果

「説明文の基本的な作成手順や接続詞の使い方」「説明文を作成するための資料となるグラフや表を読み取る観点」等が明らかにされた学習プリントを使用することで、文章の構成方法等の理解が進んだ。このことにより、参加者の作文に対する抵抗感を和らげ、作成意欲を高めることができた。

■　事業実施上の課題

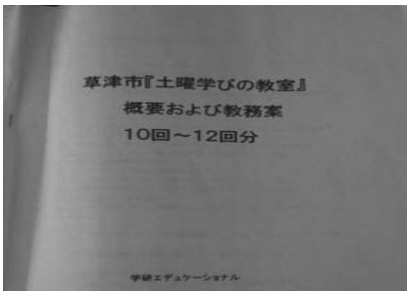
年度当初に、市内小中学校の土曜日の行事（中体連等）を把握し、「土曜日学びの教室」の開催日を充てないように調整したが、夏季休業中であるため、家族団らんの機会が増えたり、他の習い事やスポーツ少年団等の予定と重なったりしたことで、欠席者が増えてしまった。

学びのセーフティネット（土曜日の子どもたちの安全な居場所づくり）という目的をふまえ、「土曜日学びの教室」を夏季休業中に開催することの有効性について、検討する余地がある。

■　その他

（株）学研エデュケーショナルが作成した１単位時間ごとの指導案をもとにそれぞれの講師が、用意されている教材だけでなく自分なりに工夫したプリント等を用いたり、自らのこれまでの経験をもとにしたコラムなどを紹介したりしながら学習指導を進めた。

子どもたちが興味をもって学習に参加している姿を多く見ることができた。



■　資料をもとに自分の考えをまとめよう！

■　草津市	
■　活動名 作文教室３	
年間開催日数	３日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	４４　人

■　活動の概要

（株）学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第３クール目。１日の学習時間は、小学６年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで３回（３日）実施する。

実施日：１０月１１日、１０月１８日、１０月２５日

■　特徴的な活動内容

小学生テーマ「絵を見て考えよう」

①１枚の写真から　②図書館のマナー　③マンガを見て考えよう

中学生テーマ「抽象課題を考える」

①信頼について考える　②約束について考える　③自然について考える

■　実施に当たっての工夫

小学生は、写真や挿絵・マンガを見て考えたことを書き表す活動に取り組んだが、それぞれの写真や挿絵・マンガのどこを見るのか、何を考えるのかという観点を示すことで、自分たちの考えがまとめやすくなるように工夫した。

中学生は、課題に対して「どのようなものであると考えているか」、「どう受け止めているか」をこれまでの経験等を踏まえて書き表す活動に取り組んだ。目で見ることのできない「信頼」や「約束」、さまざまなカテゴリーを総称した「自然」に対する考えを述べることになるため、ややもすると漠然となりがちである。よって、できるだけこれまでの経験に基づいて考え、具体的な例を示しながらまとめていけるように、観点やポイントを提示して進めた。

■　事業の成果

抽象的なものについての考えをまとめる場合、ややもすると一般論で終始してしまうが、今回、具体例を挙げながら、「だからこう考える」というように組み立てていく手法を指導したことで、自分なりの根拠に基づいた見解を示す作文としてまとめることができた。

このことにより、自分の考えを書き示す文づくりでは、具体的な例をあげて主張すると効果的であるという認識をもつことができた。

また、前時の個々の作文から見つけた優れた表現を、講師が全体の場で伝えたことで、学びの共有・拡充ができ、個々の表現力を高めることにつなげられた。

■　事業実施上の課題

本事業で使う原稿用紙は６００字詰めである。学校の授業で使う原稿用紙は４００字詰めが一般的であり、この用紙を２枚～３枚程度用いることが多い。

あえて６００字に設定しているのは、１枚で「起・承・転・結」または「はじめ・なか・おわり」といった構成要素に照らし合わせて、で書きまとめやすくすることや所要時間等を考慮したためである。

今後、参加者の慣れの程度にあわせて、「１枚の字数を増やす」「枚数を増やして書く」ことも検討する必要があると考えている。

■　立場を選んで考えをまとめよう！

■　草津市	
■　活動名 作文教室４	
年間開催日数	３日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	４０　人

■　活動の概要

（株）学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第３クール目。１日の学習時間は、小学６年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで３回（３日）実施する。

実施日：１１月２２日、１１月２９日、１２月６日

■　特徴的な活動内容

小学生テーマ「立場を選んで理由を述べよう」

①学級文庫にマンガは必要か　②国語か算数か　③手紙かメールか

中学生テーマ「立場を選んで書く」

①メールか手紙か　②日本史か世界史か　③ビデオか写真か

■　実施に当たっての工夫

ディベート的な発想で取り組める題材であったため、自分の立場を明らかにすることから始めた。実際のディベートではないので、反論する機会等はないが、いかに「なるほど」と他の者が思える理由を挙げながら文章が書けるかにポイントをおいて指導を行った。

その理由を見つけるうえで参考となる学習プリントを用意するとともに、講師も巡視をしながら、個に応じた声かけを行った。

■　事業の成果

二者択一を求められる状況の中で、自分の立場を自ら決定し、主張文を作成するという学習であったため、より積極的な学びの姿が見られた。また、参加者の中で、それぞれの考えや立場を交流することができ、それぞれの価値観があることに気づくことができた。

相手に「なるほど」と思わせることができる理由を考えることについては、その観点例等が記載された学習プリントを用意したことで、それを参考にしながら書きまとめることができた。

■　事業実施上の課題

時間に余裕があれば、実際にディベートを実施することで、「どのようなことを聞かれるか」、「どのような理由立てをすれば、相手をより納得させられるか」、また「相手が思いもつかないような理由はないのか」、など単に作文指導にとどまらないで、より表現力を高めるための機会がつくれたのではないかと考える。

■　その他

講師２名による指導・巡回支援の様子。

コーディネーター１名も教員免許を持っており、状況によっては個別の支援を行っている。

■　歴史を知って今を考えよう！

■　草津市	
■　活動名 歴史教室	
年間開催日数	１日

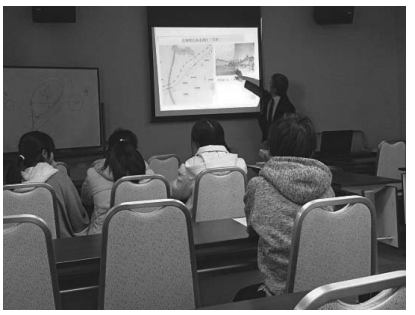
コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	５０　人

■　活動の概要

草津宿街道交流館の職員より、歴史を学ぶ意義や草津市にまつわる歴史的トピックなどの講話と浮世絵刷りの体験活動の指導をしていただいた。

実施日：１月１７日　市民交流プラザ会場、１月２４日　人権センター会場

１日の活動時間は、小学６年生　10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学６年生・中学生とも後半 30 分は質問タイムとして設定している）である。



■　特徴的な活動内容

・歴史のとらえかた、見直される歴史、歴史を学ぶ意味などの内容にふれた講話
・草津市にまつわる歴史トピックの紹介
・歴史を学ぶ上での浮世絵の価値や存在意味についての講話、浮世絵刷り体験

■　実施に当たっての工夫

・歴史学習に対して興味がもてるような投げかけや資料を用意する。
・浮世絵刷り体験を取り入れたり、身近な草津市の移り変わりなどを紹介したりすることで、歴史を学ぶおもしろさ等が体感できるようにする。

■　事業の成果

・講師に視線を向け、真剣に話を聞く小学生の姿や、浮世絵刷りに熱心に取り組む中学生の姿が見られた。多重刷りのためずれが生じないように、版の下部に「見当」がつけられているが、その「見当」に確実に画紙をおさめ、細心の注意を払って活動していた。
・１枚では納得できる作品にまとめきれず、複数枚の印刷に挑戦する中学生も多かった。

■　事業実施上の課題

・事前に小学６年生ならびに中学生の社会科・歴史の教科書を見て、子どもたちの学ぶ歴史的ことがらについて調べておく。
・事前のアンケートでは、小学６年生では「歴史学習が好き」と答える割合が半数を超えていた（ちなみに「嫌い」は０%）が、中学生になると、「おもしろくない」「きらい」と答える割合が極端に高くなっていた。中学生では、入試も視野に入れて学習が進められるため、歴史学習は、覚えなければならない教科としてのイメージが強く、これを苦手とする生徒にとっては、苦しい学習になってしまいがちである。なかなか１回の学習で歴史学習のおもしろさを感じたり、興味をもったりすることは困難であるが、少なくともこの１回は「楽しかった。おもしろかった。参加してよかった。」と思える内容にしたいと考えて取り組んだが、日々の学校での学習にどれだけつなげられるかと考えるとなかなか厳しいものが感じられた。

■　その他

・浮世絵刷りを出来るだけ簡易に体験できるように、４色スタンプ盤（黒・青・緑・赤）を使って多色刷りをしたが、スタンプ盤の色の種類がもっと多ければ、より本物に近い彩色ができ、深みのある作品作りが体験できたように思われる。
・草津宿街道交流館は休日に開館されているが、市内小中学生のためにと時間を調整してお越しいただくことができた。歴史研究の専門家から本市の歴史について、また日本の歴史について大変興味深い話を聞く事ができた。
・「小学校や中学校で使っている教科書は、日本の歴史の一連の流れをつかむ上でコンパクトのまとめられており、大変よくできた書物である」という話もしていただき、子どもたちの教科書に対する思いも少し変わったのではないかと思われた。

甲賀市における土曜日の教育支援の取組

■めざす姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

■本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

親子教室や子ども教室等を含む各公民館講座紹介映像を作成して、社会教育委員の会議において紹介、啓発活動を行った。

また、担当職員を対象に企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

■今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

■その他

市内公民館合同で夏休み工場見学等の事業も実施している。

毎年１０月の土曜日に企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催している。

甲賀市ＵＲＬ：　http://www.city.koka.lg.jp/

【　まなびの体験広場２０１４（平成２６年１０月１１日開催）】

■　さまざまな人・もの・知識や技術を通し、絆を深めていく甲賀の親子

■　甲賀市	
■　活動名 水口中央公民館　親子ふれあい講座	
年間開催日数	９日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１０　人

■　活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】
ポーセラーツ体験・・・・・・食器作り　６/28（23 名）
動くおもちゃ作り・・・・・・おもちゃづくり１・２　７/19（20 名）、７/26（17 名）
パン作り・・・・・・・・・・パンづくり１・２　共に８/23（18 名、19 名）
ふれあいスポーツ体験・・・・ふれあいスポーツ体験　10/25（14 名）
指で描くクリスマスカード・・指で描くクリスマスカード　12/20（21 名）
親子でクッキング・・・・・・親子でクッキング１・２　共に１/18（10 名、12 名）
【主な活動場所】
水口中央公民館、水口体育館

■　特徴的な活動内容

甲賀市内の小学１年生から３年生の子どもとその保護者（親子）を対象としている。
親子で作る体験を多くし、児童と保護者との関わりを意識した活動を計画した。

■　実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方にお願いするようにしている。
多くの地元の方の協力が得られた。

■　事業の成果

各講座とも、親子で楽しく活動できている。
保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。
講師の方たち自身の学習の場ともなっていて、たくさんの子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

■　事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが課題である。

【お父さんも大活躍！（動くおもちゃ作り）】

【パンで動物の顔をつくりました（パン作り）】

■　さまざまな人・もの・知識や技術との出会いから学ぶ、甲賀の子どもたち

■　甲賀市	
■　活動名 水口中央公民館　子ども公民館講座	
年間開催日数	１５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	１２　人

■　活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

【主な活動内容】

母の日・父の日のプレゼントづくり（粘土工芸）・・・母の日：５/10（10 名）、父の日：６/７（８名）

押し絵・・・・・・・・・・・・・・・・・・・四季の押し花（春夏秋冬）　６/14（８名）、９/27（７名）、11/18（10 名）、２/14（７名）

夏休み・冬休み宿題お助け講座・・・・・・夏休み自由研究（統計ｸﾞﾗﾌ）　７/23（13 名）、夏休み工作クレイクラフト（貯金箱ー成形、着色）　７/23、８/20（共に 16 名）、図書館の利用・本の選び方　７/30（５名）、絵手紙　８/23（18 名）、書きぞめ練習　12/26（14 名）

お菓子づくり・・・・・・・・・・・・・・・・野外クッキング（竹パン）　10/18（14 名）、お菓子をつくろう１・２　共に 12/６（14 名、９名）

【主な活動場所】

水口中央公民館、水口図書館、水口スポーツの森

■　特徴的な活動内容

甲賀市内の小学４年生から６年生の子どもを対象としている。

学習や体験活動など、幅広いジャンルでの活動を意図的に計画し実行できた。

■　実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方にお願いするようにしている。

滋賀県が実施している出前講座も取り入れた（滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ）

■　事業の成果

各講座とも、子どもたちは大変集中して活動できている。ある講座では、休憩時間も惜しんで制作している場面も見受けられた。

講師の方たち自身の学習の場ともなり、また中には普段子どもと接する機会が少ない方にとっては、子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

■　事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。

それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが、課題である。

【先生方も子どもたちも真剣！（押し絵）】

【上手に焼けるかな？（まきまきパンづくり）】

■ 親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

■ 甲賀市	
■ 活動名 土山中央公民館　親子ふれあい講座	
年間開催日数	５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	８　人
子どもの平均参加人数	１３　人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。
親子で自然体験や、力を合わせて「ものづくり」を通してふれあいを深める。

■ 特徴的な活動内容

自然体験（お弁当持ってハイキング）・・・・・・・・・・・・・・ハイキング　6/14（中止）
作品制作（アルミ缶風車作り）・・・・・・・・・・・・・・・・・風車作り　8/2（4名）
環境学習（地球にやさしいラーメン作り）・・・・・・・・・・・・ラーメンづくり　10/19（14名）
おかしづくり（クリスマスケーキのデコレーション）・・・・・・ケーキづくり　11/19（22名）
ふれあいあそび（凧作りと凧上げ）・・・・・・・・・・・・・・・タコづくり　1/24（中止）
【主な活動場所】
土山中央公民館、土山開発センター

■ 実施に当たっての工夫

ものづくりを通して環境学習やリサイクルの学習をしている。また、ふれあいあそびでは昔のあそび体験をしている。
昨年人気があったおかしづくりでは、子どもたちも大変興味をもち定員オーバーでキャンセル待ちもいる盛況である。
参加した親子に何がしたいか聞き取り次回の講座の参考にしている。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでいた。親子のふれあいと絆を深められた。また、一度参加された親子は次回の事業にも参加してもらえた。

■ 事業実施上の課題

実施内容によって参加者の人数に偏りがあった。参加者のニーズにあった事業の計画をしたい。参加する親子が同じで広がりがないので周知の方法を考える必要がある。

【アルミ缶の風車】

【ケーキのデコレーション】

■ あいの土っこ“きらねっ人”いきいき活動

■ 甲賀市	
■ 活動名 土山中央公民館　子ども公民館講座	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２４　人
子どもの平均参加人数	２３　人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。
地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を子どもと一緒に行う。

■ 特徴的な活動内容

・特産品や季節に応じたおやつづくり
・げんこつあめ・・・　7/5（5名）
・ふれあいあそび・・・大野学区区民祭（おじゃみ、折紙、糸車、カロム等）　6/8（53名）、夏休みあそびの広場（4回　スライム作り、バルーンアート、折紙等）（67名）、宿場まつり（昔遊び）10/12(40名)、文化祭あそびの広場 11/9(39名)、クレープ作り 12/21(6名)、たいけん屋台村 2/21、いちご大福 2/21

【主な活動場所】
大野小学校、山内公民館、大野公民館、土山中央公民館

■ 実施に当たっての工夫

・ボランティアバンクに23人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。
・また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように４つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 事業の成果

・参加した子ども達のアンケートでは、「楽しかった」「上手にできてよかったです」「新しい友だちができてよかった」などの意見があり次回開催の参考になった。

■ 事業実施上の課題

・年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動（メニュー）を取り入れるなどの工夫が必要である。
・ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。

【折り紙（文化祭）】

【げんこつあめ】

■　飛び出せ！　ちびっこ忍者たち（甲賀★忍者隊）

■　甲賀市	
■　活動名 ＫＯＫＡ楽こども公民館「甲賀★忍者隊」	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	６　人
子どもの平均参加人数	８　人

■　活動の概要

野外活動やものづくりなどの様々な体験を通して子どもたちの創造性を育むとともに、グループ活動をすることで自主性や協調性を養う機会とする。

■　特徴的な活動内容

デイキャンプ・・・市内キャンプ場で行う野外活動。火おこしや薪わり、野外調理、ネイチャーゲームなどを行う。10/４（８名）
集まれ、忍者隊！・６/14（９名）
流しそうめん・・・８/23（４名）
旅研修事前学習　・11/８（８名）
旅研修・・・・・・全員が協力してクイズを解いたり、チェックポイントを探したりしながら、あらかじめ設定された目的地を目指す。旅をする中で目的地の歴史や文化だけでなく、公共交通機関の乗り方や人との関わり方なども併せて学ぶ。12/６（８名）
ものづくり・・・・２/７
まなびたいけんフェスタ参加 3/1

【主な活動場所】
かふか生涯学習館、高間みずべ公園、信楽町

■　実施に当たっての工夫

子どもたちに目的意識を持たせるとともに、協力することの重要性に気付かせるようなプログラムとなるよう工夫している。また、事業に関わるスタッフが自らも楽しめるよう心がけている。

■　事業の成果

スタッフや地域住民とも活発な交流が図られている。また、継続して受講している子どもは知識も深まり、リーダーシップも発揮しつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、ほぼ全員が毎回参加していることからも、活動を楽しみにしている様子が伺える。保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じられている。

■　事業実施上の課題

スタッフの就職や結婚、出産などにより、事業実施に必要な人員を確保することが困難となる場合があり、事業の円滑な実施や　安全確保の観点からも、プログラム内容の見直しとともに新たな人材の育成が急務となっている。

【火おこし体験】

【作陶体験】

■　きみも天文はかせになろう！（こども天文クラブ）

■　甲賀市	
■　活動名 ＫＯＫＡ楽こども公民館「こども天文クラブ」	
年間開催日数	８日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	２０　人

■　活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。
体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

■　特徴的な活動内容

天体観望・・・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系の惑星の観望や季節の星座について学ぶ。
流星群観察・・・・８月のペルセウス座流星群を親子で一緒に観察する。
・天文クラブ１～８・・・６/21（25名）、７/19（22名）、８/12（20名）、10/18（11名）、11/１（15名）、
12/６（17名）、１/10（17名）、２/21
市外研修・・・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示を見学する。
クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星などのペーパークラフトを作る。
【主な活動場所】
かふか生涯学習館、大津市科学館、名古屋市科学館

■　実施に当たっての工夫

当館で定期的（月２回）に開催している天体観望会に将来スタッフとして協力いただけるよう、人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など施設外での活動を実施する場合は、バディを組んだうえでグループ行動をさせるなど、事故の未然防止を図るようにしている。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載した出席カードを作成して参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントを渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

■　事業の成果

毎年50名前後の受講申込みがあり、当館では最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒が交流できる貴重な機会ともなっている。

■　事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難である。また、内容的に専門知識を必要とするため、今後も継続して実施していくには、新たな指導者・スタッフの育成を図る必要がある。

【大型天体望遠鏡での天体観望】

【クラフト工作（月球儀づくり）】

■ 親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名 親子・家族のわくわく講座	
年間開催日数	４日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	５　人
子どもの平均参加人数	１４　人

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

里山自然体験・・・・・「自然体験活動」　７/６（13 名）
料理づくり・・・・・・「親子料理教室」　６/21（19 名）
科学体験・・・・・・・「親子科学教室」　11/22（11 名）
ものづくり・・・・・・「凧作りと凧揚げ」１/17（11 名）、「ひなまつり」　２/28
【主な活動場所】
甲南公民館、甲南青少年研修センター

■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。例えば、のこぎりを使う作業や包丁を使う作業のように、危険だから親が全てをするのではなく、子どもができること親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせている。

■ 事業の成果

アンケート結果から、「いつもとは違う子どもの姿が見れた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を希望する意見が多数あった。子どもは自立と自信を高め、子どもができないことを親がするとき尊敬の感情が見られたことから、親子の絆を深めるよい機会であった。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。

【　里山自然体験　】

■　子ども体験講座

■　甲賀市	
■　活動名 子ども体験講座	
年間開催日数	８日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	６　人
子どもの平均参加人数	１６　人

■　活動の概要

生活・自然体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。
公民館が実施する子ども教育支援に位置づけ、ボランティアを含めて地域全体で子どもたちを育む。

■　特徴的な活動内容

夏の子ども講座１科学１「樟脳船と墨流し」　８/７（12 名）
夏の子ども講座１科学２「万華鏡」　８/８（11 名）
夏の子ども講座１科学３「七宝焼き」　８/12（19 名）
夏の子ども体験講座２「木工細工」　８/27（22 名）、８/29（14 名）
秋の子ども体験講座１「そば打ち体験」　10/25（18 名）
冬の子ども体験講座２「クリスマスのお菓子づくり」　12/24（17 名）
【主な活動場所】
杉谷公民館、かえで会館、甲南公民館

■　実施に当たっての工夫

町内児童の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。班分けを実施する場合は、同じ学校同士にならないようにしている。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるようなクラフト等を実施し、また、講師は当公民館の自主活動団体に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

■　事業の成果

夏休みの企業訪問を社会科自由研究の題材にしている児童が見られ、社会教育と学校教育をうまく活用してくれた。また、他校の児童と友達になる児童が見られたことから、中学校に進学するまでの交流という面で貴重な機会となっている。

■　事業実施上の課題

中高生の事業が全くないので、ひとつでも実施していくのが課題である。
対象の児童・生徒の学年があがるほど、多くのボランティアが必要だと感じた。次回は十分行き届くように気を付けて人材を配置していきたい。

【お菓子作り】

【科学教室】

■　みんな集まれ！公民館へ　遊陶里カレッジ講座

■　甲賀市	
■　活動名 遊学舎　親子体験学習	
年間開催日数	２日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１　人
子どもの平均参加人数	７　人

■　活動の概要

親子のふれあいをとおし自分たちでつくる楽しみや物のありがたさを感じ豊かな心を育む。また学校という枠をこえ新たな交流を深めることで子どもたちの成長の場とする。

■　特徴的な活動内容

学校の授業ではあまり体験できない内容を取り入れる。

例）

そば打ち体験・・・・そばづくり　９/28（15 名）　ふれあいパーク職員による指導

紙すき体験・・・・・和紙づくり　11/16（８名）　ワークセンター職員による指導

【主な活動場所】

ふれあいパーク、ワークセンター紫香楽

■　実施に当たっての工夫

２講座とも町内にある福祉施設の工房を利用することで施設の存在など理解してもらう。また、ものづくりを一から体験することによって物を大切にする気持ちや感動を体験してもらう。

■　事業の成果

普段体験することのない活動を通して、自らの手により作る楽しさや大切さを実感し、人の話しをしっかり聞いて学ぶことができた。

また、親子のふれあいや他の学校のお友だちとも交流が図れた。

■　事業実施上の課題

前年度までは低学年～高学年と幅が広かったため、技量度合いが違う対象に対して指導が大変難しかったことから、今年度は、対象学年を１年～３年生としたため受講生が減少してしまった。対象をどの学年に絞るのか、また子どもの求める講座とはどのようなものか検討課題である。

【美味しいそばが完成】

【きれいな和紙ができたかな】

■　みんな集まれ！公民館へ　遊陶里カレッジ講座

■　甲賀市	
■　活動名 遊学舎　物づくり夢工房	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	1　人
土曜教育推進員数	1　人
子どもの平均参加人数	7　人

■　活動の概要

身近な材料や道具で物づくりの楽しさや創意工夫をする力を養う。
学校という枠をこえ新たな交流を深めることで子どもたちが豊かに暮らしていけるよう支援する。

■　特徴的な活動内容

学校の授業では体験できない物を作り実際に遊んでみる。
例）
　割り箸鉄砲　（割り箸と輪ゴムを使って鉄砲を作る）
　フリスビーと皿回し　（紙のお皿を使って作る）
　凧作り等　（星型の蛸）
　など
　【日程と参加人数】
　７/24（８名）、８/27（７名）、９/28（15 名）、10/25（８名）、11/16（８名）、12/20（８名）、１/17（８名）
　【主な活動場所】
　信楽中央公民館、信楽中学校

■　実施に当たっての工夫

子どもたちの居場所と学校では学ぶことができない経験を提供する。
基本的には子どもだけの講座であるが、親子のふれあいの場として全７回の内２回は親子での体験学習を導入する。

■　事業の成果

身近なものを使うことで物の大切さや新たな発見がうまれた。
“つくる”ことだけでなく完成したもので遊ぶ、使う、食べるを経験しつくることの楽しさや大切さを感じた。

■　事業実施上の課題

前年度は低学年～高学年と年齢層が幅広かったため、技量度合いが異なり指導が難しかったことから、今年度は対象学年を１年～３年生としたため受講生が減少してしまった。対象をどの学年に絞るのか、また子どもの求める講座とはどのようなものか検討課題である。

【紙のお皿、うまく回るかな…】

【せんせい！
ゴムどうするの？】

■　野洲市における土曜日の教育支援の取組

■　めざす姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげること。

■　本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年２回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実　施　日	参加人数	協　　議　　内　　容
1	平成 26 年 ５月 30 日	15 名	（1）平成 26 年度 野洲市地域教育協議会 会長・副会長の選出について （2）平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の予算について （3）平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 27 年 ２月	20 名	（1） 平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について （2） 平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

■　本年度の成果

保護者から異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。

■　今後の課題

指導者が高齢化してきており、後継者も育っていないため、指導者を探すことが困難な地域がある。

■　野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

■　野洲市	
■　地域子ども教室 野洲学区わくわく子どもクラブ	
年間開催日数	３２日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	１６人
子どもの平均参加人数	１５．８人

■　活動の概要

学校５日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所つくり事業として実施

①わくわくいけ花は、小学生１年生から６年生 22 名参加
②わくわく絵手紙は小学生３年生から６年生６名参加
③わくわく親子クッキングは小学生１年生、２年生とその保護者 19 名参加
④わくわく日本舞踊は小学生１年生から６年生６名参加
⑤わくわくカロムは参加人数が多いため、小学生１年生から３年生 22 名の教室と小学生４年生から６年生 31 名の教室に分けて開催している。
⑥わくわく茶道は参加人数が多く、先生から丁寧に教えてもらうために、小学生１年生から４年生 17 名の教室と小学校５年生から６年生 16 名の教室に分けて開催している。

■　特徴的な活動内容

①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾る活動
②ものの形をしっかり見ながら絵を描く活動。
　絵手紙をとどける活動。
③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識してもらう活動
　料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる活動
④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先・指先の動きや足の運び方の活動
　美しい体の動かし方が、身につくような活動
⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになる活動
　自分専用のストライカづくり活動
⑥日本の四季を感じながら、お茶の作法を学ぶ活動
　和菓子作りの体験活動

■　実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図っている。
わくわくカロムは指導者、サポーターとして、学童保育所の先生にお願いしている。
安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

■　事業の成果

同年代のつながりだけじゃなくクラブ形式のため、異年代との交流ができた。

■　事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題

【　わくわくいけ花　】

【　わくわく茶道　】

■　野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■　野洲市	
■　活動名 三上楽しいクラブ活動	
年間開催日数	５０日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１５　人
子どもの平均参加人数	１４　人

■　活動の概要

三上楽しいクラブ活動

◆「生け花」・・・・月１回　年　９回　（第１土曜日　　９：００～１０：３０）
◆「花作り」・・・・月１回　年　７回　（第２土曜日　１０：３０～１１：３０）
◆「和太鼓」・・・・月１回　年１２回　（第２土曜日　　９：００～１１：００）
◆「クッキング」・・月１回　年１０回　（第３土曜日　　９：３０～１２：３０）
◆「児童合唱団」・・月２回　年２２回　（第２・４日曜日　９：３０～１１：００）

■　特徴的な活動内容

土曜日・日曜日に年間単位で開催しています。毎年クラブ活動の募集をしています。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど複数のクラブに自由に参加しています。

■　実施に当たっての工夫

クラブ数が多く（他に９クラブあり）行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしています。年２回配布している。
１つだけではなく、複数のクラブに参加 OK にしているため子どもたちにとっては選択の幅が増えていること。

■　事業の成果

１回（11 月開催）のコミセンまつり「悠紀まつり」で「生け花」の展示・「和太鼓」・「児童合唱団」の発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られた。地域のみなさんに喜んでいただきました。「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られました。「花作り」では、昨年種を取っておいてくれた「ほうせんか」の種を今年も種まき・観察・　種取りと成長の過程を学びました。来年の、「いちご」の収穫も子どもたちは楽しみにしている。

■　事業実施上の課題

教育推進員さんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法など
ボランティアの方に負担がかからないように、多くの方に集まっていただきたいのだが、なかなか簡単ではないこと。

【「悠紀まつり」に発表に向けての練習をしています。】

【11/８　いちごの苗を植えました。来年の収穫が、楽しみです。】

■　野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■　野洲市　コミュニティセンターぎおう	
■　活動名 野洲市 ぎおう子ども教室 （よさこい妓王教室、クッキング教室、クッキングおやつ作り教室）	
年間開催日数	９７日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	９　人
子どもの平均参加人数	１２人

■　活動の概要

・よさこい妓王は、おどりをとおして、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で、料理ができる力や主食・副食をバランスよく食べる事ができるように、また「食べ物を選ぶ力」、「食べる量」など食育を考え健康な体づくりを目的に実施している。
・早寝、早起き、朝ご飯の大切さも指導し、参加者に理解していただけるように頑張っている。
・よさこい踊りを通して会員相互の親睦を深め、野洲市内の行事参加や県内外地域とも交流活動に取り組む。
・子どもや大人が地域を愛し故郷を誇りに思う活動を行う。

■　特徴的な活動内容

・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。
・発表の場を設け、緊張感のある場の経験を積むことが出来るようにしている。
・よさこいをとおして青少年の健全育成もめざしている。

■　実施に当たっての工夫

・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。
・大人も一緒に体験して楽しいと思う内容を工夫している。
・様々なイベントに参加して地域の皆様に「笑顔と元気」を届けたいと思い、活動している。

■　事業の成果

・一人ひとりに声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
・また参加の子ども同士や親同市も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。
・みんなの 心が一つになり、妓王の『よさこい』を一生懸命に楽しむことができた。

■　事業実施上の課題

・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。（よさこい妓王）
・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。スポーツ少年団や、塾等の習いもので忙しくしている子どもの参加は難しい。参加者は、小学校低学年の子どもが多い。

【クッキング教室】

【よさこい妓王教室】

■　野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■　野洲市	
■　活動名 篠原地域子ども教室	
年間開催日数	７０日

コーディネーター数	５　人
土曜教育推進員数	１５　人
子どもの平均参加人数	１５　人

■　活動の概要

おもちゃ作り・科学実験・動物ふれあい・陶芸絵付け体験・時節にあった料理・楽器の演奏等、普段体験できない事柄に触れる。

■　特徴的な活動内容

今の小学校では体験できないような実験や工作。今年度は、カッコー笛やポンポン船作り、お天気実験・温度計作り、陶芸教室では、湯飲み茶わんに絵付け体験。

料理教室では時節や行事にあったものをみんなで楽しく作り、美味しくいただくまでを体験する。

ジュニアオーケストラは第８期を迎え、週に１～２回の練習、依頼があれば演奏会に出向くときがある。

■　実施に当たっての工夫

ワクワククラブでは年間10回を計画し、３年生以上の登録制で行っている。バス遠足を兼ねるときには全学年に追加募集を行い一人でも多くの参加者を募っている。

料理教室は前年まで単発的に実施していたものを年３回計画し、全学年で募集した。

参加しやすい単発的な教室も実施。大人数参加型のワクワク合宿やクリスマスパーティーにも力をいれた。

ワクワク合宿では、大学生ボランティアの子ども達と近い世代の方に来ていただき元気よく関わってもらった。

■　事業の成果

ワクワククラブや料理教室では、毎回違ったことの体験ができるので楽しみとなり、参加率が良かった。

ワクワク合宿や子どもとサンタの夢パーティーは、小学校１年生から６年年生の参加があり、高学年が低学年の子ども達の世話をしてくれて、人間性や社会性を育むことができた。

自治会やＰＴＡ役員等の協力を得て実施している教室があり、地域の交流もできた。

ジュニアオーケストラでは、楽器を演奏することにより一人一人が忍耐力・存在感・達成感が得られ、練習回数も多いため一年間の成果が見え、次へと繋がっていった。

■　事業実施上の課題

指導者の確保。マンネリ化。ワクワククラブでは難しいところがあり手伝うことが多い。指導者の補助となる人が必ず必要。

料理教室の場合、低学年には危ないところがあり、指導が難しい。

スポーツ少年団や習い事をしている子が多いため、参加者が限定されている。

■　その他

バス遠足は人気があり、「信楽の陶芸絵付け体験」と「日野畜産センターでの動物ふれあい体験」の２回を実施した。

難しい教室の中に楽しみもあり、保護者の方にも喜ばれた。

【温度計作り】

【カッコー笛作り】

■　野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

■　野洲市	
■　活動名 北野学区地域子ども教室 「北野っ子フレンドリークラブ」	
年間開催日数	２３日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	２３人
子どもの平均参加人数	２６人

■　活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の９時３０分から 11 時 30 分までの約２時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した土曜教育推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成２６年度実施の科目と回数は次のとおりである。

ｸﾞﾗﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ：２回、絵画：１回、昔遊び：１回、オセロ：３回、囲碁：２回、将棋：３回、料理：４回
お菓子作り：２回、工作：１回、パソコン：４回

■　実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮した。
同じ内容にかたよらないよう、子どもたちが興味を持ち続けられるように内容を考えた。

■　事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもって、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。
異学年での教えあう姿が見られ、上学年の児童には責任感が出てきたように感じられた。

■　事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。
低学年の児童については保護者の送り迎えを依頼しているが、安全面での配慮は今後も必要である。
参加者の確保が課題であると考える。

■　その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考える。

【　絵画教室　】
（平成２６年６月２８日）

【　オセロ教室　】
（平成２６年１０月１１日）

■　野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

■　野洲市	
■　活動名 中主地域子ども教室	
年間開催日数	２０日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	３人
子どもの平均参加人数	８人

■　活動の概要

茶道クラブは月 1 回、裏千家の作法を学ぶ。

手芸クラブは月 1 回、糸の止め方など初歩から学び、簡単な作品作りを行っている。

■　特徴的な活動内容

茶道クラブは継続的に行っているので、小学生から中学生になっても参加してくれている子ども達もいる。

手芸クラブは募集人員を 10 名と少なくしたため、先生がひとりひとりに丁寧に対応できていることと、その子個人の能力に合わせて、作る作品を変えて下さっている。

■　実施に当たっての工夫

茶道クラブは子ども達にとって、出されるお茶菓子は楽しみのひとつになっています。そこで、本来ではありえない事ではありますが、季節に合わせて、例えば 12 月の実施日にはクリスマスにちなんで、ショートケーキをお茶菓子にしたりしています。

手芸クラブの募集人員をあえて少なくし、少人数の子どもにきめ細かな指導ができるように配慮した。

■　事業の成果

中学生が、小学生のまだ習って日の浅い子ども達に教えてあげたり、自然な形での教え合いが生まれつつあり、お互いに、とてもいいことであった。

作品が出来上がった時に嬉しそうにする子ども達をみると、物を作ることの喜びを少しでも感じてもらえたと思う。

■　事業実施上の課題

新しく入ってくる子ども達が少なくなってきていることと、新入者とベテラン者で、教える事に開きができてしまい、教える側が大変な部分が少しある。

実施時間を 2 時間とっているのですが、子どもにとって 2 時間集中してやる事はかなり難しく、休憩しながらゆっくりやるよう先生も指導している。

特に低学年の子どもに対しては、集中力を持たせ、飽きさせないように十分内容を検討することが大切である。

【茶道教室】

【手芸クラブ】

■　野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

■　野洲市	
■　活動名 野洲市地域子ども教室　兵主学区	
年間開催日数	３４日

コーディネーター数	２人
土曜教育推進員数	２人
子どもの平均参加人数	２０人

■　活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に次のような教室を開催している。

・おやつ作り教室
・茶道クラブ
・華道クラブ
・小物作り教室
・ひょうず収穫祭
・夏休みこどもクッキング教室

■　特徴的な活動内容

小学１年～６年生までが毎回違う内容の教室を体験することができ、子どもたちも参加を楽しみにしている。

■　実施に当たっての工夫

子どもたちが仲良く楽しく安全に遊べるように配慮している
応援が必要な時は、自治会にも依頼しており、地域全体で子どもたちを支えている。
自治会長や地域の役員の方には普段からの参加を依頼しておりボランティアとして協力していただいている。

■　事業の成果

異学年の子どもたちが１年を通じて仲良くいろいろな教室を体験することで互いを思いやる気持ちが生まれる。
１年間を通じて、子ども達の成長がみられる。
子どもたち自身がすごく楽しみにしており、平均参加率も高い。

■　事業実施上の課題

教室を手伝ってもらえるボランテイアの方が少ない。もっと参加してもらえるような工夫が必要と考える。
親子で参加する教室をしようと思うが、保護者が子ども達を数時間みてもらえるという感じなので、実施が難しい状況である。
人気がある教室は２日程で定員が一杯になり、もっと募集人数を増やしたいが、手落ちがあるといけないので、３５名程度で抑えている現状である。
異学年同士であっても仲良く同じ活動ができるように、内容を工夫することが大切である。

【リサイクルペーパーアート体験教室】

【茶道体験教室】

■　湖南市における土曜日の教育支援の取組

■　めざす姿

子どもが日ごろの学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を掻き立てたり、実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。そこで、土曜日や長期休業期間に、地域の大人や卒業生（中高連携、小中連携）と触れ合いながら学習や体験活動ができるプログラムを充実させ、学ぶ意欲を高める機会を提供する。子どもの教育活動に地域の人が関わることにより、教員とはちがった視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有することで学校教育に生かすことにもつながる。また、地域と連携した持続可能な仕組みづくりのために、コーディネーターのコーディネート機能を強化していく。

■　本年度の活動

実　施　校	開催日数	活動場所	主な内容
石部小学校	１０日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
三雲東小学校	１０日	児童館	学力補充
菩提寺小学校	７日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
菩提寺北小学校	７日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
岩根小学校	２２日	まちづくりセンター	学力補充
下田小学校	７日	学校	学力補充
水戸小学校	１３日	学校、まちづくりセンター	学力補充
甲西北中学校	１９日	学校	学力補充
日枝中学校	１３日	学校、校区小学校	学習の発展、学力補充

■　本年度の成果

・子どもの状況や地域の実情に合わせて、９教室がそれぞれ特色あるプログラムで実施した。特に多世代交流（地元の大人や中学生、高校生、大学生との交流）はコーディネーター間の情報交流の中で練り上げられた経緯があり、子どもたちの学習や体験活動を豊かにすることができた。
・学習の発展として遊びを通した体験活動や学習の場を地域が用意できることは、地域に子ども育ての意識が高まりつつあることを表すものである。
・まちづくり協議会等の協力を得られたことは心強く、さまざまな人間関係に支えてもらっていることを、子どもたちが実感する場となっている。
・教育推進員（教育支援ボランティア）の力は学校教育にとっても強みである。

■　今後の課題

・プログラム内容は大人からの押しつけではなく、子どもが何を求めているのか（必要としているのか）を見極めることが重要であるが、計画立案、事前準備に多くの時間がかかる。
・推進員の確保が難しい。近隣の大学と連携するシステムがつくれるのが望ましい。
・中学校は部活動との関係があり実施日の調整が難しい。
・子ども対象の保険料や教材費などへの財政的な裏付けがなく、参加者負担にならざるを得ない。
・保護者の関心は残念ながら低く、興味を示す親と無関心な親と二極化されている。子どもの学力向上につながる取組であることを周知し、保護者の関心を高める働きかけが必要である。

■　地域の方々と一緒に、普段教室では勉強できないことに積極的にチャレンジして、興味関心を広げよう！！

■　湖南市	
■　活動名 いしべっ子土曜教室	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	７　人
子どもの平均参加人数	８　人

■　活動の概要

・郷土資料の学習により、郷土の知識を深め、郷土を愛する心を培う。
・「聞き取る→まとめる→発信する」の一連の学習により、思考力・判断力・表現力を高める。
・下学年に説明するという学習を通して、自信をつけ、自尊感情を高めていく。
・身近な生活と科学の関係に着目し、科学技術の価値を知り、それへの興味関心を高める。

■　特徴的な活動内容

①「郷土資料博士になろう！！」
・道具を分類しよう
・道具の名前、どのように使うのか調べよう
・調べたものをまとめてみよう
・昔の道具を実際につかってみよう

②「わくわく科学実験教室」
・電池を作ってみよう
・色の化学変化を楽しもう
・電磁石を作ってみよう
・電流・電圧を測ってみよう

■　実施に当たっての工夫

①・事業をするにあたり、材料費、実験用具費を小学校校区のまちづくり協議会に要請し、援助をいただいた。
・個人の講師をお願いするのではなく、地域の団体に依頼し、活動の一環として協力いただいた。
・琵琶湖博物館を訪れ、郷土道具を使っての体験をさせてもらい、子どもたちに教えている方法を教えていただき、事業に臨んだ。
・資料をまとめるにあたり、夏休みの課題の「社会科作品展」に学年ごとに分かれ、グループ作品として応募した。
②・実験は、子どもたちにさせることを考え、危険のないもので、子どもたちが興味を持ちそうなものを選んだ。
・実験の結果がなぜそうなるかを説明するように心掛けた。
・子どもたちが興味を持ちそうな、実験に関連した話題も話した。

■　事業の成果

①・昔、家にあり使用していた道具でとても懐かしかったと講師の方も喜んでくださった。
・手を使い、身体を使って、昔の道具を使う体験を通して、昔の生活の大変さを感じることができた。
・今の時代のありがたみを考えるよい機会となった。
②・こちらの予想外のところで面白がったり、楽しんだりしていたことを知った。
・小学生には難しいだろうと思われた式や法則に関し、よくはわからないものの興味をもったようにうかがえた。
・子どもたちの理科が離れ進んでいると言われている中で、多少でも興味を持ってもらうことができたのではないかと思う。

■　事業実施上の課題

・事業を計画する際に予定していた参加人数に達せず、次年度の募集の際には子どもや保護者に対しアピールが必要だと感じた。
・講師の方と事前打ち合わせを重ねたが、当日の準備にかなり時間がかかったので、前日準備が必要だと思った。
・科学実験教室では、実験の用具や材料に費用がかかり、今回はまちづくり協議会より援助を得られたが、今後の費用をどうするかは課題である。
・今年度から始めた土曜日事業の取組を、次年度にどう繋げていくか、講師の方と年間を見通して一定の活動を計画していかなければならないと考える。

■ 学べる場の提供 － ひがしっこ教室 －

■ 湖南市	
■ 活動名 ひがしっこ教室	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	１ 人
土曜教育推進員数	５ 人
子どもの平均参加人数	１１ 人

■ 活動の概要

○ 目的 ・ 家庭における学習環境・教育力の課題からのニーズに応え、学習の場を提供する。
・ 児童の学習習慣の定着を図る。
・ 学力補充（つまずきを放置せず、「分かった」に変える補助）の機会とする。

○ 場所 三雲児童館和室

○ 期間 平成 26 年７月 ～ 12 月

○ 学習内容 宿題や課題に取り組む補助、ドリル学習

○ 参加児童 延べ１１２人

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第 10 回	合 計
参加人数	６	14	６	９	５	14	12	15	15	16	１１２

■ 特徴的な活動内容

○ 毎回の学習のめあてを自分で決めさせることで、主体的な学びの場であることを意識づけた。

○ 机の準備・片付けや終了後の掃除もすることで、異学年集団としての学びを意図した。

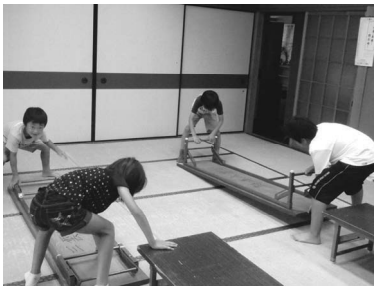
■ 実施に当たっての工夫

・ 毎回の学習の最後に、みんなで各自のめあての振り返りを発表させ、拍手で互いの頑張りを認め合う時間を設けたことで、次の回のやる気に繋げるようにした。

・ その日分からなかったところや間違えてやり直したところを推進員と確認し、次の日にもその復習から始めることを続け、学習の定着を図った。

・ 読書用に本を準備したり、休憩時間に読み聞かせをするなど、メリハリをつけて学習に集中できるようにした。

・ 予定していた課題を終えた児童も残り時間を有効に使えるよう、学年に応じたドリル等を準備しておいた。



■ 事業の成果

○ 参加した子どもの声から

・ ひがしっこきょうしつにきて、いっぱいべんきょうできた。しゅくだいがいっぱいできてよかった。らいねんもやってほしい。

・ 家ではあんまりしゅくだいができなかったけど、じどうかんではできた。

・ しゅくだいがすすむのがうれしい。

・ 家では、やる気がなくて、全然できないけど、東っ子教室ではやる気が出て、勉強がいっぱいできたのでよかったです。

○ 保護者の声から

・ 仕事のため、十分勉強を見てあげられないので、東っ子教室を実施して頂き、子どもも 少しずつでも勉強を頑張ることができてよかったです。ありがとうございました。

・ 家にいるとなかなか勉強に取り組む姿勢に入れないんですけど、ひがしっこに行っている間は結構集中してドリルなどに取り組めたようで、行かせて良かったと思いました。

・ 家で朝から勉強すると、すぐにダラダラしたり、集中力がなくなってしまいます。東っ子教室だと他の子もいるので、楽しかったようです。また、このような教室を開いてほしいです。

■ 事業実施上の課題

○ 推進員の確保

・ 推進員については、平素から本校児童に関わる機会の多い方の中から、かつ、活動の目的の遂行が可能な人選を考えた。こころよくお受けいただく方が多かったが、実際に開催日程が決まると各推進員の予定との調整が難しく、毎回の必要人数を確保することが難しかった。

・ また、予算の枠の中で、推進員の参加状況によって謝礼単価が変わる状況も心苦しく感じた。

■　しんどい思いを共感し、学習の基礎・基本の定着をめざす　岩根小土曜教室

■　湖南市	
■　活動名 岩根小土曜教室	
年間開催日数	２２日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１５　人
子どもの平均参加人数	５　人

■　活動の概要

子どもたちの学力の二極化が進んでいる、しんどさを抱える子どもたちを支える地域のつながりも薄れてきている現状から、平成 22（2010）年度から、学習面で課題のある子どもたちが地域の力を活用した学習支援を受ける場として「土曜教室」を試行期間を経て開設した。地域の人材の力を借りることで、子どもを支え見守る存在が増え、一人ひとりの課題に応じた、きめ細かな学習支援を子ども一人に推進員が１名のマンツーマン型で行う中で、子どもたちも少しずつではあるが、自らの課題を克服し、自分の学びを積み上げていけるよう取り組んでいる。

・対　　象…抽象的な学習が入り学習の基礎・基本の定着が壁となることの多い小学校３年、４年児童
・実施会場…岩根まちづくりセンター２階大会議室、児童会議室、研修室　（所在地：〒520-3252 湖南市岩根 1155-1）
・推 進 員…学校運営協議会理事長、教員ＯＢ（内一人が塾長）、大学生、コーディネーター、校長、教頭

■　特徴的な活動内容

１　毎回の基本プログラムや時程を一定にして、推進員が実施日に入れ替わっても児童が安定した活動ができるようにしている。
・ 朝の会　　９：３０～　９：５０　あいさつ　みんなの時間…推進員が交代して行う。例）ことば遊び、脳トレーニング等
・ １時間目　　９：５０～１０：３０　国語または算数
・ 休み時間　１０：３０～１０：４０　トイレ　お茶を飲む　学習カルタや折り紙　等
・ ２時間目　１０：４０～１１：２０　国語または算数
・ 終わりの会１１：２０～１１：３０　後始末　連絡　あいさつ
・ 推進員会議１１：３０～１２：００　指導記録ファイルへの記入　指導の内容と子どもの学習の様子の報告
　次回の当該児童が取り組む内容や課題の協議と確認　連絡

２　各期の後半から児童が選択した読み物の音読練習を開始し、各期の最終日には「音読発表会」を行っている。その際、児童推進員、参観者等が、当該児童の音読発表で①声の大きさ②読む速さ③気持ちを込めて読めたかの観点から、「よかったところ」、「直した方がよいところ」を音読発表会カードに記入し、発表後交流して評価と賞讃を行っている。

３　毎回、児童の当番を決めて、挨拶、スピーチなどをしっかりできるように取り組み、人前で話すことにも自信が持てるようにしている。

■　実施に当たっての工夫

・ 学校は２期制であるが、第Ⅰ期（５月～７月）第Ⅱ期（10 月～12 月）第Ⅲ期（１月～３月）の３期制で行っている。
・ １：１対応ができる児童数を家庭環境の状況、児童本人の学習状況、保護者の願いと児童の学習意欲が合致していること等から考慮して選んで参加児童を決定している。（参加への案内は、すでに少人数で学ぶ機会のある特別支援学級児童を除いて、通常学級在籍の３年、４年児童に行っている。）
・ 児童が帰った後、推進員会議を行っている。各自が担当した子どもの指導記録ファイルへの記入、行った指導の内容と子どもの学習の様子の報告、次回の当該児童が取り組むべき課題と取り組ませる内容の協議と確認を行っている。子どもの学習状況に合わせて、国語科、算数科の当該学年の内容より一学年ないし二学年の内容に下げて学習内容を決め、必要なプリントやドリルを使った学習を進めている。

■　事業の成果

・ 子どもたちが土曜教室の学習で得た力を、自分の教室の国語や算数の時間に積極的に挙手して発表したり生き生きと音読したりする場面も出てきている。
・ 大学生の中で教員をめざしている推進員は、この土曜教室の経験を活かし、実際に現在、県内の教員として活躍している者がいる。湖南市出身の教員を育てる場にもなっている。

■　事業実施上の課題

・ 地域の子どもたちのためならという思いをもった経験豊かな教員ＯＢと、地域の大学生にバランスよく指導にあたっていただいている。今後も継続させていくには、このようなよい人材確保と推進員との綿密な連絡調整が必要である。

■　先輩や地域の人が先生に

■　湖南市	
■　活動名 菩提寺学区土曜日事業	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	２人
土曜教育推進員数	２人
子どもの平均参加人数	３１人

■　活動の概要

学校支援地域本部「菩っこを育てる会」主体の事業とせず、菩提寺まちづくり協議会の活動の一環と位置づけた。活動内容によっては、隣接校である菩提寺北小学校と合同での開催も実施した。そのため、菩提寺まちづくり協議会と菩提寺小学校、菩提寺北小学校の３者合同実行委員会を設け活動内容、事前準備等の打ち合わせを数回開催実施した。

■　特徴的な活動内容

家でひとりで過ごす休みの日に、友だちと一緒に学習し体験することで、学校の授業だけでは学べない事を仲間と一緒にできた。

１．社会科発展・・・親子で歴史探索（地元の歴史を知ろう）　２校合同　６／１４(土)
２．夏季勉強会・・・夏休みの課題に取り組む　７／２８(月)　８／１１(月)　８／２５(月)
３．理科発展・・・・ペットボトルロケット製作教室　２校合同　１０／１１(土)
４．図工科発展・・・年賀はがきを書こう　１２／１３(土)
５．書写発展・・・・書き初めを書こう　１／６(火)　予定

■　実施に当たっての工夫

・各活動前後に実行委員会を開き、まちづくり協議会を中心に動いた。活動の事前当日準備をまちづくり協議会と連携し行った。
・コーディネーターは、参加者の把握、ボランティアの手配、当日のサポートを行った。
・ボランティアを募集する際、中学生への呼びかけを中学校のコーディネーターに要請し、中学校と連携した事業とした。

■　事業の成果

・ボランティアの確保にあたり、中学校に相談した結果、中学生の協力を得ることができた。本校卒業生も多く、参加した児童たちとのコミュニケーションも良好だった。小中連携の足がかりになったように思う。大変多くの中学生のサポートは、子どもたちにとって身近な先輩であり、かつてともに登校もし、よく見かけた先輩でもあったので信頼し、安心して側に居てもらえる存在であった。さらに、中学生ボランティアの子どもたちへの優しい接し方や機転を利かせた言動に今後の菩提寺地域の担い手を育てる契機となったものと思われる。
・この事業を通じて、菩提寺小と菩提寺北小、甲西北中学校のコーディネーターのネットワークが充実し３校の学校長のリーダーシップにより連携が密になり、小中連携と地域連携による子どもの学びの場が実現した。
・菩提寺まちづくり協議会にこの事業の推進役をお願いしたことで菩提寺のまちづくりに子どもが参画する視点が見いだされた。まちづくり協議会の人材育成の事業として、今後も充実していただけるようである。

■　事業実施上の課題

基本は活動を土曜日に実施するため､スポーツ少年団等で忙しい高学年の参加が難しいように思われる｡子どもたちが興味を持ち、参加しやすくする工夫を考える必要がある。さらに、子どもが参加しやすくするための工夫をする必要がある。

また、この事業のために教材費や子ども対象の行事保険への加入のため菩提寺まちづくり協議会にご負担いただいた。今後、参加者が増加することをも見越して、対応策を確かにする必要がある。

■　その他

来年度は、菩提寺小学校区に新しくコミュニティーセンターができる。この土曜日事業はまちづくり協議会が中心になって、２校（菩提寺･菩提寺北小）の活動拠点を一カ所にまとめ運営できるよう計画を進めている。

【中学生に教わって夏季勉強会】

【中学生と一緒にペットボトルロケットを制作中】

■　甲西北中学校・菩提寺小学校・菩提寺北小学校　～地域の子どもが繋がる～

■　湖南市	
■　活動名 菩提寺学区土曜日事業	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	１人
土曜教育推進員数	５人
子どもの平均参加人数	３５人

■　活動の概要

菩提寺学区には、菩提寺小学校と菩提寺北小学校の２校がある。その２校で協力して土曜日事業をすることとし、菩提寺まちづくり協議会にその支援をお願いした。それと同時に、菩提寺まちづくり協議会土曜日事業担当３名、両校校長・教頭・コーディネーター、ボランティア代表とで、菩提寺学区土曜日事業実行委員会を作り、５月より企画、運営にあたった。

■　特徴的な活動内容

活動は６月から翌年１月までに７回行った。

☆第１回	６月１４日（土）	菩提寺の歴史散策	参加者	親子　6 組	ボランティア	5 名	実行委員　12 名
第２回	７月２８日（月）	わくわく学習教室	参加者	53 名	ボランティア	22 名	実行委員　3 名
第３回	８月１１日（月）	夏休み絵画教室	参加者	53 名	ボランティア	9 名	実行委員　3 名
第４回	８月２５日（月）	わくわく学習教室	参加者	27 名	ボランティア	13 名	実行委員　3 名
☆第５回	１０月１１日（土）	ペットボトル飛行機教室	参加者	親子 15 組	ボランティア	67 名	実行委員　10 名
第６回	１２月１３日（土）	年賀状作り教室	参加者	32 名	ボランティア	17 名	実行委員　4 名
第７回	２７年１月６日（火）	書きぞめ　書道教室	予定				

■　実施に当たっての工夫

両校一緒に行ったのは、第１回の「菩提寺の歴史散策」、第５回の「ペットボトル飛行機教室」で、中学校で一緒になる両校の子どもたちが交流することを目的の一つとした。すべての活動で、中学生のボランティアを中学校のコーディネーターに要請した。

その他の第２、３、４、６、７、回は各学校で活動したが、プログラム内容は同じものを行った。

【　菩提寺歴史散策　】

【　ペットボトル飛行機教室　】

■　事業の成果

菩提寺まちづくり協議会の支援で菩提寺学区の小学校２校で始めた土曜日事業であるが、甲西北中学校の協力も得て、毎回中学ボランティアが多数参加してくれた。地域の小小連携から小中連携へと、広がりつつあり、来年度からの企画も幅がでると感じた。

また土曜日や学校の長期休業時に、子どもたちに有意義な時間と場所を与えることができ、楽しみながら学習意欲を引き出させる効果もできた。

■　事業実施上の課題

今年度は、初めての土曜日事業の取組で、菩提寺まちづくり協議会、菩提寺・菩提寺北　両小学校とも手探りでの企画運営となり、プログラムの内容の把握やボランティアへの伝達などが、スッキリといかなかった部分もあった。来年度からは、菩提寺地区に新しいコミュニティセンターが新築開館するので、その場所を核に、菩提寺まちづくり協議会が主導でさらに甲西北中学校・菩提寺・菩提寺北小学校が連携した土曜日事業を行う予定である。

■　その他

菩提寺まちづくり協議会ホームページ　https://www.bodaiji.org/

■　『地域の力で下田っ子を育てよう！！』　～ しもしょう サマースクール ２０１４ ～

■　湖南市	
■　活動名 しもしょう サマースクール ２０１４	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	３０　人

■　活動の概要

下田小学校では、昨年度より夏休みの勉強会として「しもしょうサマースクール」を実施してきたが、今年度からは、土曜日教育支援として実施し、内容についても「夏休みの宿題」を終わらせるためだけではなく、「学力向上」につながるような内容にしようということで、**どんどんコース**として「しもしょう算数検定」を、**じっくりコース**として「夏休みの宿題会」を企画・実施した。

■　特徴的な活動内容

「しもしょう サマースクール」では、学習指導のボランティアを地域の学生を中心にお願いし、特に日枝中学校に協力をあおぎ、数名の生徒にボランティアとして参加してもらった。

他にも、参加児童が安全に通えるように地域の方に立ち番をしていただく、学生の学習指導ボランティアが少ないときは数名の保護者が学習指導にあたるなど、様々な方にかかわっていただいた。

≪実施日時≫　平成２６年８月６日（水）～８日（金）、１８日（月）～２１日（木）　計７日間

『どんどんコース（しもしょう算数検定)』
・前期、後期の２回にわけて実施
≪スケジュール≫
１日目　プレテスト、算数プリント
２日目　プレテストの間違い直し、検定の練習
３日目　本テスト、おたのしみ
（以上の３日間を２回実施）
最終日　結果発表（認定式)、おたのしみ

『じっくりコース（夏休みの宿題会)』
１日目から６日目まで宿題をメインに勉強をする。
≪スケジュール≫
１・２日目　夏休みの宿題会
３日目　　夏休みの宿題会、おたのしみ
４・５日目　夏休みの宿題会
６日目　　夏休みの宿題会、おたのしみ
最終日　　修了式、おたのしみ

■　実施に当たっての工夫

① サマースクールの各日程で、かかわるボランティアが異なることがあるので、開始前に必ずミーティングをおこなうようにした。
② 参加児童が多かったので、学年ごとの参加人数をみながら、教室を２か所に分けた。
③ 参加児童４,５名ごとにボランティア１人というように担当を決めた。
④ 参加児童、ボランティアともに名前で呼べるように、名札をつけるようにした。
⑤ 「しもしょう算数検定」では、プレテストはひとつ前の学年の問題から始めるようにした。
（例）６年生は５年生の問題から始める。１年生は１学期の復習から。
⑥ 「どんどんコース」「じっくりコース」ともに最終日に認定式・修了式をおこない、認定証書・修了証書を渡した。
最終日に参加できなかった児童には２学期に担任から渡してもらった。

■　事業の成果

① 地域の中学生や高校生に学習指導をしてもらうことで、交流の機会がうまれ、地域の中学校や高校に興味を持つようになった。
② 名札をつけることで、名前を憶えやすくなり、親睦も深まった。
③ 担当を決めて学習指導にあたったことで、児童も質問をしやすくなり、集中して学習を進めることができた。
④ 「しもしょう算数検定」のプレテストをひと学年前の問題から始めたことで、児童の今の実力がわかり学習を進めやすかった。
⑤ 「しもしょう算数検定」の学習を進めていく中で、まだ学校では教わっていない問題もあったが、中学生・高校生に教わることでできるようになり、自信を持つことができ、苦手意識も薄くなったように思う。

■　事業実施上の課題

① 開始前にミーティングをおこなうようにしたが、時間を多くとることができなかったため、細かい打ち合わせができなかった。
② 参加児童に対して学習指導ボランティアが足りないことがあった。
③ 問題のプリント等を事前に用意はしていたが、何回も参加している児童にはもの足りなくなってしまうことがあった。
④ 問題プリントの準備など事前の準備が大変だったので、今後は準備段階からボランティアにかかわってもらえるよう考えたい。

■　土曜日事業　～みとっこ☆宿題応援隊の取り組み～

■　湖南市	
■　活動名 宿題応援隊	
年間開催日数	１３日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	１８　人
子どもの平均参加人数	２０　人

■　活動の概要

①夏休み、冬休みの宿題応援隊を結成。夏休みには子どもたちに宿題を教える先生役として地域の中学生に参加してもらった。
②湖南市と国際協会が主催する水戸小の外国籍児童を対象にした勉強会に応援団から先生として参加した。
③小・中連携として中学校区で冬休みの宿題である書き初め教室を開催。地域の中学生に先生役として参加してもらった。

■　特徴的な活動内容

①まちづくり協議会と連携することで、学校だけでなく地域ぐるみの活動とする。
②湖南市の人権教育課・国際協会、中学校区の教員、地域の大学生が一緒に活動し、外国籍児童とのコミュニケーションを学ぶ。
③同じ中学校区で一つの事業に取り組む。

■　実施に当たっての工夫

①小学生が参加しやすい日程や中学生が参加しやすい時間帯などを考慮した。小学生へは早めに案内を配布し参加を募り、まちづくり協議会と中学校へ参加人数を速やかに報告した。教える内容を中学生と事前に打ち合わせをし、時間内に宿題のドリルを終えた子どもにはプリントや問題を用意して対応した。
②日本語の理解が難しい子どもに丁寧にゆっくり説明する必要があった。集中できるように１時間勉強したあとは１時間交流の時間を設け、ゲームなど楽しみながら取り組んだ。
③三校のコーディネーターが集まる時間をできるだけ設け、事業の目的についての打ち合わせと役割分担、当日の流れについてをシミュレーションした。

■　事業の成果

年の近い中学生に先生役をしてもらうことで、子どもたちは素直に楽しく学習しながら、自分の苦手な問題を解いて自信をつけていた。これまで小学校や応援団と関わりのなかった地域の方と新たにつながることができ、子どもたちの現状や宿題応援隊を理解していただき、地域の人材発掘ができた。冬休みの書道教室では、同じ中学校区の子ども同士が日本の伝統文化である書道に取り組み、顔見知りになる貴重な機会となった。中学校や地域のセンターに足を運ぶよい機会となり、自分もいつかは教えることもできるんだと中学生を目標にする姿が見られた。

■　事業実施上の課題

夏休みとはいえ、小学生も中学生も行事や部活、勉強などで忙しく日程調整が難しかった。子どもの集中力が続かなくて遊びだしてしまうことがあったので、時間設定の見直しが必要。高学年の内容によっては教える中学生が戸惑う姿があったので大人のサポートが必要だが、大人が手を出し過ぎると中学生の出番をとってしまうのでコーディネーターが間に入って調整する必要があった。悪天候の日があり、行き帰りが心配であった。

■　その他

今年はドリル中心で行ったが幅広い学習内容も取り入れて、宿題応援隊の活動の充実を図りたい。学校ではゆっくり対応できないところを個々のペースに合わせて教えてあげることができるし、子どもの反応から教わることも多いので学び合いの場になっている。

（参加者の感想）

・かん字の書き順を教えてもらったよ。よくわかったよ。（小２）
・中学生が来てくれたから楽しかった。もっとたくさんいた方が楽しそう。やさしく教えてくれたからよかった。（小６）
・もっと緊張した雰囲気かと思ったけど、楽しくて来年も来たいなって思いました！（中１）
・初めは小学生も私も緊張していてあまり話せなかったけど、休憩時間に遊んだり話したりして、楽しく学習できました。（中１）
・楽しみで来ているのでこれからも遠慮せずになんでも言ってください！（土曜教育推進員）

■　教え学びあう学習支援（小中高連携）

■　湖南市	
■　活動名 甲西北中学校土曜日事業	
年間開催日数	１９日

コーディネーター数	２　人
土曜教育推進員数	５　人
子どもの平均参加人数	２０　人

■　活動の概要

今年度は、地域大学生による定期テスト前の補充学習および、地域の高校生による学習支援の取り組みを夏休みに集中させて実施した。１．２年生を対象とした地域の高校生による学習支援は計１２回で、１回の学習会への参加生徒数は平均１３名。高校生は１回あたり平均５名で、多い時には１３名の高校生が学習支援に来校してくれた。高校生による学習支援では、夏休みの宿題や課題を持ち寄り学習会を実施することができた。

定期テスト前に実施した大学生による学習会では、対象生徒を１～３年として計７回実施した。多いときで４０名の生徒が参加し、大学生の参加数は１回の学習会につき平均４名だった。

■　特徴的な活動内容

高校生による学習支援については、本校出身者（卒業生）が学習支援に来てくれた。しかも、地元の高等学校とあって自分自身の進路を身近なものとして捉えることができた。一方、地域の大学生による学習支援については、より専門的な支援を受ける機会が確保でき、生徒たちの学習意欲にもつながった。

■　実施に当たっての工夫

対象生徒の参加数を増やすために各部活動単位での参加も認め、より多くの生徒が参加できる環境を整備した。また、支援をいただく高校生や大学生にも男女のバランスを考慮してもらい、参加生徒数の確保に努めた。

学習内容については、高校生および大学生に事前に対象生徒の学年とテスト範囲を伝え、お互いが良い準備をした上で実施できるように配慮した。

学習会の場所は、基本的には対象学年の教室を使用した。参加人数によっては１カ所で実施したり、少人数で実施したりと弾力的な学習形態を取り入れることによって、より効果的、効率的な学習会の実施につなげることができた。

■　事業の成果

普段、家では一人で学習することが定着していない生徒が、お互いに声をかけあって参加することで継続的な参加が実現できた。また、参加生徒数を増やすために、部活動単位での参加についても可能とした結果、顧問の先生も巻き込みながら学習会を実施することができた。このことは、学校内において横のつながりが増し、他の部活動への波及効果を得ることにもつながった。その結果、限られた時間の中で、効果的な学習会を実施することができた。

■　事業実施上の課題

・特に大学生の推進員さんを探すのに地域コーディネーターの苦労があった。学校からも卒業生やその知人を辿って開拓は進めてみたものの、学校生活とのバランスや他のアルバイトとの関係で時間的に難しいケースもあり、参加生徒数に見合った推進員の確保は容易ではなかった。
・推進員が大学生ということもあり、生徒のニーズにどこまで応じた学習支援ができていたかというと今後の検討課題でもある。

■　その他

地域の大学生や本校出身の地元高校生が学習支援をしてくれる中で、教師と生徒という関係で学習を進めていくのとは違い、より親近感をもって学習会を進めることができた。その結果、教えてもらうことを通して、教える側に立ってみるというこころみにもつながった。実際、夏休みに３日間、中学校区の小学校へでかけ、中学生が先生役となり小学校の児童に夏休みの宿題のお手伝いをするという機会にも恵まれた。高校生や大学生が中学生に、中学生が小学生に学習を教えることで、学習に対してより理解する力が育まれたように感じる。

■　地域の人とレベルアップ！

■　湖南市立日枝中学校	
■　活動名 日枝中学校土曜日事業	
年間開催日数	１３日

コーディネーター数	２人
土曜教育推進員数	２人
子どもの平均参加人数	２０人

■　活動の概要

自分の住む地域には色々な分野で子ども達の育ちを見守って下さる方々がいるということを知ってもらい、その方々にお力を貸していただくことで、生徒たちに課外活動の中で様々な取り組みにまず挑戦してもらうことを目指す。「きっと自分にもできる」という自信が持てないのは経験の不足でありその子の能力によるものではないことに気付いてもらい、自尊心を育む一助としたい。

■　特徴的な活動内容

「美文字教室」･･･学区内の小学生の書き初めのお手伝いを日枝中生でやってみよう、という声から実現した。小学生の字がより綺麗に書けるようにと中学生はその文字を練習するため地域の文字の達人よりレクチャーを受けた。一緒に筆を持ち筆使いを教える子、用紙を押さえながら応援する子…と、その子なりの丁寧な関わり方で小学生達の作品を仕上げていた。あわせて達人には大人の筆ペン教室を地域の皆さんにご指導いただいた。また甲西高校書道部の皆さんをお招きし日枝中の吹奏楽部とコラボで書道パフォーマンスを披露､世代を超えた地域交流が叶った。今年度はさらに『日枝中 今年の漢字』を企画。告知・募集は生徒達に一任し応募用紙の準備から回収まで完璧な仕事ぶりを見せてくれた。小学生への対応への心積もりのほか会場準備や進行など、生徒たちの行動力が光った生徒主体の一大イベントへと内容を深め進化させることができた。

「サマーチャレンジ」･･･夏休みに下田小学校で算数検定に挑戦する小学生に中学生が指導をし、その指導の方法を日枝中学校出身の高校生に教わるという試みを実施した。全日程で一週間にもわたるこの取り組みは、自分が受け持つ子に対してきちんと教えるための観察・分析・シミュレーション・実践とハードルが高く中学生も高校生も最初は参加に不安もあったようだ。しかし、いざ始まってみると、とても丁寧に熱心にどんな説明をしたら理解してくれるか考えてくれた。小学生は中学生に、中学生は高校生に良い刺激を受け自分もこんなふうに凄いと思われるようになりたいな、という憧れを抱いたようであった。この企画に参加してくれた子たちに感想を聞くと「最初は恥ずかしく、教えることも想像以上に難しかったけれど、自分の基礎固めになる部分もあり、これからの学習にも活かせると思う」と、達成感をのぞかせてとても良い表情だった。

■　実施に当たっての工夫

サマーチャレンジにおいてはあえて日枝中の卒業生である高校生に参加してもらい、日枝中学校に通う子ども達にリアリティのある目標となってもらえることを狙いにした。また、できるだけ積極的に生徒が参加してもらえるよう先生方にお願いをし、委員会活動や部活動の一環として地域活動への参加を組み込んでいただけるようにも取り組んでもらった。

参加してくれる生徒だけでなくその親御さんにも、企画の趣旨や目標を把握していただくよう努めた。生徒が安心し自信をもって参加できるよう親御さんにご協力いただき応援の声掛けとともに温かく送り出していただいた。

大人がどこまで準備をし、どこからを生徒に任せるか、生徒各々の達成感を第一に考えた段取りとなるよう配慮した。

■　事業の成果

生徒たちは地域の方やご家族からの温かい配慮に支えられ、自分の想像以上の力が発揮できたことで、自分で自分の力に驚いたり感動したりという様子が見られた。またこちらから地域活動への参加に協力をしてもらう際、最初こそ照れはある様子だったが、どの企画も始まると誠実に取り組む姿が見られた。達成感や認められているという安心感からか、自信が湧いた様子が伺え「また助けてね」などの声掛けに対しても笑顔で反応を示してくれたり、「次やる時はもっと○○だと良い」など改善策などの提案をしてくれたりする。関わられた地域の方どの方に尋ねても、生徒たちは今まで持っていた中学生のイメージと違い素直で一生懸命だと褒めてくださる。親御さんたちへの事前のお願いによってコーディネーターと目標を共有していただくことで、最初「うちの子で大丈夫ですか？」と言われていた方も活動後のお礼にあがった際には生徒の活躍ぶりに誇りを滲ませ「充実した時間を過ごす姿を見ることができて、声をかけてもらえて感謝しています。」という感想をいただくことができた。

■　事業実施上の課題

生徒自身が部活や塾などで多忙を極め、参加者の確保が大変難しい。友達同士だと参加してもらいやすいため、部活動や委員会という枠組みでまずは参加してもらい、地域の大人の適切なフォローのもとにとにかく行動してみることで、自身が思っているよりももっと色んなことをできる力を持っていると知ってもらえるよう、さらに取り組みを進めていきたい。そのためにも専門的な知識や技能を持つ地域の方々にボランティアとして登録していただけるよう土曜日事業の活動の周知に力を入れていく必要性を感じる。

■　その他･･･http://www.edu-konan.jp/hie-jh/pindex.htm

■　東近江市における土曜日の教育支援の取組

■めざす姿

　東近江市では、子どもの生きる力を育成し、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを総合的に推進するために当事業を実施する。

■本年度の活動

蒲生地区地域教育協議会委託により蒲生コミュニティセンターにおいて講座形式での活動を展開

・囲碁・将棋クラブ
　囲碁将棋を通してじっくり考えることを身につける。
・くらふと☆デコ
　マグカップや写真フレームなどの既製品に紙粘土や様々な材料を使ってデコレーションし、創造力を高める。
・そろばんクラブ
　そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
・蒲生野太鼓わらべ組
　和太鼓文化に触れ、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
・陶芸クラブ
　焼き物の作品作りを通して、子どもの自主性を伸ばす。
・ＩＴキッズクラブ
　年賀状や描画などを作成しながら基本的なパソコン操作を学ぶ。
・ＫＩＤＳ　ＦＬＯＷＥＲ
　フラワーアレンジメントを通して創造性を高める。
・マックスダンス（初級）
　初心者向けのダンス練習を通して基礎体力の向上を図る。
・マックスダンス（中級）
　経験者向けのダンス練習を通して基礎体力の向上を図る。
・手話キッズ
　手話による会話法や手話歌を習得する。

■本年度の成果

・蒲生マックスクラブはこれまでも放課後や休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。土曜日の教育支援としたことで活動の目的や内容がより明確になった。

■今後の課題

・少子化にともない児童生徒が少なくなる中、スポーツ少年団や子ども会、地域教育協議会の事業など土曜日や休日を中心として活動する団体との活動時間や活動内容などについての調整、バランスが難しいと考える。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「そろばんクラブ」	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	６　人

■　活動の概要
- そろばんの基本的な使い方を学ぶ。
- そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

■　特徴的な活動内容
- コミュニティセンターを教室として使用して実施している。
- クラブ員によって理解度が違うので個々に対応した学習を行っている。
- 「できる」「わかる」ことを大切にし、子どもたちの学習に対する意欲を高めている。

■　実施に当たっての工夫
- マックスクラブ発表会などで発表の機会を設けている。
- 気分転換を図るため、途中で休憩を取ったり、ゲームを取り入れたりしている。
- そろばんに集中して学べるように学習の展開を工夫している。

■　事業の成果
- 初めてそろばんを習った子が１～２年続けると掛け算・割り算ができるようになり、より興味を持って取り組むようになる。
- 毎年、継続して教室に参加する子がいる。
- そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に意欲的に取り組み集中して学習する姿が見られた。

■　事業実施上の課題
- 月１回の活動なので、前回の内容を忘れる子がいる。
- 自宅で復習をするように指導しているが、徹底させるのは難しい。
- 集中力を切らさないようにするのが難しい。人によって集中の度合いが様々である。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「くらふと☆デコ」	
年間開催日数	６日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	４　人
子どもの平均参加人数	１２　人

■　活動の概要
・マグカップや写真フレームなどの既製品に紙粘土や様々な材料を使ってハンドクラフトやデコレーションをする。

■　特徴的な活動内容
・同じ材料でも仕上りは人それぞれ違うので、出来上がったら作品を集め、みんなで鑑賞会を行い、視野を広めている。
・保護者にもスタッフとして協力していただいている。（※当番制）

■　実施に当たっての工夫
・時間内に仕上げる集中力を養うとともに子どもたちが興味を持って取組め、満足感を得られる作品づくりを考えている。
・まずは創ることの楽しみを知ってもらうということを目的とし、比較的短時間で作成できるパーツ作りから始めるなど工夫している。
・達成感プラスアファを試みる指導をしている。
・廃材を利用するなど材料費を安価にするための工夫をしている。
・保護者スタッフに、困っている子がいないか、声掛けをしてもらっている。
・子どもの良いところを探し、ほめて伸ばす指導を心掛けている。

■　事業の成果
・学年を問わずしっかり人の話が聞けている。
・活動に不必要な物は所定の場所に置けるようになった。
・活動開始時の姿勢やあいさつ、後始末などもしっかりできている。
・質問は手を挙げ、相手の目を見て発言している。

■　事業実施上の課題
・作業を子どもたち自身で進めて欲しいが、作業の進行に個人差があるので難しい。

■　その他
・いろんな角度から子どもを見るようにし、人間的な広がりを楽しみにしたい。
・子どもの成長に合わせ指導者自身もそれにふさわしい居場所を作っていきたい。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「蒲生野太鼓わらべ組」	
年間開催日数	４２日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	２５　人

■　活動の概要
- 基本的な和太鼓の演奏方法を学ぶ。
- 和太鼓文化に触れ、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- 地域の行事等で発表する。

■　特徴的な活動内容
- 練習はコミュニティセンターで行っている。
- マックスクラブ発表会など地域の行事等で発表している。
- 地域での演奏活動も積極的に行っている。

■　実施に当たっての工夫
- 初心者向き、中級者向きと別れて習熟度別に練習を行っている。
- 積極的に発表の機会を設け、クラブ員の活動に対する意欲を高めるようにしている。
- マックスクラブを卒業した先輩が後輩を指導するなど縦のつながりも大切にしながら活動している。

■　事業の成果
- 年度初め（５月）から始めた子が３月の発表会には一人で叩けるようになった。
- マックスクラブを卒業しても、上部組織の「鈴温泉太鼓」に入り、後輩（わらべ組）の指導をしてくれる子がいる。
- 和太鼓を継続して続けている子が多い。

■　事業実施上の課題
- あたらしい指導者の育成
- 数年続けないと一人前にならないので継続的に参加するクラブ員が多く定員に空きが出ないため、新たな入会者を受け入れることが難しい。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「マックスダンス（初級）」	
年間開催日数	１２日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１　人
子どもの平均参加人数	１４　人

■　活動の概要
- ・基礎的なステップやダンスの練習をする。
- ・地域の行事や大会に参加し発表する。

■　特徴的な活動内容
- ・初級・中級のクラスがあり、子どものレベルに合った教室が選択できる。
- ・地区や市の大会に出場している。
- ・積極的に地域の行事に参加している。

■　実施に当たっての工夫
- ・初級、中級のクラスに分かれて子どもたちのダンスのレベルに合わせた活動を行っている。
- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でもつねに楽しい雰囲気を作るようにし、子どもの意欲が継続するように努めている。
- ・発表の場を設けることを通して、メリハリをつけ子どもたちの練習や発表に対する意欲を高めるようにしている。

■　事業の成果
- ・初級からのスタートであるが、年度の途中には発表会に参加できるほど上達した。
- ・子どもたちが意欲的に教室に参加している。
- ・毎年、次のレベルの教室に参加する人が多く、継続的に行われている教室である。
- ・さまざまな地域の行事などから多くの出演依頼がある。

■　事業実施上の課題
- ・練習時間が短いため全体の動きを合せるのが難しい。
- ・ダンスの習得についても、個人差がある。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「マックスダンス（中級）」	
年間開催日数	１２日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１　人
子どもの平均参加人数	１１　人

■　活動の概要
- ・応用的なステップや少し難度の高いダンスの練習をする。
- ・地域の行事等で発表するとともにダンスの大会にも積極的に参加する。

■　特徴的な活動内容
- ・行事や大会に向けて、目標を持って練習する。
- ・地区や市の大会に出場する。
- ・積極的に地域の行事や大会に参加している。

■　実施に当たっての工夫
- ・初級、中級のクラスに分かれて子どもたちのダンスのレベルに合わせた活動を行っている。
- ・中級クラスは、明るく声をかけ合うなどのチームの輪を高める雰囲気づくりに努め、より高度な演技に意欲的に取り組めるように工夫している。
- ・発表や大会に出場することを通して、活動にメリハリをつけクラブ員のステージに対する意欲を高めている。

■　事業の成果
- ・子どもたちが毎回の活動を楽しみにし、積極的に参加している。
- ・次第に子どもたちのダンスレベルが上がり、さらに難しい内容のダンスを希望してくる等、意欲的に活動に取り組む姿がみられた。
- ・地域の行事等から出演の依頼があるとともに大会にも積極的に参加できた。

■　事業実施上の課題
- ・ダンスの習得に個人差があり、ステージの演技を揃えるのが難しい。
- ・演技をそろえるための時間がたりない。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「ＩＴキッズクラブ」	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	２　人
子どもの平均参加人数	４　人

■　活動の概要
・パソコンの基本的な操作の習得。
・パソコンを使用しての名刺・年賀状づくりを楽しむ。

■　特徴的な活動内容
・パソコンを使用していろいろな楽しみ方ができることを理解するように活動している。
・パソコンに向かうだけでなく、はがきでブーメランやプロペラをつくり飛ばす等、子どもたちが興味を持って取り組む活動も行っている。
・学習の成果を地域の行事等で発表している。

■　実施に当たっての工夫
・名刺や年賀状など実際に自分で作成することにより、できる喜びや作成の楽しさを味わうことができるようにしている。
・パソコンだけでなく、途中でゲームをしたり休憩時間を設けたりと気分転換を図り、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
・マックスクラブ発表会など地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

■　事業の成果
・５月から始めた初心者の児童も秋ごろには個性的な作品が作れるようになっている。
・回を重ねるごとに意欲的にパソコンを操作する姿が見られた。
・意欲的に自分の作品づくりに取り組むことができた。

■　事業実施上の課題
・備え付けのパソコンが古く新しいソフトの利用が出来ない。
・子どもたちの集中力が途切れないためのの工夫の仕方。
・パソコン以外に子どもたちが興味を持って取り組める手立て。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「KIDS　FLOWER」	
年間開催日数	７日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	５　人
子どもの平均参加人数	６　人

■　活動の概要
- フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法などを学ぶ。
- フラワーアレンジメントを通して創造性を高める。

■　特徴的な活動内容
- じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組み、創造することを楽しみながら活動している。
- マックスクラブ発表会などの展示コーナーで作品を発表している。

■　実施に当たっての工夫
- 仲間と和気あいあいと花のアレンジを楽しみながら活動できるように工夫している。
- 作品作りには時間がかかるため、時間内に終わらすため下準備に時間と手間をかけている。
- 活動を通じて、お互いの作品を鑑賞し合うとともにその作品を地域の行事などに展示するなどして、多くの方に観てもらい創作意欲を高めるようにしている。

■　事業の成果
- 毎年、継続して活動が続けられている。
- 子どもたちのアレンジ力や創造力がついた。
- フラワーアレンジに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- 熱心に製作する子どもたちの姿から集中して取り組んでいる様子がよくわかった。

■　事業実施上の課題
- 決められた時間と予算で充実した内容にするのが難しい。
- 事前の準備にかかる時間と手間を解消するための工夫。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「陶芸クラブ」	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	７　人
子どもの平均参加人数	１５　人

■　活動の概要
・土からの焼き物づくり

■　特徴的な活動内容
・年間で４～５の作品を制作するように活動している。
・マックスクラブ発表会などで発表している。
・土から作品を作成し、焼きあがってくるまでを楽しめる活動を行っている。

■　実施に当たっての工夫
・作品作りでは、子どもの自主性を尊重するため、できるだけ手を出さないようにしている。
・マックスクラブ発表会など地域の行事等で自分が作成した作品を発表し、創作意欲を高められるようにしている。
・発表会等で陶芸体験を実施し、その面白さや楽しさをたくさんの子どもたちに体験してもらい、陶芸クラブの活動を積極的に広めている。

■　事業の成果
・陶芸に関心のある子が着実に増えており、毎年一定数の希望者が集まっている。
・作陶に積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
・体験教室を実施することによって、陶芸に興味を持ってもらうことができた。

■　事業実施上の課題
・制作に個人差があり、早く終わった子や遅い子の対応が難しい。
・作陶の作業が中心となるので活動に変化をつけることが難しい。

■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「手話キッズ」	
年間開催日数	１５日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	７　人
子どもの平均参加人数	６　人

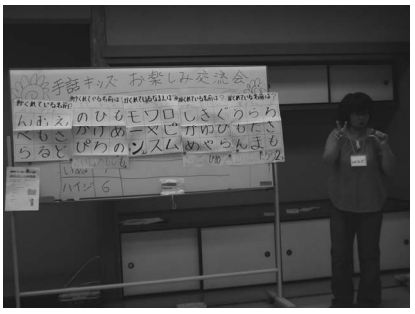
■　活動の概要
- 地元で活動している蒲生手話サークル「ひまわり」が指導者となり活動している。
- 手話の学習を通して聴覚障害者とのコミュニケーション方法を学び、問題や悩みを知ることで聴覚障害者への理解を深める。

■　特徴的な活動内容
- 地元の聴覚障害者と指導者が協力して学習内容を検討している。
- 手話を覚えるだけでなく聴覚障害者から直接話を聞いて理解を深めている。

■　実施に当たっての工夫
- 子どもたちの状況を見ながら学習内容を組み立てている。
- 毎回、前回の復習をしてから次の課題に進んでいる。
- ゲームなどを取り入れ、楽しく学習できるように工夫している。
- 会話だけでなく手話の唄も練習している。

■　事業の成果
- 簡単なあいさつが出来るようになり、子どもたちも意欲的に手話を使うようになった。
- 付き添いで来ている保護者の方も一緒に手話を覚えてくれている。
- あかねフェア（蒲生地区の行事）では手話歌の発表ができた。

■　事業実施上の課題
- 費用を抑えることと子どもたちの理解の状況に合わせるため、資料を手作りしているので準備に時間がかかる。
- 学年で差ができ、同じレベルに合わす事が難しい。



■　蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■　東近江市	
■　活動名 蒲生マックスクラブ　「囲碁・将棋クラブ」	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	１１　人
子どもの平均参加人数	６　人

■　活動の概要
・地域に住む囲碁・将棋愛好会を指導者として、小中学生を対象とした初心者向きの教室を開催している。
・囲碁・将棋を通して、子どもたちにじっくり考える習慣を身につける。
・共通の趣味を通して、世代間の交流を図る。

■　特徴的な活動内容
・今年度は、４年ぶり開設のクラブである。
・囲碁・将棋を通じて世代間の交流を図っている。
・共通の趣味を通じて、継続的な活動となるように個に応じた対局を楽しんでいる。

■　実施に当たっての工夫とおして
・集中力を欠かさないよう、休憩を入れたり活動時間を短めにしたりと時間設定を工夫している。
・レベルに応じて指導者対クラブ員・クラブ員同士の対局を行い、活動に変化を入れている。
・対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫している。

■　事業の成果
・囲碁・将棋に、更に深く興味を持ってくれる子が出てきている。
・クラブ員が友だちをさそって連れてくるなど、その面白さを他の人にも拡げている。
・囲碁・将棋を通して子どもたちに落ち着いて考える姿が見られた。
・対局を重ねるごとに世代を超えて打ち解け、楽しく対局する姿が見られた。

■　事業実施上の課題
・活動時間（２時間）を通して子どもたちに集中してもらうのが難しい。
・活動に変化をつけ、集中力を持続させるのが難しい。
・囲碁に興味を持つクラブ員が少ない。

■　竜王町における土曜日の教育支援の取組

■　めざす姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な体験教室での活動を経験することにより、異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深め、さらに、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏　名	所属・役職等		氏　名	所属・役職等	
	飯村　悟	元小学校長		石崎　邦江	元中学校教師	
	松田　俊二	地域住民		山口　龍三	元小学校長	
	前田　郷司	地域住民		西村　実	地域住民	
	関目　昭彦	地域住民				
	加藤　正隆	元小学校長				
	久保井　美喜子	地域住民				
	西村　淳子	地域住民				

■　本年度の活動

・５月 10 日（土）、今年度の取組みについて　①活動内容の確認　②親子で参加できる活動の検討

・１月下旬　今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討

■　本年度の成果

子どもたちが様々な学びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して、楽しく生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。

■　今後の課題

〇開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。

〇特に高学年になるとスポーツ活動に参加される子どもも多く、参加者が限られ、また、開催日程の調整も困難である。

■　こころに響く演奏を！

■　竜王町	
■　活動名 和太鼓クラブ	
年間開催日数	２２日

コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	１２　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。

【　竜王町文月発表会　】

【　竜王町文化きらめきフェア　】

■　実施に当たっての工夫

月２回ペースで開講することにより、前回習った内容を忘れることなく次の練習に生かすことができる。
和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
日々の練習を通して子もたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
発表会に出演し、成功を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

子どもたちの地域行事等により､参加者が極端に少なくなる日がある｡和太鼓は練習するにもある程度人数がいないと困難である。

■　その他

・子どもの声

発表会に出るためにがんばって練習した。みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。

・保護者の声

家に帰ってくると、今日習ったことを楽しそうに話してくれます。
発表会を見るたびに、わが子の上達を実感できてよかった。

・スタッフの声

このクラブを通して、みんなと協力し合いながらひとつの事（曲）に取り組むことの大切さを学んでもらえたと思います。
また、発表会を重ねることにより、自信がつき何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思います。

■　いろんな技法を身につけよう！

■　竜王町	
■　活動名 絵画クラブ	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	７　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

メッセージボードの作成や秋の風景画など、毎回異なった内容に取り組むことにより、絵画に対する様々な技法を習得することができる。

【マーブリング・ドリッピングで絵を描こう】

【「びわこにラブレターを！」メッセージボード作成】

■　実施に当たっての工夫

元美術教師に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

１回ずつの講座で完結するようにしているため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。
地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。
参加者数の伸び悩みと子どもたちの興味を引く内容の設定が難しい。

■　その他

・子どもの声

マグカップの絵付けやメッセージボードの作成など、毎回新しいことにチャレンジできてよかった。

・保護者の声

クラブに参加してから、絵の上達はもちろんのこと、楽しんで絵を描いている姿に感激しました。

・スタッフの声

クラブを通して、友だち作りや技術の向上、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけて本当によかったと思います。

■　家族みんなで取り組もう！

■　竜王町	
■　活動名 宇宙科学クラブ	
年間開催日数	１１日

コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	７　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

天体観望や化石採集など、毎回、科学に関する異なった内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。

【　天体観望会　】

【　化石採集　】

■　実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

天体観望や化石採集・自然観察など科学に関する様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

化石採集や自然観察、天体観望など１回ずつの講座の内容が異なるため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者数の伸び悩みと子どもたちの興味を引く内容の設定が難しい。

■　その他

・子どもの声

友だちがたくさんできた。化石採集や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

・保護者の声

化石採集では、みんな一生懸命地層を掘って、、「先生、これは何の化石」と積極的に質問している姿をみて、参加させて本当によかったと思いました。

・スタッフの声

子どもの時から、宇宙・科学に関するいろんな体験をしてもらい、その体験や経験が、子どもたちがこれから生きていく上で糧となり力となれば最高です。

■　生きる力を身につけよう！

■　竜王町	
■　活動名 チャレンジクラブ	
年間開催日数	１２日

コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	１２　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、チャレンジクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等を通して、自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。

【　宿泊事前研修　】

【　宿泊体験　】

■　実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等を通して、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

宿泊体験など事前準備がかなり大変である。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者数の伸び悩みと、子どもたちの興味をひく内容の設定が難しい。

■　その他

・子どもの声

宿泊体験でいろんな事にチャレンジできてとても良かった。特に、カヌー体験が楽しかった。

友だちがたくさんできた。

・保護者の声

参加後、家で体験したことを笑顔で話してくれる姿に参加させてよかったと思っています。

・スタッフの声

宿泊体験では、参加者は普段の生活と少し離れ、自然の中での生きる知恵や勇気、互いの違いを認め励まし合う大切さを学ぶとともに、自然の中での活動の楽しさを体験してくれたと思います。これらの体験で得られたものは、これからの社会をたくましく生きる力となるものと確信しています。

■　基礎から学ぼう！

■　竜王町	
■　活動名 パソコンクラブ	
年間開催日数	１１日

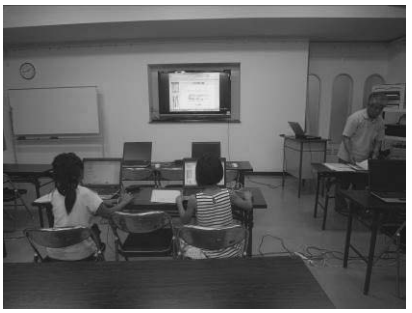
コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	５　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、パソコンクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

マウス操作やタイピングなど、パソコンの基礎から取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【マウス操作の練習】

【タイピングの練習】

■　実施に当たっての工夫

タイピングの練習から始め、エクセル・ワードの基礎から学習する。
少人数であるため、受講生のレベルに応じた学習ができる。
竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子もたち同士の交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
分かるまで教えてもらうことにより、できた時の達成感をあじわうことができ、何事にもあきらめない力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

パソコンの老朽化が進んでおり、起動するときやインターネットに接続するときに時間がかかる。
地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。
参加者の伸び悩みと習得したパソコン技能を発揮できる場の提供が今後の課題である。

■　その他

・子どもの声

友だちができた。はじめから教えてもらえてよかった。

・保護者の声

家のパソコンを使ってタイピングの練習をしている姿をよくみるようになった。こんな姿を目にするたびに、このクラブに参加さてよかったと思う。

・スタッフの声

基礎から楽しみながらパソコン技能を習得してもらえてよかった。

■　何事にも挑戦しよう！

■　竜王町	
■　活動名 吹奏楽教室	
年間開催日数	４３日

コーディネーター数	３　人
土曜教育推進員数	１０　人
子どもの平均参加人数	１８　人

■　活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■　特徴的な活動内容

県の大会や町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。

【竜王町文化きらめきフェア】

【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

■　実施に当たっての工夫

毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。
指導者を３名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。
日々の練習を通して、異なった年齢の子どもたち同士の交流ができる。

■　事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■　事業実施上の課題

受講生はそれぞれ担当する楽器が決まっており、欠席者があると練習に支障が出ることがある。

■　その他

・子どもの声

始めは、全然演奏できなかったけど、一生懸命練習して、今では大会で演奏できるほど上達しました。
友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。

・保護者の声

発表会でわが子の演奏を聴き、その上達ぶりに驚かされました。
吹奏楽に一生懸命に取り組んでいる子どもの姿を見て、うれしい気持ちとクラブに参加させてよかったと本当に思いました。

・スタッフの声

練習の成果が演奏会や発表会で発揮でき、また、子どもたちの達成感で満ち溢れた笑顔を見るたびに、子どもたちの成長を実感し、この経験が、将来道に迷ったときに、乗り切るための糧となれば幸いです。

■　多賀町における土曜日の教育支援の取組

■　めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなり、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもが共に活動することで、大人は、自分の持っている知識や経験を子どもたちに伝え、子どもたちは大人から地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことをめざす。

■　本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を活用し、子どもの体験活動や土曜日の時間の過ごし方に関する検討を行い、また、地域と学校が互いに連携できるように取組みを進めている。

■　本年度の成果

多賀町地域教育力推進協議会において、地域の方にお手伝いをいただき、陶芸教室の事業を実施できるよう調整ができた。

■　今後の課題

学習や教室の補助員として大学生などのボランティアの起用を考えているが、町内には大学もなく難しい。今後は、近隣の大学との連携を模索していく必要がある。

■　その他

■

多賀町地域教育力推進協議会　　開催数：年１０回　　委員数：２６名

団体	多賀町ＰＴＡ連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		ＪＡ東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者ｻｰｸﾙ「ぶらんこ」		大滝小学校
	Ｄドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「ＳＫＯ」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

【会議の様子】

■　みなさんのやる気を応援します！　土曜講座（サタスタ）

■　多賀町	
■　活動名 土曜講座（サタスタ）	
年間開催日数	２０日（３年生は１７日）

コーディネーター数	１　人
土曜教育推進員数	３　人
子どもの平均参加人数	３５　人

■　活動の概要

「もっと勉強をがんばりたい」「苦手な教科がわかるようになりたい」と思っている中学生を応援し、学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わい、自信をもって将来の目標に向かって頑張ることのできる人間に成長することを活動の目的とする。

■　特徴的な活動内容

中学校の年間指導計画に基づき、塾講師による一斉授業で、国語・数学・英語の３教科の学習を復習を中心に５０分間ずつ行う。

■　実施に当たっての工夫

中学校の年間指導計画と連携し、継続して学習を効率よく行い、確実に力をつけられるよう日程調整に工夫をした。また、学校行事や部活動との調整を行った。

■　事業の成果

事業終了後にアンケートを取り、今後の実施に向けての指標とするが、昨年度では学校でわからなかったことがわかったことや、サタスタで勉強をがんばるきっかけになったことなどの成果があった。中学生では部活があることから調整してほしいことや、４月からも実施してほしい、勉強する機会を確保できてよかった等の意見があった。

■　事業実施上の課題

受講生の日程と講師の日程および会場（３会場）の調整が噛み合わないと講座の実施ができないため、土曜講座主体で日程調整しているため、参加できない生徒もあること。

■　その他

台風やインフルエンザの流行など、緊急時の連絡方法について連絡網の確保が必要である。また、各回ごとに宿題が出るためこれについての連絡体制の確保も必要となる。

受講者がお互いに気持ち良く学習ができるよう、事前に受講者および保護者に連絡事項・注意事項をお知らせするチラシを配布した。

【３年生の受講風景】

【開講式後の受講風景】

■　陶芸体験で、すてきな体験づくりのお手伝い

■　多賀町	
■　活動名 子ども陶芸教室	
年間開催日数	１０日

コーディネーター数	１　人
子どもの平均参加人数	１６　人／回
開始年度	平成元年度

■　活動の概要

普段なかなか体験できない陶芸を通じ、芸術的感性を磨く。

■　特徴的な活動内容

・単なる置き物作りではなく、子ども達が自分で作った作品を実際に使えるような内容を選び実施している。
（例：皿、お茶碗、小物入れ、ランプシェード等）
・今年度は自分で作った器を使い、流しそうめんを実施した。例年は煮沸消毒の方法を書いた紙を保護者宛てに配布しているが、今年度は流しそうめんの前に作品の煮沸消毒の仕方を子ども達が学び、実際に体験した。
・年２回の作品展の実施

■　実施に当たっての工夫

・ひとつの作品を作るために長期間必要なため、中途半端な作業で終わらないよう時間配分、年間のスケジュール調整。

■　事業の成果

・勉強ではない活動に取り組む事で長時間の集中力、持続力が養われた。
・学校では落ち着きのない受講生が、陶芸教室では三時間休みなしに作品作りに取り組む姿が見られる。
・青少年育成大会・町民のつどいに合わせ、公民館ロビーに作品と活動紹介のポスターを作成、展示。町民の皆さんに広く見て頂き「雰囲気が和む、ロビーが明るく見える」等の声を頂いた。活動紹介のポスターを見た親子からは来年度の活動に参加したいが募集はいつするのか等の問い合わせもあった。

■　事業実施上の課題

・内容のマンネリ化
・ボランティアの確保
・陶芸窯の老朽化による修繕と維持

■　その他

・対象が小学３年生以上のため、１、２年生の親子を対象に親子陶芸教室を実施。３年生になったら子ども陶芸教室に参加したいとの声もあり、継続して実施することで、受講生の確保に繋がる。

【みんなで植木鉢作り】

【自分たちで作った器でいただきまーす】

平成２６年度
「学校・家庭・地域連携協力推進事業」実践事例集

平成２７年（２０１５年）３月

発　行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
〒５２０－８５７７　滋賀県大津市京町４丁目１－１
ＴＥＬ：０７７－５２８－４６５４
ＦＡＸ：０７７－５２８－４９６２
ＭＡＩＬ：ma06@pref.shiga.lg.jp
ホームページ：「におねっと」http://www.nionet.jp/